

中条総合市民センター建設  
建築主体工事

長野市

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-01	特記仕様書 1	NO SCALE	A-41	1階平面詳細図 3	1/50	A-81	サイン詳細図 1	図示	S-01	特記仕様書 (構造関係) (1)	NO SCALE
A-02	特記仕様書 2	NO SCALE	A-42	1階平面詳細図 4	1/50	A-82	サイン詳細図 2	図示	S-02	特記仕様書 (構造関係) (2)	NO SCALE
A-03	特記仕様書 3	NO SCALE	A-43	1階平面詳細図 5	1/50	A-83	サイン詳細図 3	図示	S-03	構造関係共通事項 1	NO SCALE
A-04	特記仕様書 4	NO SCALE	A-44	2階平面詳細図 1	1/50	A-84	舞台設備図	1/50	S-04	構造関係共通事項 2	NO SCALE
A-05	工事区分表	NO SCALE	A-45	2階平面詳細図 2	1/50	A-85	既存解体撤去配置図	1/200	S-05	構造関係共通事項 3	NO SCALE
A-06	設計概要・外部仕上表	NO SCALE	A-46	展開図 1	1/50	A-86	外構図	1/200	S-06	構造関係共通事項 4	NO SCALE
A-07	内部仕上表 1	NO SCALE	A-47	展開図 2	1/50	A-87	雨水排水計画図	1/200	S-07	構造関係共通事項 5	NO SCALE
A-08	内部仕上表 2	NO SCALE	A-48	展開図 3	1/50	A-88	外構詳細図 1	図示	S-08	構造関係共通事項 6	NO SCALE
A-09	配置図・案内図	1/250	A-49	展開図 4	1/50	A-89	外構詳細図 2	図示	S-09	構造関係共通事項 7	NO SCALE
A-10	現況配置図	1/200	A-50	展開図 5	1/50	A-90	外構詳細図 3	図示	S-10	地盤改良 (参考図)	NO SCALE
A-11	仮設計画図	1/200	A-51	展開図 6	1/50	A-91	L型擁壁構造図 1 (参考図)	1/100・1/25	S-11	ポーリングデータ	NO SCALE
A-12	敷地求積図	1/200	A-52	展開図 7	1/50	A-92	L型擁壁構造図 2 (参考図)	1/100・1/25	S-12	基礎の地盤改良	NO SCALE
A-13	面積表	1/150	A-53	展開図 8	1/50	A-93	浸透槽①槽 断面図・断面詳細図 (参考図)	1/50・1/30	S-13	地階床伏図	1/100
A-14	防火区画 面積算定表	1/150	A-54	展開図 9	1/50	A-94	浸透槽②槽 断面図・断面詳細図 (参考図)	1/50・1/30	S-14	1階床伏図	1/100
A-15	平均地盤面算定図	1/150	A-55	展開図 10	1/50	A-95	浸透槽③槽 断面図・断面詳細図 (参考図)	1/50・1/30	S-15	2階床伏図	1/100
A-16	B 1階平面図・ピット図	1/100	A-56	展開図 11	1/50	A-96	解体物、移設物 姿図	NO SCALE	S-16	屋根伏図・講堂 プドウ棚伏図	1/100
A-17	1階平面図	1/100	A-57	展開図 12	1/50	A-97	エレベーター詳細図 1 (参考図)	1/30	S-17	小屋組伏図	1/100
A-18	2階平面図	1/100	A-58	展開図 13	1/50	A-98	エレベーター詳細図 2 (参考図)	1/50・1/30	S-18	軸組図 1	1/100
A-19	屋根伏図	1/100	A-59	展開図 14	1/50	A-99	工事スケジュール・工事手順図	1/400	S-19	軸組図 2	1/100
A-20	B 1階天井伏図	1/100	A-60	展開図 15	1/50				S-20	軸組図 3	1/100
A-21	1階天井伏図	1/100	A-61	展開図 16	1/50				S-21	軸組図 4	1/100
A-22	2階天井伏図	1/100	A-62	展開図 17	1/50				S-22	軸組図 5	1/100
A-23	立面図	1/150	A-63	壁リスト	1/10				S-23	軸組図 6	1/100
A-24	断面図 1	1/100	A-64	部分詳細図 1	図示				S-24	軸組図 7	1/100
A-25	断面図 2	1/100	A-65	部分詳細図 2	図示				S-25	軸組図 8	1/100
A-26	階段詳細図 1	1/30	A-66	部分詳細図 3	図示				S-26	基礎リスト 1	1/50
A-27	階段詳細図 2	1/30	A-67	法チェックリスト	NO SCALE				S-27	基礎リスト 2	1/50
A-28	矩計図 1	1/30	A-68	1階建具キープラン	1/100				S-28	柱キープラン	1/100
A-29	矩計図 2	1/30	A-69	2階建具キープラン	1/100				S-29	柱リスト	1/30
A-30	矩計図 3	1/30	A-70	建具表 1	1/50				S-30	梁リスト	1/30
A-31	矩計図 4	1/30	A-71	建具表 2	1/50				S-31	小梁リスト	1/30
A-32	矩計図 5	1/30	A-72	建具表 3	1/50				S-32	鉄骨小梁・スラブ・壁リスト	1/30
A-33	矩計図 6	1/30	A-73	建具表 4	1/50				S-33	架構詳細図 1	1/30
A-34	矩計図 7	1/30	A-74	1階家具キープラン	1/100				S-34	架構詳細図 2	1/30
A-35	矩計図 8	1/30	A-75	2階家具キープラン	1/100				S-35	配筋詳細図	1/30
A-36	矩計図 9	1/30	A-76	家具詳細図 1	1/30				S-36	鉄骨詳細図 1	1/30
A-37	矩計図 10	1/30	A-77	家具詳細図 2	1/30				S-37	鉄骨詳細図 2	1/30
A-38	矩計図 11	1/30	A-78	家具詳細図 3	1/30						
A-39	1階平面詳細図 1	1/50	A-79	1階サインキープラン	1/100						
A-40	1階平面詳細図 2	1/50	A-80	2階サインキープラン	1/100						



10 石工事
1 施工
2 石材
粗面仕上げの場合のみ部分面の仕上げ
天然石の種類、表面仕上げ
天然石の種類、表面仕上げ
施工箇所 品 質 種 類 産地・名称 厚さ(mm) 仕上げの種類

11 タイル工事
1 陶磁器質タイル
2 伸縮調整目地、ひび割れ誘発目地
3 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
4 接着剤による陶磁器質タイル張り
5 陶磁器質タイル型特先付け

12 木工事
1 表面仕上げ
2 木材
3 集成材等
4 床張り用合板等
5 接着剤
6 防虫・防蟻処理

13 屋根及びびとい工事
1 長尺金属板葺
2 折板葺
3 とい
4 保証書
14 金属工事
1 ひとつと施工アンカー
2 アルミニウム合金の表面処理

15 左官工事
1 モルタル塗り
2 床コンクリート直均し仕上げ
3 セルフレベリング材塗り
4 仕上塗材仕上げ

16 左官工事
1 モルタル塗り
2 床コンクリート直均し仕上げ
3 セルフレベリング材塗り
4 仕上塗材仕上げ

17 ロックウール吹付け
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
3 アルミニウム製建具
4 網戸
5 樹脂製建具
6 鋼製建具
7 鋼製軽量建具
8 ステンレス製建具
9 木製建具
10 建具用金物
11 自動ドア開閉機構
12 自閉式上吊り引戸装置
13 重量シャッター
14 軽量シャッター

17 ロックウール吹付け
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
3 アルミニウム製建具
4 網戸
5 樹脂製建具
6 鋼製建具
7 鋼製軽量建具
8 ステンレス製建具
9 木製建具
10 建具用金物
11 自動ドア開閉機構
12 自閉式上吊り引戸装置
13 重量シャッター
14 軽量シャッター



16 15 オーバーヘッドドア (16.13.2~3) セクション材料 閉鎖方式 収納形式 ガイドレール ※ スチールタイプ ※ バランス式 ・スタンダード形 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ・ステンレス鋼板 ・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイリフト形 ・パーチカル形 (SUS 304)

2 メタルカーテンウォール 設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。カーテンウォール材料の種類 (17.2.2) 種類 規格等 ※ アルミニウム製 ※ 標仕 16.2.3 のアルミニウム製建具の材料による

19 内装工事 1 接着剤 壁紙施工でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 ※ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 (19.2.2) (19.3.3)

10 せっこうボード その他のボード張り (19.7.2) (表 19.7.1) 種類 厚さ(mm)、規格等 ・ 硬質毛セメント板 ※ 15 ・ 20 ・ 25 ・ 普通毛セメント板 ※ 15 ・ 20 ・ 25 ・ 硬質木片セメント板 ※ 15 ・ 20 ・ 25 ・ 普通木片セメント板 ※ 30

Table with 13 rows and multiple columns. Rows include: 1. フリーアクセスフロア (20.2.2), 2. 可動間仕切 (20.2.3), 3. 移動間仕切 (20.2.4), 4. トイレブース (20.2.5), 5. 階段消止め (20.2.6), 6. 黒板及びホワイトボード (20.2.8), 7. 鏡 (20.2.9), 8. 表示 (20.2.10), 9. 煙突ライニング (20.2.11), 10. ブラインド (20.2.12), 11. ロールスクリーン (20.2.13), 12. カーテン (20.2.14), 13. カーテンレール (20.2.14).

Table with 14 rows and multiple columns. Rows include: 14. ブラインドボックス及びカーテンボックス (※木製), 15. 手すり, 16. 天井点検口, 17. 床点検口, 18. 耐震スリット, 19. エキスパンション・ジョイント金物, 20. 防煙垂れ壁, 21. 鋼製書架及び物品棚, 22. 流し台ユニット, 23. 洗面カウンター, 24. 収納家具, 25. くつふきマット, 26. 視覚障害者用床タイル (19.2.2), 27. 屋内掲示板, 28. かぎ箱, 29. 止水板, 30. 旗竿, 31. 旗竿受金物, 32. フェンス, 33. 屋外掲示板, 34. 車止め支柱.

排水工事

Table with 13 rows and multiple columns. Rows include: 1. 屋外雨水排水, 2. 浸透管及び浸透槽, 3. 緑石及び側溝, 1. 路床安定処理, 2. 盛り土に用いる材料, 3. 遮断層、凍上抑制層、フィルター層の材料, 4. 路床土の支持力比試験, 5. 路床締固め度の試験, 6. 砂の粒度試験, 7. 路盤材料, 8. 路盤の締固め度の試験, 9. アスファルト舗装, 10. コンクリート舗装, 11. カラー舗装, 12. 透水性アスファルト舗装, 13. ブロック系舗装.

植栽及び屋上緑化工事

Table with 13 rows and multiple columns. Rows include: 1. 補栽地の確認等, 2. 樹木の植栽基盤整備, 3. 植込み用土, 4. 土壌改良材, 5. 支柱材, 6. 幹巻き用材料, 7. 芝張り, 8. 吹付けは種用種子等, 9. 地被類, 10. 屋上緑化, 11. 保証書の提出.

工事区分表

工事区分略号の凡例 A：建築主体工事 E：電気設備工事 M：機械設備工事

項目	A	E	M	備考	項目	A	E	M	備考	項目	A	E	M	備考	項目	A	E	M	備考						
<b>躯体関係</b>					<b>仕上げ関係</b>					<b>電気配線配管</b>															
1. RC造 (梁・壁・床)の 貫通孔・開口部	貫通スリーブ材及び取付け	○	○	○		1. 軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○			1.2. その他	2重ピット及びトレンチのマンホールふた				1. 配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)		○		2次側				
	補強を要する型枠材及び取付け	○					補強を要しないボードの切り込み		○	○			機器搬入用フック ビーム						○			1次側			
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○			開口部の墨出し			○		○		チェンブロック						○					
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○			軽量鉄骨壁のボックス取付金具及びその取付			○				化粧マンホール上ふたの表面仕上げ							○				
	貫通孔・開口部の補強	○												点検口(天井・壁・床下)	○						○				
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○			2. 既製間仕切り	切り込み及び補強	○					排煙口等の天井仕上材の取付け	○						○				
	埋込形盤類及び、箱型の型枠	○						位置ボックス	○						洗面器取付の下地の補強		○					○			自家用はE
	2. S・SRC造の 梁貫通孔	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強						3. 吊りボルト及び インサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用	○		○			くつふきマット、玄関マット、自動扉マット部 床排水金物(目皿共)、排水管		○					○			
		使用されたスリーブの公理め					防火区画、防煙区画								くつ洗い流し部排水金物、排水管			○							
		予備スリーブの穴埋め					防火区画、防煙区画	4. 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○					洗濯パン										
貫通孔・開口部の墨出し						ウェザーカバー、ベントキャップ				○			調理実習室 調理台IHヒーター	○											
3. 設備機器の基礎	建築設計図に記入あるもの	○				5. 湯沸まわり	換気扇(取付枠共)			○			調理実習室 調理台IHヒーター電源配管配線	○											
	室内の基礎(建築設計図に記入のないもの)		○	○			流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台・IHコンロ	○					調理実習室 調理台水洗器具	○											
	屋外・屋上の基礎(AC・受水槽・キュービクル等)	○				排気フード			○			調理実習室 調理台給排水配管接続		○											
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの	○	○			レンジフード・換気機器	○	○				ステージ スクリーン	○												
	機器取り付け用アンカー・架台		○	○		ユニットバス、シャワーユニット (トランプ・水栓・シャワー・換気扇・照明共)			○			ステージ スクリーン電源配管配線		○											
	屋内受水タンク用の基礎	○				同上への配線及び配管接続						ステージ 照明器具および電源配管配線	○												
太陽電池アレイ用架台(支持金物)	○	○			AとEの区分は図示																				
キュービクル・発電機まわりフェンス及び基礎	○					既製浴槽(ふたを含む)																			
4. 昇降機関連	昇降路、機械室の躯体	○				浴室及び便所の床排水金物						<b>屋外排水設備・外構</b>			2. その他	工事用電力・水道・下水・燃料	○	○	○						
	機械室の床開口					洗面カウンター	○				1. 雨水	屋外雨水排水設備	○												
	機械室の床配管ピット・蓋・防油堤					鏡	○					樹及び樹ふた	○												
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上					ユニット形衛生器具			○			雨水タテ樋	○												
	巻上機周辺のチェッカープレート敷			○		便所用手すり			○			屋外雑排水及び屋外汚水排水設備		○											
	昇降路内ピット防水	○				紙巻器、ペビーチェア、ペビーベッド			○			樹及び樹ふた		○											
	各階出入口穴あけ・同補強	○				電源、配管、配線、接続			○			化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○												
	出入口扉・三方枠・幕板			○		手すり補強下地	○					補栽及び客土	○												
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修			○		衛生器具補強下地	○																		
	昇降路がRC造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式		○			ファンコイルカバー	○					ユニット形浄化槽の躯体											Aは特記による		
昇降路がS造の時、中間ビーム及びブラケット受けピース					家具組み込みの洗面器			○			上記以外のユニット形浄化槽本体・配管及び掘付等														
機械室天井フック取付					流し、ミニキッチン	○					ピット形以外														
昇降路内天井フック取付(機械室なしの場合)	○				9. フリーアクセス フロア	コンセント・電話・情報等			○			タンク室の躯体及び砂充填													
ホール押釦・インジケータ・銅索などの壁開口	○					複合アウトレット用開口			○			上記以外のオイルタンク本体・配管及び掘付等										自家用はE			
機械室・昇降路内換気設備			○		予備開口 及びプレート			○			タンク室形以外											自家用はE			
E V機械室からインターホンまでの配線工事			○		10. 自動扉まわり	自動扉・電動シャッターへの電源供給			○			駐車場ガソリントラップ													
E V機械室からインターホンまでの配管工事			○			自動扉・電動シャッターから付属のスイッチ、センサーへの配管工事			○			雨水貯留槽	○												
点検用コンセント			○			自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強及びドアチェック、フロアヒンジ			○			空調室外機基礎・フェンス	○												
制御盤までの動力、照明用電源、アース、防災信号、拡声設備の配管・配線工事			○			自動扉手元電源スイッチ			○			機器用架台類		○											
かご内監視カメラからシャフト内制御盤までの配線工事			○			電気錠の本体、扉内配線			○																
エレベーターシャフト内制御盤から監視装置までの監視カメラ用配管・配線工事			○			電気錠の扉までの配管			○																
5. その他	トラフ・ピット類(ふたを含む)	○				11. 防火・防犯	パッケージ型消火設備			○															
	湧水・汚水ピット・RC造各種水槽	○					埋込型消火器ボックス			○															
	同上用防水・マンホール・タラップ式	○					独立型消火器ボックス			○															
	避雷設備・同接地工事						防火戸の配管、配線、煙感知器、レリーズ			○															
	A L C板の壁開口部・補強						防火シャッターの配管、配線、煙感知器			○															
	厨房排水溝						ガスもれ検知器																		
	厨房グリース阻集器																								
	オイルサーピスタンの防油堤																								
	フリーアクセスフロア内の防水堤																								

A. 工事概要

1. 工事名称 その他

Table with 3 columns: 工事名称 (Project Name), 主要用途 (Main Purpose), 建築主 (Builder). Includes details like '中条総合市民センター建設' and '長野県 長野市 鶴賀緑町 1613番地'.

2. 敷地状況

Table with 4 columns: 敷地面積 (Site Area), 用途地域 (Zoning), 防火地域 (Fire Hazard Area), 道路巾員 (Road Width). Includes area measurements and zoning codes.

3. 構造・規模

Table with 4 columns: 構造 (Structure), 基礎 (Foundation), 階数 (Floors), 最高の高さ (Max Height). Details construction materials like '鉄筋コンクリート造' and '独立基礎'.

4. 面積

Table with 6 columns: 申請部分 (Application Part), 申請以外の部分 (Other Parts), 合計 (Total), 建ぺい率 (Floor Area Ratio), 容積率 (Floor Area Ratio), その他 (Others). Includes area calculations for building and extension.

5. 床面積

Table with 12 columns: 階別 (Floor), 階高 (Floor Height), 申請部分 (Application Part), 申請以外の部分 (Other Parts), 合計 (Total), 備考 (Remarks). Detailed floor area breakdown.

6. 建築基準法

Table with 3 columns: 法第27条 (Article 27), 法第28条 (Article 28), 法第35条 (Article 35), etc. Lists building code requirements and their compliance status.

7. 消防法

Table with 3 columns: 用途 (Use), 事務所・支所・集会場 (Office/Branch/Assembly), 消防管理者 (Fire Manager), etc. Lists fire safety requirements.

B. 外部仕上及外構

1. 外部仕上

Table with 3 columns: 内容 (Content), 備考 (Remarks). Details exterior finishes like 'アルミサッシュ', '屋根', '破風', '窓', '開口部', '軒', 'バルコニー', '手摺', 'エントランス', '職員通用口', '通用口', '犬走り', '足洗い'.

2. 外部金物 その他

Table with 4 columns: 品名 (Item Name), 仕様 (Specification), 郵便ポスト (Mailbox), 備考 (Remarks). Lists external hardware like 'トップライト', 'タラップ', 'ルーフトレイン', etc.

3. 外構

Table with 3 columns: 有 (Yes), 無 (No), 備考 (Remarks). Checklist for external landscaping items like '造園', '構内舗装', '駐車施設', etc.

4. 工作物、その他

Table with 3 columns: 有 (Yes), 無 (No), 備考 (Remarks). Checklist for other work items like '看板・広告板', '広告塔', '独立煙突', etc.

【特記事項】

Table with 1 column: 特記事項 (Remarks). Contains detailed construction notes and specifications.

内部仕上表															
階	室名	仕上区分	床		腰・壁		天井			備考	VOC測定				
			材質	高さ	下地	仕上	塗装	認定番号	下地			仕上	認定番号	種	高さ
1階	風除室(1)	下地	モルタル下地		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				アルミ製埋込型拭きマット:t22 ニードルパン仕様ステンレス製材			
		仕上	磁器質300角タイル張りt13 一部 アルミ製埋込型拭きマット ステンレス製埋込型拭きマット	磁器質300	ビニルクロス貼(不燃)				岩綿吸音板張りt9.0						
	ホール	下地	モルタル下地・モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				受付カウンター・消火器ボックス・手摺 案内板・室名サイン・掲示板 消火器ボックス			
		仕上	磁器質300角タイル張りt13 ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) 一部 視覚障害者誘導用タイル	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	廊下	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				手摺:ビクチャール・消火器ボックス 案内板・室名サイン・掲示板 床見切: SUS FBt6			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃) 一部 不燃化粧シート貼り		岩綿吸音板張りt9.0							
	支所事務室 西部産業振興事務室	下地	OAフロアー(軽量コンクリート置敷きタイプH=40)		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				カーテンボックス・ブラインド・縦型ブラインド サインサイン・掲示板			
		仕上	タイルカーペット張りt6.0 500角	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	支所倉庫	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				木製欄			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	給湯室 (支所事務室)	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS・耐水石膏ボードt12.5		LGS				システムキッチン L=1800 H=コンロ ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	公民館事務室	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				窓下収納・収納棚・カーテンボックス・ブラインド・郵便ポスト システムキッチン L=1500 H=コンロ ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	住自事務室 (商工会)	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				窓下収納・収納棚・カーテンボックス・ブラインド システムキッチン L=1500 H=コンロ 掲示板			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	ボランティア センター	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				掲示板			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	バス事務室	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				カーテンボックス・ブラインド 流し台 L=900・壁見切: 塩ビ製			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	風除室(2) (バス事務室)	下地	モルタル下地		磁器質	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				カーテンボックス・縦型ブラインド			
		仕上	磁器質100角タイル張り	磁器質100	ビニルクロス貼(不燃)			化粧石膏ボード張りt9.5							
	住自協倉庫	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS							
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	公民館倉庫 (神楽倉庫)	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS							
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	支所会議室	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				カーテンボックス・ブラインド 掲示板			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	作業室	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				カーテンボックス・ブラインド 流し台 L=900・木工収納家具 ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	図書・展示 コーナー	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				掲示板			
		仕上	タイルカーペット張り(静電・防汚性・重歩行)t6.5	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	会議室 (中条会館)	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS・石膏ボードt9.5捨張り				カーテンボックス・ブラインド			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.5(溶接工法)	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		岩綿吸音板張りt9.0							
	男子更衣室	下地	モルタル金ゴテ・木床組		ビニル床	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				木製欄・鏡 ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) タイルカーペット張り(静電・防汚性)t6.5	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	女子更衣室	下地	モルタル金ゴテ・木床組		ビニル床	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				木製欄・鏡 ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) タイルカーペット張り(静電・防汚性)t6.5	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	給湯室	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS・耐水石膏ボードt12.5		LGS				システムキッチン L=2700 H=コンロ ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	公民館倉庫	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS							
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	備蓄倉庫	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				木製欄			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	職員通用口	下地	モルタル下地・モルタル金ゴテ		磁器質	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				下足入れ・消火器ボックス 床見切: SUS FBt6			
		仕上	磁器質100角タイル張り ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	磁器質100	ビニルクロス貼(不燃)			化粧石膏ボード張りt9.5							
	授乳室	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				鏡			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							

内部仕上表															
階	室名	仕上区分	床		腰・壁		天井			備考	VOC測定				
			材質	高さ	下地	仕上	塗装	認定番号	下地			仕上	認定番号	種	高さ
1階	講堂	下地	モルタル金ゴテ		木製	LGS・ラワン合板t9		LGS				カーテンボックス・遮光カーテン 消火器ボックス・移動式階段			
		仕上	複合フローリング張りt15 塗装品	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (難燃処理) 一部: LGS+木脚縁+シタ合板t5.5 (難燃処理)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	ステージ	下地	鋼製床下地 針葉樹構造用合板t12(1期)		木製	LGS		LGS				※壁・天井の化粧石膏ボードは、 吉野石膏 スクエアードプラス同等品			
		仕上	複合フローリング張りt15 塗装品	木製	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (難燃処理) 一部: LGS+木脚縁+シタ合板t5.5 (難燃処理)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	控室	下地	鋼製床下地 針葉樹構造用合板t12		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				手摺壁・木製階段			
		仕上	複合フローリング張りt15 塗装品	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	ピアノ保管室	下地	鋼製床下地 針葉樹構造用合板t12		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS							
		仕上	複合フローリング張りt15 塗装品	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	スロープ	下地	木床組下地 ラワン合板t12		木製	LGS・石膏ボードt12.5		LGS				カーテンボックス・ブラインド			
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) ノンスリップ仕様	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	講堂倉庫	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS							
		仕上	ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法)	ビニル床	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	男子便所	下地	モルタル金ゴテ		シート巻上げ	LGS		LGS				トイレブース・ポストフォーム洗面カウンター・棚板・鏡 ライニング: ポストフォーム+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	新汚濁性ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) 抗菌・防汚仕様	シート巻上げ	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	女子便所	下地	モルタル金ゴテ		シート巻上げ	LGS		LGS				トイレブース・ポストフォーム洗面カウンター・棚板・鏡 ライニング: ポストフォーム+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	新汚濁性ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) 抗菌・防汚仕様	シート巻上げ	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	多目的便所	下地	モルタル金ゴテ		シート巻上げ	LGS		LGS				ライニング: ポストフォーム+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	新汚濁性ビニル床シート貼りt2.0(溶接工法) 抗菌・防汚仕様	シート巻上げ	LGS	壁: 磨き目目張りt12 (準不燃処理) 一部 難燃ラワン合板t5.5+ビニルクロス貼(不燃)		化粧石膏ボード張りt9.5							
	外部便所	下地	モルタル金ゴテ		ビニル床	LGS		LGS				ライニング: SUS-HL+不燃化粧材(難燃t6)壁面			
		仕上	磁器質100角タイル張り	磁器質100	ビニルクロス貼(不燃)			化粧石膏ボード張りt9.5							
	倉庫	下地	モルタル金ゴテ		コンクリート打放し			コンクリート打放し							
		仕上	モルタル金ゴテ		コンクリート打放し			コンクリート打放し							

※ フリーフロアー: 鋼製床下地 許容荷重500N/m<sup>2</sup> (組床式 組太10)

※ コーナー見切(壁材): 集成材 厚 45x45・上部 30x30 CL

※ 特記なき限り、掲示板ビニルクロス貼りは、難燃ラワン合板t5.5下地とする。

※ ライニングは耐水合板t12下地とする。

※ 壁壁障板、化粧木材は長野産材とする。

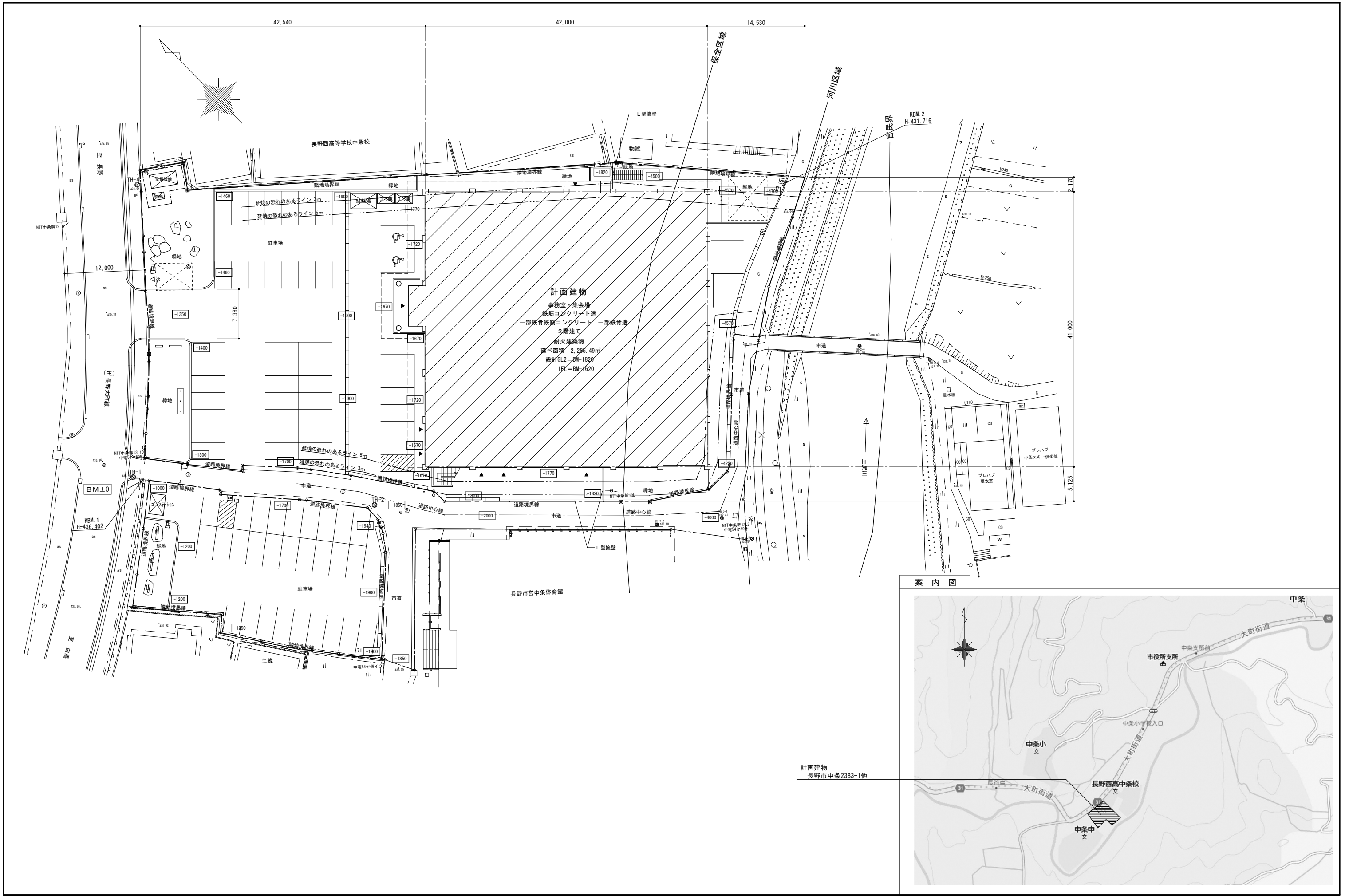
※ シックハウス対策: 内装材(建材全て・家具・塗料・接着剤等)は全て低ホルムアルデヒド仕様(F☆☆☆☆)とする。

※ 塩ビ張り床は全て厚し張り仕様とする。

※ ELVビット: 床、壁(1F床下) 防水モルタル処理の上塗布防水とする。

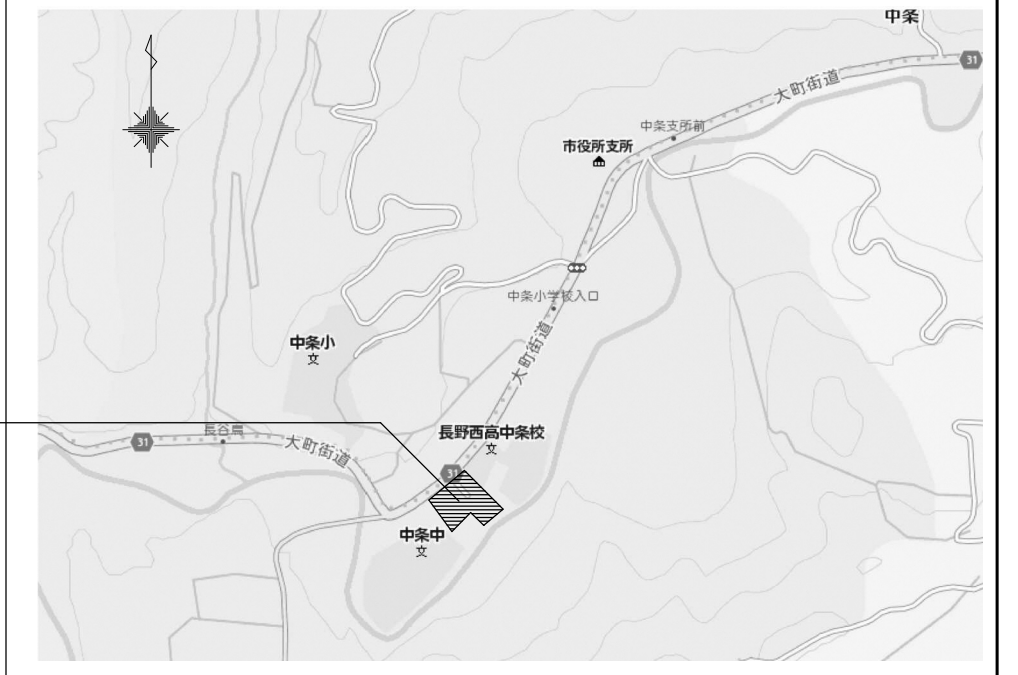
※ 木製巾木は未処理とする。





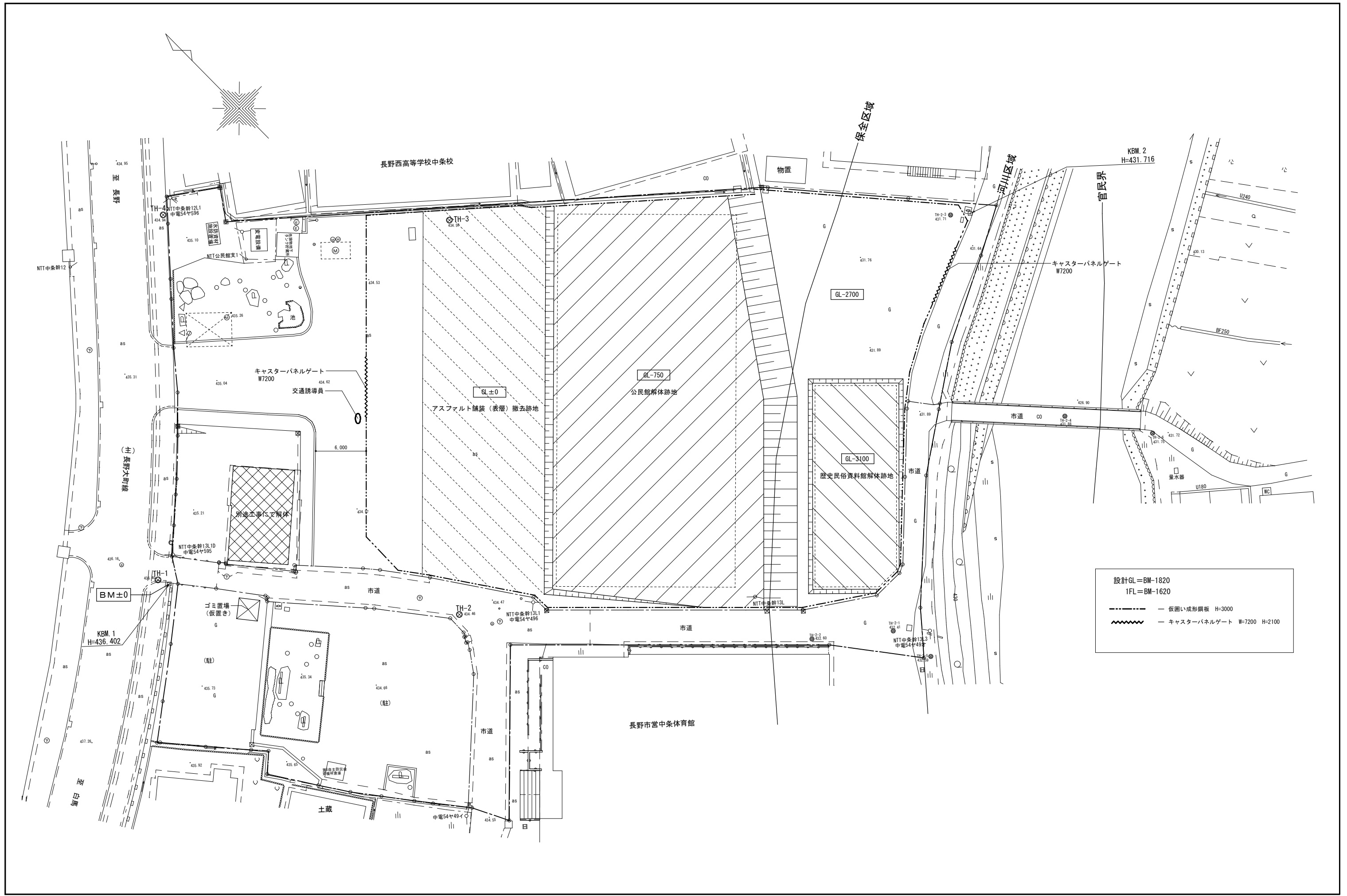
計画建物  
 事務室・集会場  
 鉄筋コンクリート造  
 一部鉄骨鉄筋コンクリート 一部鉄骨造  
 2層建て  
 耐火建築物  
 延べ面積 2,285.49㎡  
 設計GL=-BM-1820  
 FGL=-BM-1620

案内図

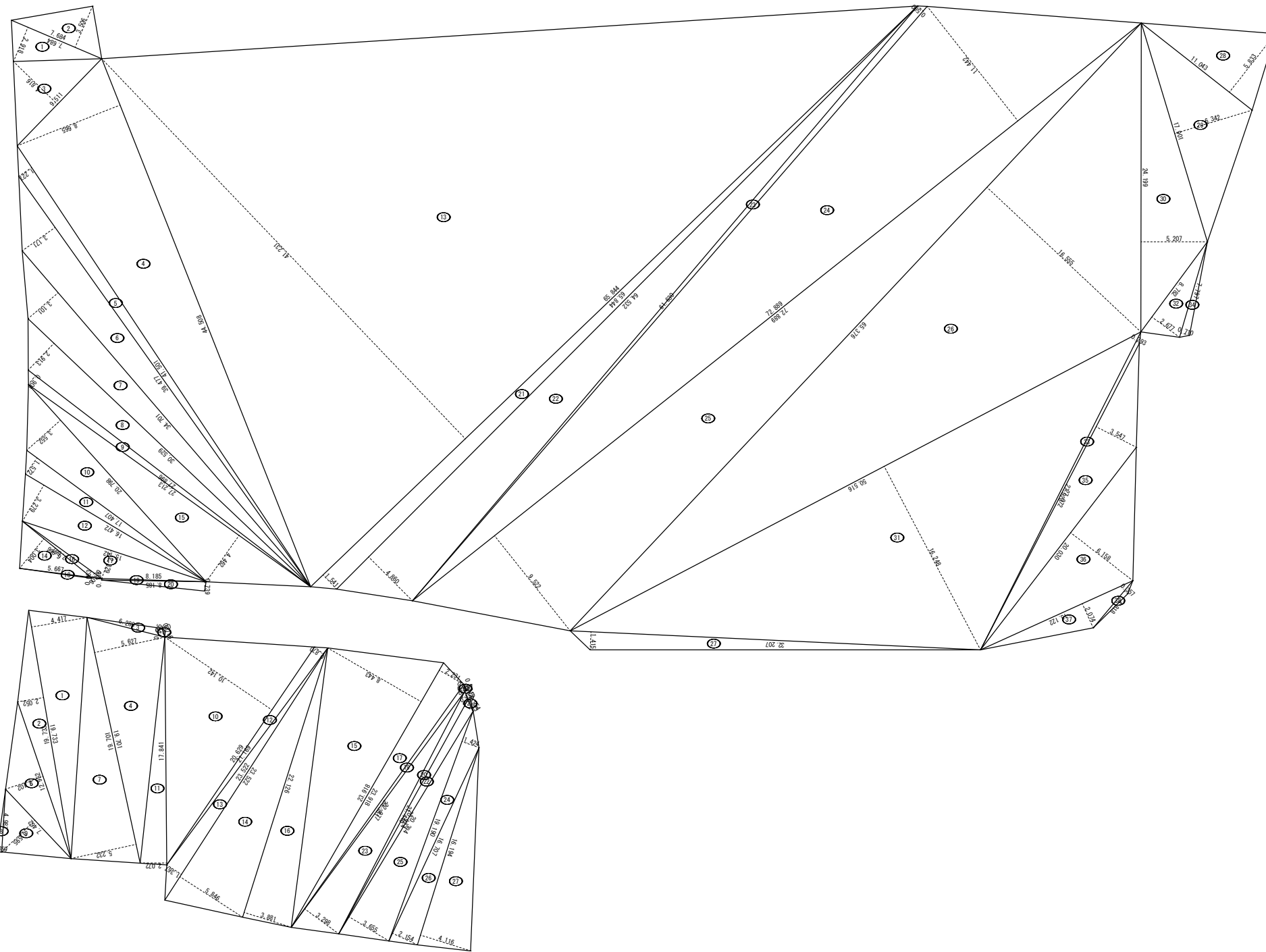


計画建物  
 長野市中条2383-1他









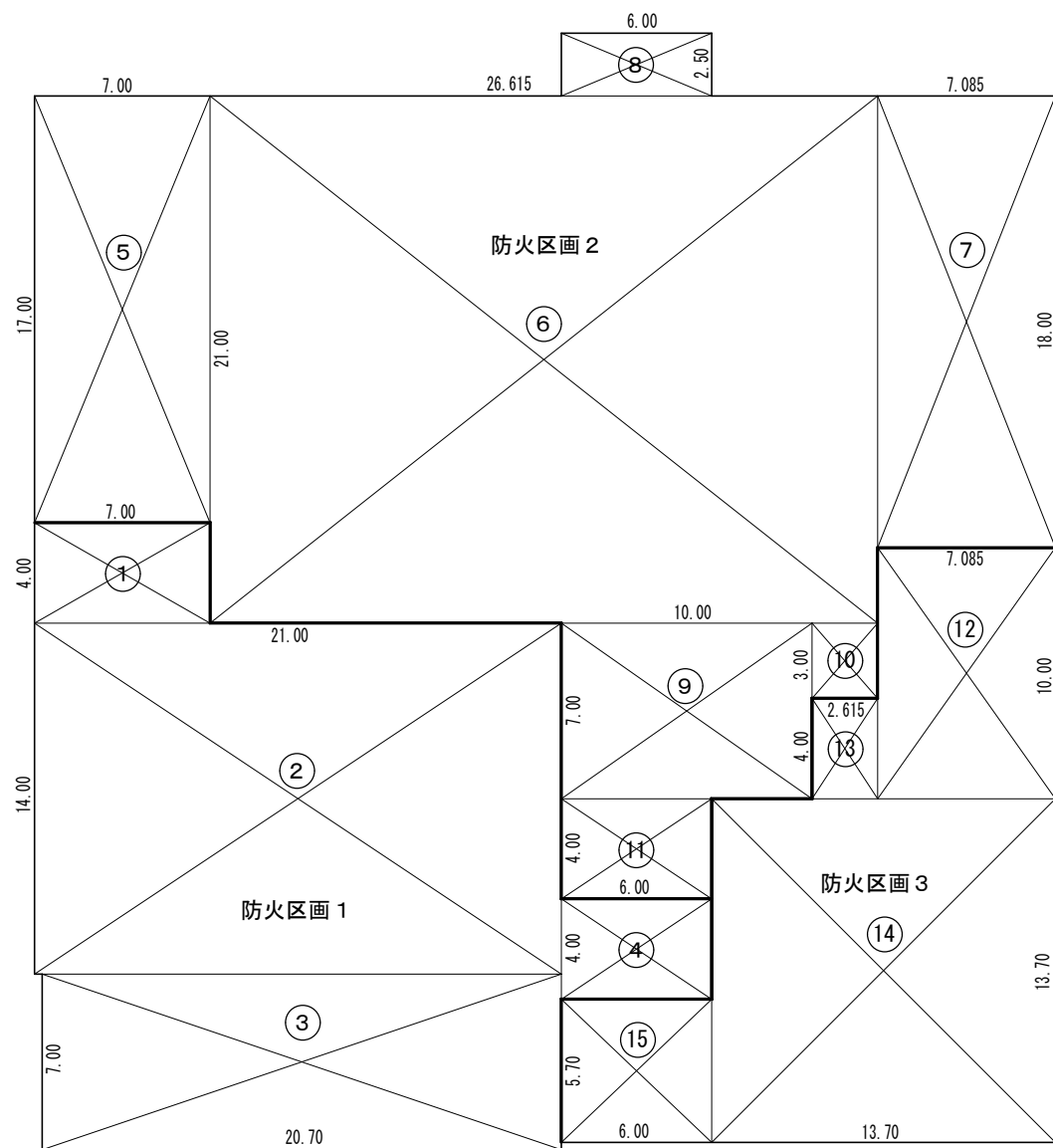
敷地 1

番号	底辺	高さ	積面積	面積
1	7.684	2.918	22.421912	11.210950
2	7.684	3.506	26.940104	13.470050
3	9.511	4.816	45.804976	22.902480
4	44.508	8.665	385.661820	192.830910
5	41.501	1.227	50.921727	25.460635
6	39.477	3.171	125.181567	62.590735
7	34.701	3.101	107.607801	53.803905
8	30.529	2.913	88.930977	44.465485
9	27.896	0.903	25.190088	12.590440
10	20.798	3.552	73.874496	36.932480
11	17.407	1.572	27.363804	13.681920
12	16.472	3.279	54.011688	27.005840
13	65.844	41.231	2,714.813964	1,357.406920
14	6.966	3.004	20.925864	10.462920
15	27.213	4.462	121.424406	60.712200
16	7.667	0.406	3.112802	1.556400
17	15.142	2.329	35.285718	17.632850
18	5.667	0.063	0.357021	0.178510
19	8.185	0.105	0.859425	0.429725
20	8.185	0.729	6.048715	3.024375
21	65.844	1.541	101.465604	50.732800
22	64.532	4.860	313.625520	156.812760
23	61.630	0.580	35.745400	17.872700
24	72.889	11.442	833.995938	416.997960
25	72.889	9.522	694.049058	347.024590
26	65.376	16.555	1,082.299680	541.148400
27	32.207	1.415	45.572905	22.784525
28	11.043	5.833	64.413819	32.206905
29	17.901	6.342	113.528142	56.740710
30	24.199	5.207	126.004183	63.002095
31	50.516	16.248	820.783968	410.391980
32	8.782	2.677	23.509414	11.754700
33	27.923	0.293	8.181439	4.090719
34	7.797	0.710	5.535870	2.767950
35	27.072	3.547	96.024384	48.012190
36	20.030	6.158	123.344740	61.672370
37	13.122	2.074	27.215028	13.607510
38	4.818	0.357	1.720026	0.860013
合計				4,226.860015
敷地面積				4,226.86 m <sup>2</sup>

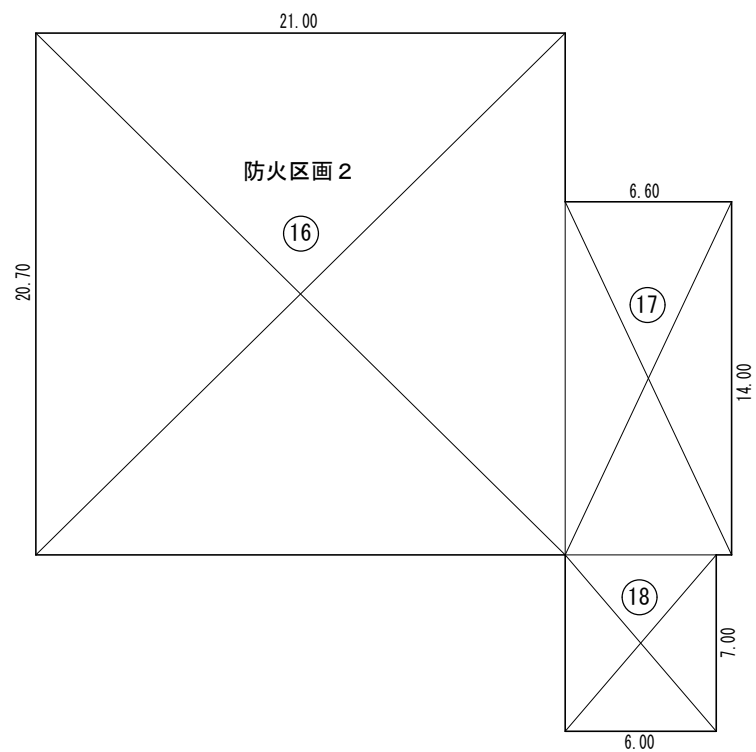
敷地 2

番号	底辺	高さ	積面積	面積
1	19.733	4.417	87.160661	43.580330
2	19.733	2.052	40.482116	20.240058
3	6.288	0.605	3.804240	1.902120
4	19.701	5.627	110.857527	55.428765
5	12.952	3.102	40.177104	20.088550
6	0.716	0.180	0.128880	0.064440
7	19.701	5.232	103.075632	51.537816
8	4.987	0.359	1.790333	0.895166
9	7.462	3.595	26.825890	13.412945
10	20.629	10.142	209.219318	104.609659
11	17.841	2.072	36.965552	18.482776
12	21.169	0.870	18.417030	9.208515
13	23.522	1.367	32.154574	16.072287
14	23.522	5.846	137.509612	68.754806
15	23.918	8.443	201.939674	100.969837
16	22.126	3.881	85.871006	42.935503
17	23.918	2.231	53.361058	26.680529
18	0.531	0.137	0.072747	0.036373
19	23.351	0.374	8.732274	4.366137
20	21.440	0.520	11.148800	5.574400
21	0.954	0.159	0.151686	0.075843
22	20.924	0.783	16.383492	8.191746
23	22.977	3.298	75.778146	37.889073
24	19.190	1.424	27.326560	13.663280
25	20.394	3.655	74.540070	37.270035
26	16.707	2.154	35.986878	17.993439
27	16.194	4.116	66.654504	33.327250
合計				753.263820
敷地面積				753.26 m <sup>2</sup>



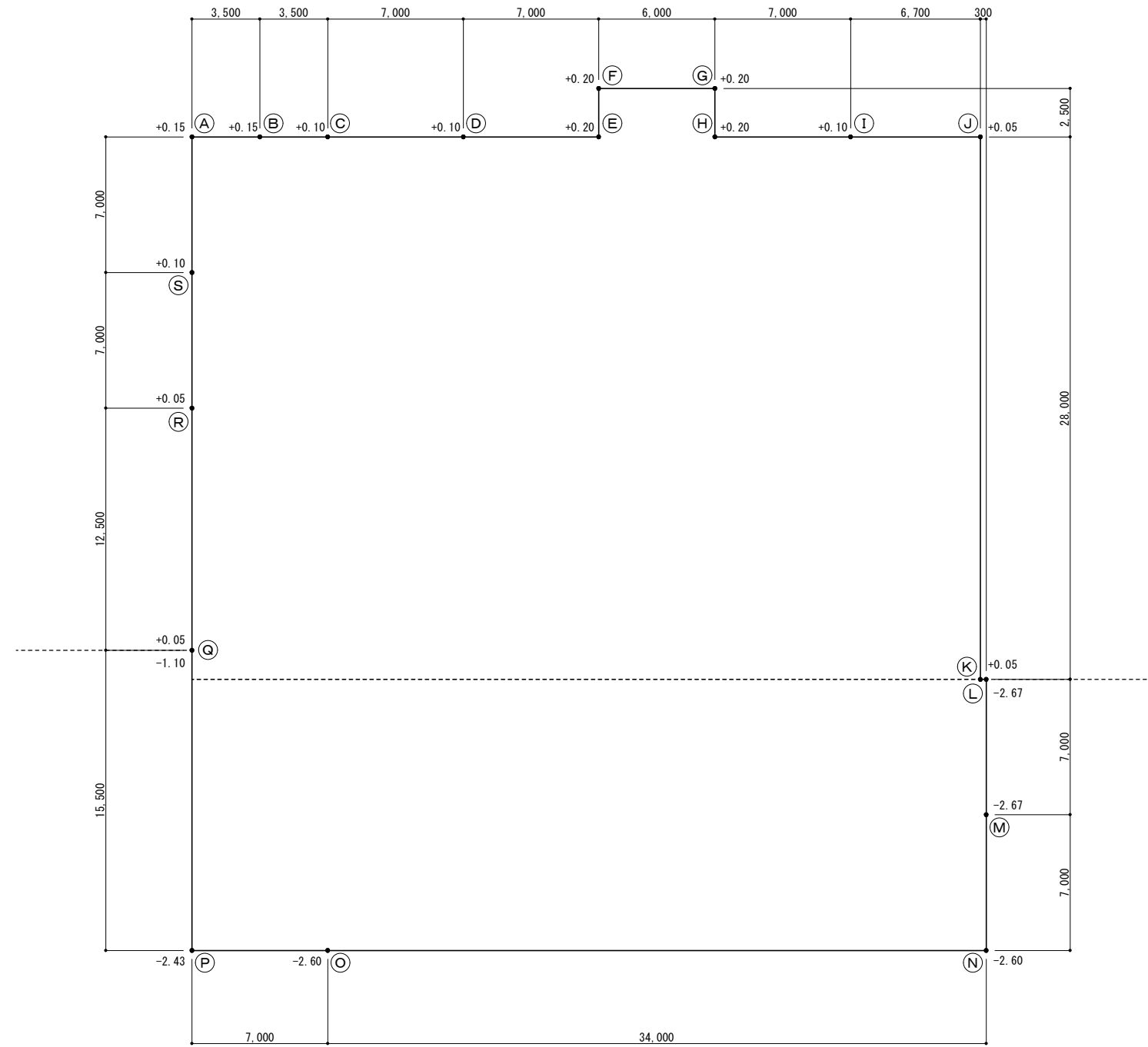
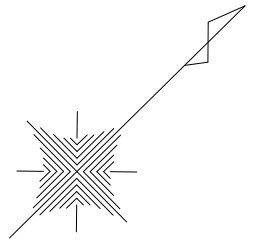


本体棟 1階



本体棟 2階

①	7.00	x	4.00	=	28.00	⑪	6.00	x	4.00	=	24.00	防火区画1	① ~ ④	計	490.90 m <sup>2</sup>
②	21.00	x	14.00	=	294.00	⑫	7.085	x	10.00	=	70.85	防火区画2	⑤ ~ ⑪	計	922.29 m <sup>2</sup>
③	20.70	x	7.00	=	144.90	⑬	2.615	x	4.00	=	10.46		⑫ ~ ⑮	計	1491.39 m <sup>2</sup>
④	6.00	x	4.00	=	24.00	⑭	13.70	x	13.70	=	187.69	防火区画3	⑫ ~ ⑮	計	303.20 m <sup>2</sup>
⑤	7.00	x	17.00	=	119.00	⑮	6.00	x	5.70	=	34.20			合計	2285.49 m <sup>2</sup>
⑥	26.615	x	21.00	=	558.915	⑯	21.00	x	20.70	=	434.70				
⑦	7.085	x	18.00	=	127.53	⑰	6.60	x	14.00	=	92.40				
⑧	6.00	x	2.50	=	15.00	⑱	6.00	x	7.00	=	42.00				
⑨	10.00	x	7.00	=	70.00										
⑩	2.615	x	3.00	=	7.845										



※GL2を基準として算定する

A~B (0.15 + 0.15) × 3.500 ÷ 2 = 0.525	K~L (0.05 - 2.67) × 0.300 ÷ 2 = -0.393
B~C (0.15 + 0.10) × 3.500 ÷ 2 = 0.438	L~M (-2.67 - 2.67) × 7.000 ÷ 2 = -18.690
C~D (0.10 + 0.10) × 7.000 ÷ 2 = 0.700	M~N (-2.67 - 2.60) × 7.000 ÷ 2 = -18.445
D~E (0.10 + 0.20) × 7.000 ÷ 2 = 1.050	N~O (-2.60 - 2.60) × 34.000 ÷ 2 = -88.400
E~F (0.20 + 0.20) × 2.500 ÷ 2 = 0.500	O~P (-2.60 - 2.43) × 7.000 ÷ 2 = -17.605
F~G (0.20 + 0.20) × 6.000 ÷ 2 = 1.200	P~Q (-2.43 - 1.10) × 15.500 ÷ 2 = -27.358
G~H (0.20 + 0.20) × 2.500 ÷ 2 = 0.500	Q~R (0.05 + 0.05) × 12.500 ÷ 2 = 0.625
H~I (0.20 + 0.10) × 7.000 ÷ 2 = 1.050	R~S (0.05 + 0.10) × 7.000 ÷ 2 = 0.525
I~J (0.10 + 0.05) × 6.700 ÷ 2 = 0.503	S~A (0.10 + 0.15) × 7.000 ÷ 2 = 0.875
J~K (0.05 + 0.05) × 2.800 ÷ 2 = 0.140	

合計 -162.260

設計GLからの見え掛り面積 162.260㎡ ÷ 周長171.000m = -0.949  
したがって、平均地盤面は 設計GL2 -949 とする



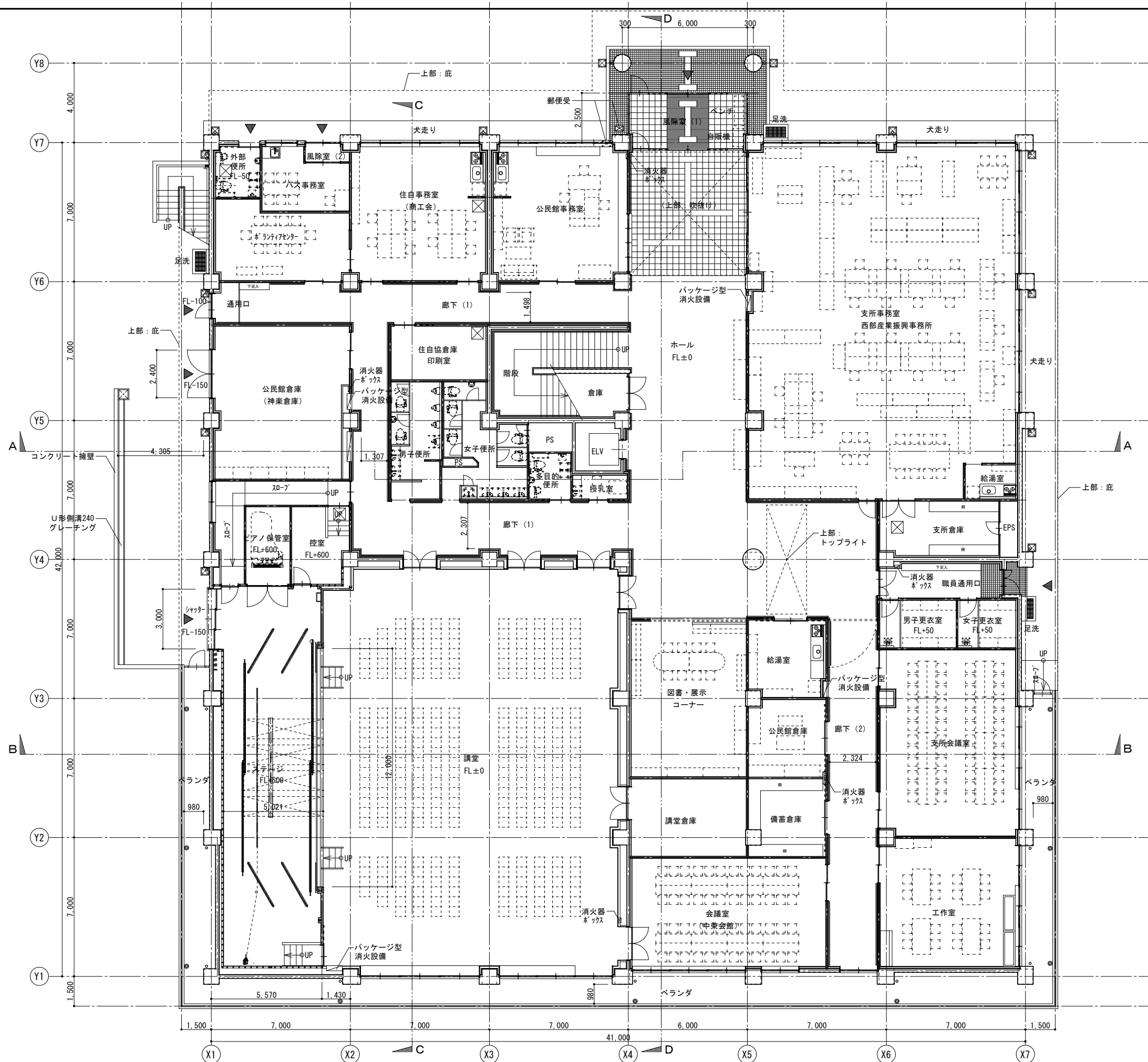
設備配管地中梁貫通箇所数（貫通補強は建築工事）  
 φ150 12ヶ所  
 φ125 27ヶ所  
 φ100 11ヶ所

凡例

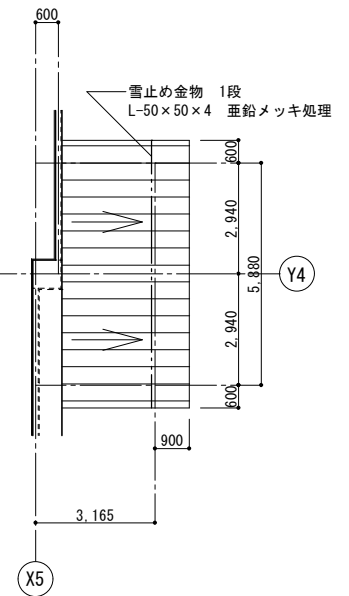
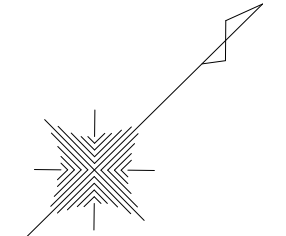
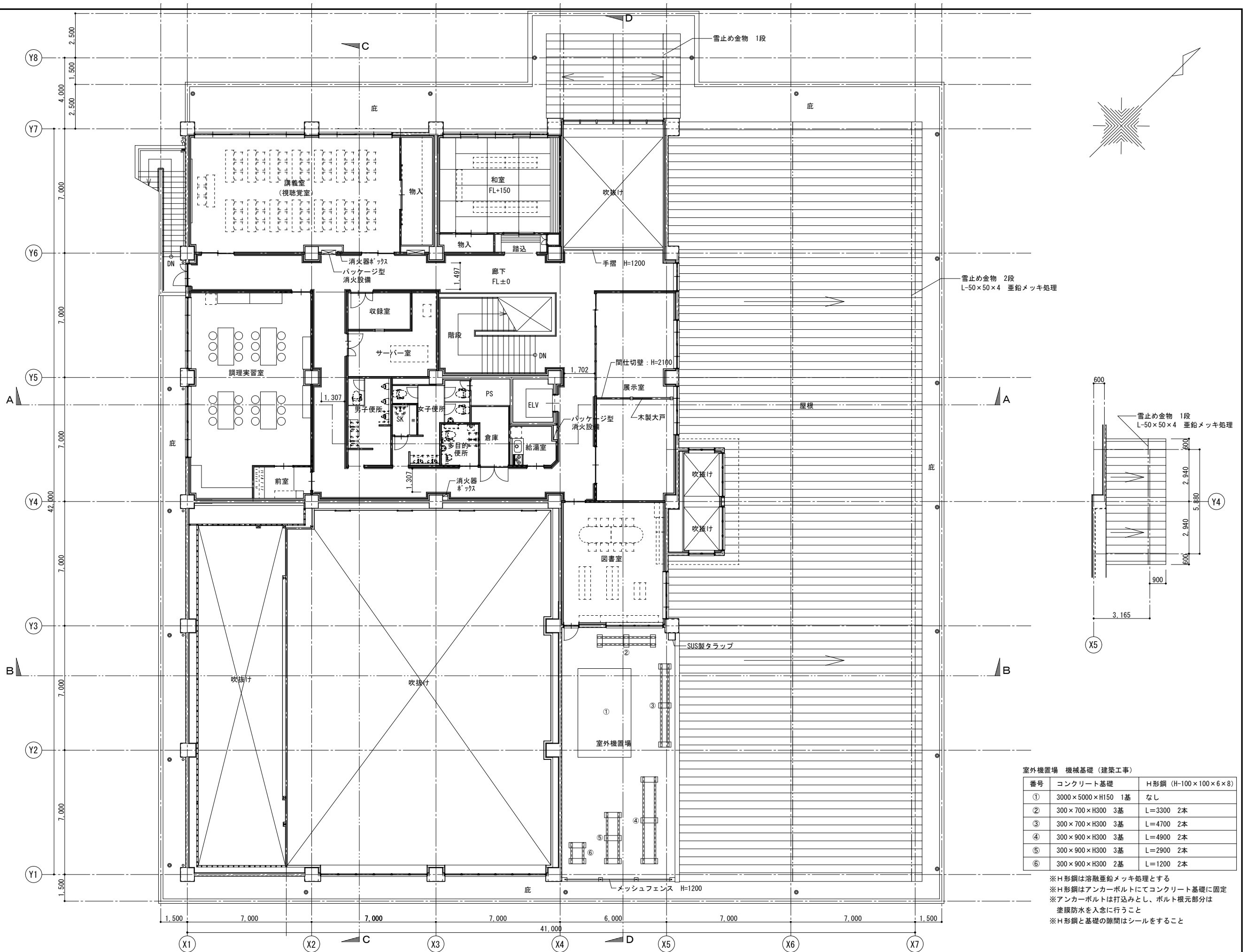
	ピットを示す 土間天端：1FL -1710
	埋戻し
	砕石敷き t100
	人通口 φ550
	床点検口：600×600 SUS目地把手ロック式 SUSタラップ W400φ22 3段
	上部：通気管 VPφ75 下部：連通管 VPφ75半割り（土間コン上）
	釜場：450×450 H=300

※駐車場、その他物置等には使用しない  
 砕石敷き  
 スチール製バリカー  
 φ60.5 L=1500 H=650  
 コンクリート東石 250×250×250





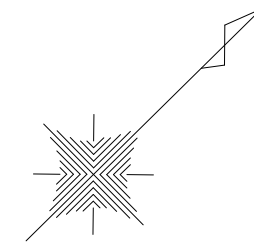
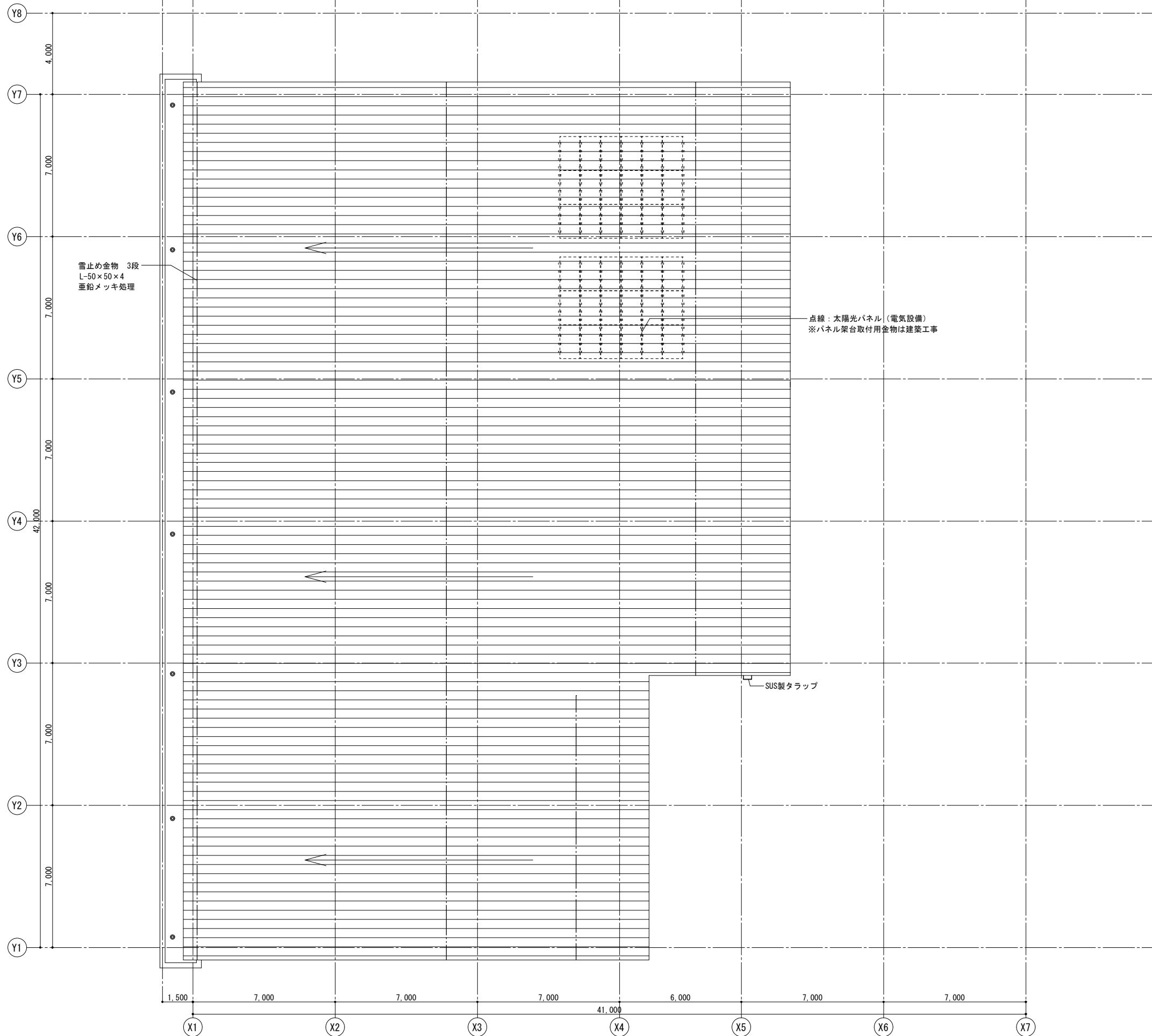
⊠ 床点検口：600×600 SUS製結露防止閉閉型

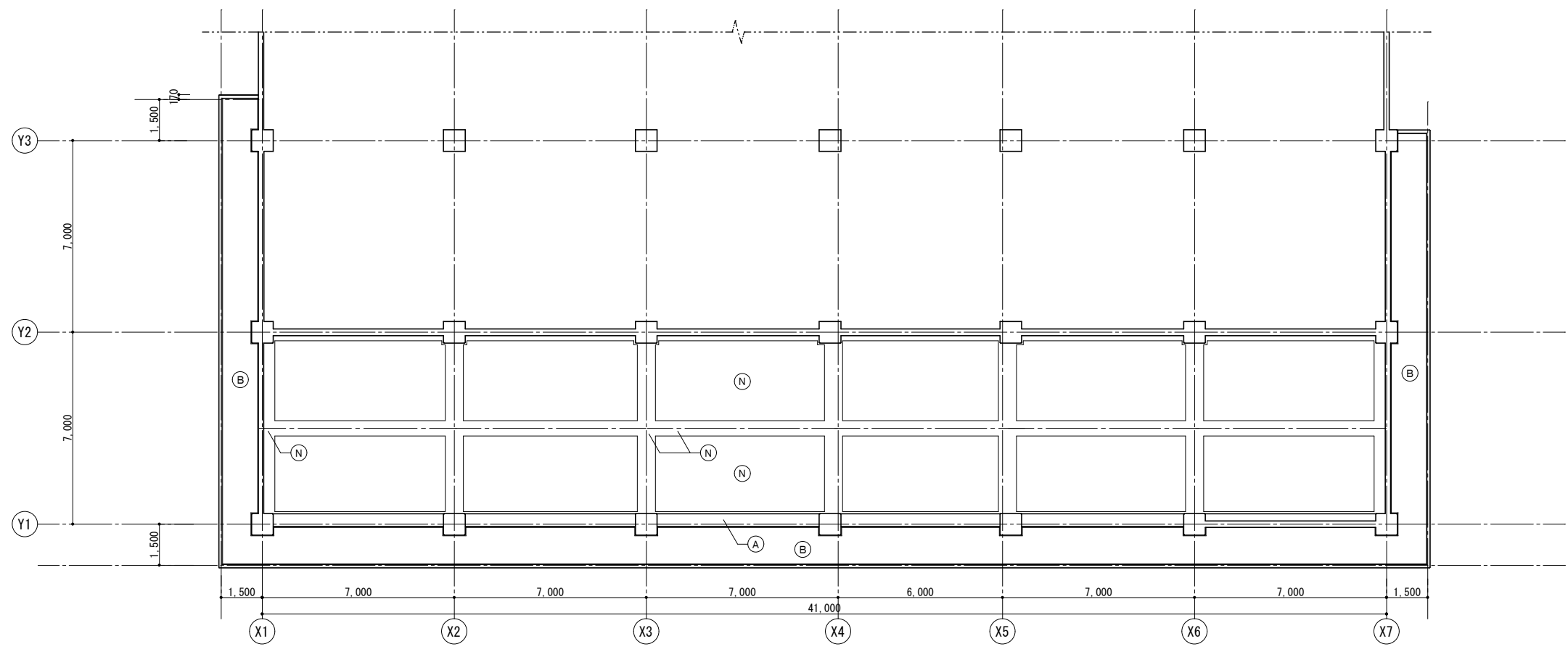
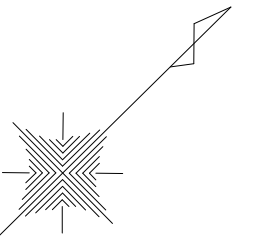


室外機置場 機械基礎 (建築工事)

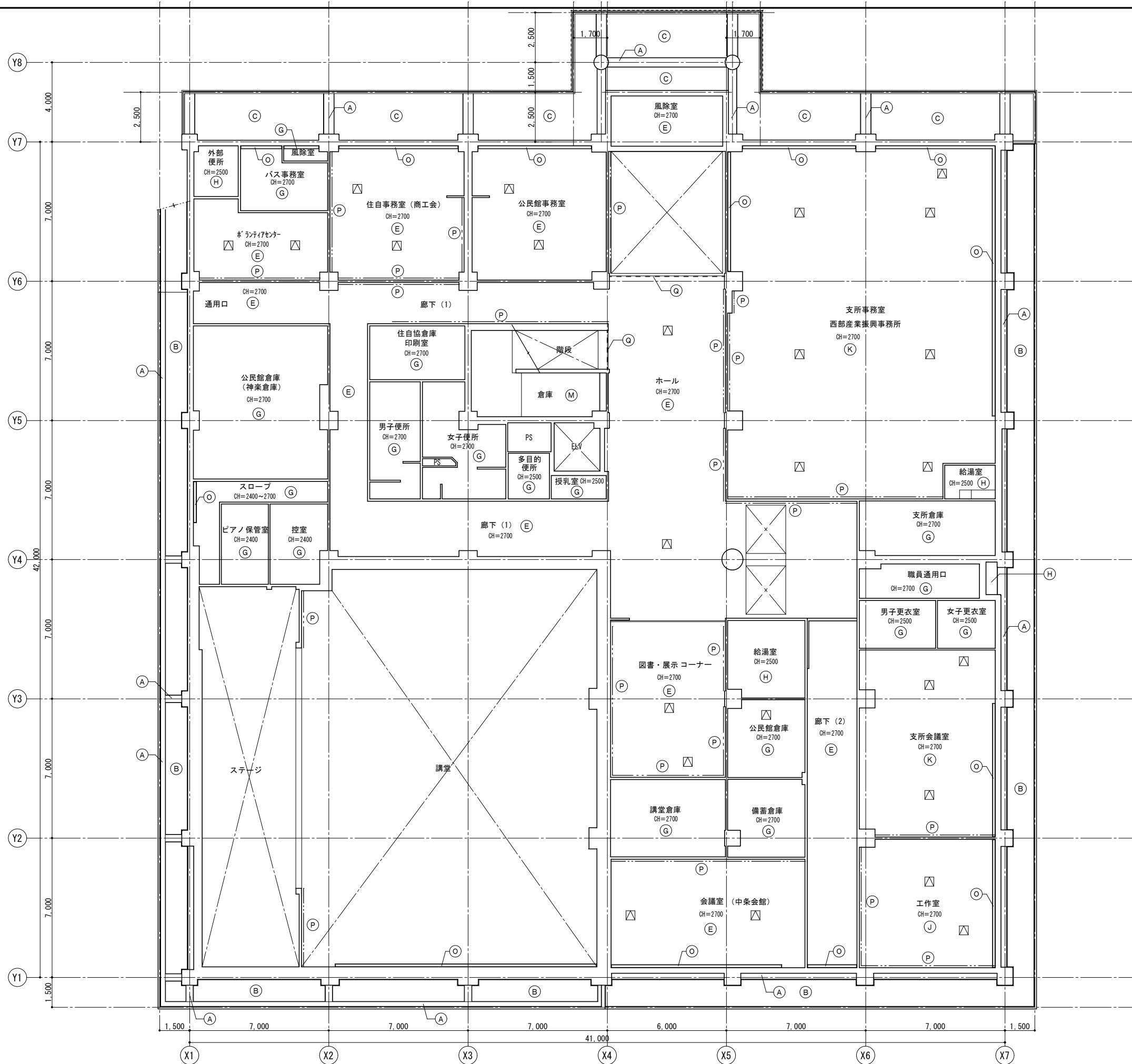
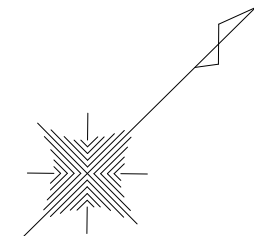
番号	コンクリート基礎	H形鋼 (H-100×100×6×8)
①	3000×5000×H150 1基	なし
②	300×700×H300 3基	L=3300 2本
③	300×700×H300 3基	L=4700 2本
④	300×900×H300 3基	L=4900 2本
⑤	300×900×H300 3基	L=2900 2本
⑥	300×900×H300 2基	L=1200 2本

※H形鋼は溶融亜鉛メッキ処理とする  
 ※H形鋼はアンカーボルトにてコンクリート基礎に固定  
 ※アンカーボルトは打込みとし、ボルト根元部分は  
 差膜防水を入念に行うこと  
 ※H形鋼と基礎の隙間はシールをすること

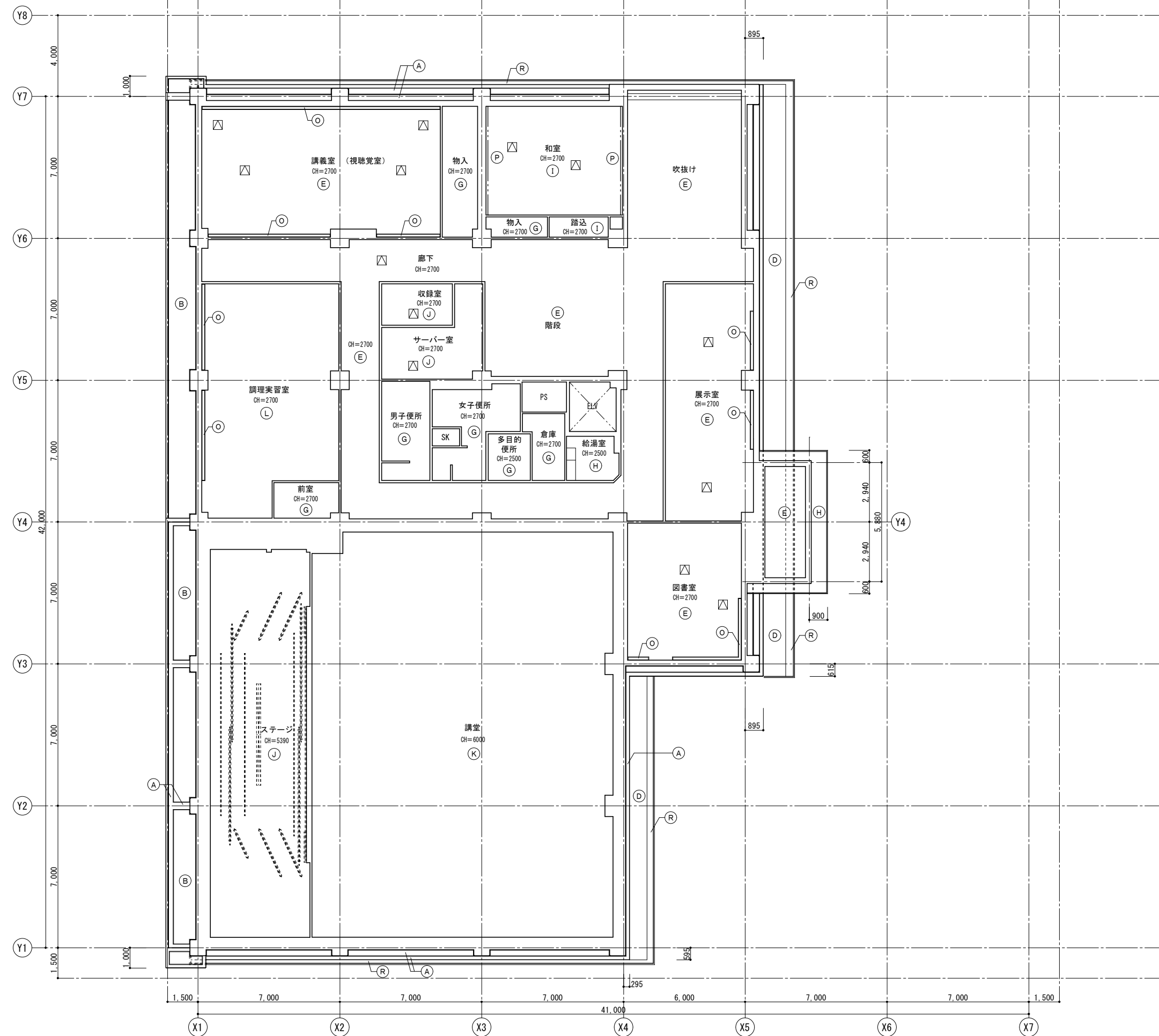
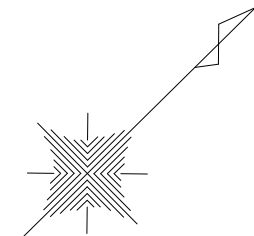




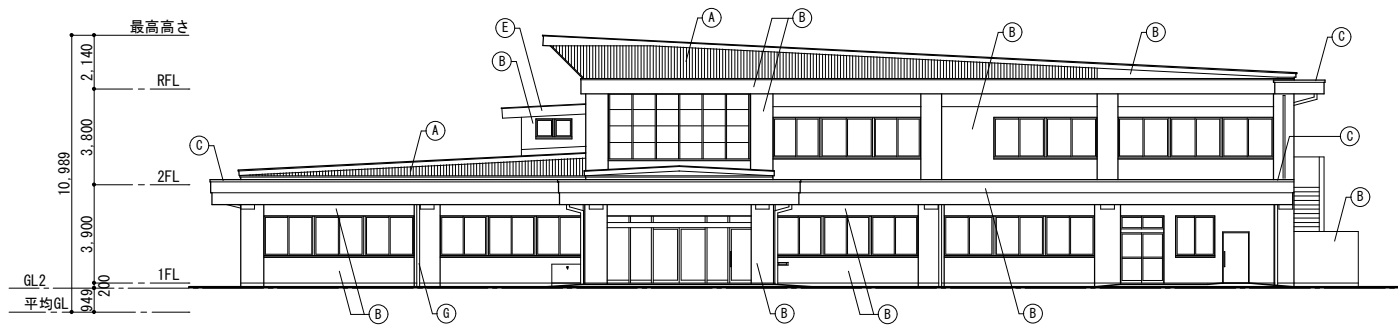
記号	仕上
(A)	合板型枠コンクリート打放し 化粧目地入 複層塗材E吹付
(B)	合板型枠 コンクリート打放し 化粧目地入 外装薄塗材E 吹付
(C)	長野県産杉羽目板張り t15 木材保護塗料塗
(D)	アルミスバンドレル 張り
(E)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t9.0
(F)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t12.0 (17')
(G)	LGS・化粧石膏ボード張り t9.5
(H)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP
(I)	LGS・化粧石膏ボード (木目) t9.5
(J)	LGS・化粧吸音石膏ボード張り t9.5 (収録室は不燃)
(K)	ガラスウールボード40k t25
(L)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP-G
(M)	コンクリート露わし
(N)	現場発泡ウレタン t60 露わし
(O)	カーテンボックス: 木製 t25 x D150 x H120 CL ... 図示
(P)	ビクチャーレール
(Q)	不燃シート製 防煙垂壁 H=500
(R)	有孔フレキシブルボード t6 目透し張り EP
▽	天井点検口 アルミ製 600×600 37ヶ所 (1階: 24 2階: 13)



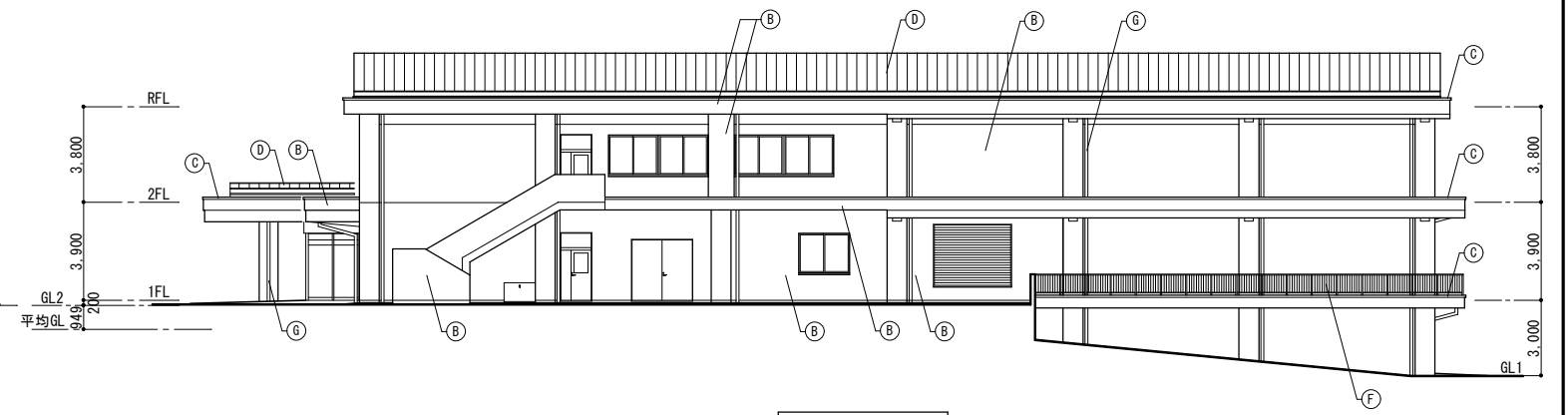
記号	仕上
(A)	合板型枠コンクリート打放し 化粧目地入 複層塗材E吹付
(B)	合板型枠 コンクリート打放し 化粧目地入 外装薄塗材E吹付
(C)	長野県産杉羽目板張り t15 木材保護塗料塗
(D)	アルミスバンドレル 張り
(E)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t9.0
(F)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t12.0 (リブ)
(G)	LGS・化粧石膏ボード張り t9.5
(H)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP
(I)	LGS・化粧石膏ボード (木目) t9.5
(J)	LGS・化粧吸音石膏ボード張り t9.5 (収録室は不燃)
(K)	グラスウールボード40k t25
(L)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP-G
(M)	コンクリート露わし
(N)	現場発泡ウレタン t60 露わし
(O)	カーテンボックス: 木製 t25 x D150 x H120 CL ... 図示
(P)	ピクチャーレール
(Q)	不燃シート製 防煙垂壁 H=500
(R)	有孔フレキシブルボード t6 目透し張り EP
(▽)	天井点検口 アルミ製 600×600 37ヶ所 (1階: 25 2階: 13)



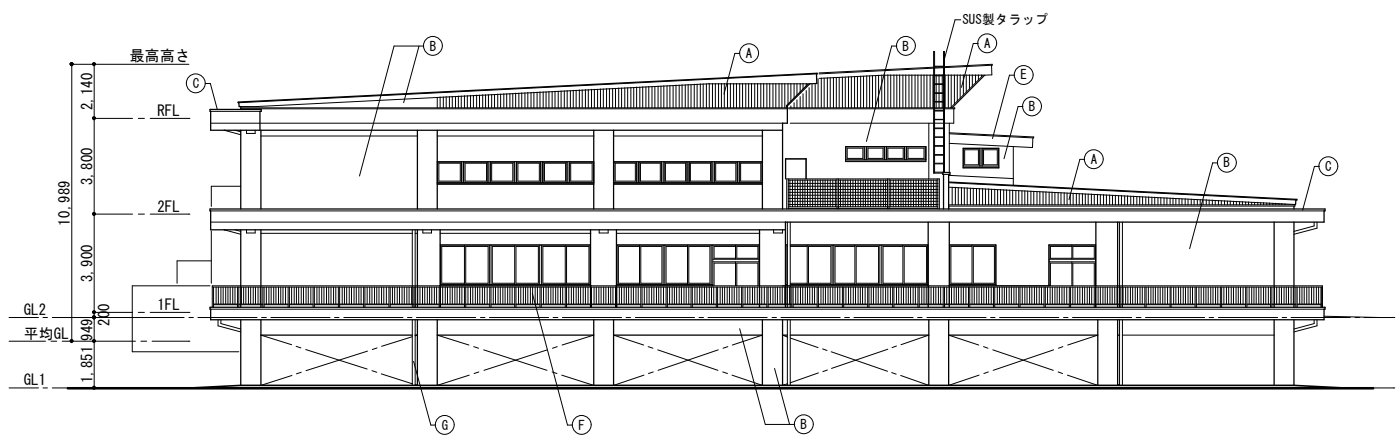
記号	仕上
(A)	合板型枠コンクリート打放し 化粧目地入 複層塗材E吹付
(B)	合板型枠 コンクリート打放し 化粧目地入 外装薄塗材E 吹付
(C)	長野県産杉羽目板張り t15 木材保護塗料塗
(D)	アルミバンドレル 張り
(E)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t9.0
(F)	LGS・石膏ボード t9.5 捨張り 岩綿吸音板張り t12.0 (リブ)
(G)	LGS・化粧石膏ボード張り t9.5
(H)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP
(I)	LGS・化粧石膏ボード (木目) t9.5
(J)	LGS・化粧吸音石膏ボード張り t9.5 (収録室は不燃)
(K)	グラスウールボード40k t25
(L)	LGS・ケイ酸カルシウム板 t6.0 目スカシ張り EP-G
(M)	コンクリート露わし
(N)	現場発泡ウレタン t60 露わし
(O)	カーテンボックス：木製 t25 x D150 x H120 CL … 図示
(P)	ピクチャーレール
(Q)	不燃シート製 防煙垂壁 H=500
(R)	有孔フレキシブルボード t6 目透し張り EP
▽	天井点検口 アルミ製 600×600 37ヶ所 (1階：25 2階：13)



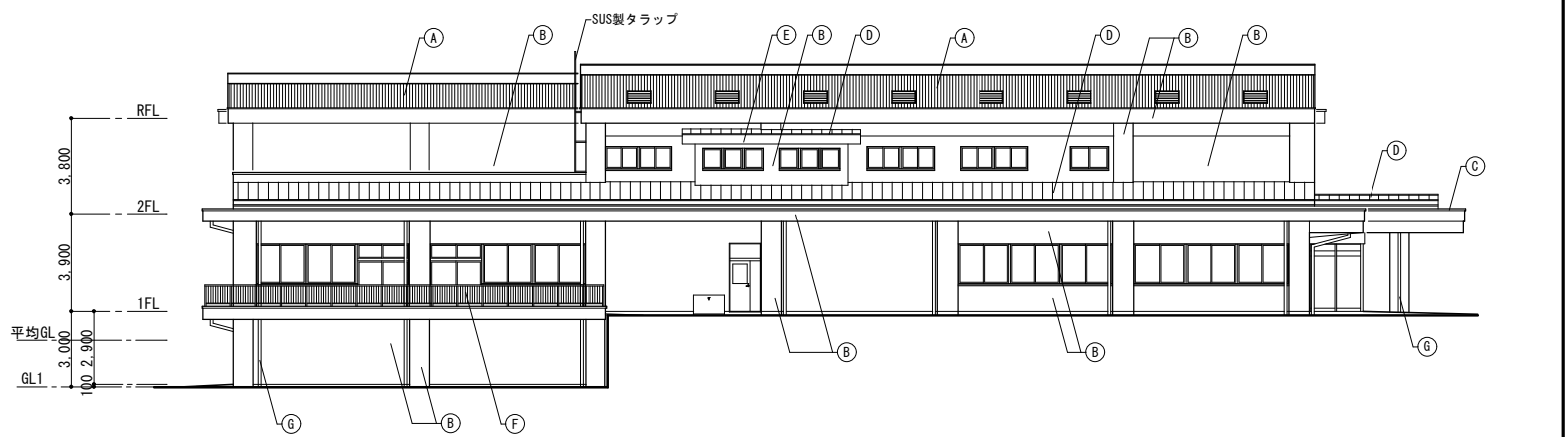
北立面図



西立面図



南立面図

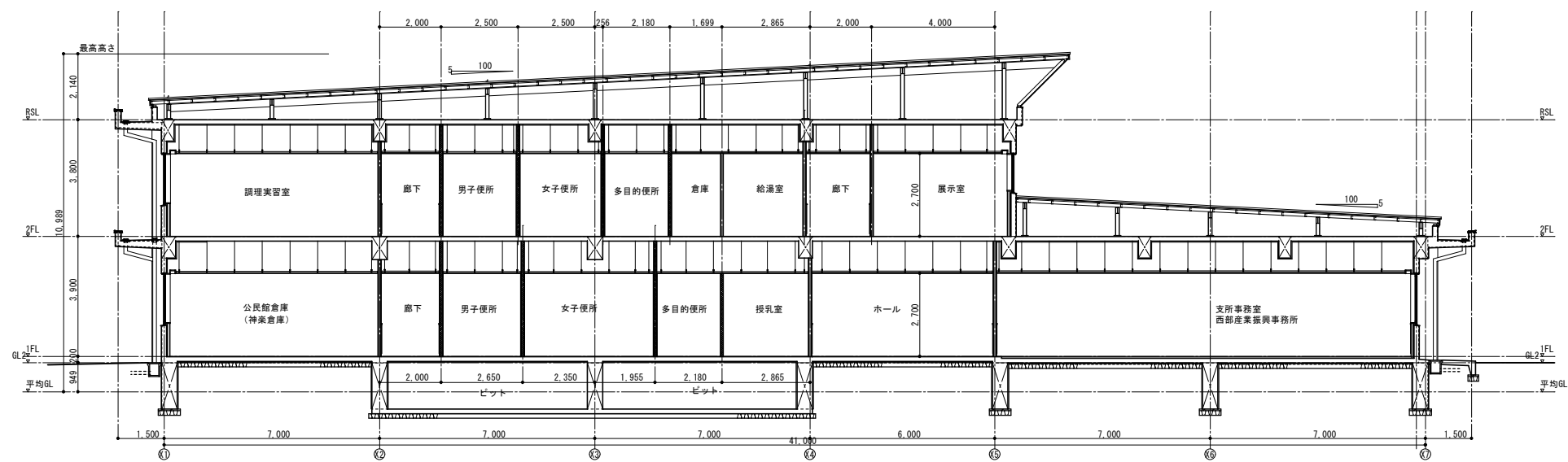


東立面図

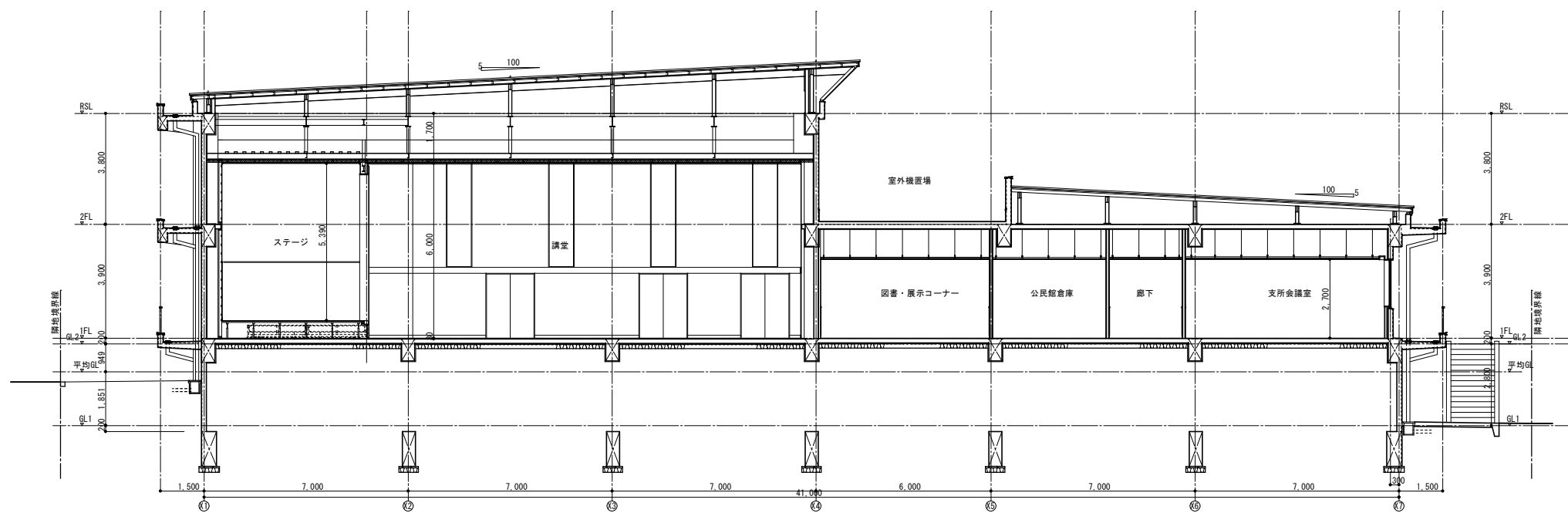
仕上凡例

記号	仕上
(A)	外壁：アルミスパンドレル
(B)	外壁：合板型枠（B種）コンクリート打放し 防水形模層塗材 E 吹付
(C)	笠木：アルミ製開放型（既製品）
(D)	屋根：フッ素ガルバリウム鋼板 t 0.5 立ハゼ葺き
(E)	破風：フッ素ガルバリウム鋼板 t 0.4巻
(F)	アルミ製笠木付手摺
(G)	整樋：アルミ製 バンドレストタイプ 既製品

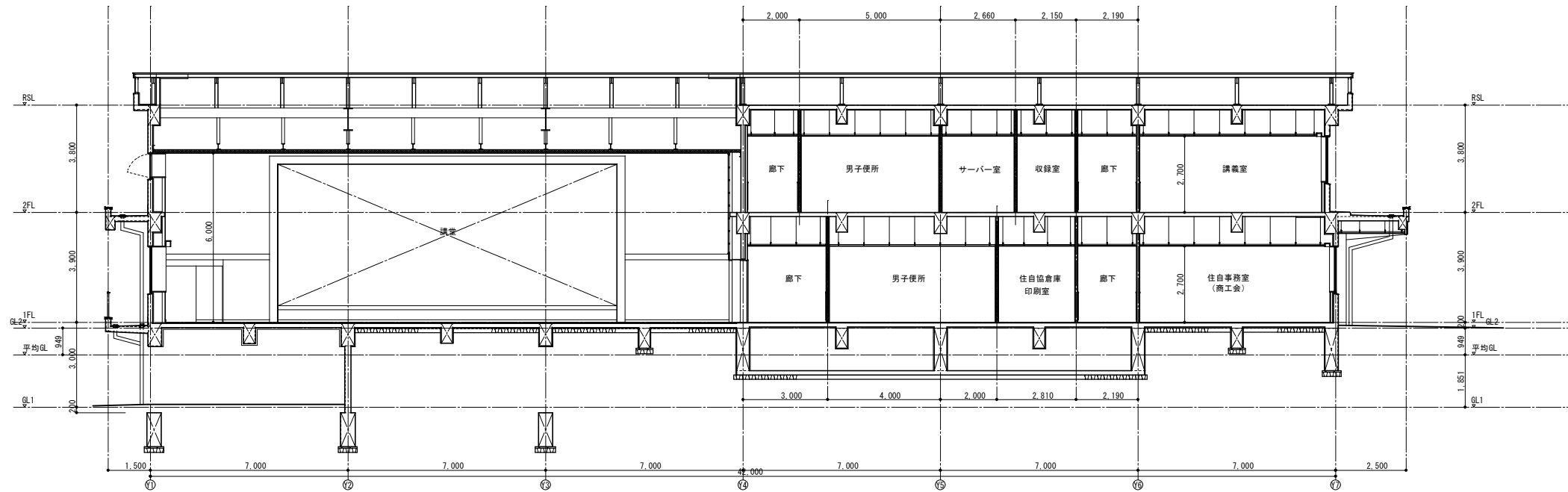




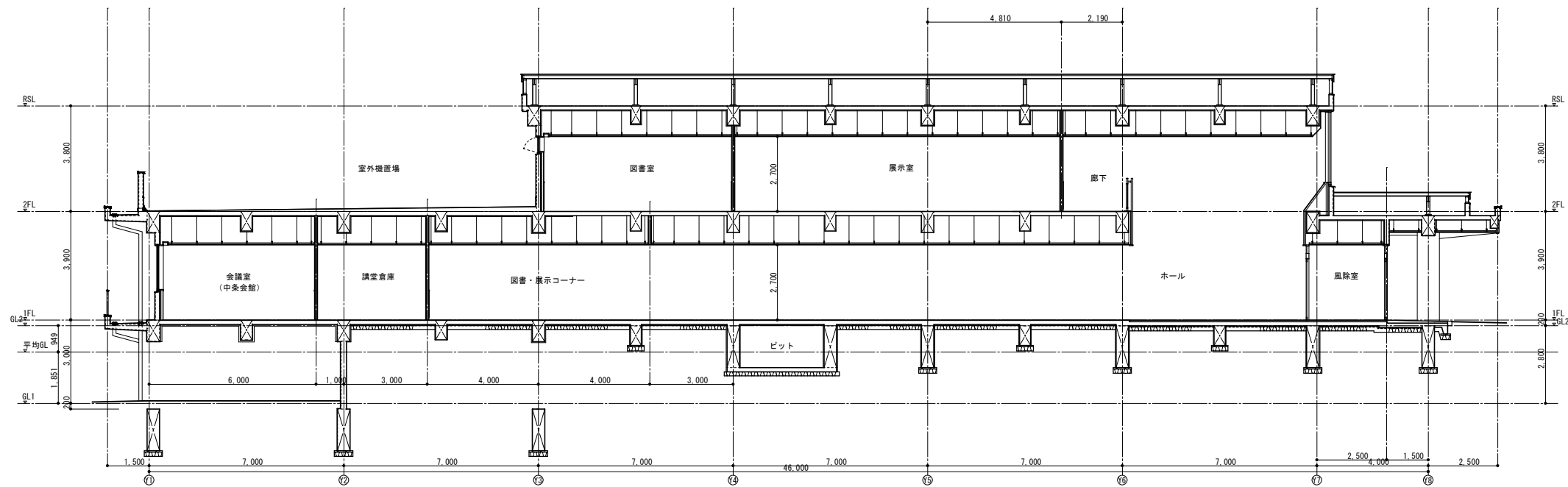
A-A 断面図



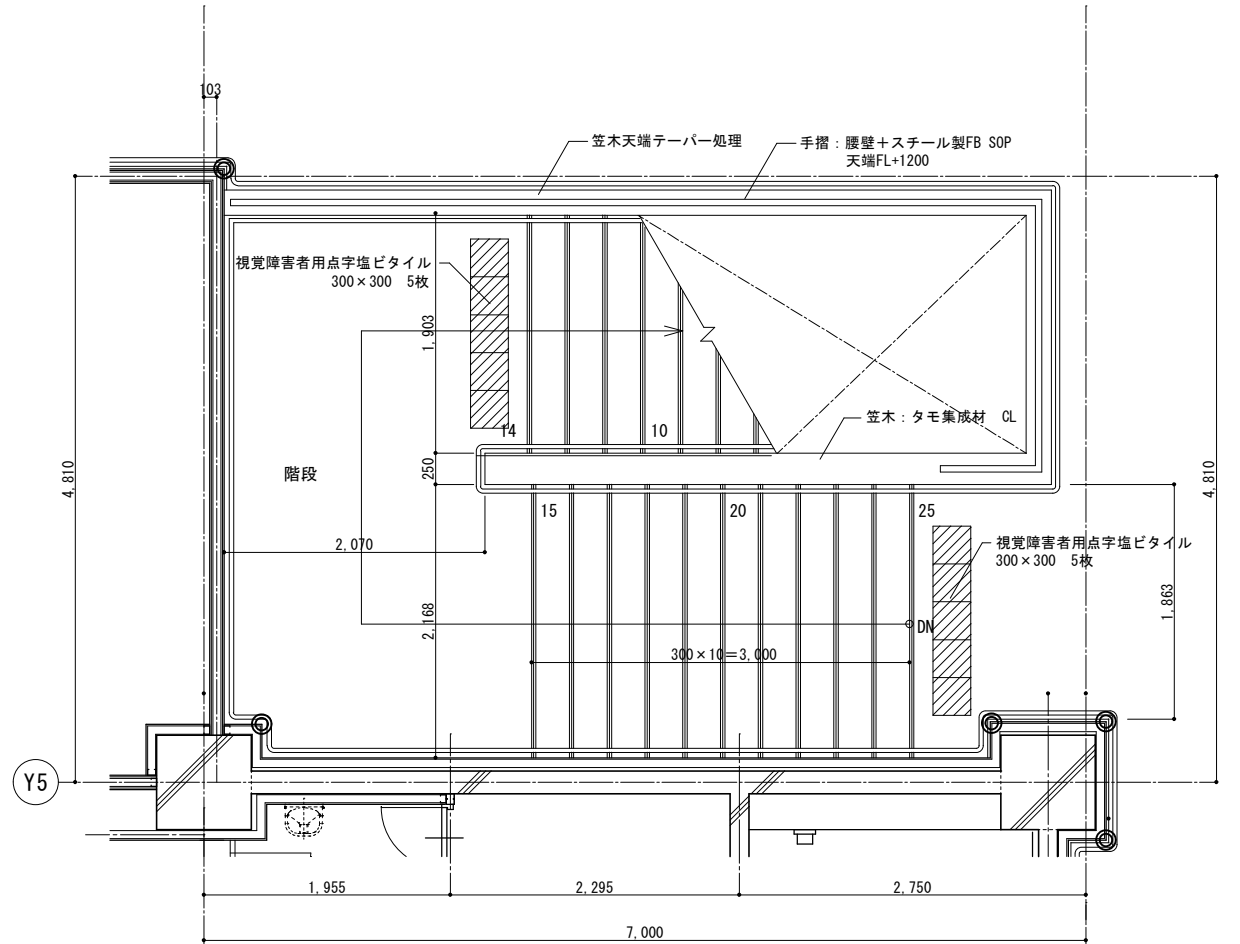
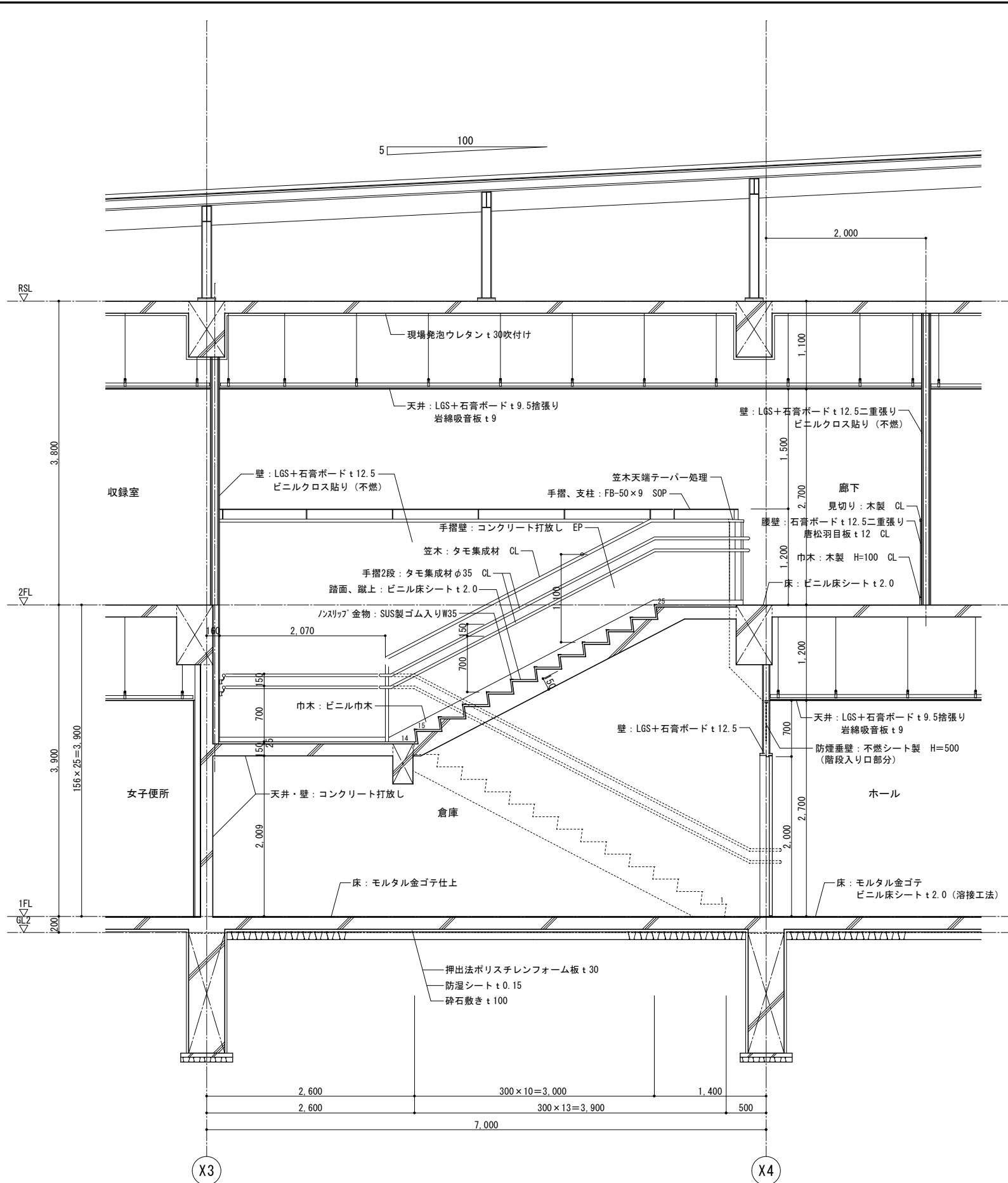
B-B 断面図



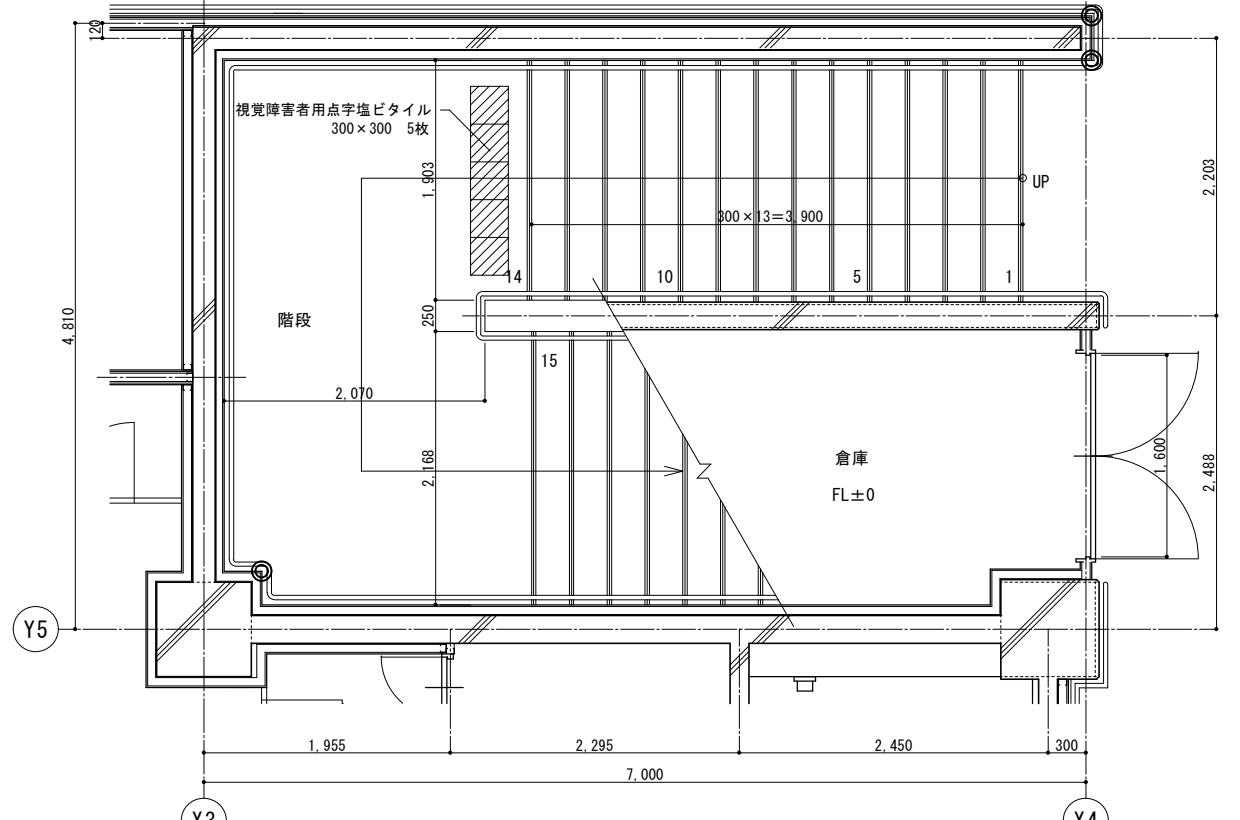
C-C断面図



D-D断面図

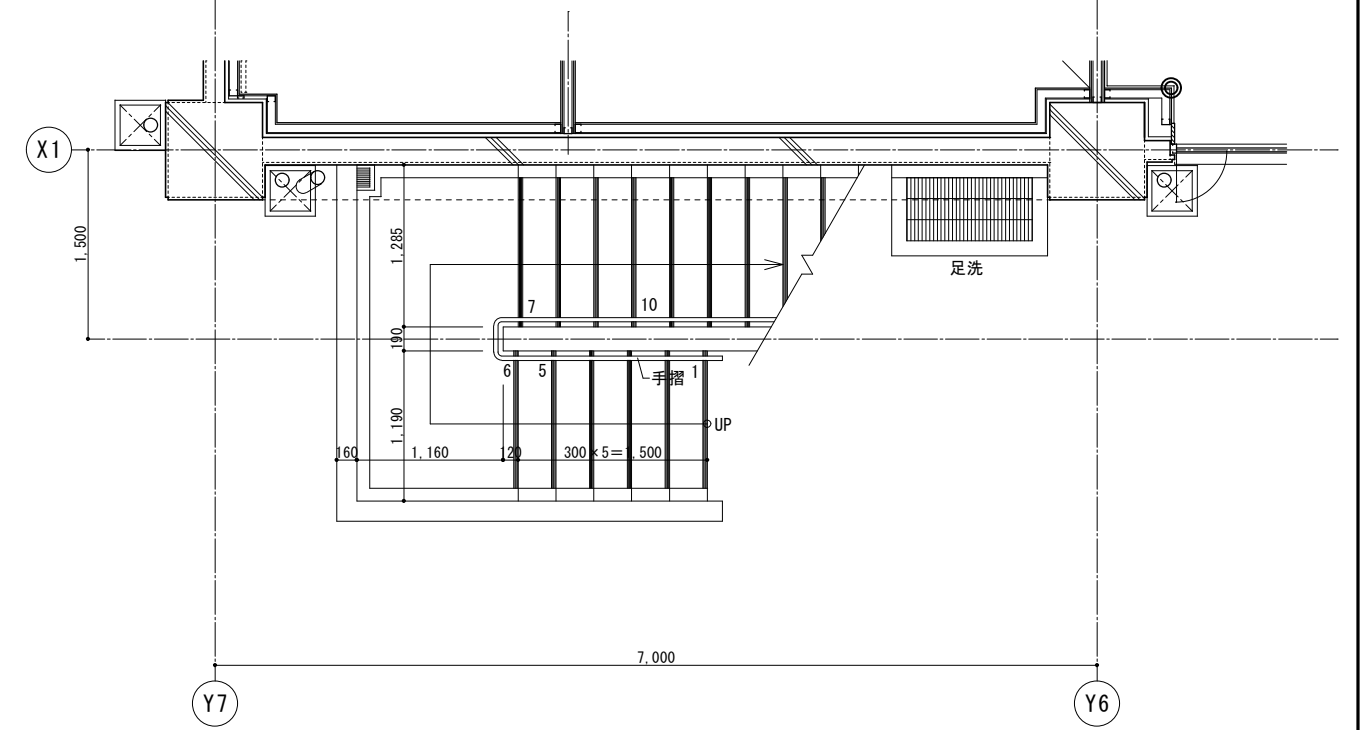
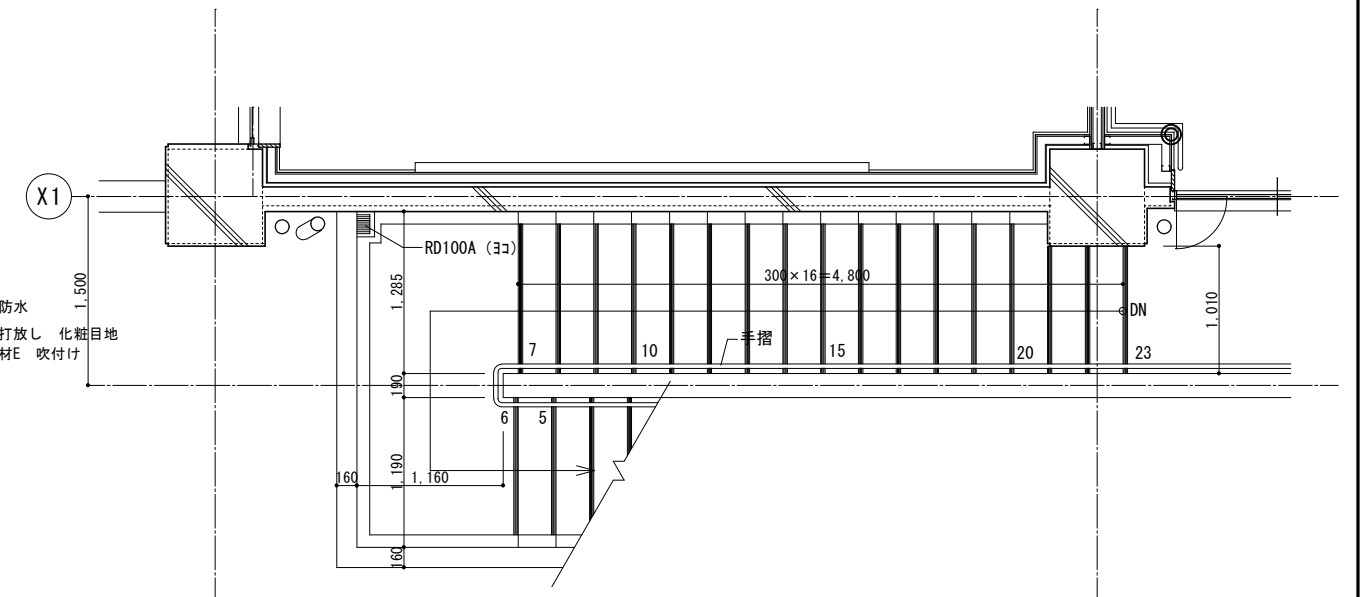
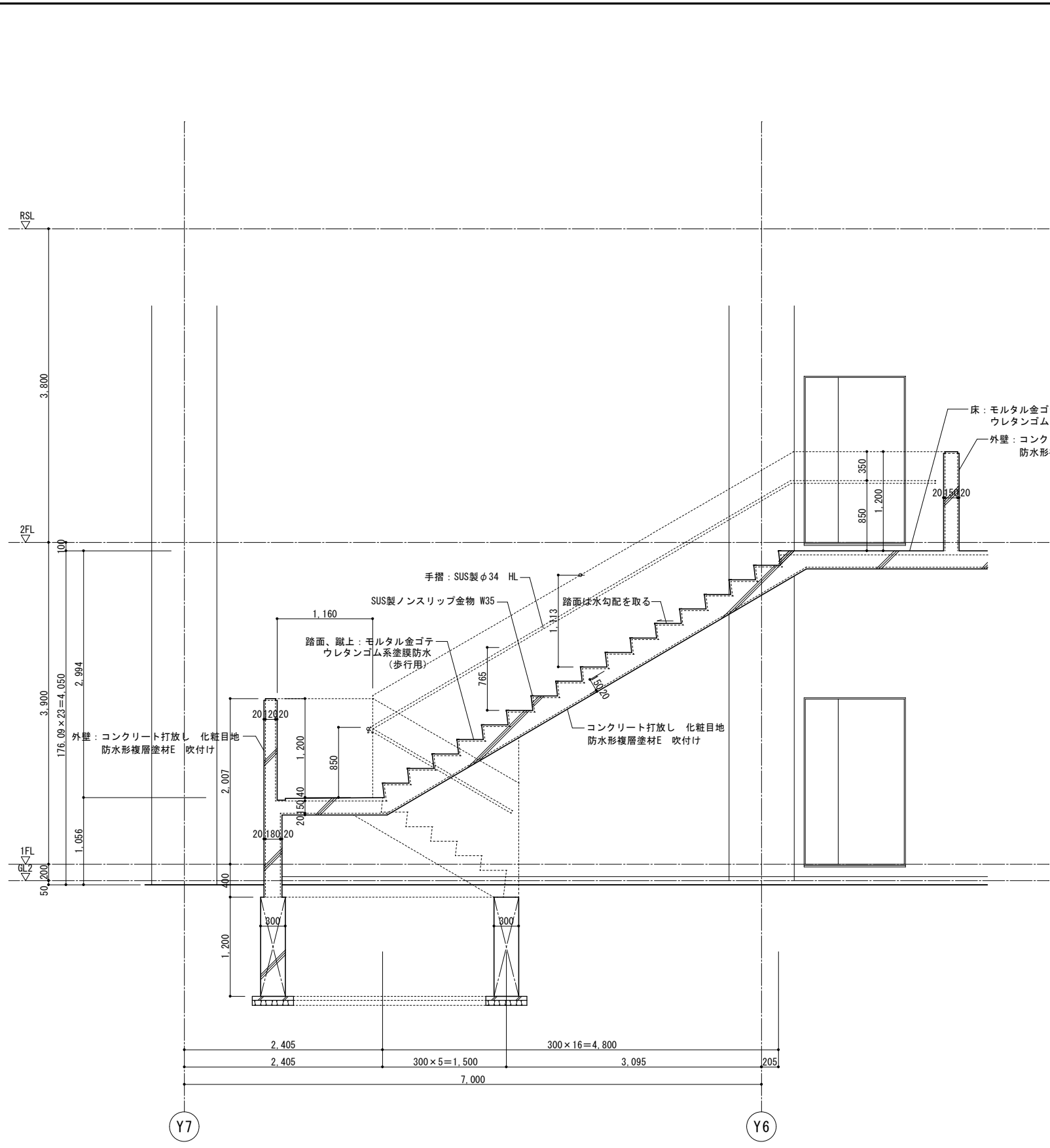


2階平面詳細図

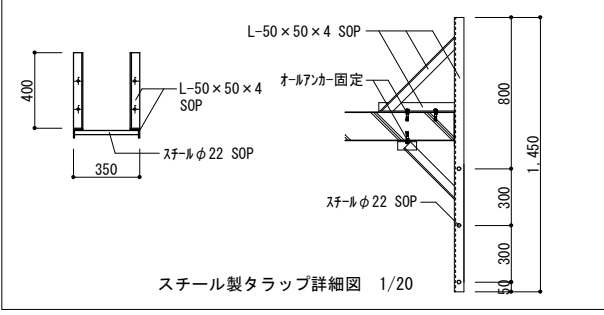
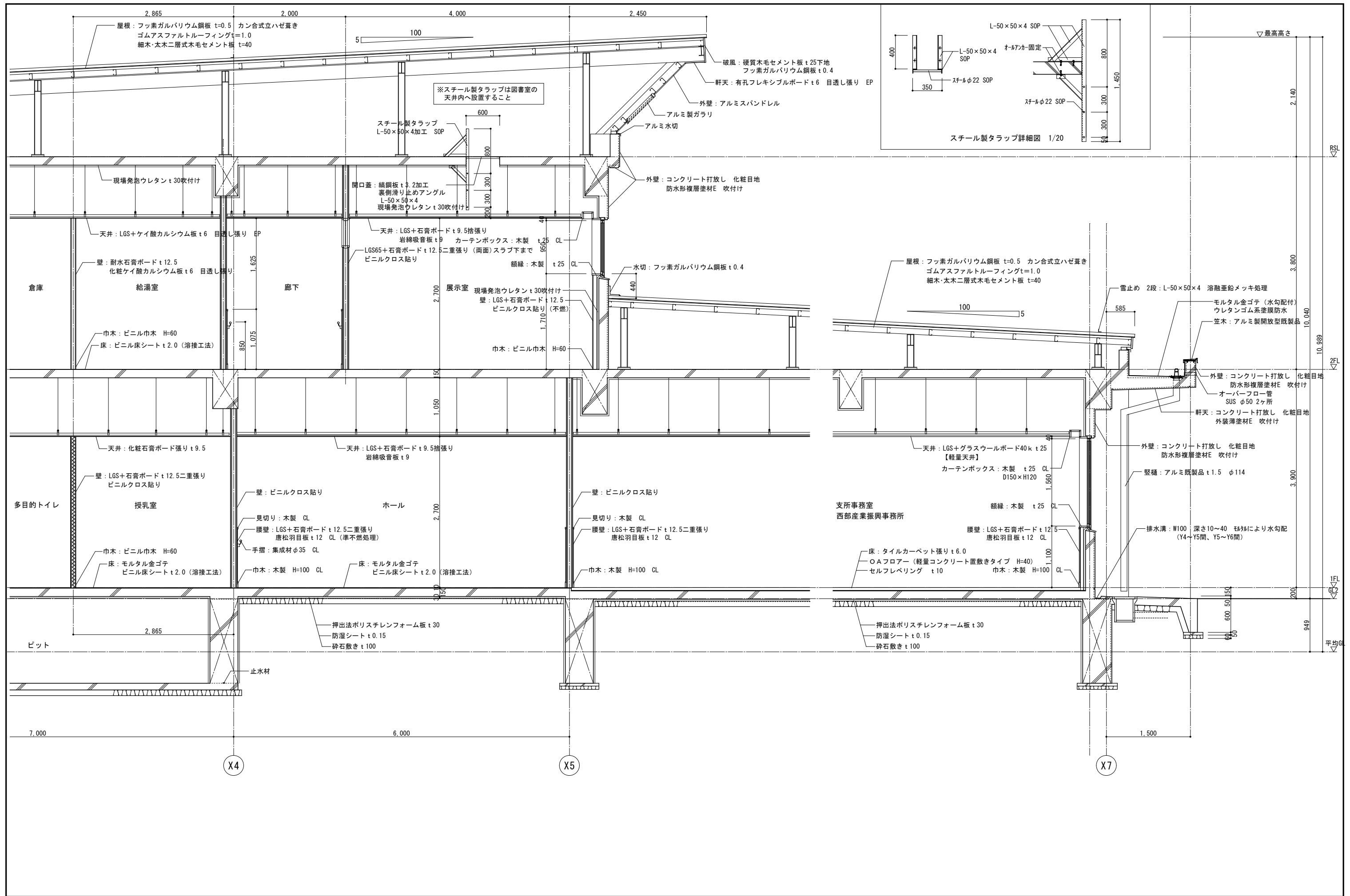


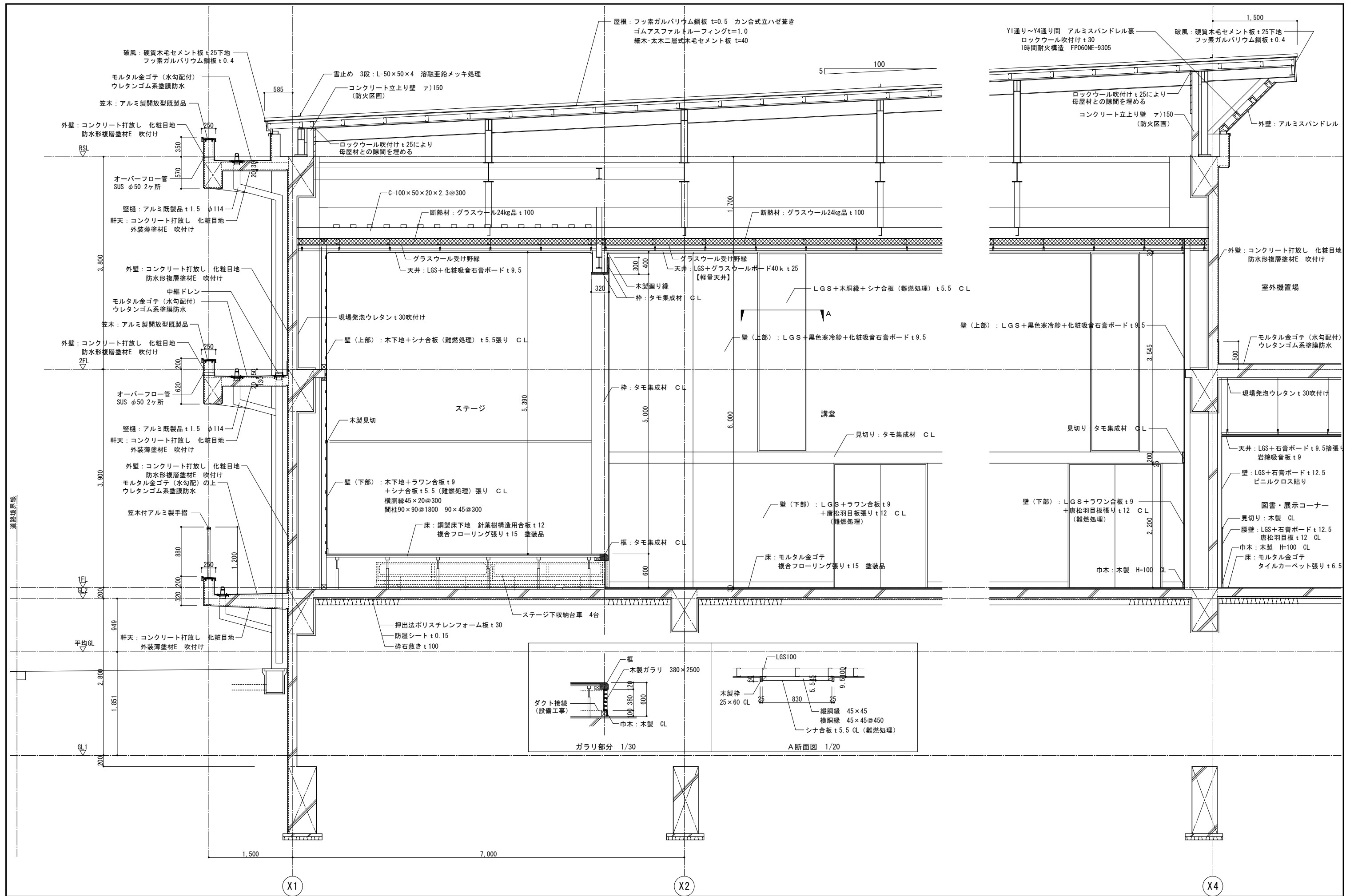
1階平面詳細図

◎—コーナー見切材取付



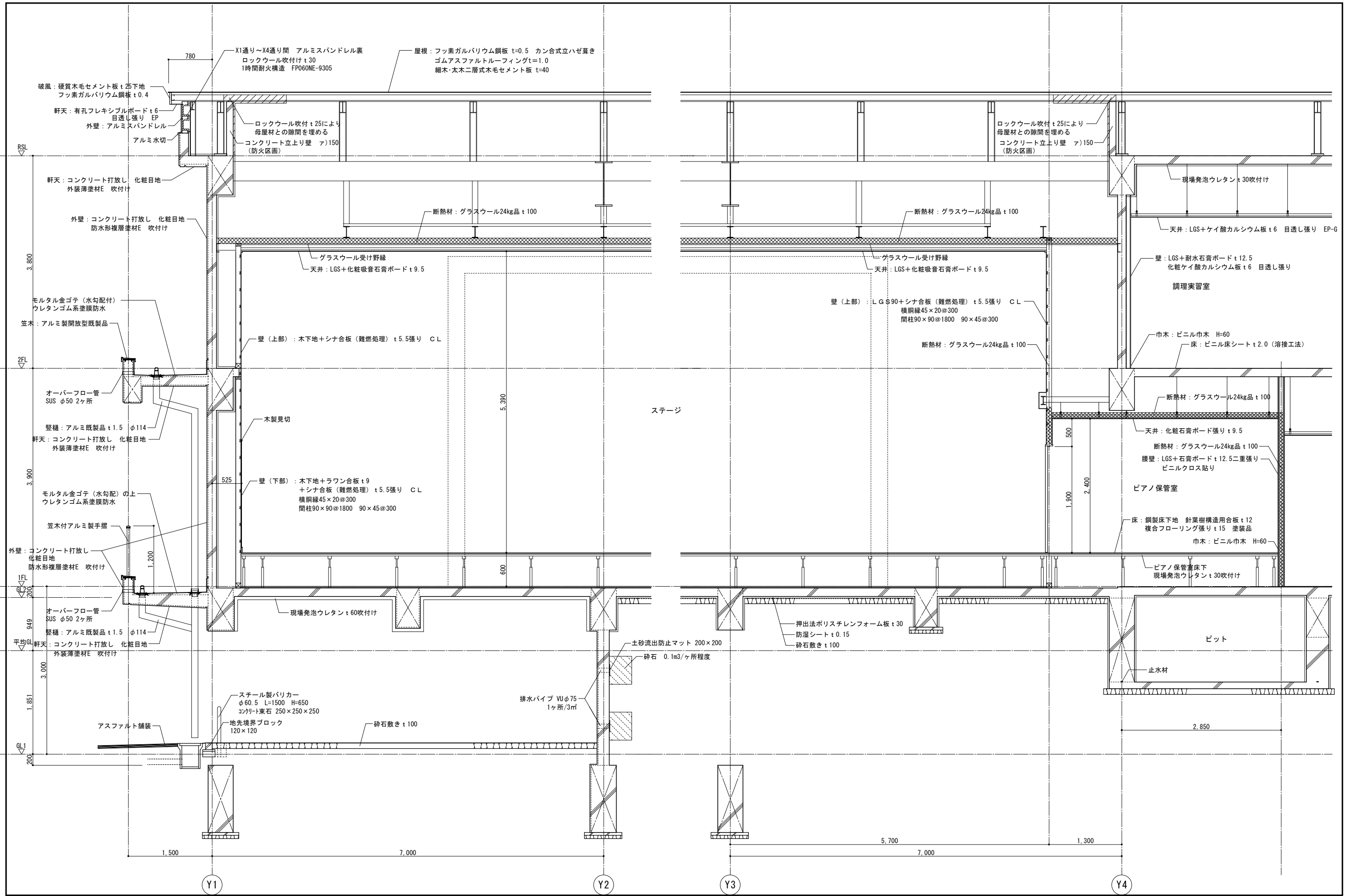


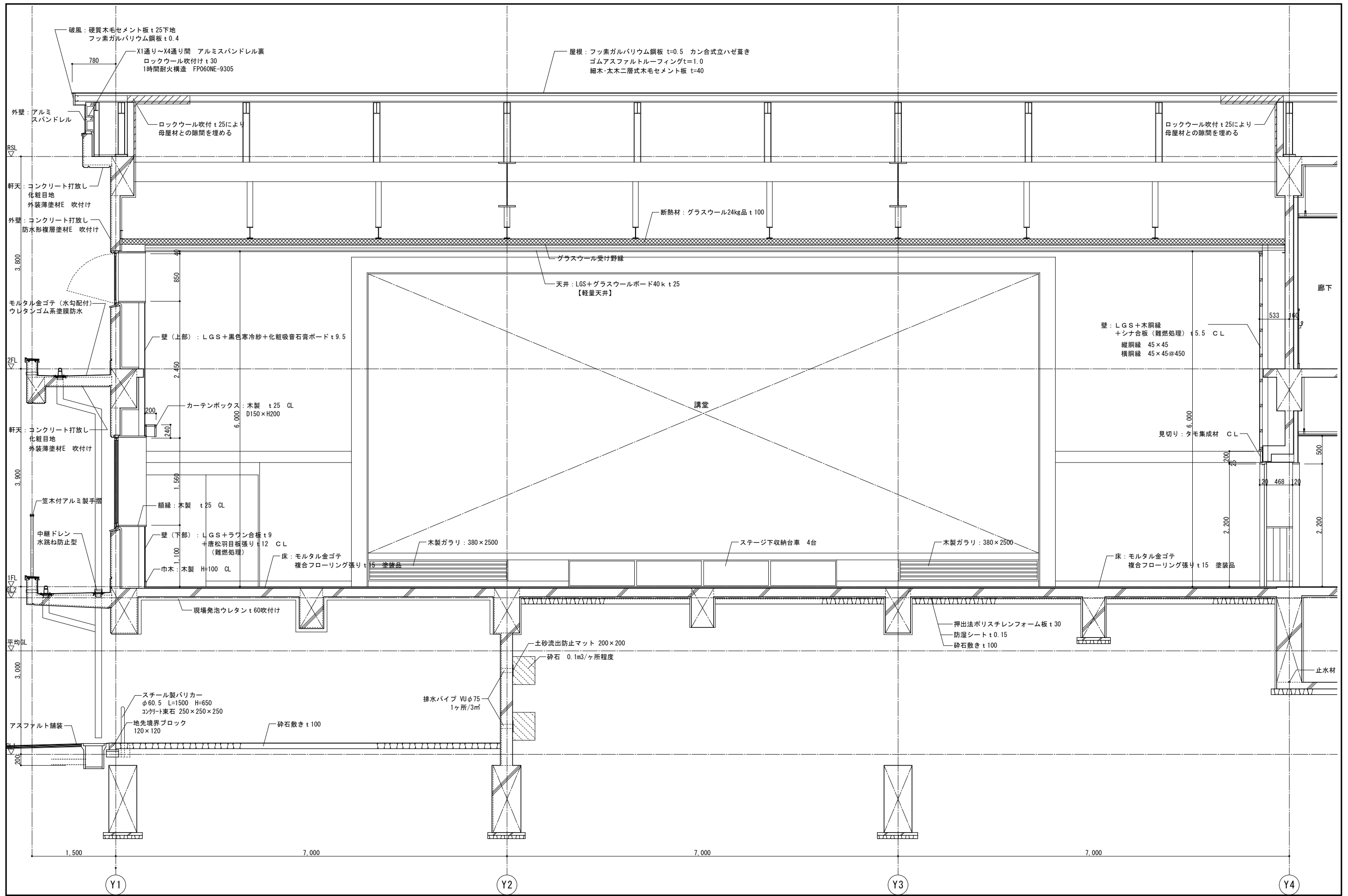






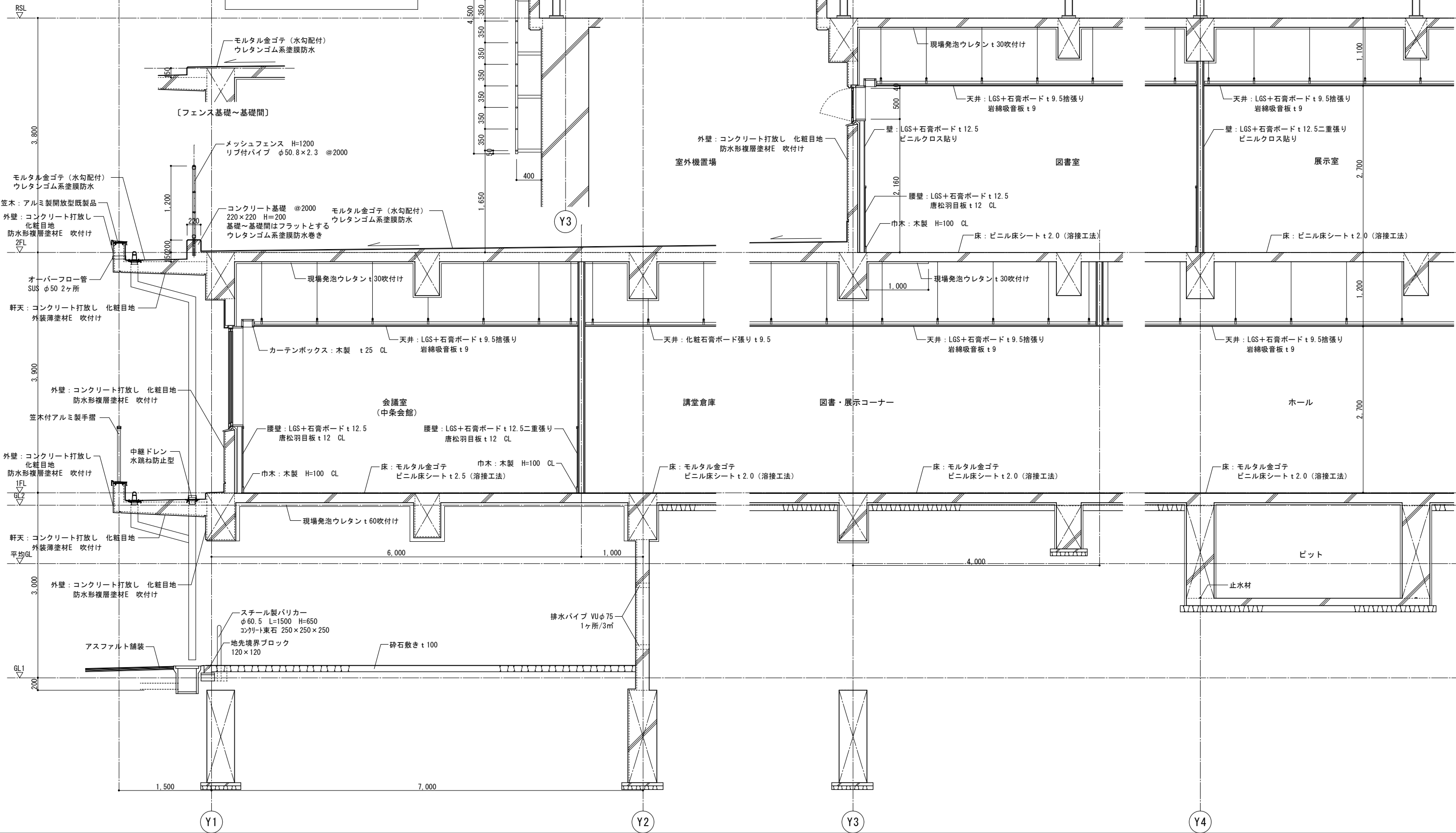
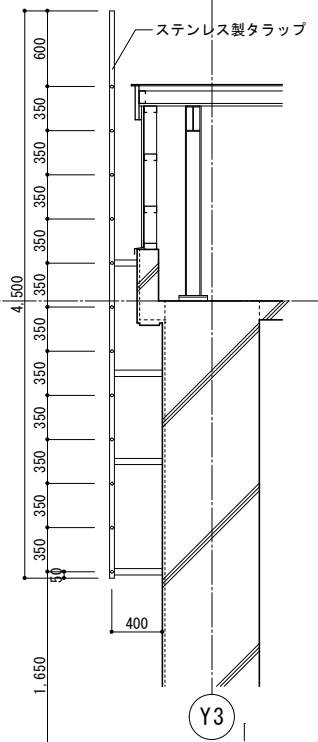
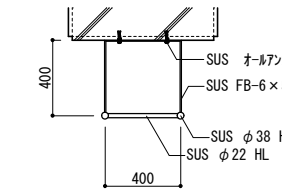


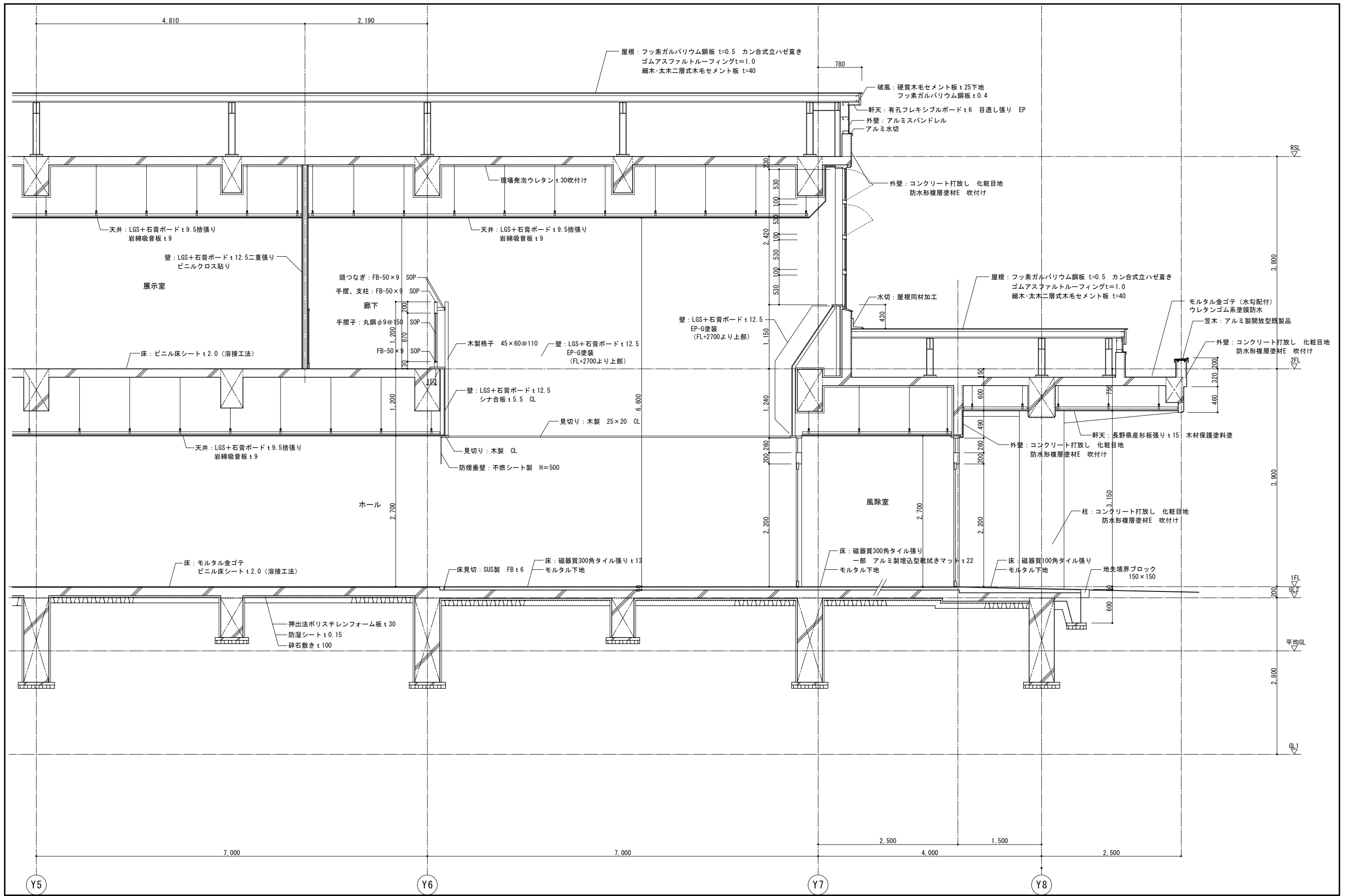


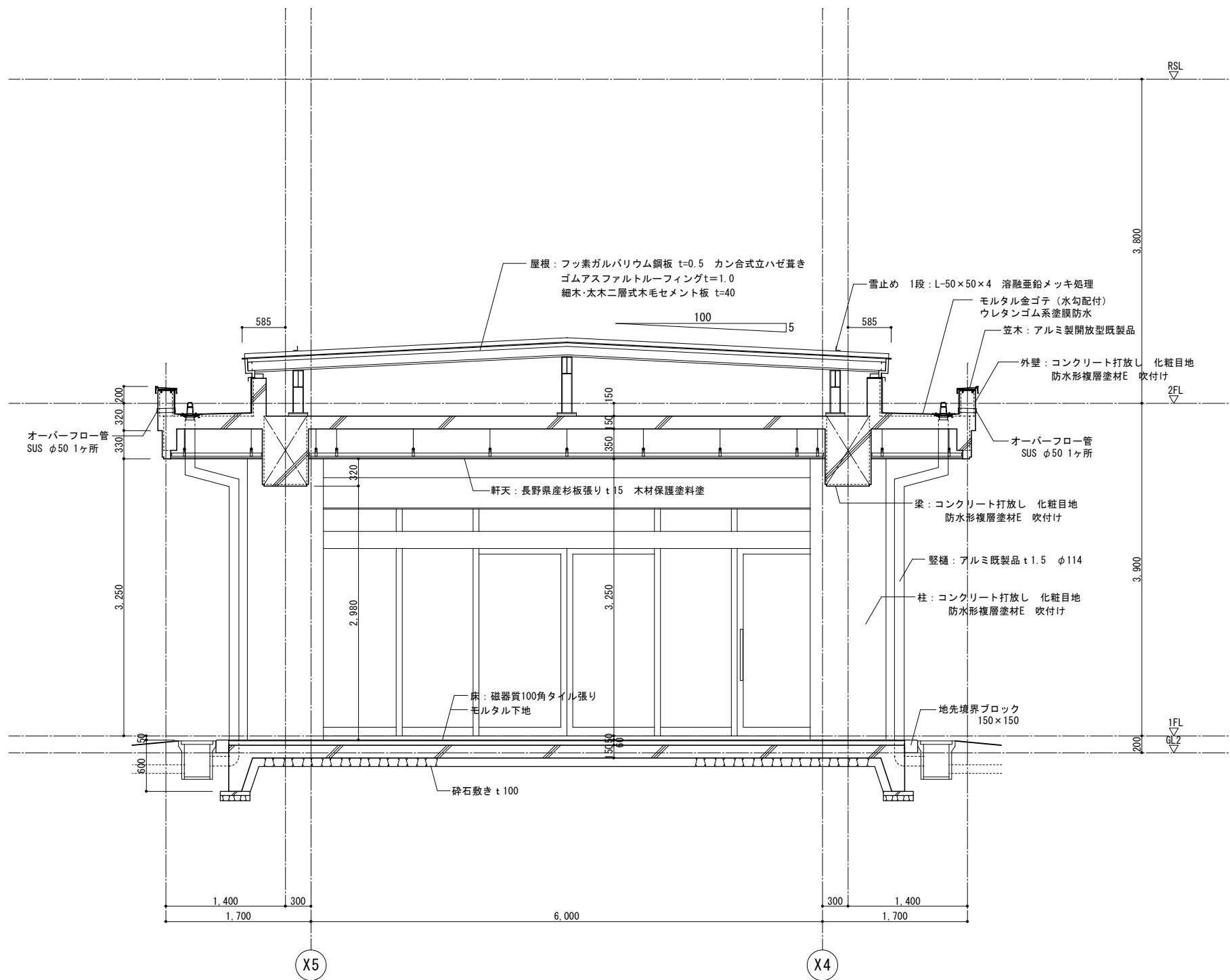


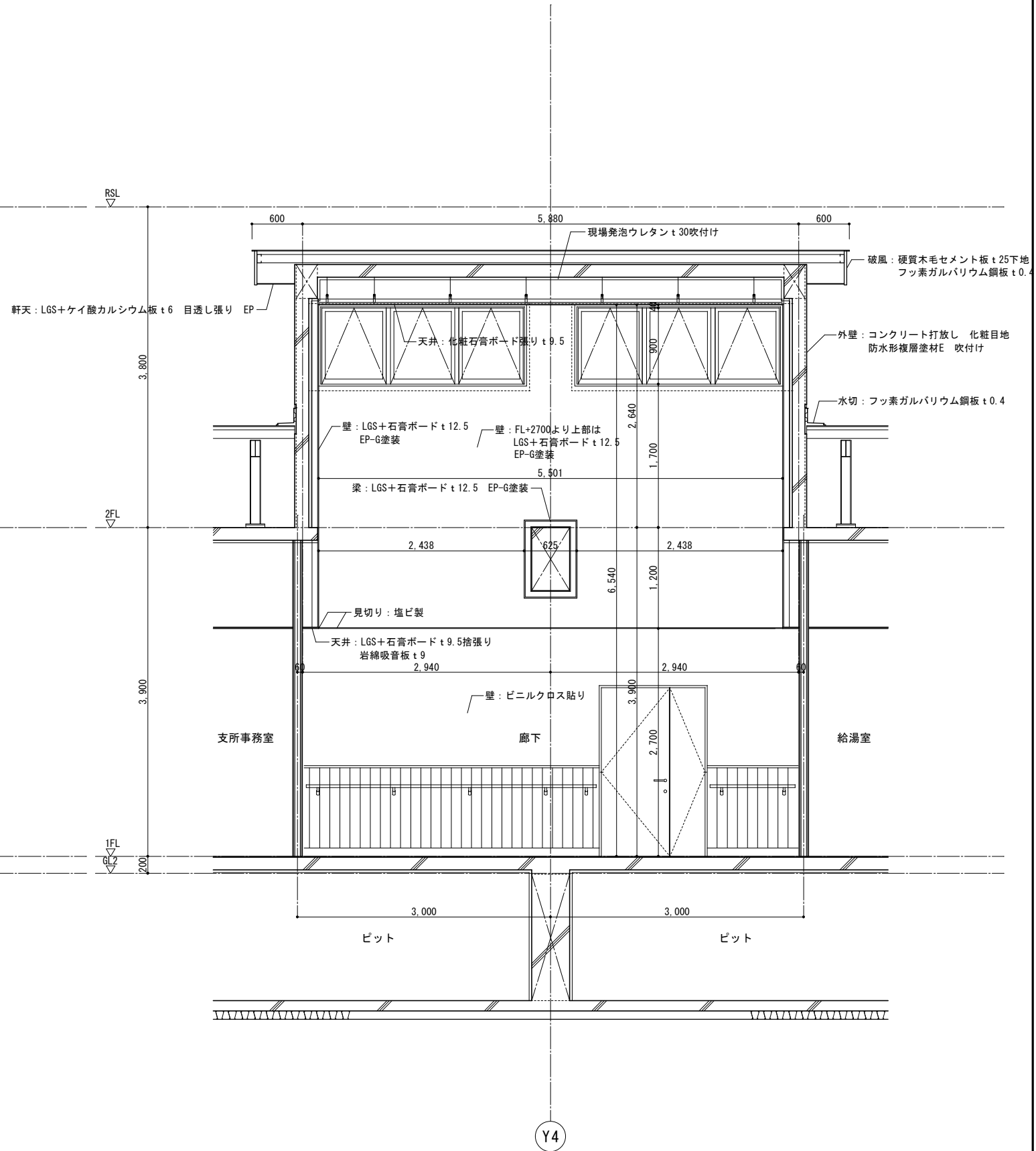
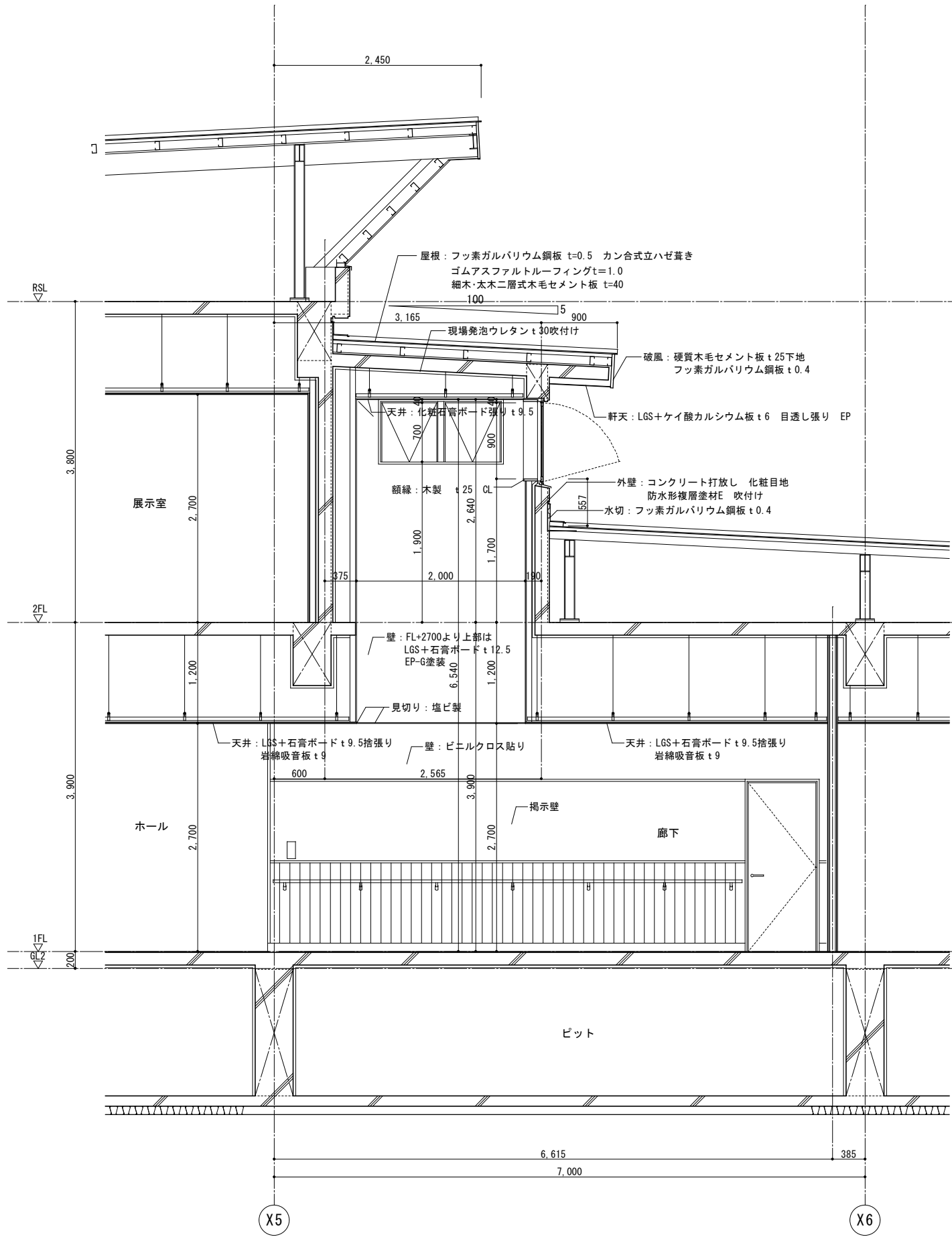


ステンレス製タラップ詳細図 1/20

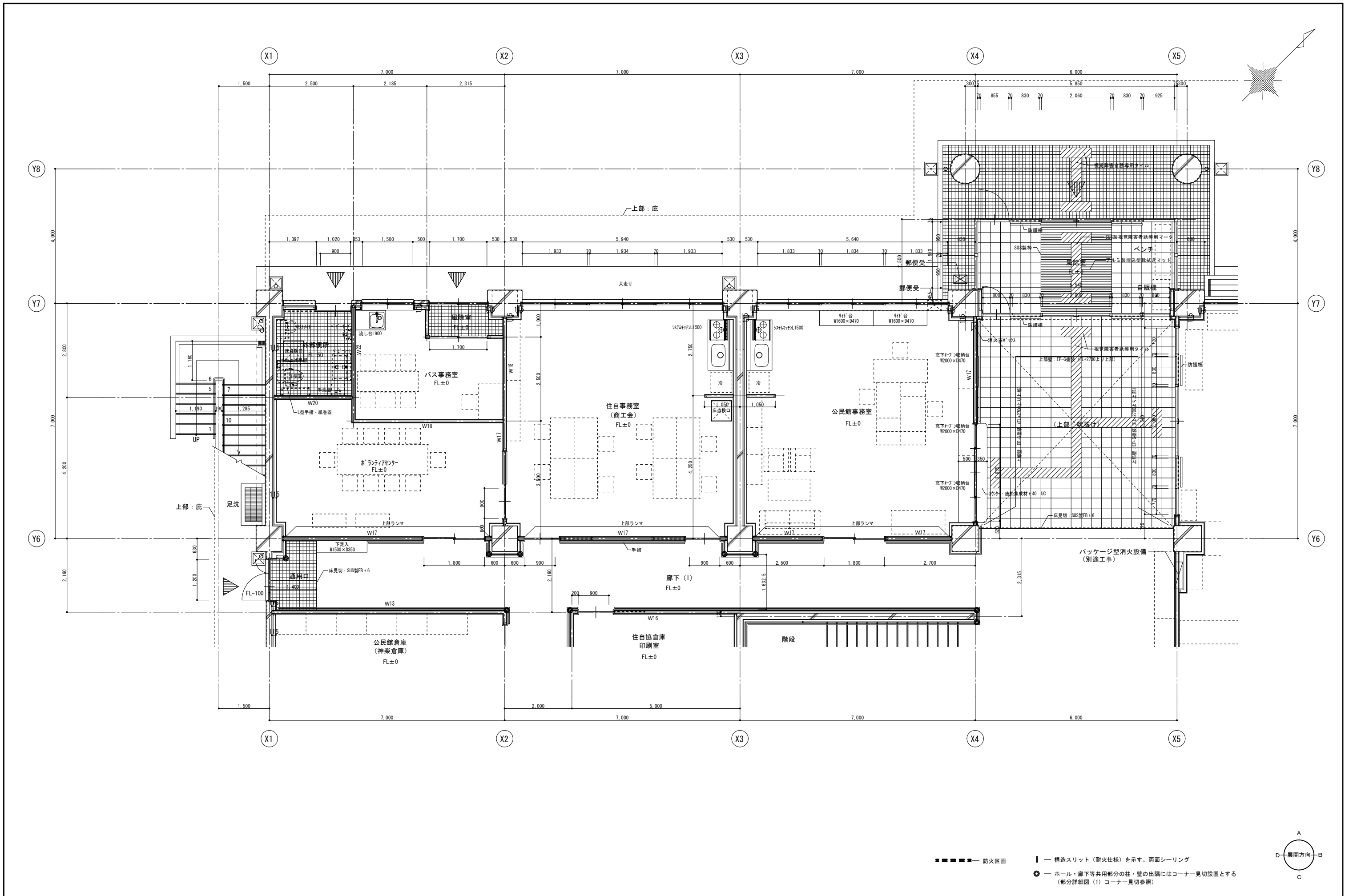




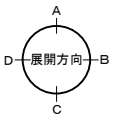


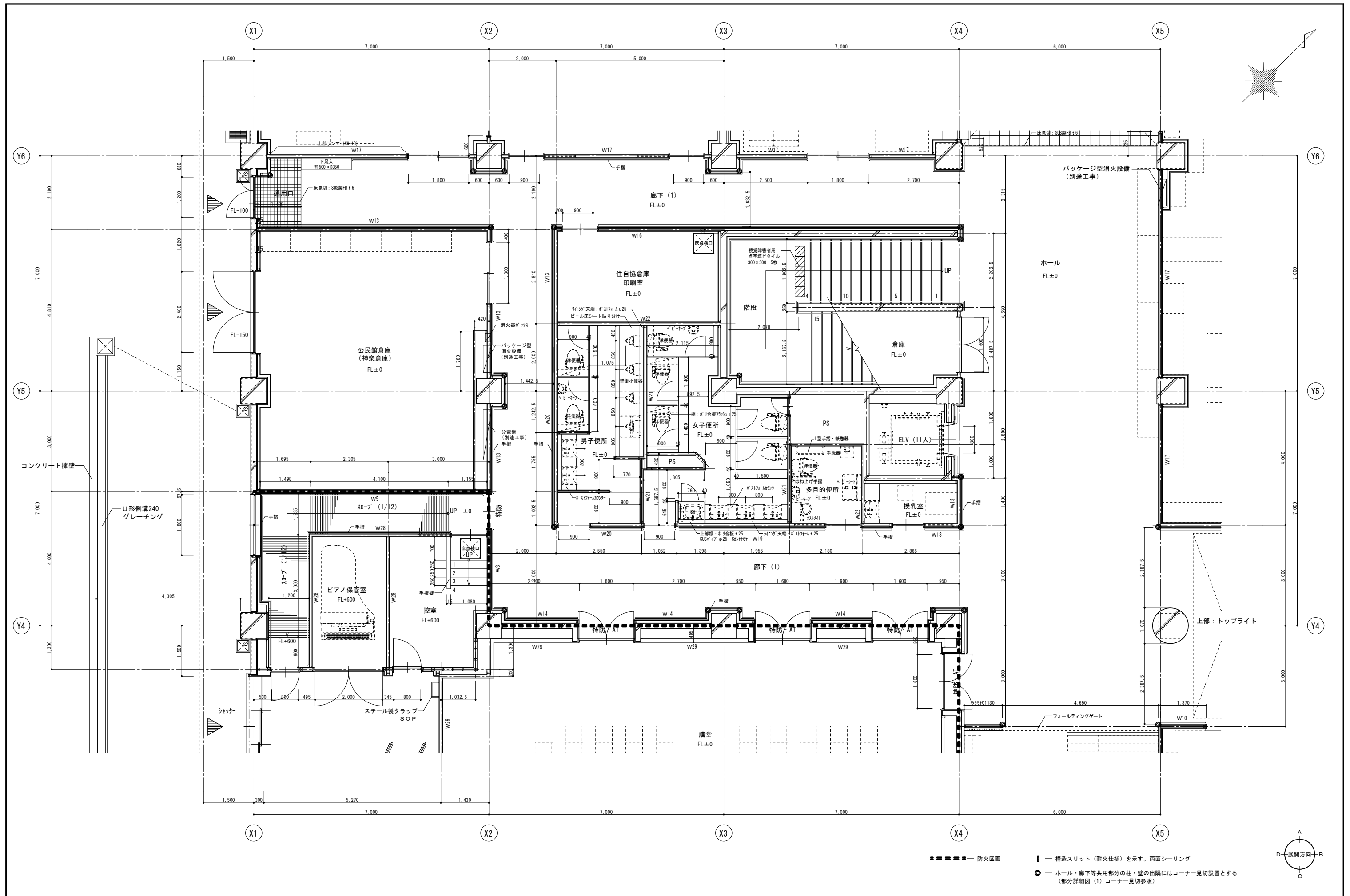


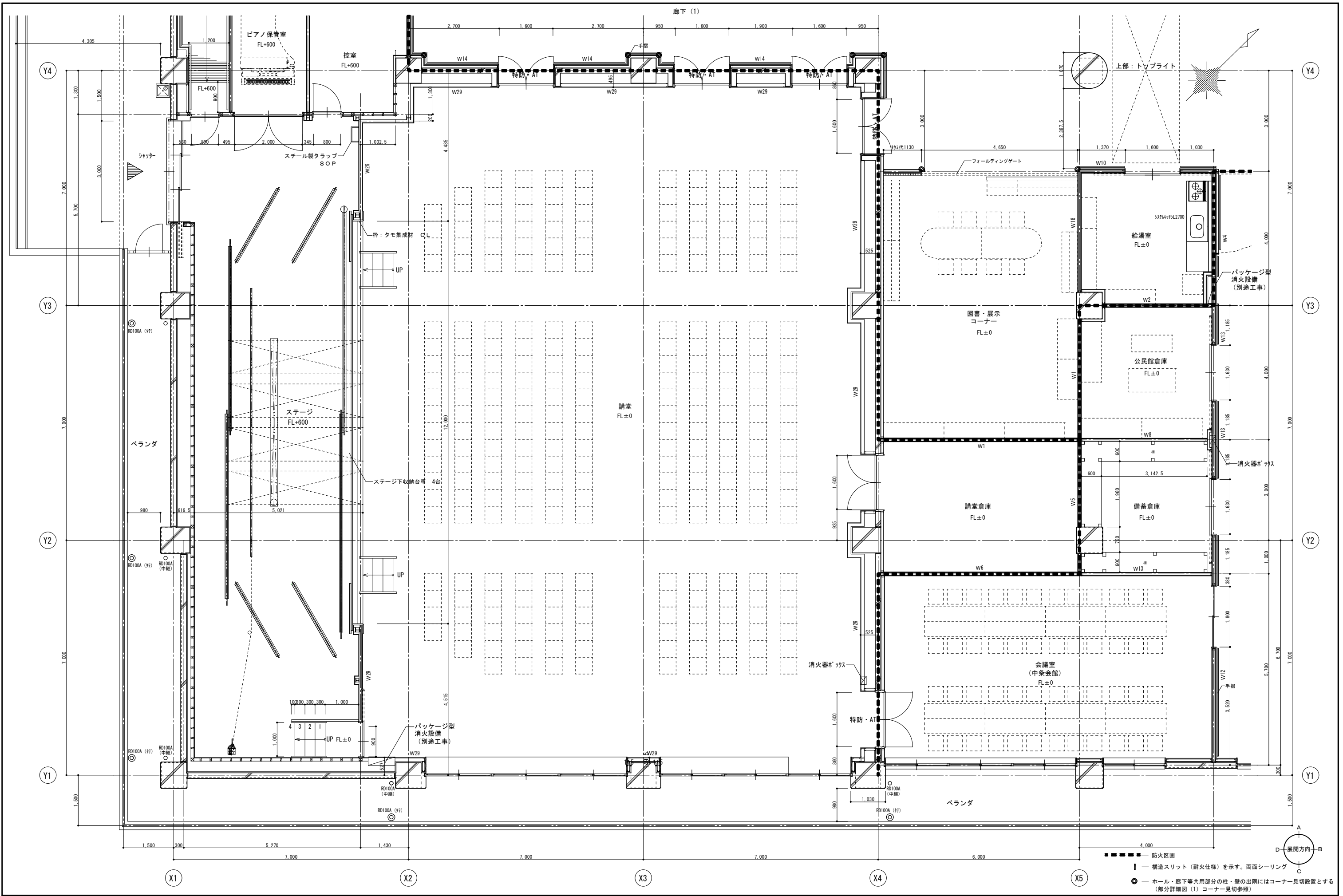




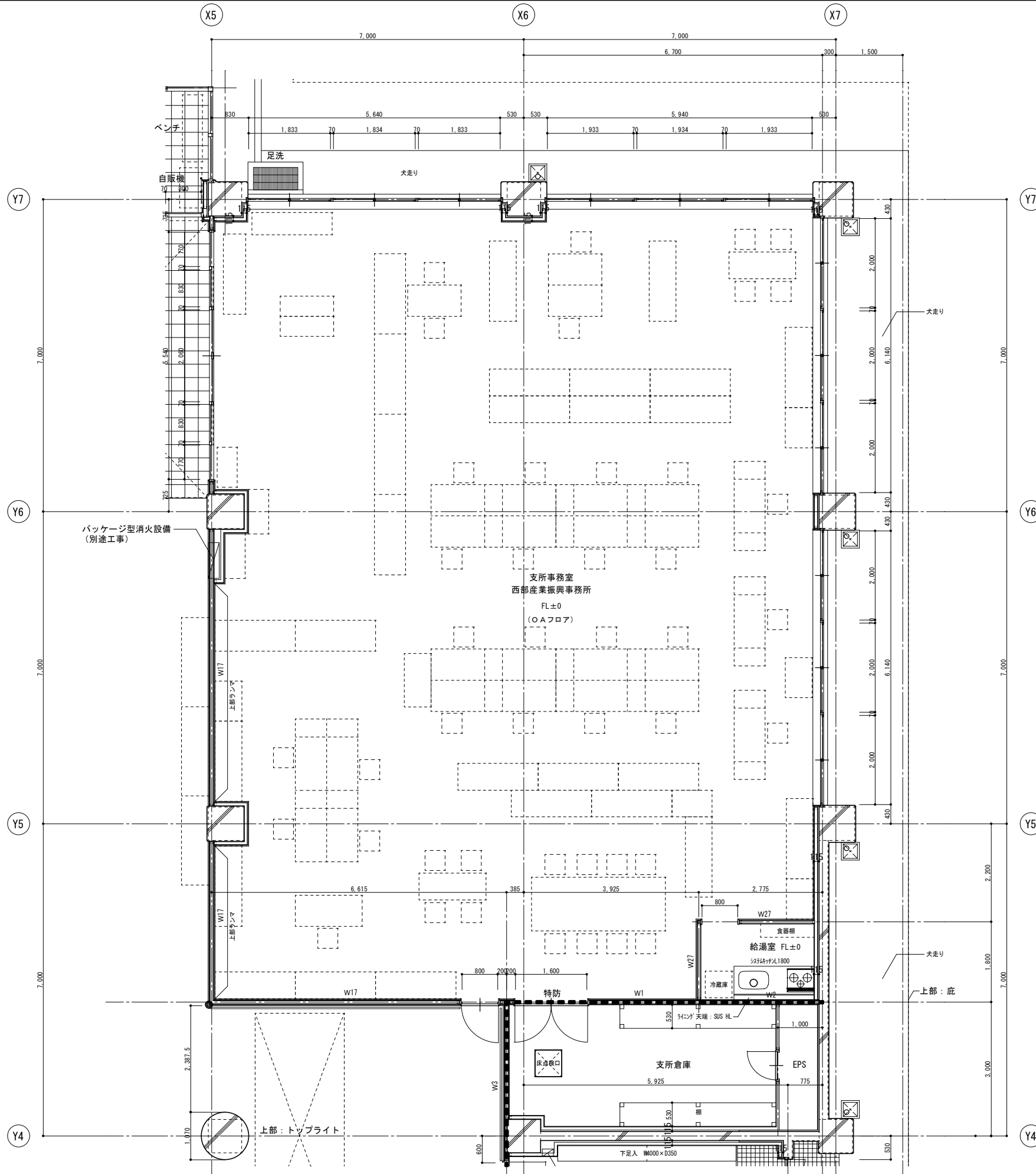
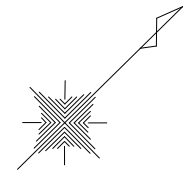
- ■ — 防火区画
- | — 構造スリット (耐火仕様) を示す。両面シーリング
- — ホール・廊下等共用部分の柱・壁の出隅にはコーナー見切設置とする (部分詳細図 (1) コーナー見切参照)



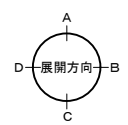


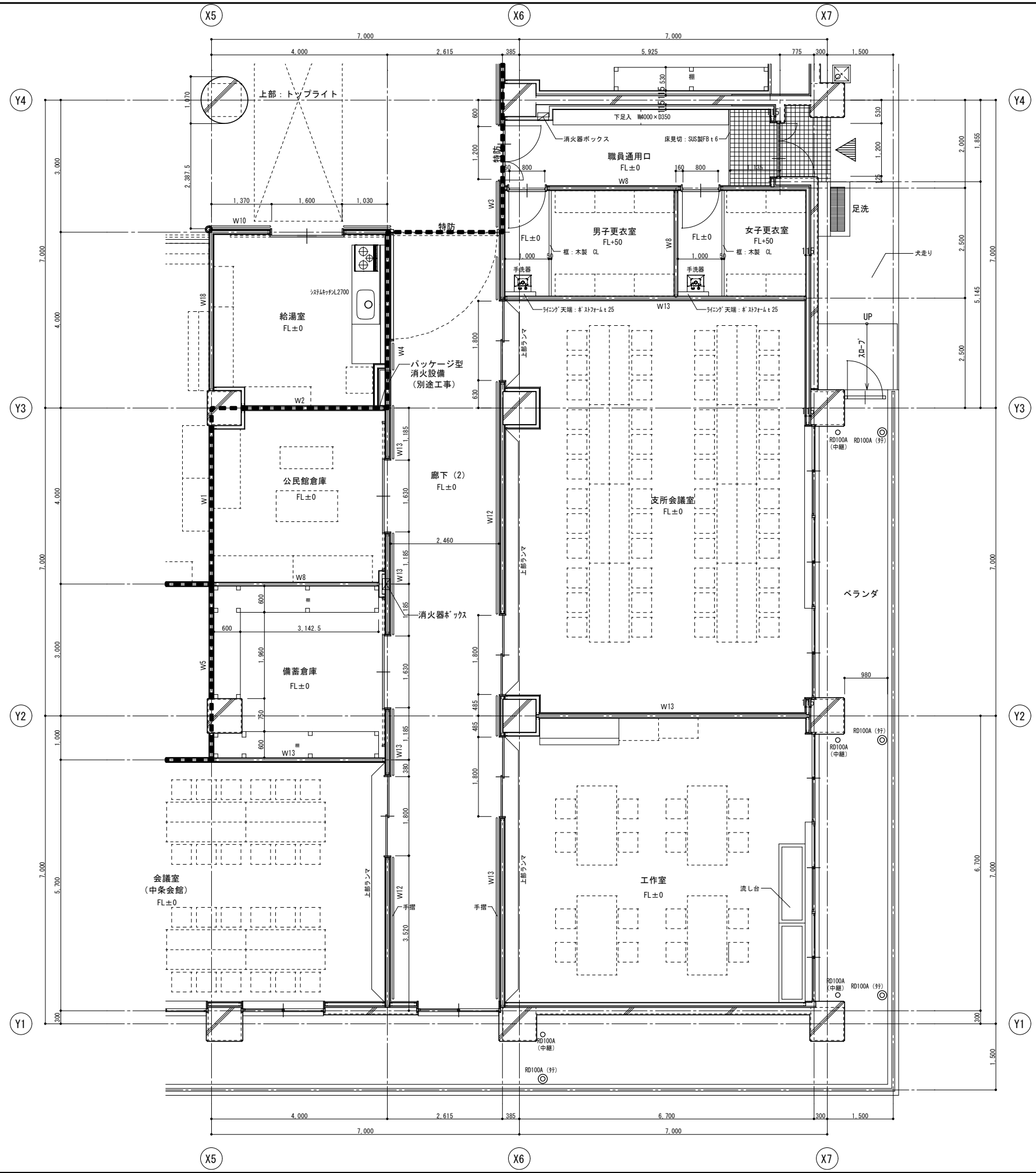
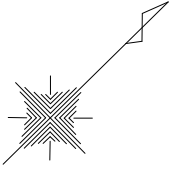


- 防火区画
- 構造スリット (耐火仕様) を示す。両面シーリング
- — ホール・廊下等共用部分の柱・壁の出隅にはコーナー見切設置とする (部分詳細図 (1) コーナー見切参照)



- 構造スリット (耐火仕様) を示す。両面シーリング
- — ホール・廊下等共用部分の柱・壁の出隅にはコーナー見切設置とする (部分詳細図 (1) コーナー見切参照)

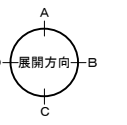




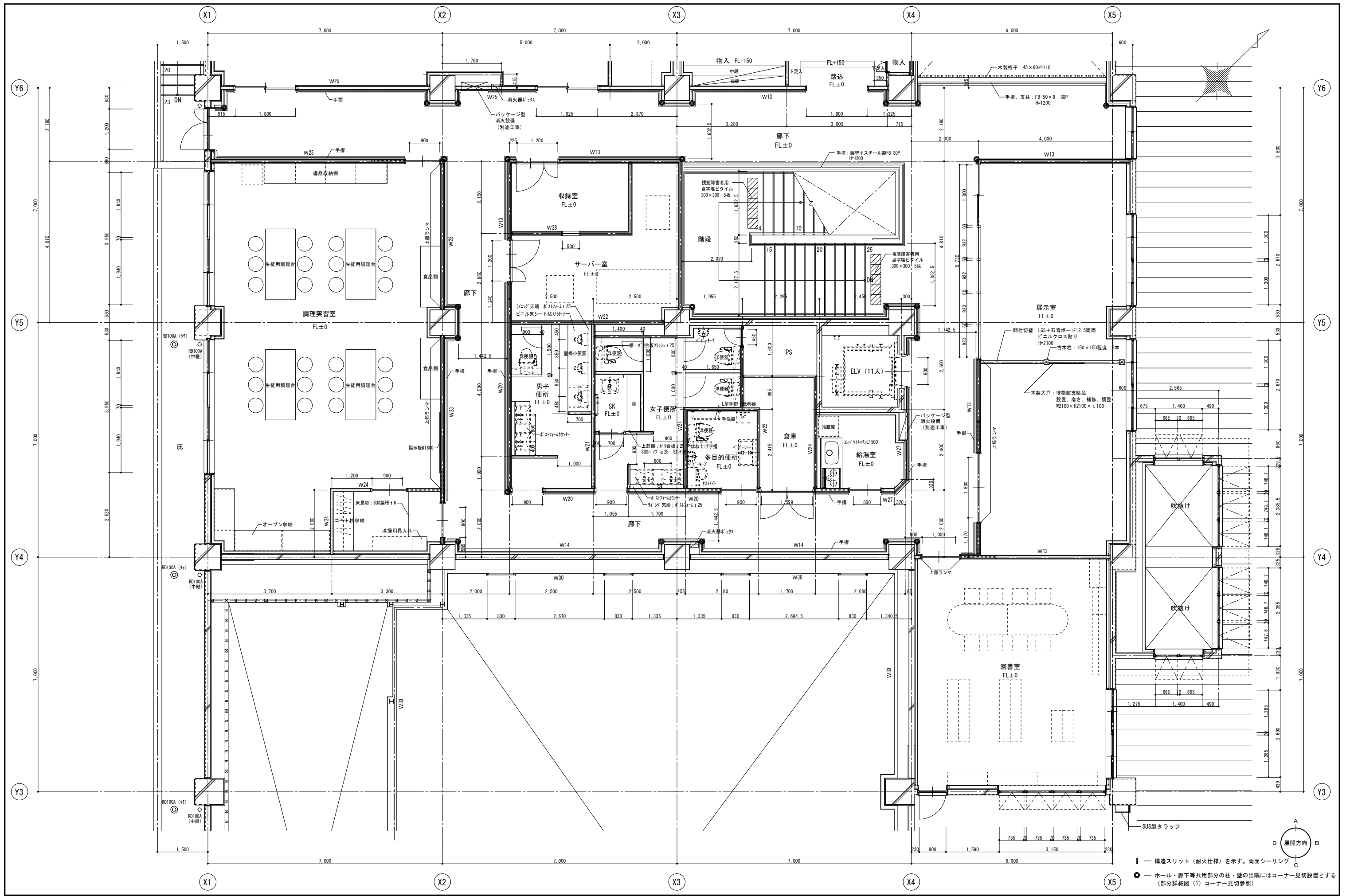
— 防火区画

— 構造スリット (耐火仕様) を示す。両面シーリング

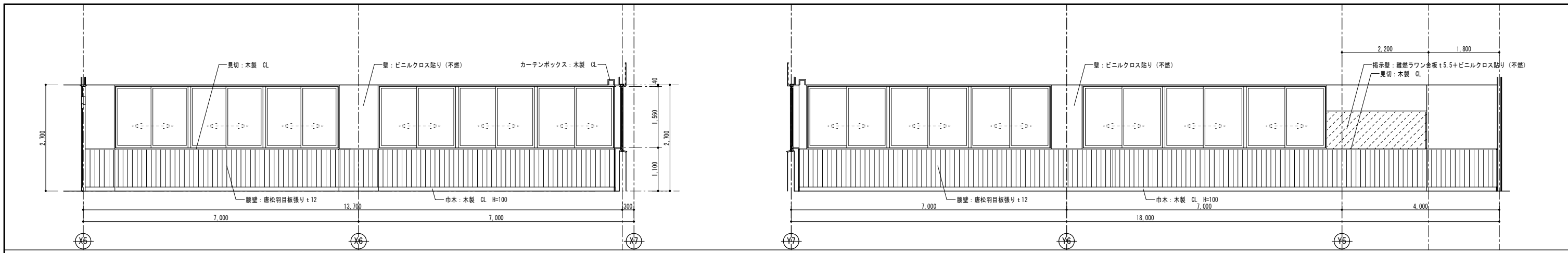
○ — ホール・廊下等共用部分の柱・壁の出隅にはコーナー見切設置とする (部分詳細図 (1) コーナー見切参照)



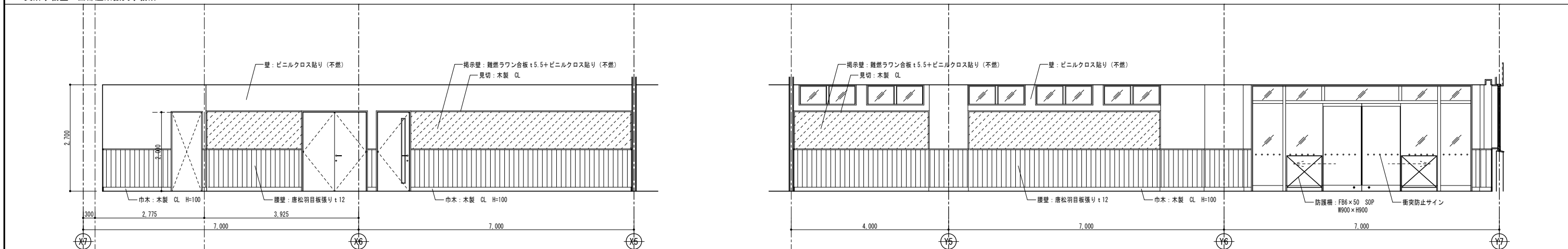




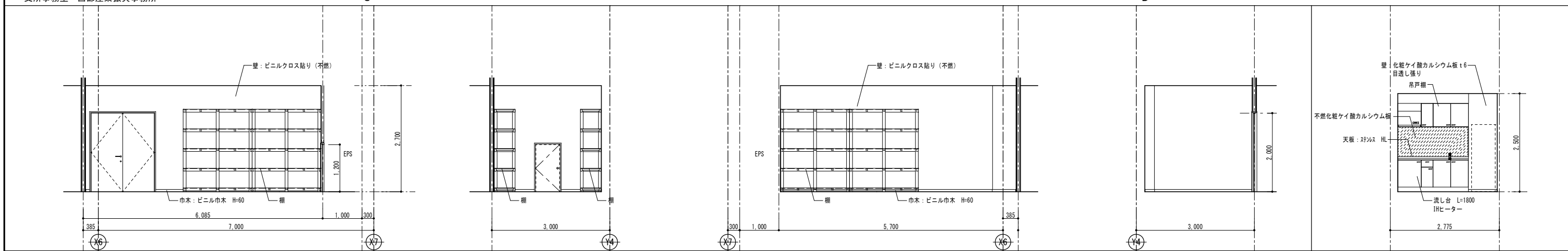
- ┆ 構造スリット (耐火仕様) を示す。両面シーリング
- ホール・廊下等共用部分の柱・壁の出隅にはコーナー見切設置とする (部分詳細図 (1) コーナー見切参照)



支所事務室・西部産業振興事務所

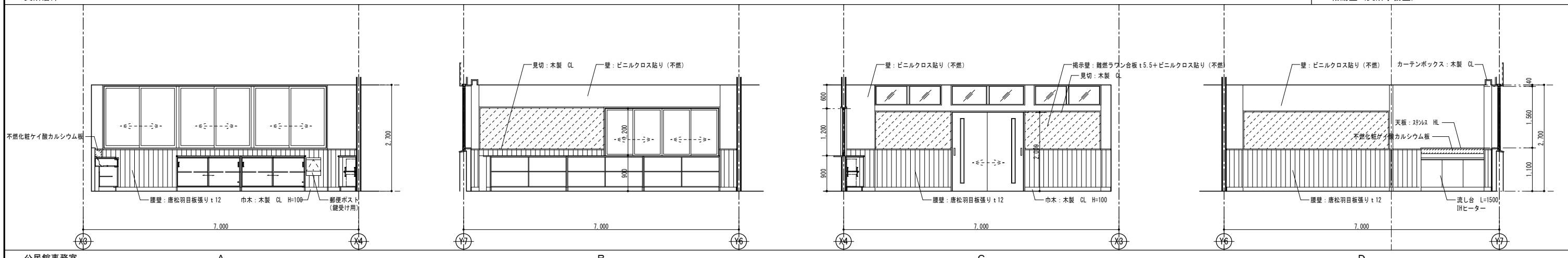


支所事務室・西部産業振興事務所



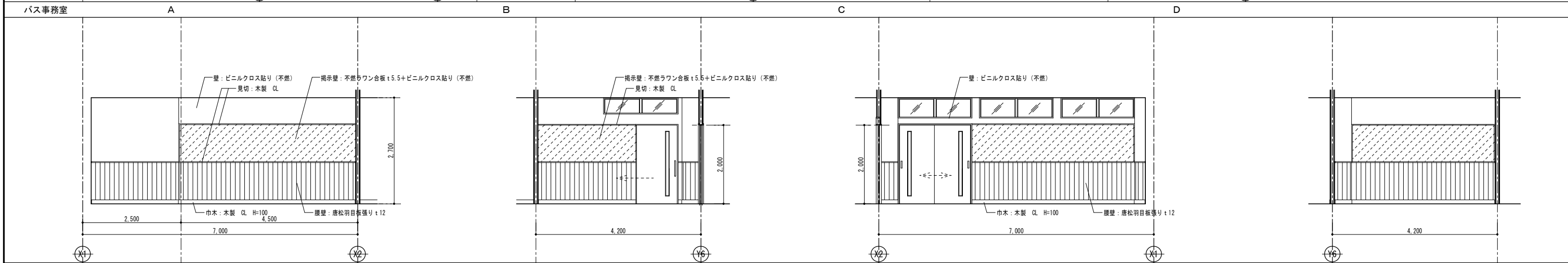
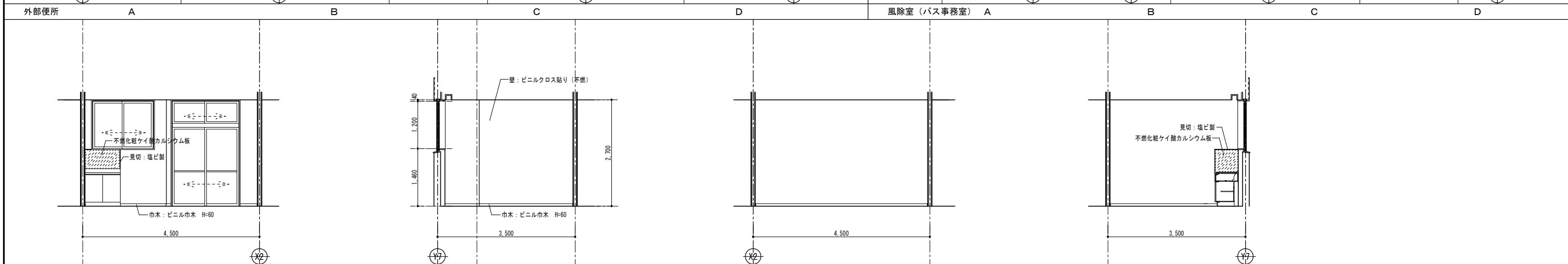
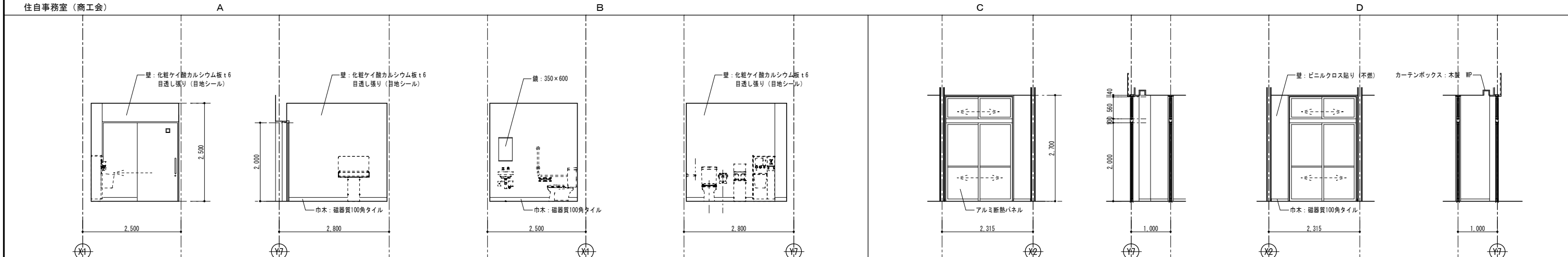
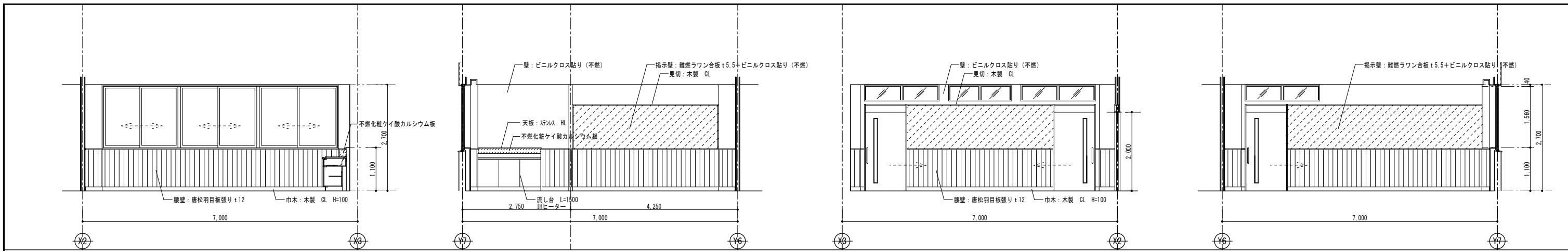
支所倉庫

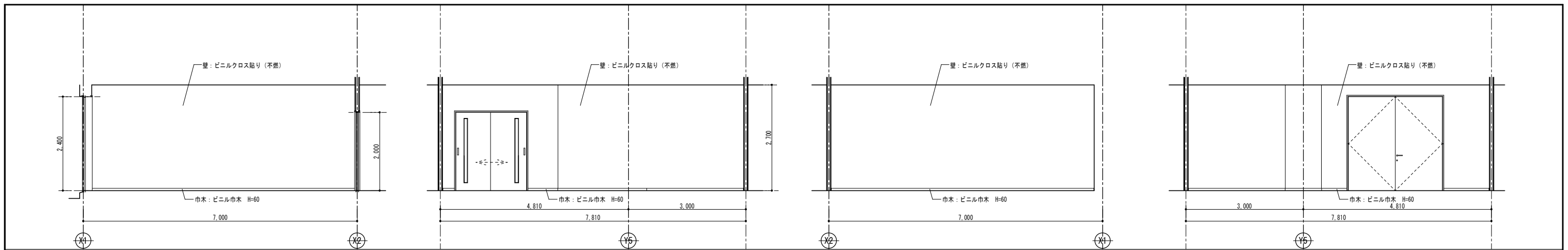
給湯室(支所事務室)



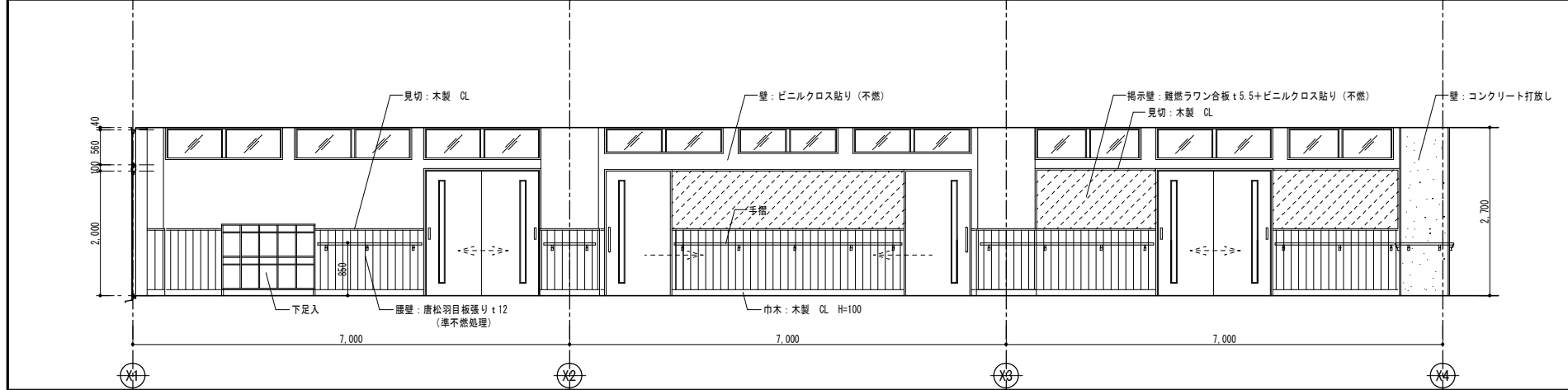
公民館事務室





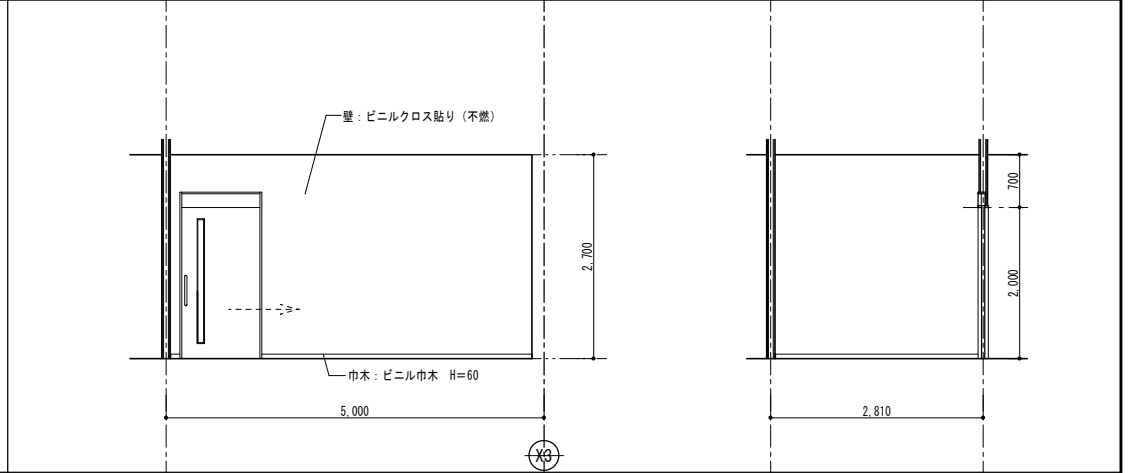


公民館倉庫 (神楽倉庫)



廊下 (1)

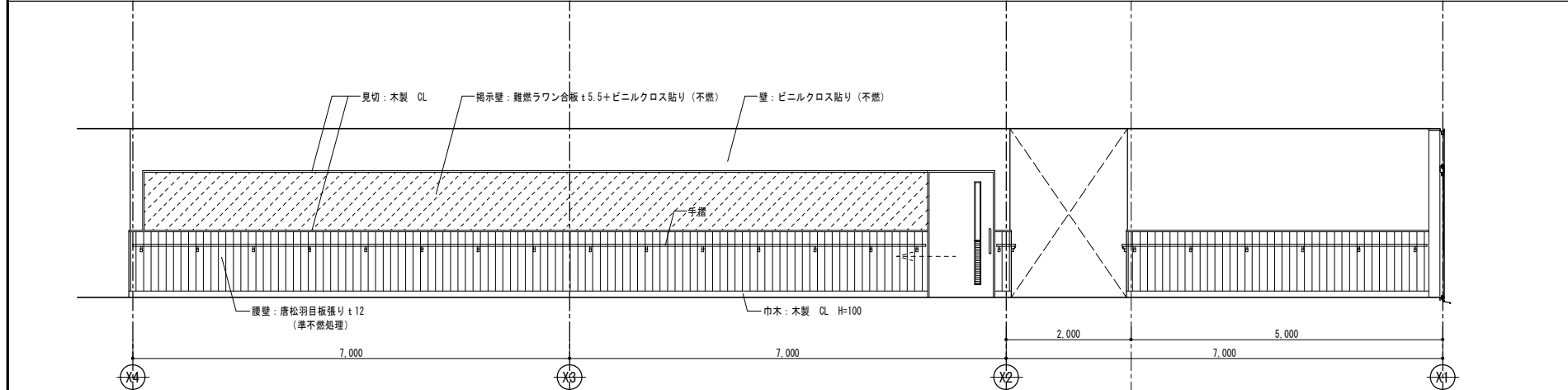
A



住自協倉庫・印刷室

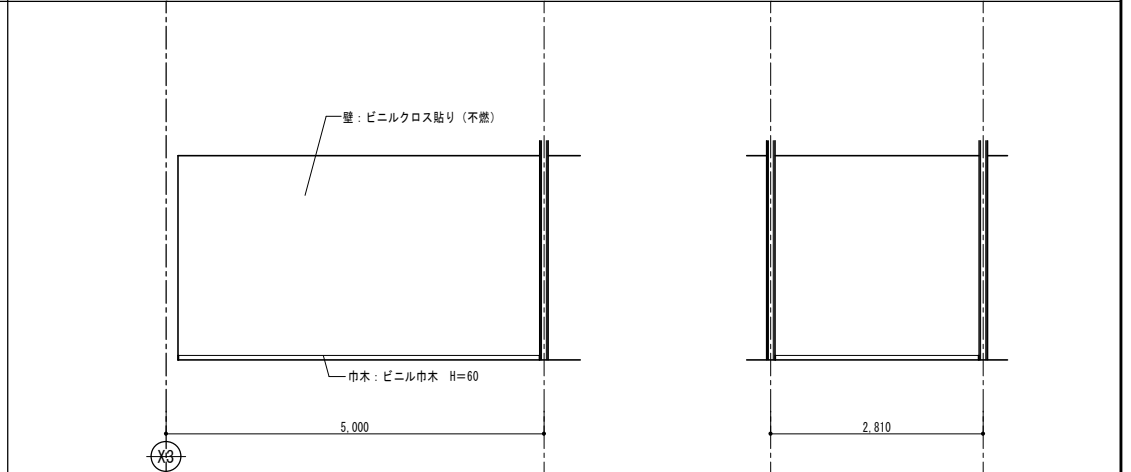
A

B



廊下 (1)

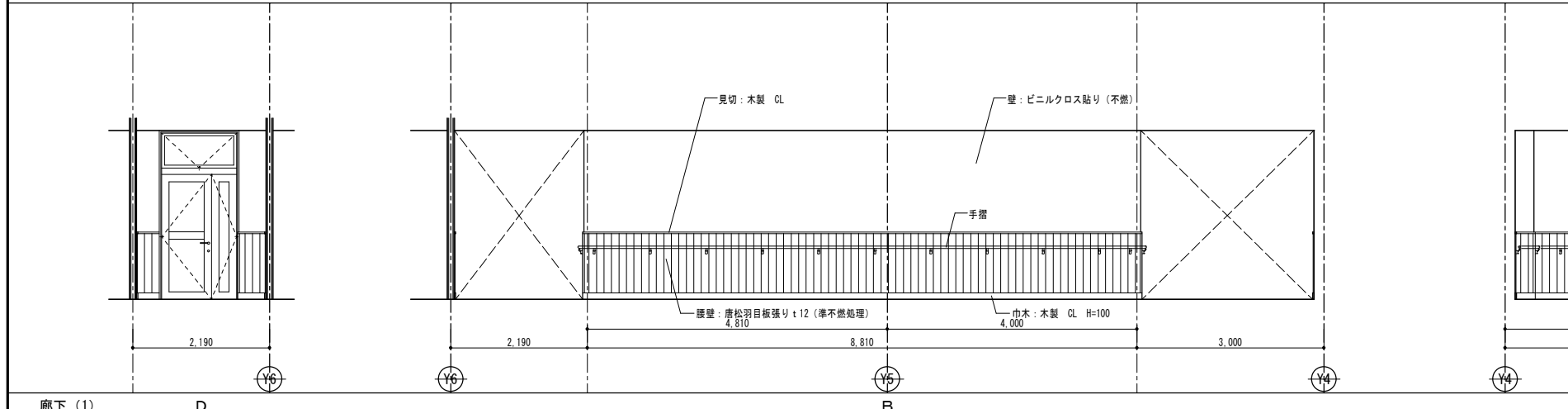
C



住自協倉庫・印刷室

C

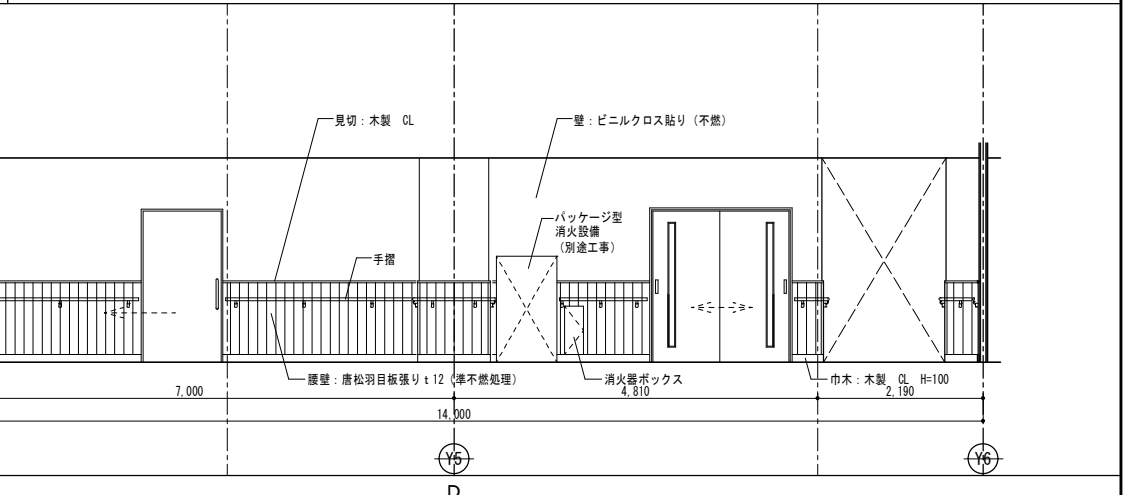
D



廊下 (1)

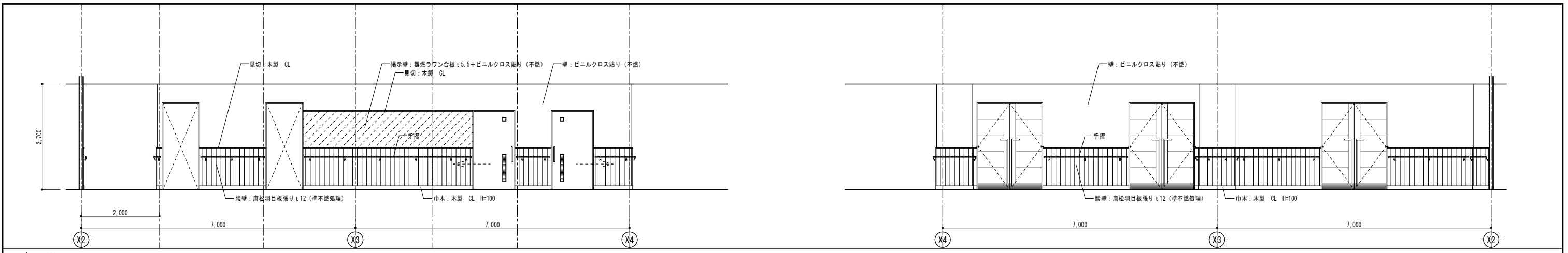
D

B

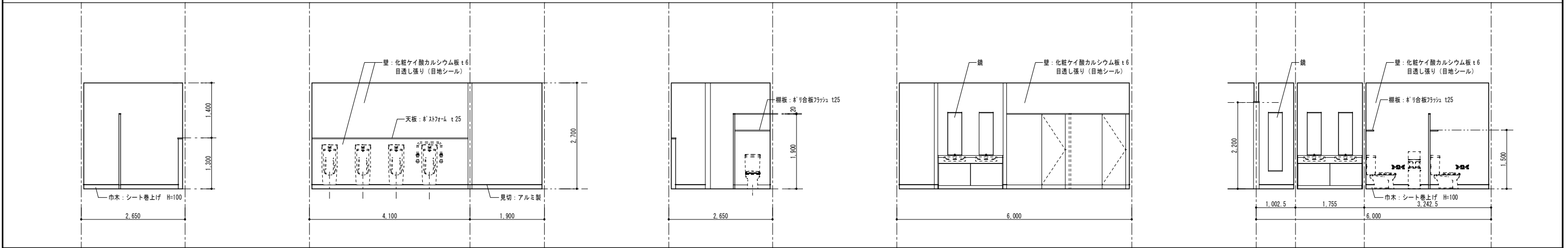


住自協倉庫・印刷室

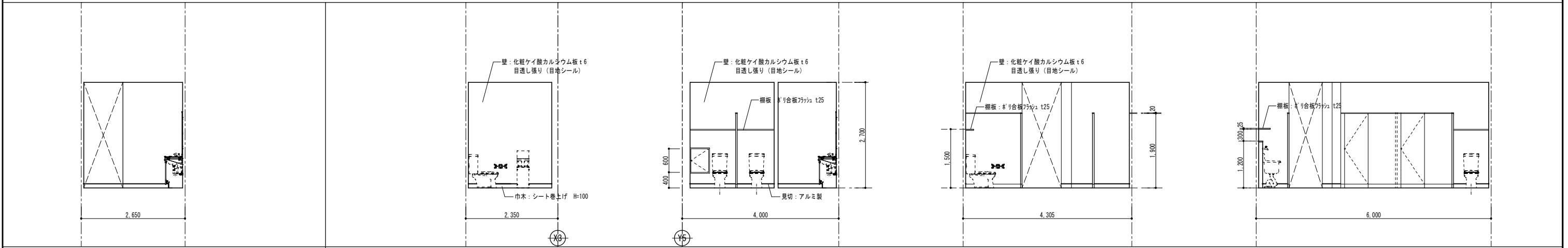
D



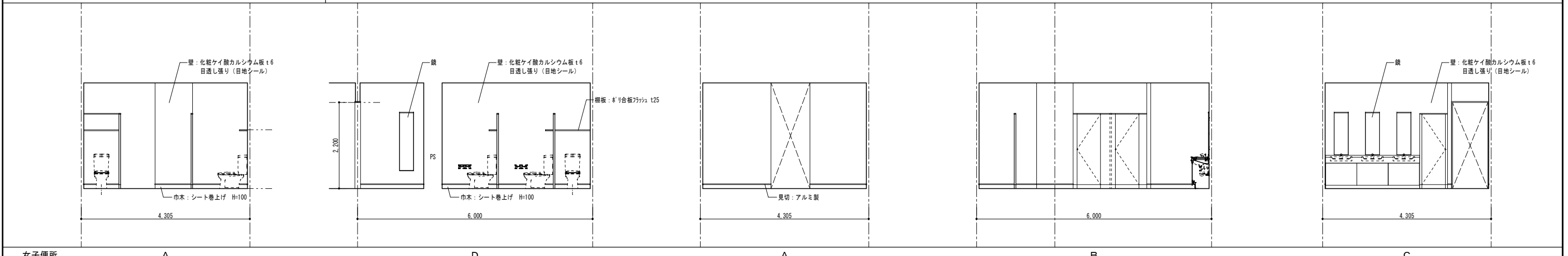
廊下 (1)



男子便所

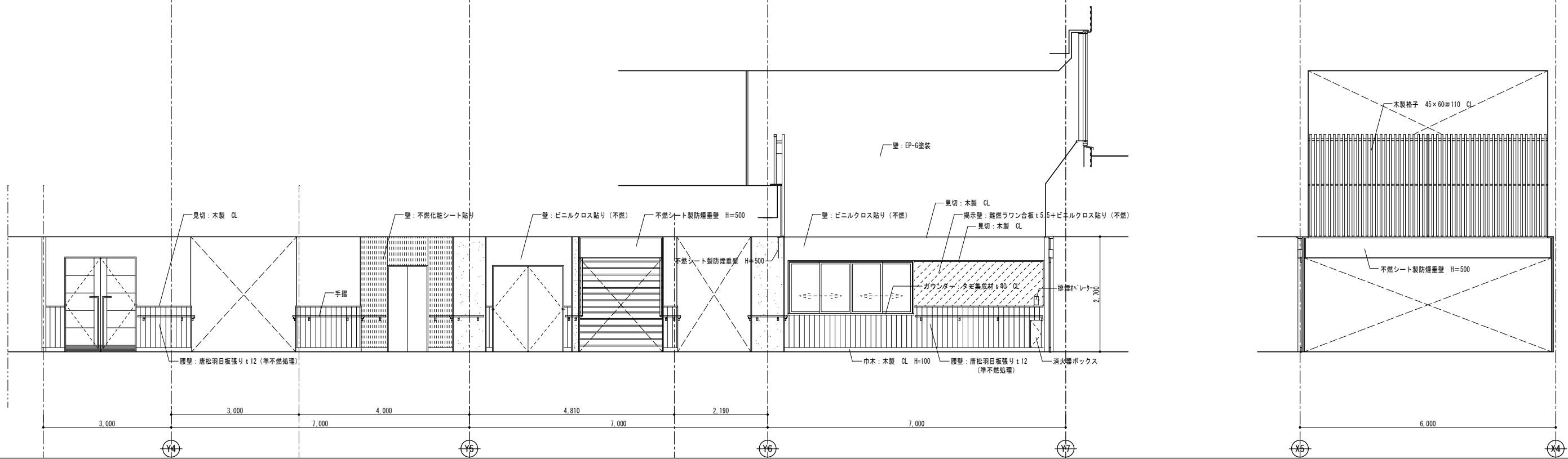


女子便所

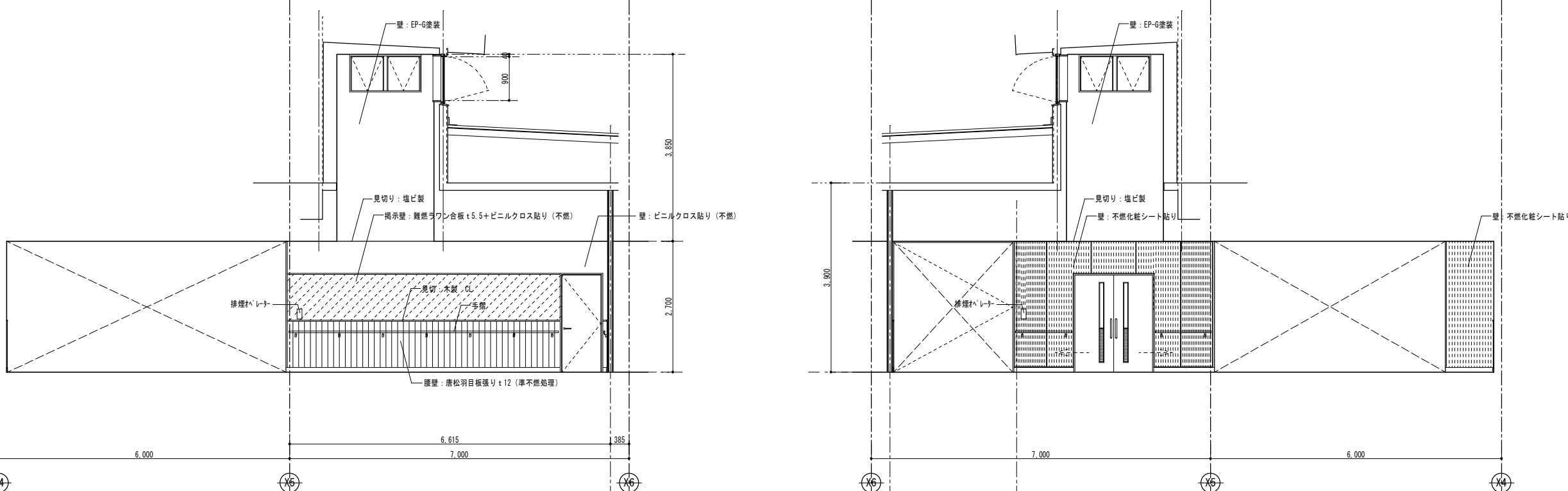


女子便所

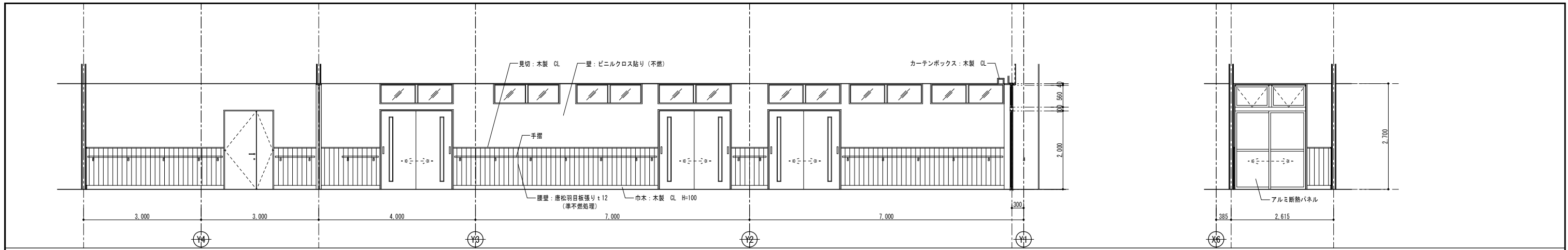




ホール D C



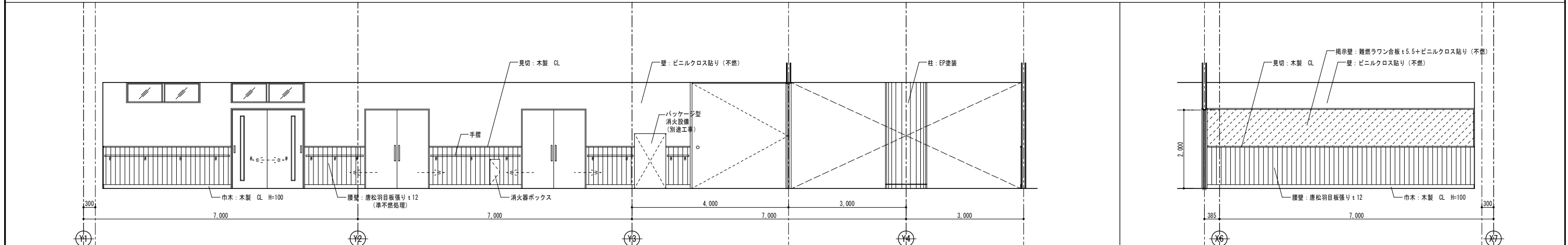
ホール A C



廊下 (2)

B

C

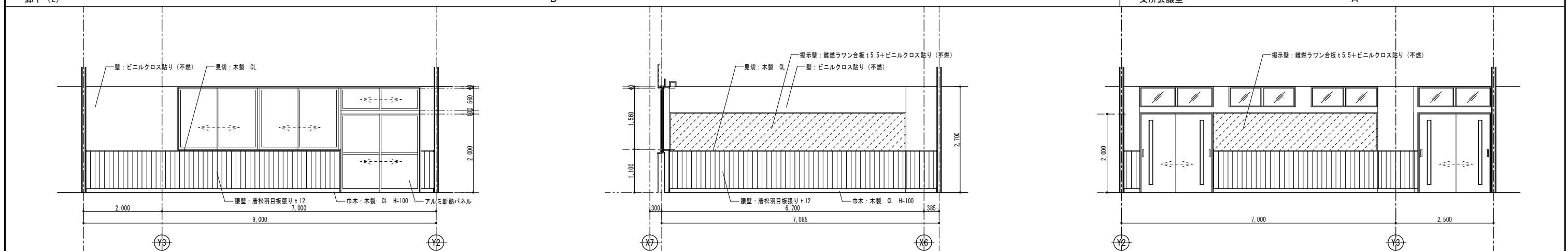


廊下 (2)

D

支所会議室

A

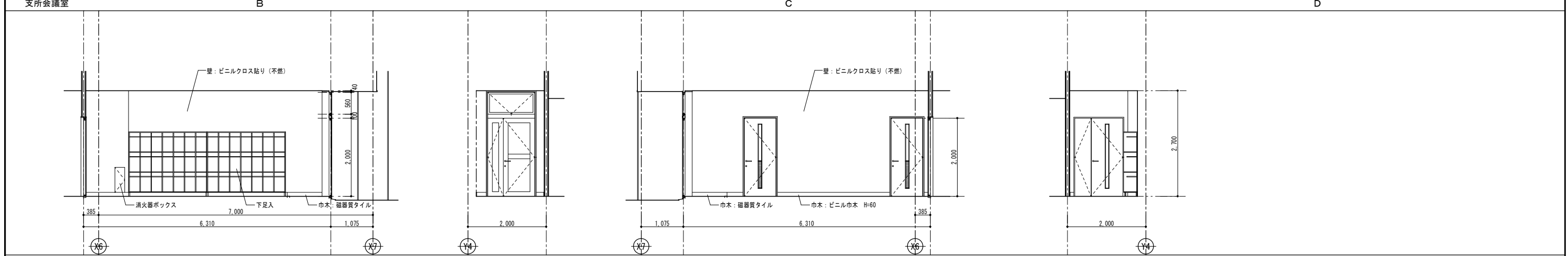


支所会議室

B

C

D



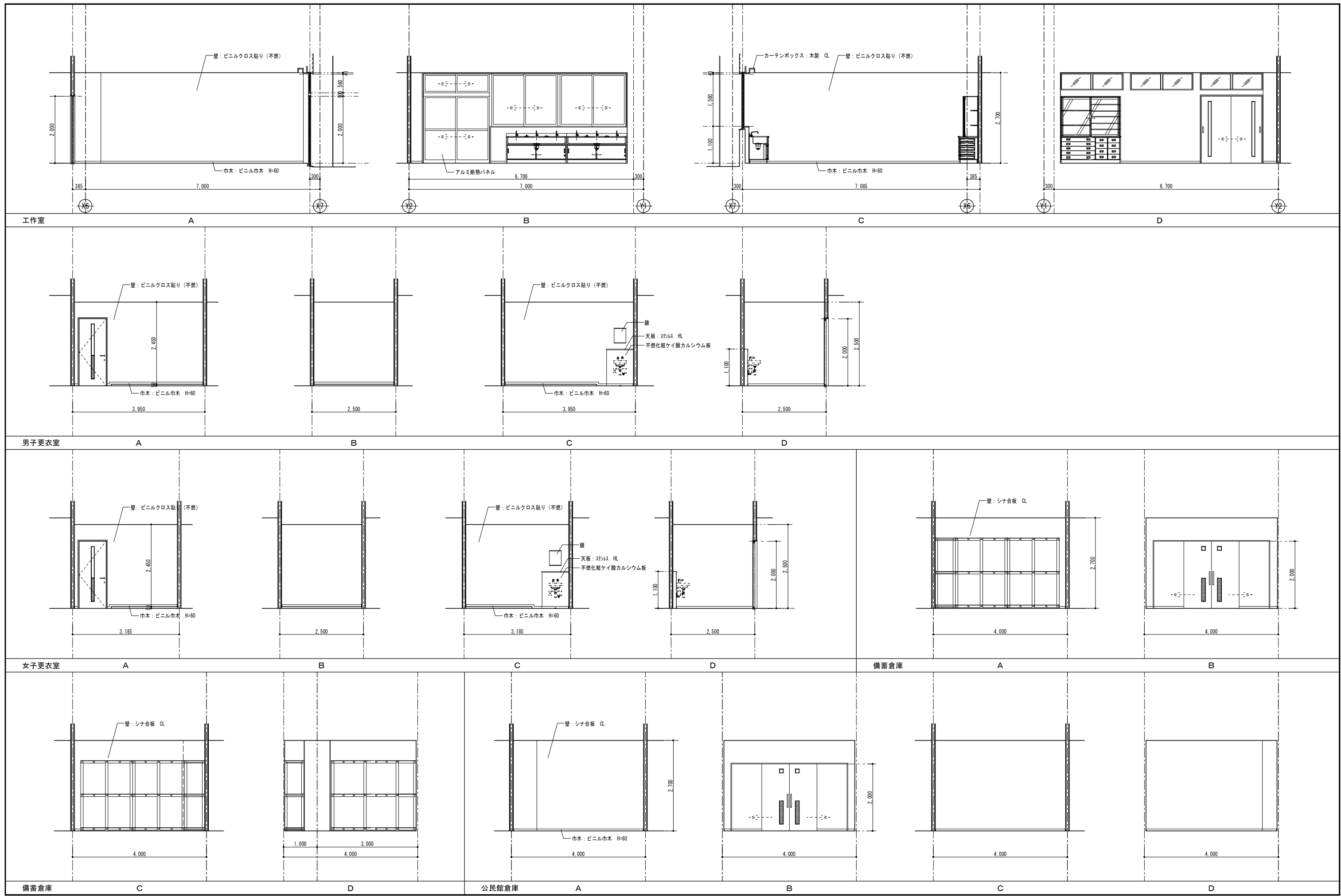
職員通用口

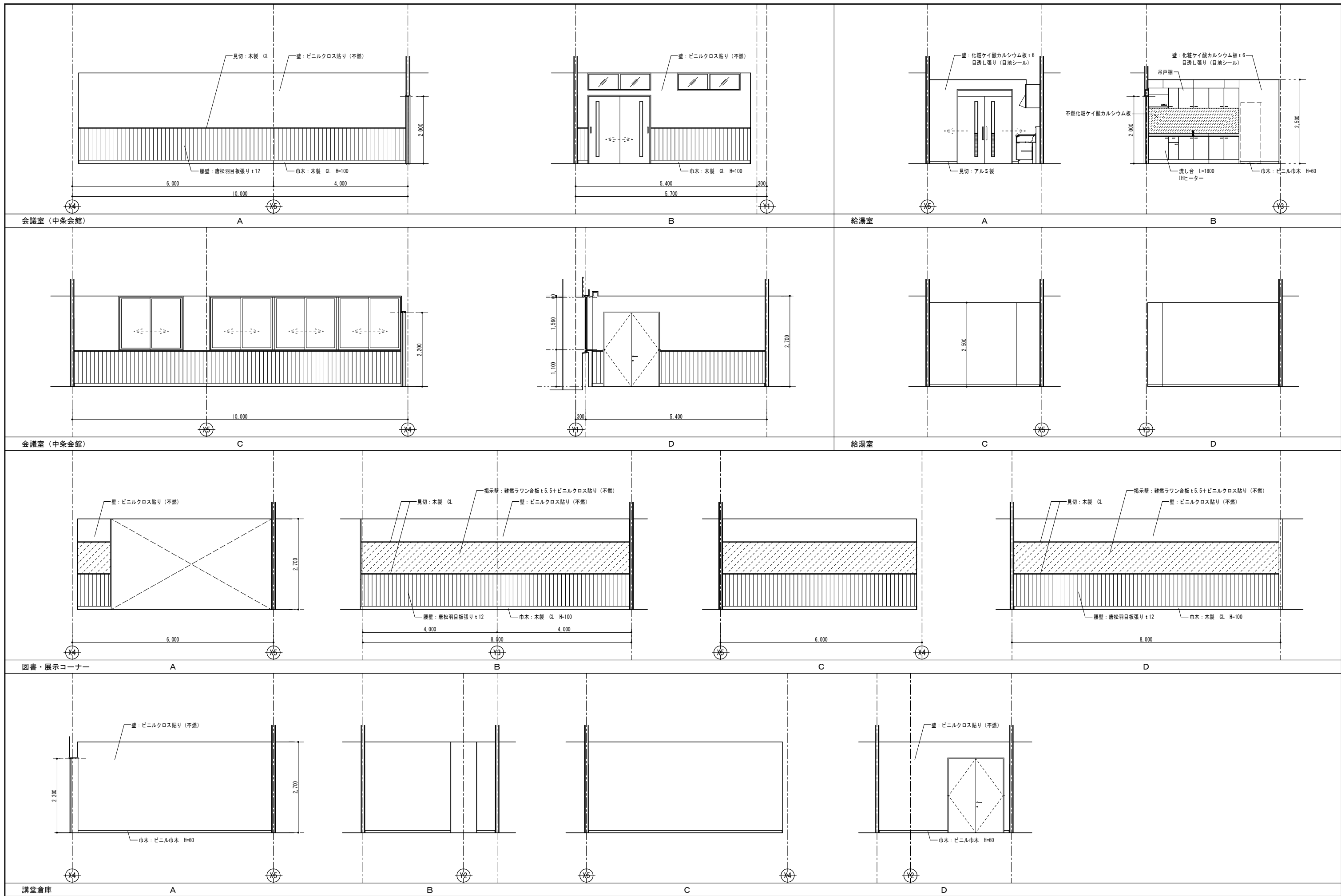
A

B

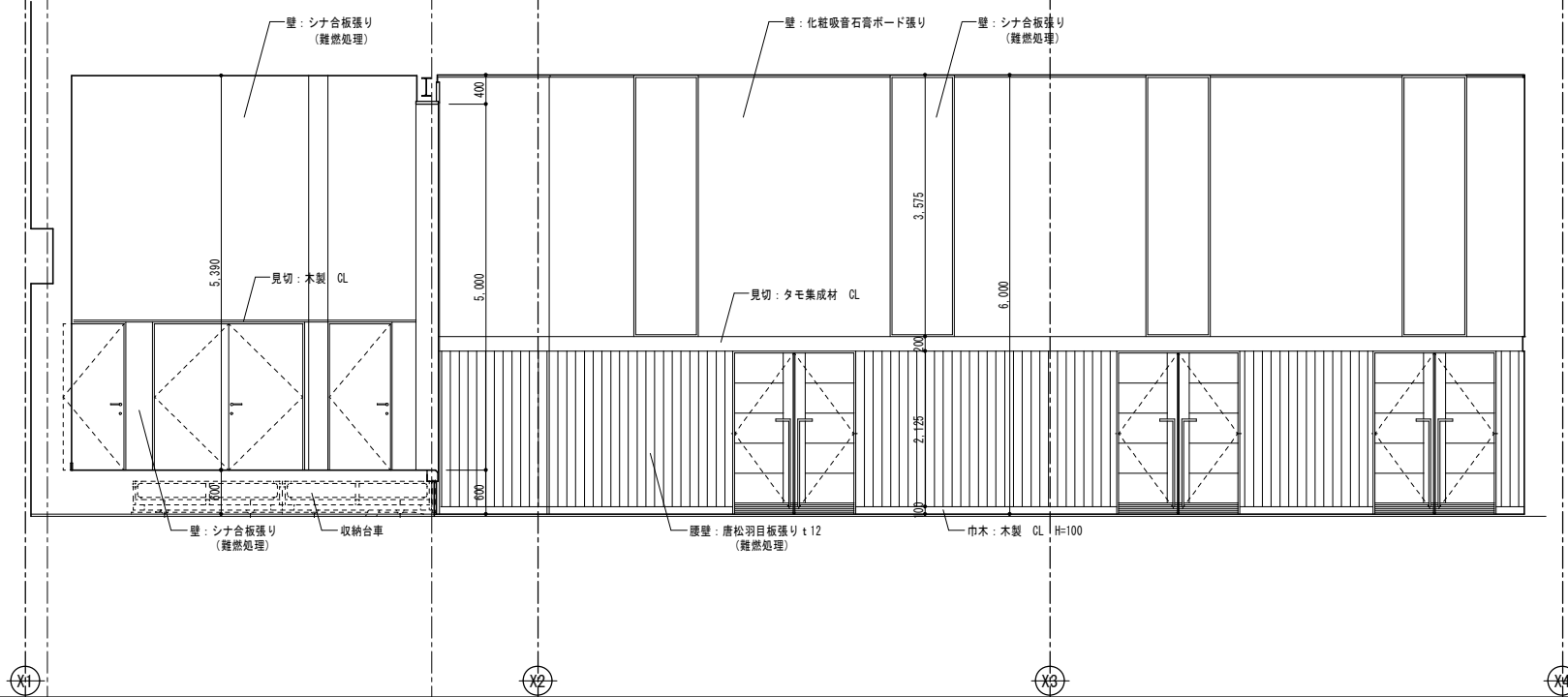
C

D



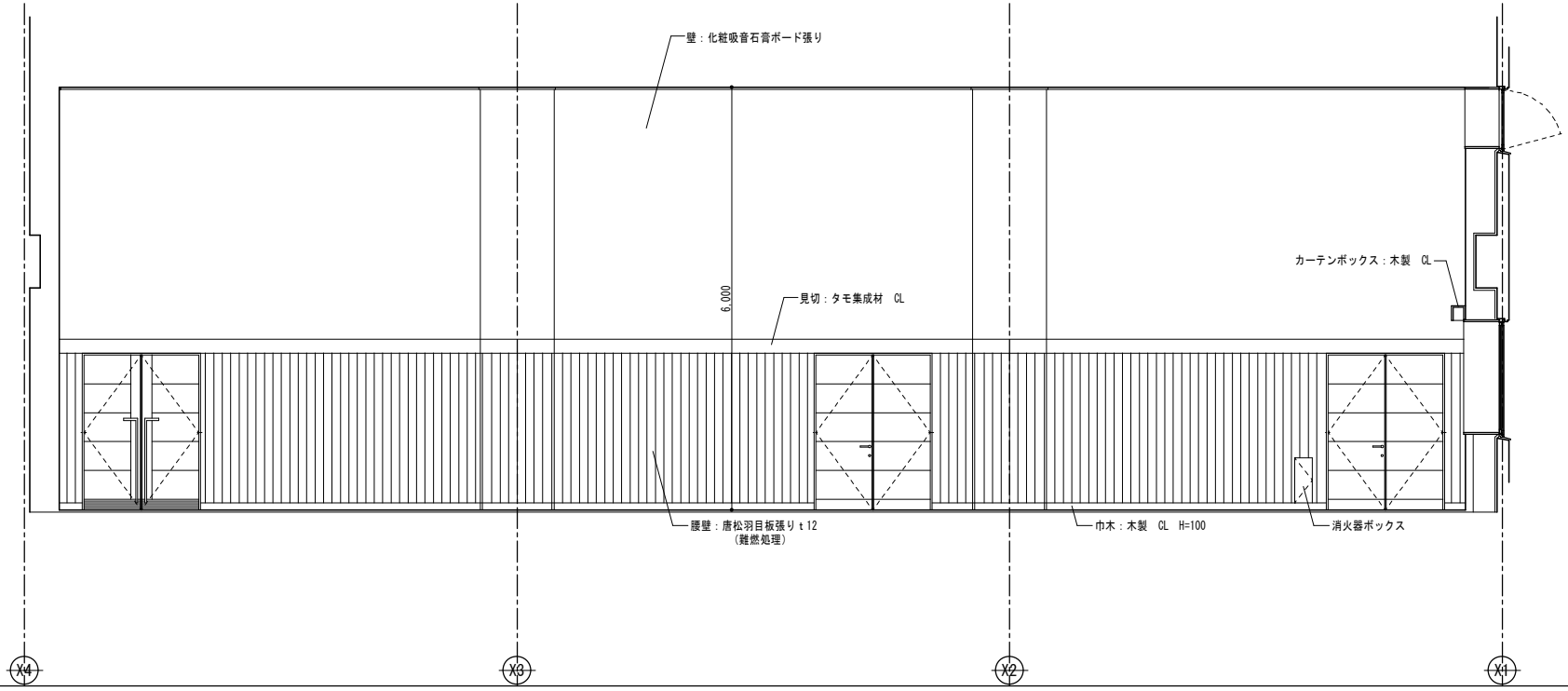






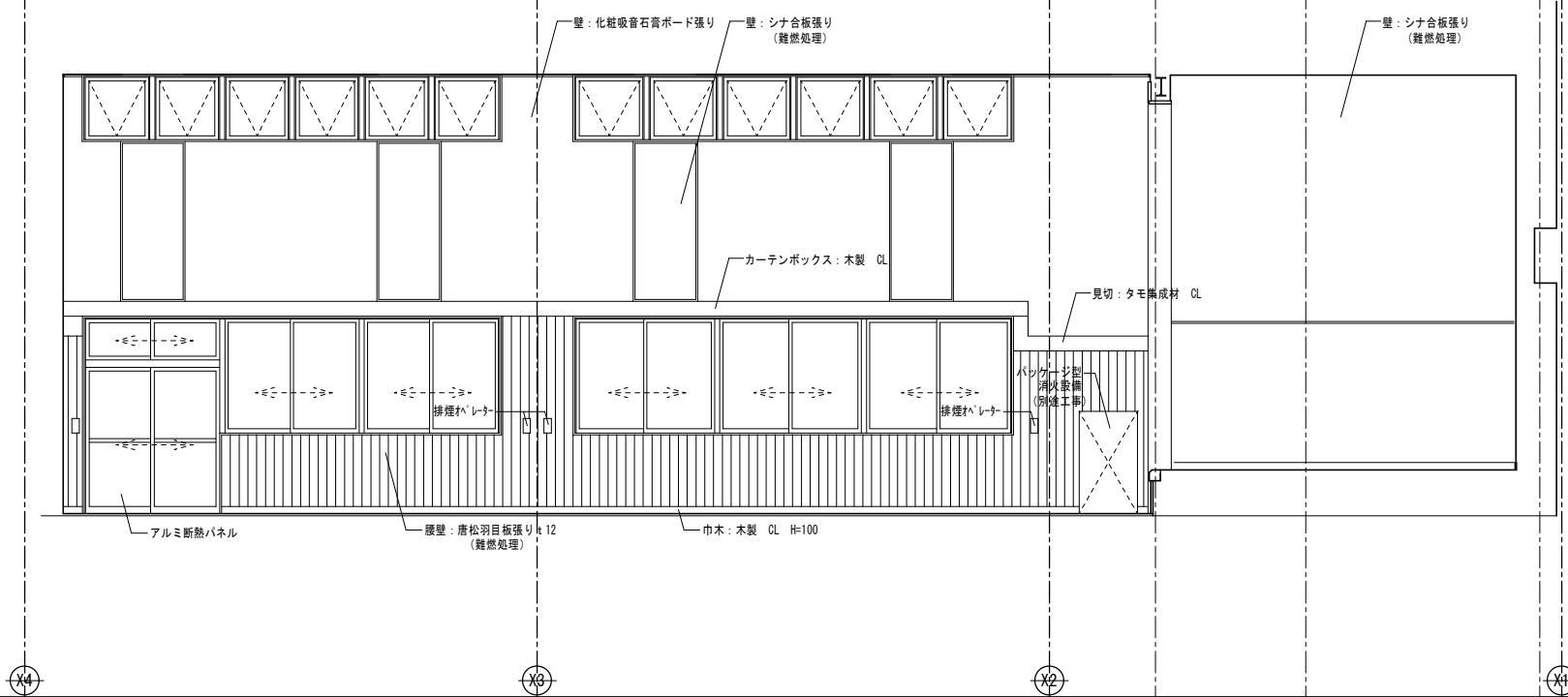
講堂

A



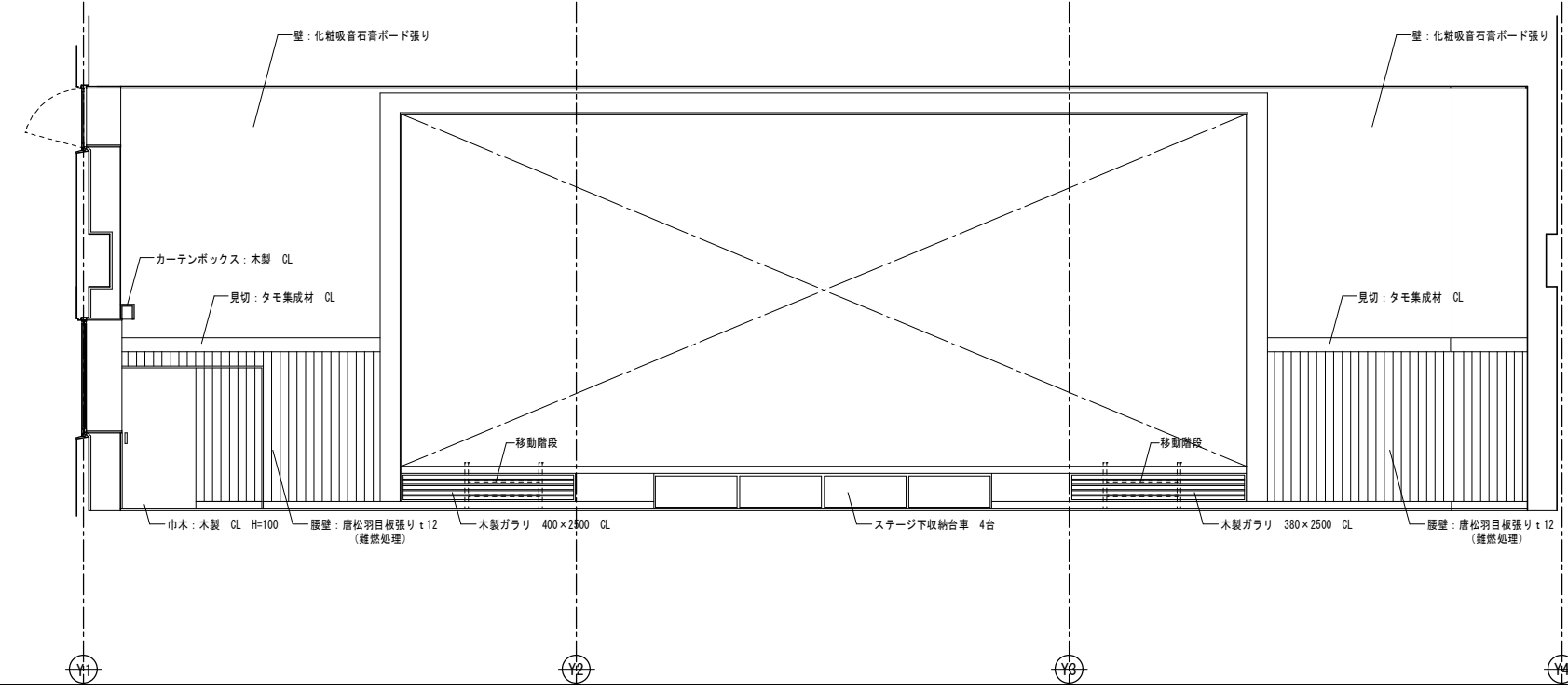
講堂

B



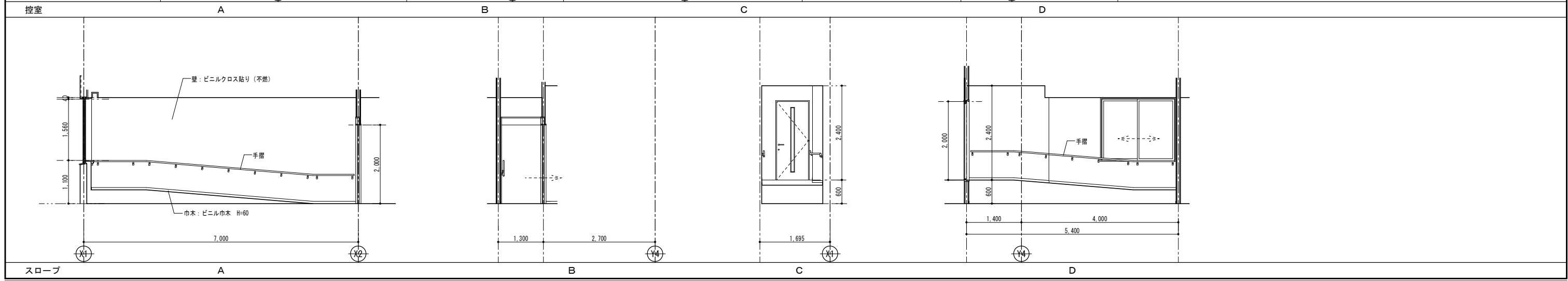
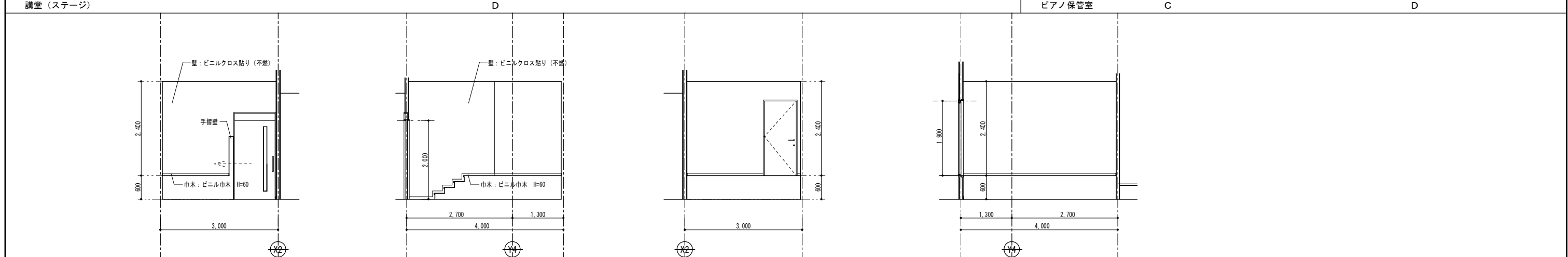
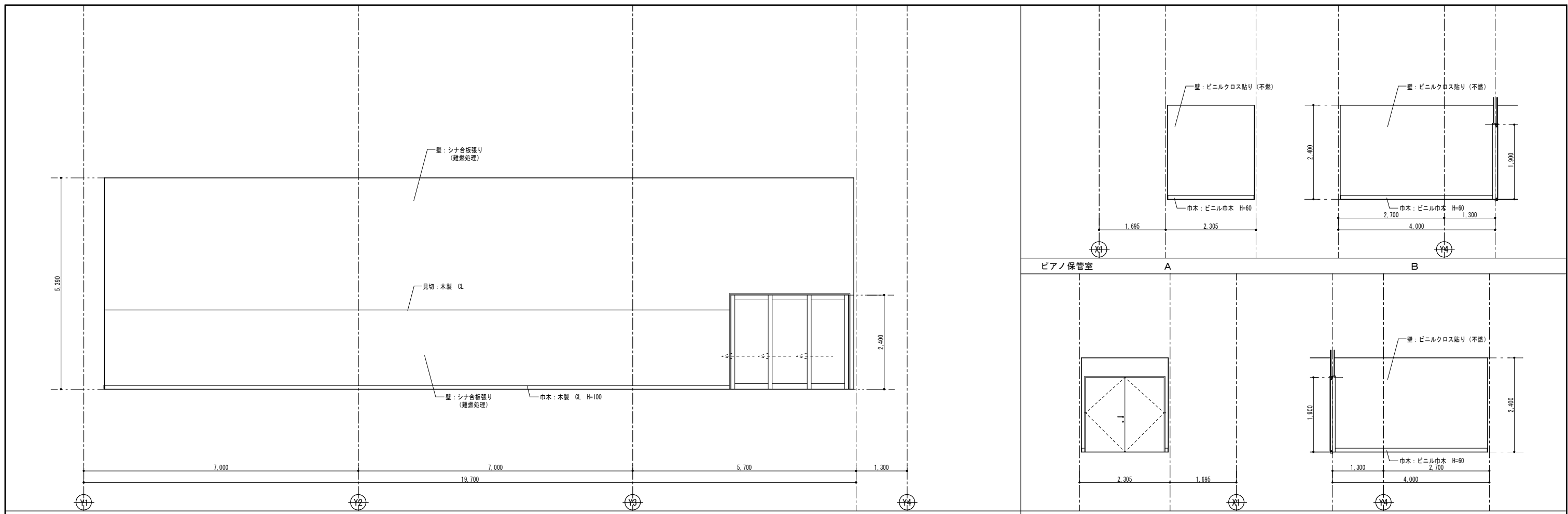
講堂

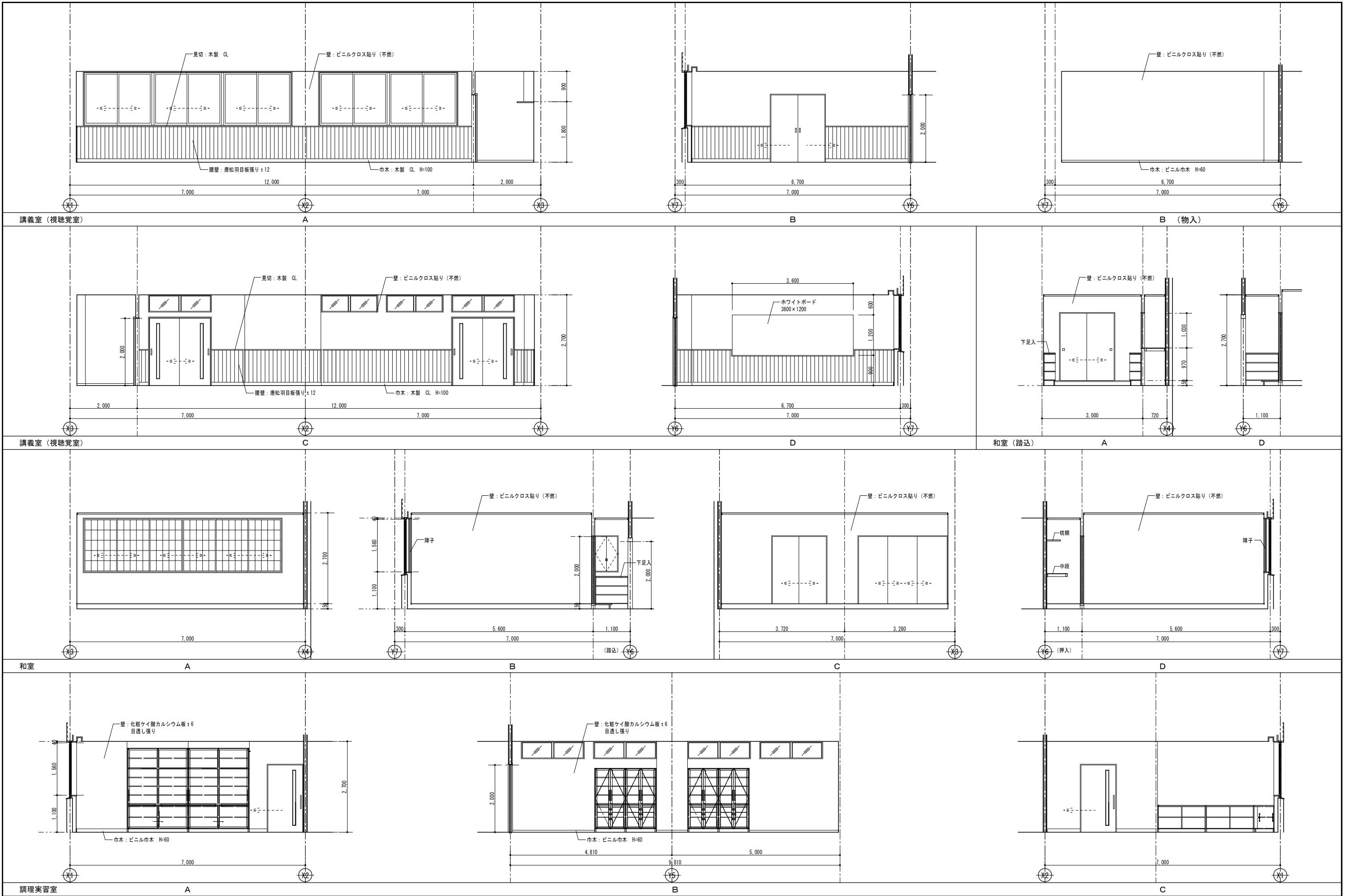
C

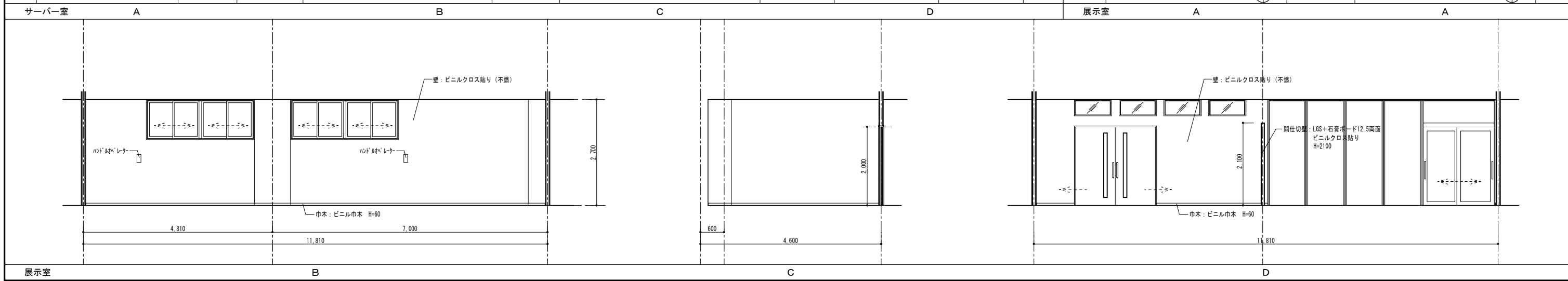
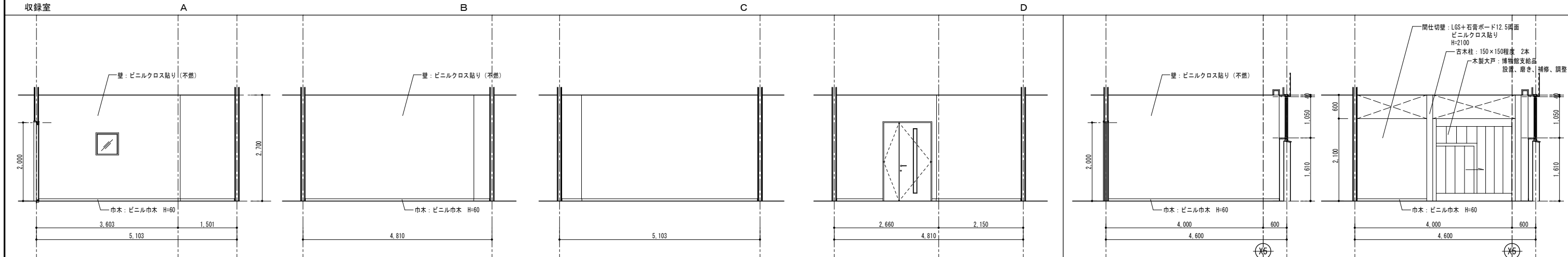
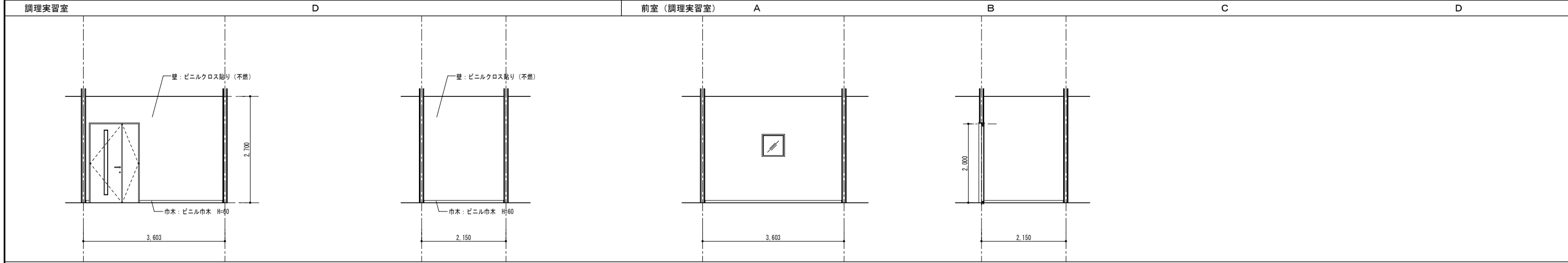
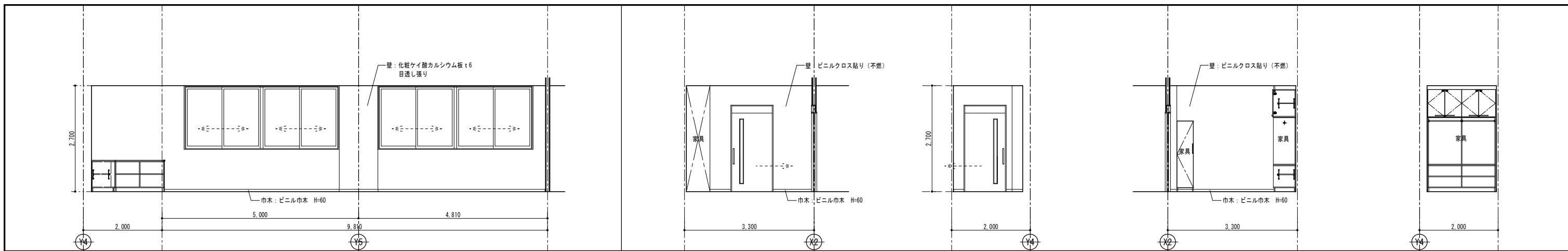


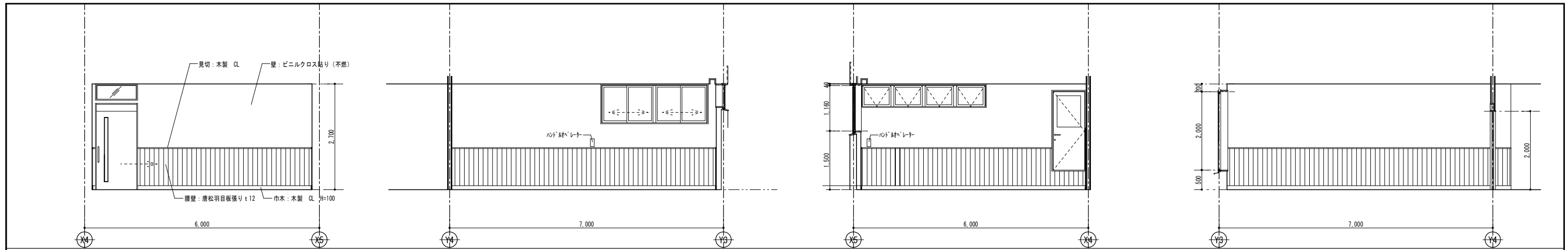
講堂

D

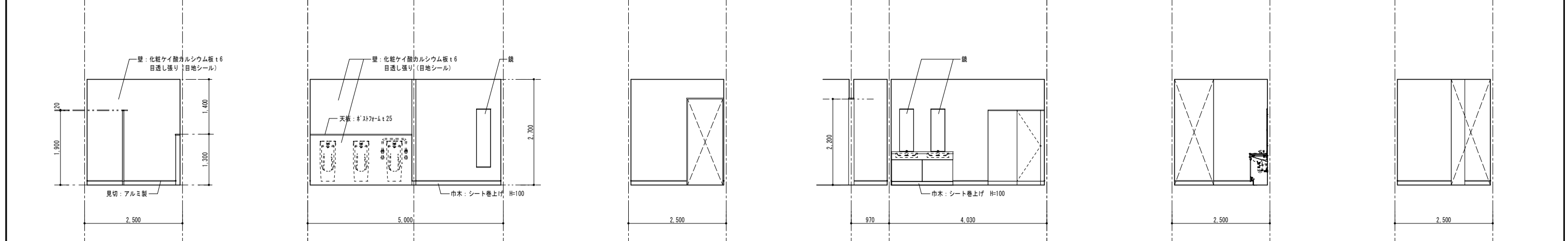




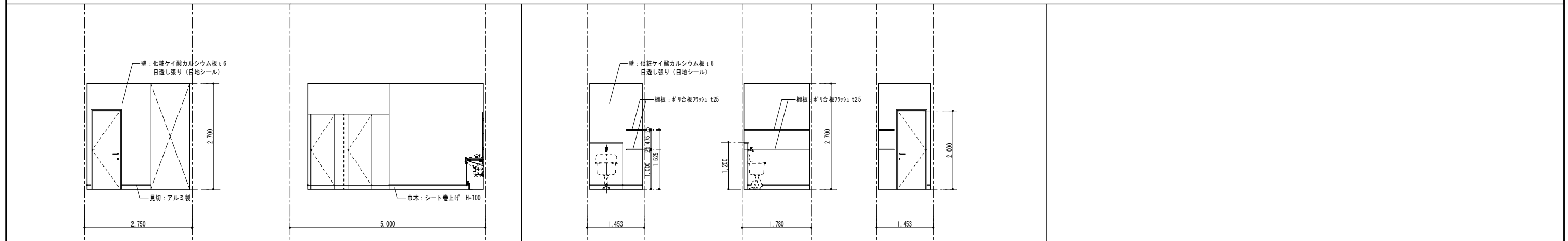




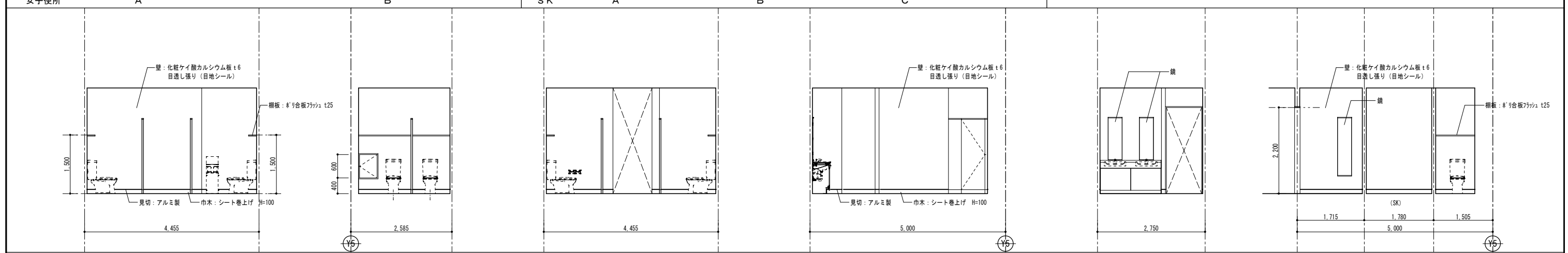
図書室 A B C D



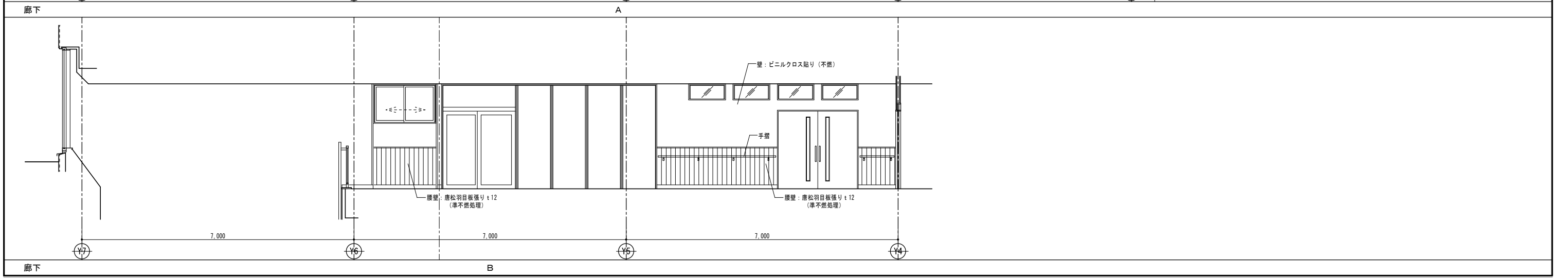
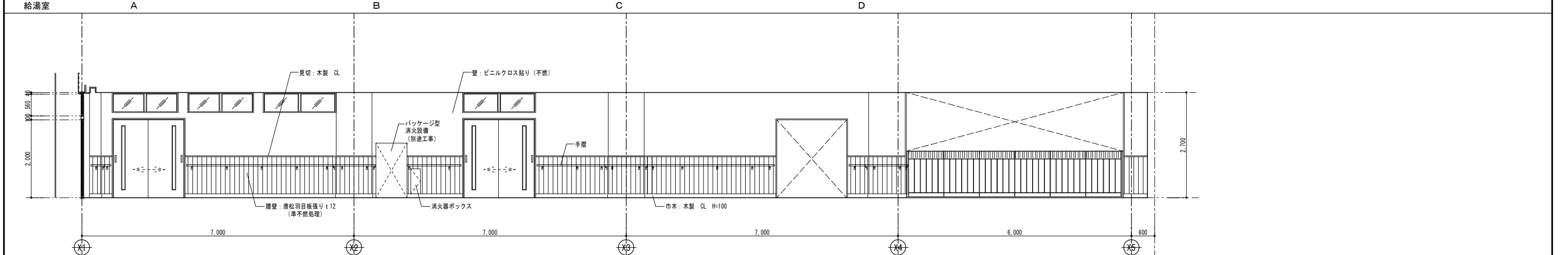
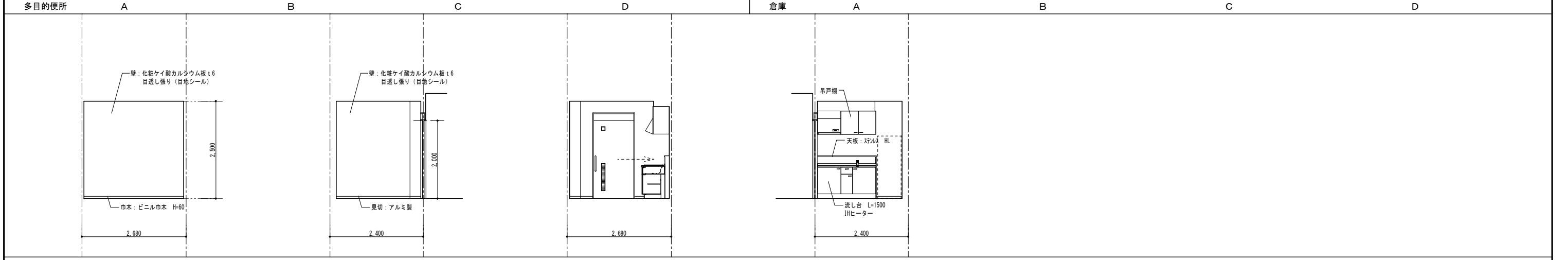
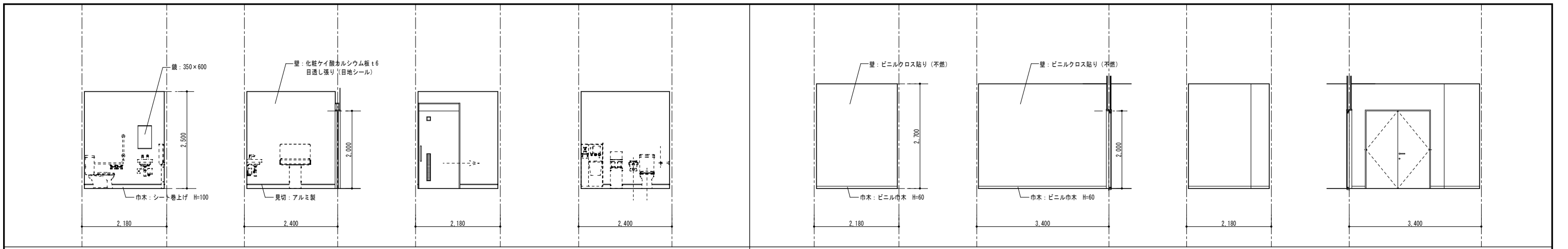
男子便所 A B C D C A

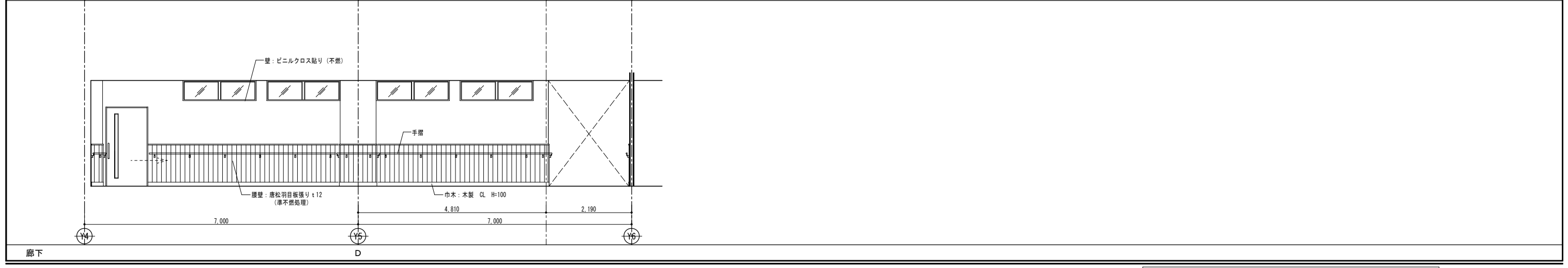
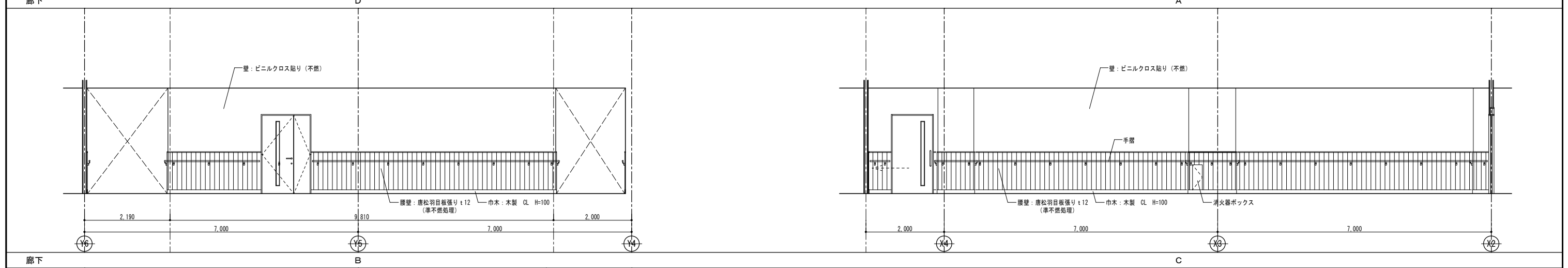
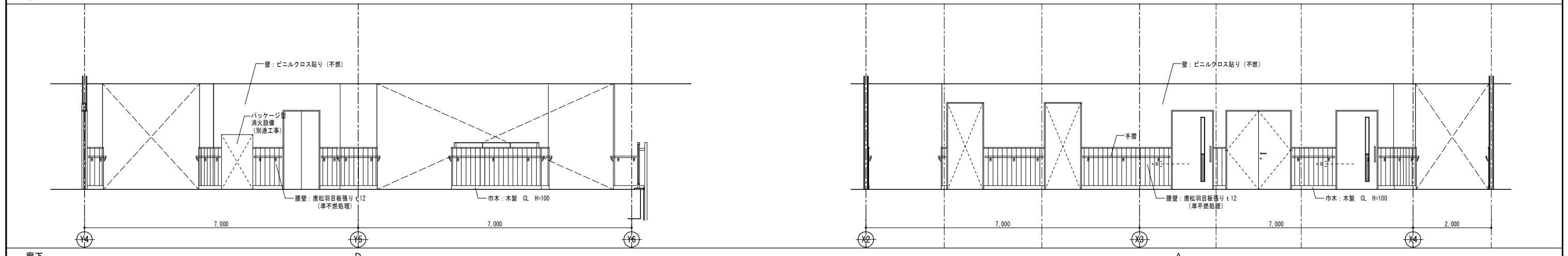
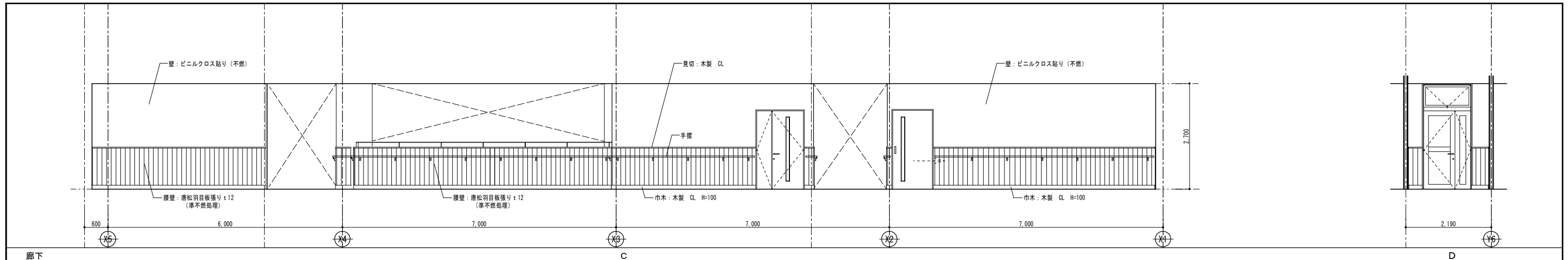


女子便所 A B SK A B C



女子便所 A B C D C D



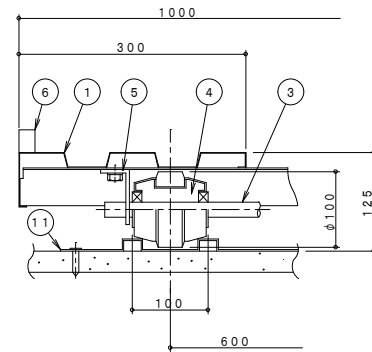
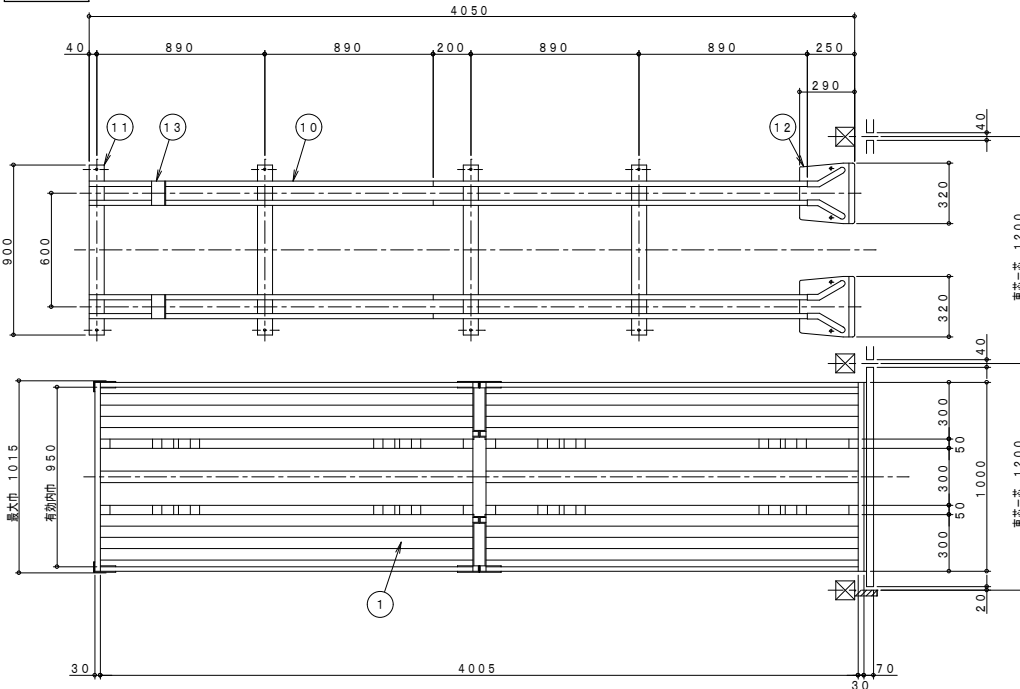




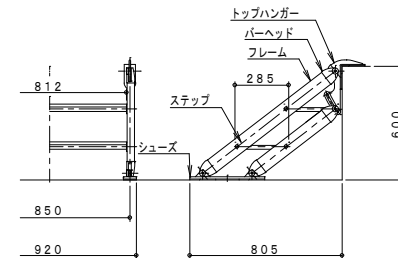
W1	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W2	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W3	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W4	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W5	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W6	1時間耐火構造 FP060NP-0174	W7		W8	
W9		W10		W11		W12		W13		W14		W15		W16	
W17		W18		W19		W20		W21		W22		W23		W24	
W25		W26		W27		W28		W29	講堂 壁：下部	W30	講堂 壁：上部	※ビニルクロスは全て不燃ビニルクロスとする			



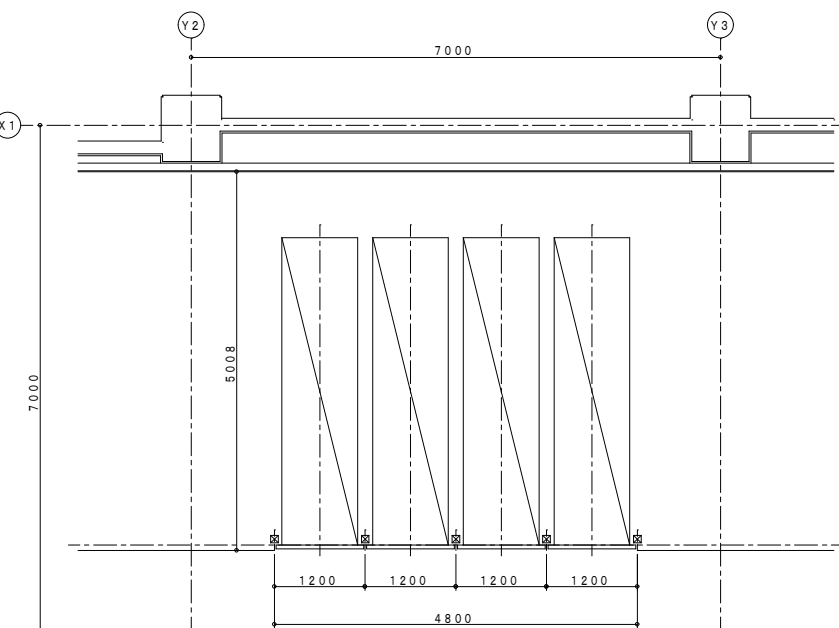
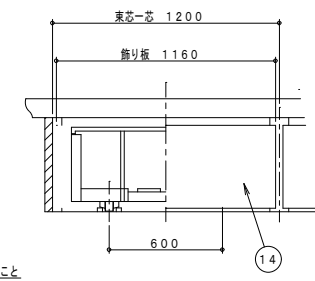
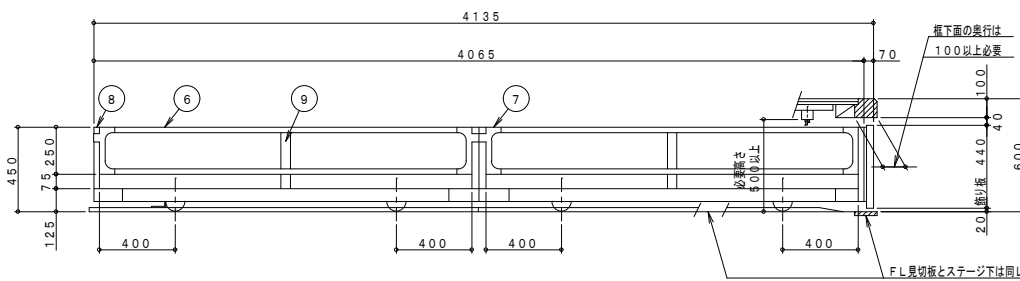
参考図



レール、レール床、車輪関係図 (S=1/5)



移動階段 FTR-600型 2台設置 (S=1/20)

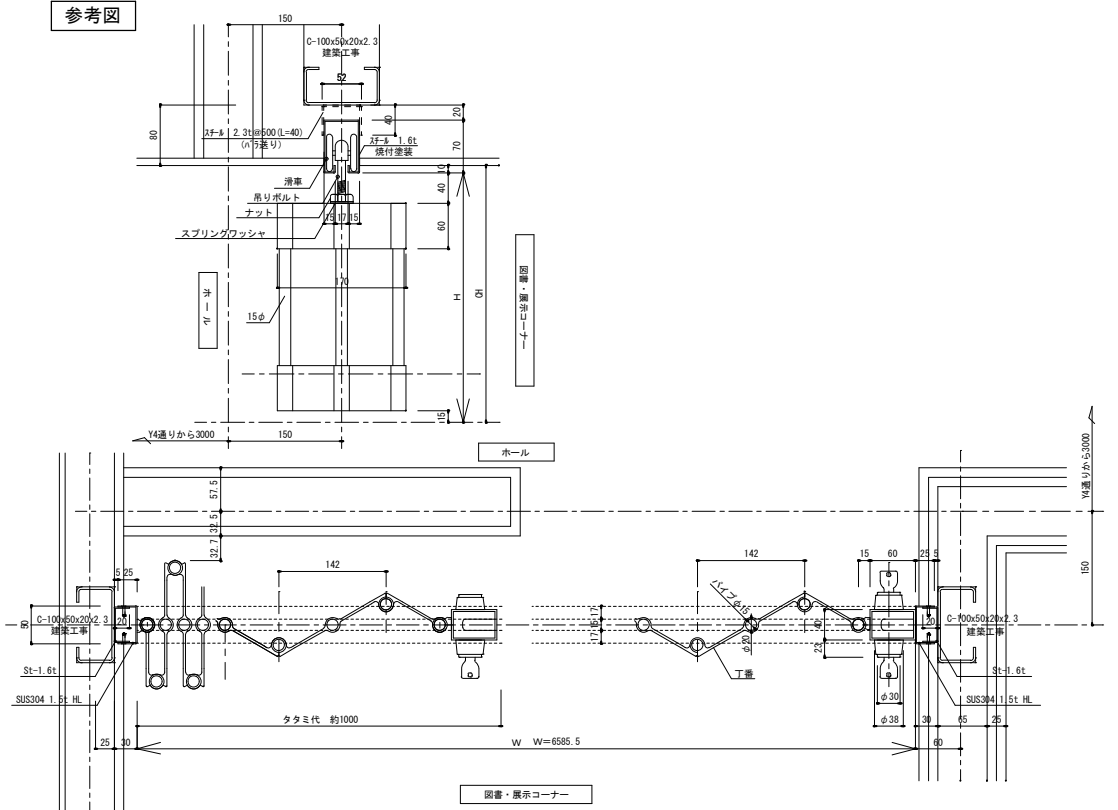


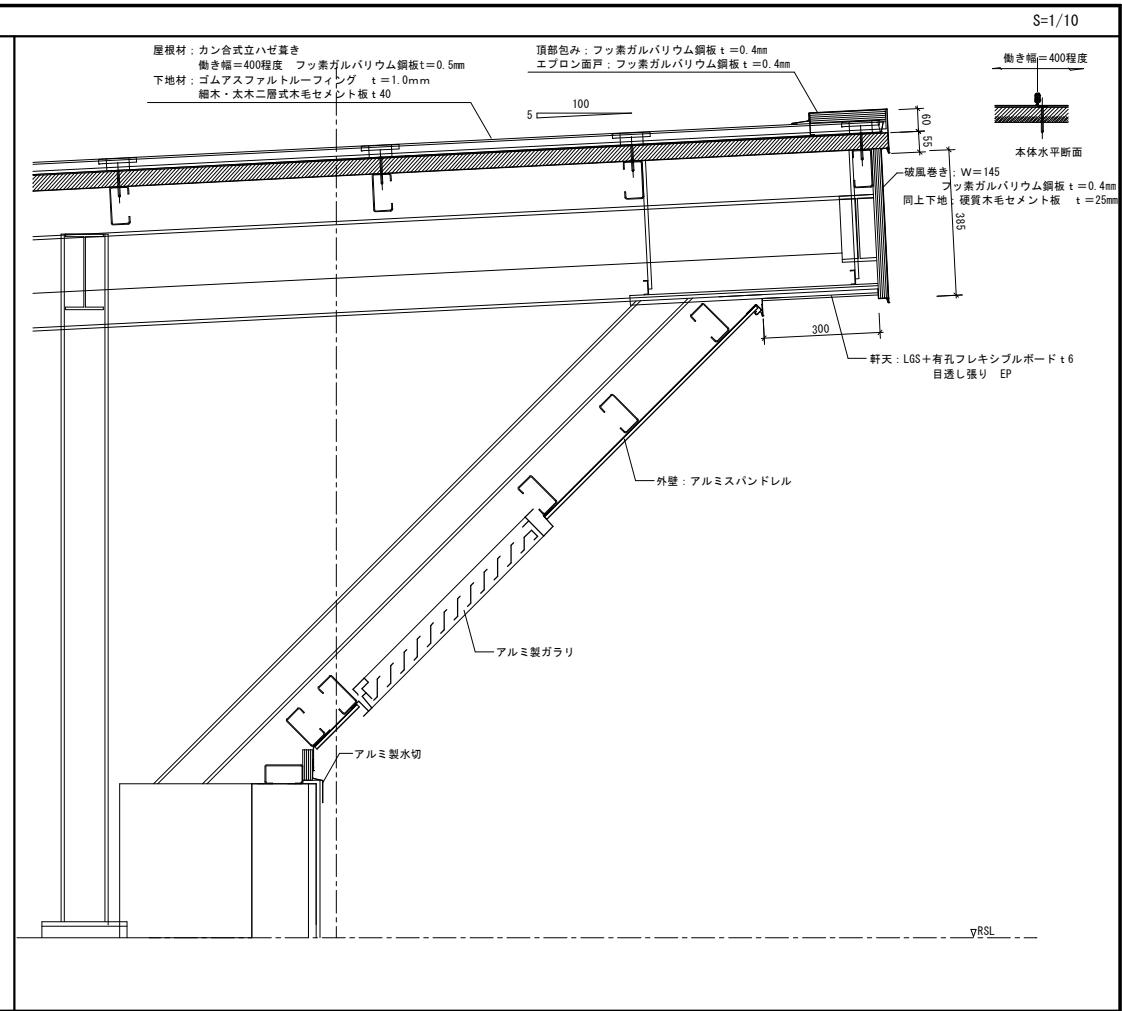
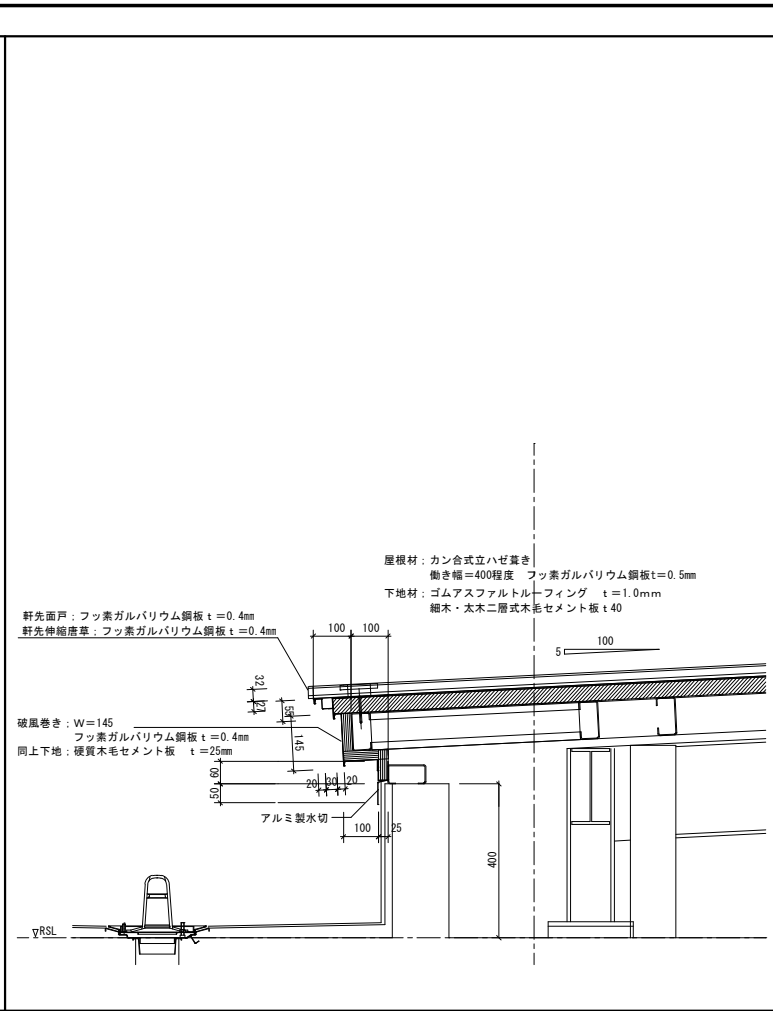
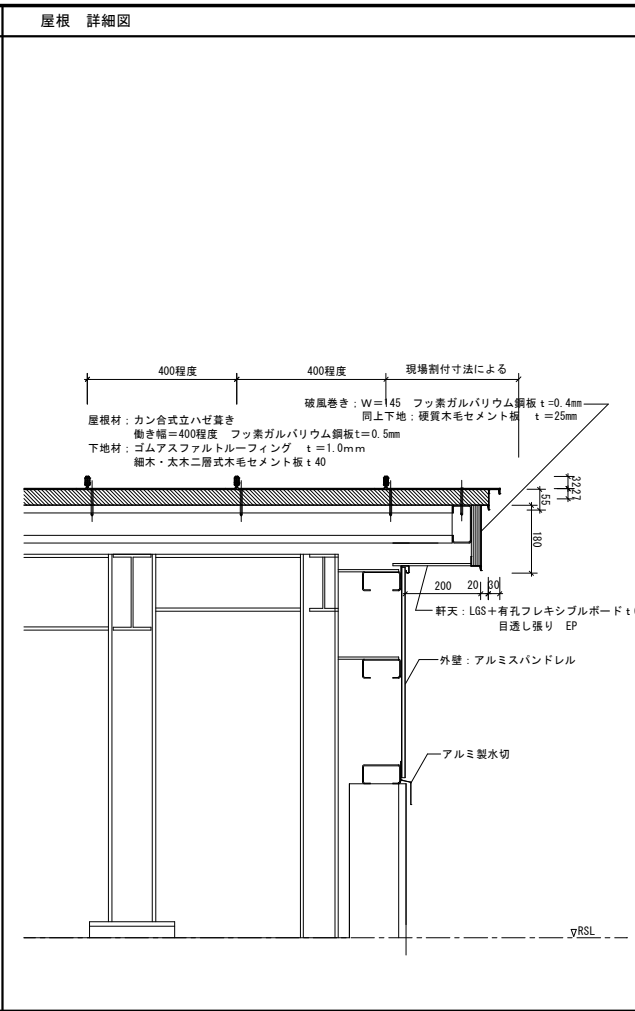
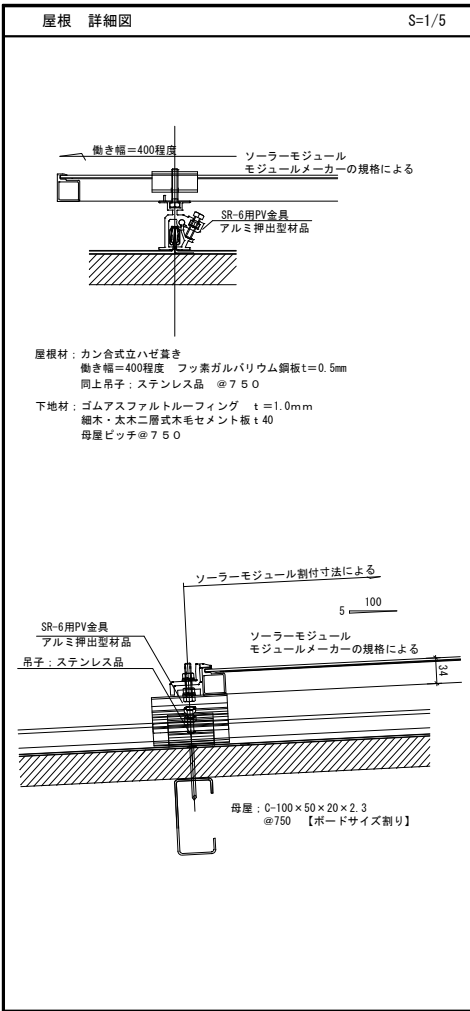
台車収納時平面配置図 (S=1/50)

NO	品名	材料・加工	表面処理
1	床板	亜鉛メッキ鋼板 t 0.9 を曲げ加工	亜鉛メッキ
2			
3	車軸	機械構造用炭素鋼管 φ20 × t 2.5	亜鉛メッキ
4	車輪	冷延鋼板 t 2.0 をプレス加工した後、その外周に合成ゴムを換付した一体型車輪 (軸受部はベアリング嵌合)	
5	軸受	熱延鋼板 t 4.5 を曲げ加工	黒色焼付塗装
6	サイド枠	亜鉛メッキ鋼板をフォーミング加工 30 × 20 × t 0.8	白色焼付塗装
7	ジョイントコネクター	熱延鋼板 t 2.0 を曲げ加工	黒色焼付塗装
8	ハンドル	亜鉛メッキ鋼板をフォーミング加工 30 × 20 × t 0.8	白色焼付塗装
9	サイド枠倒れ止め	熱延鋼板 t 4.5 を曲げ加工	亜鉛メッキ
10	レール	亜鉛メッキ鋼板 t 1.6 をフォーミング加工	亜鉛メッキ
11	枕板	亜鉛メッキ鋼板 t 1.6 をプレス加工	亜鉛メッキ
12	車輪ガイド	亜鉛メッキ鋼板 t 1.6 をプレス加工	黒色焼付塗装
13	ストッパー	一般構造用圧延鋼板 t 6.0 を曲げ加工	黒色焼付塗装
14	飾り板	熱延鋼板製鋼線の中に木製パネルをはめこんだもの	黒色焼付塗装

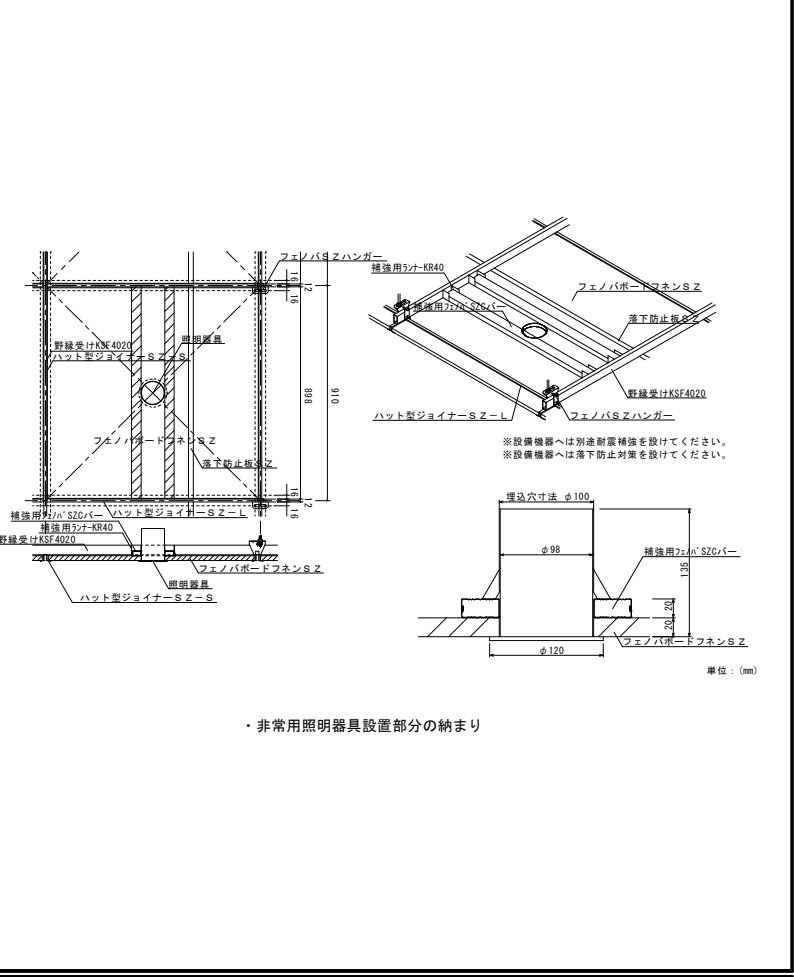
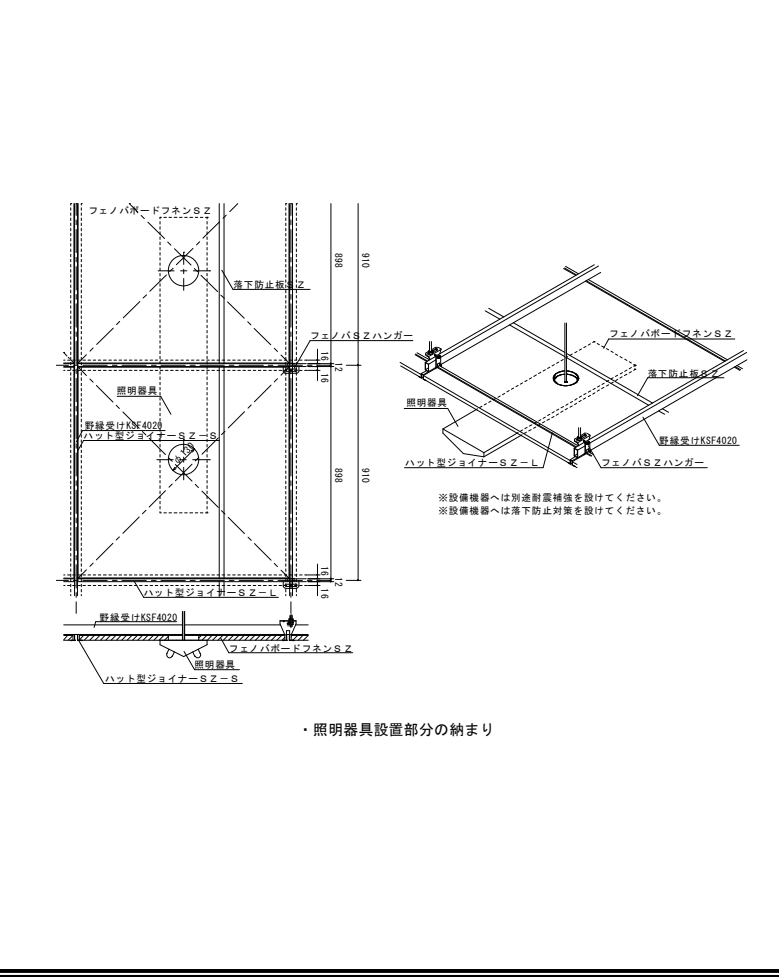
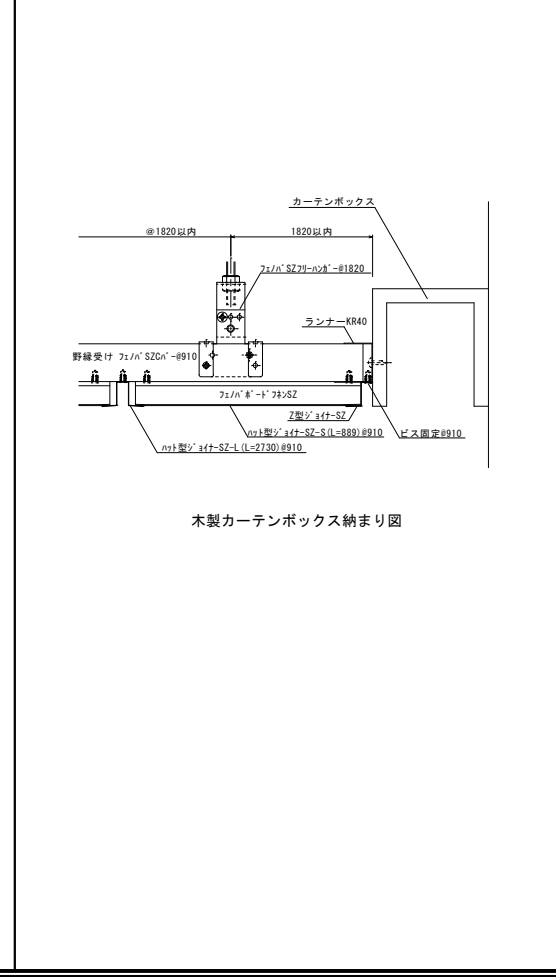
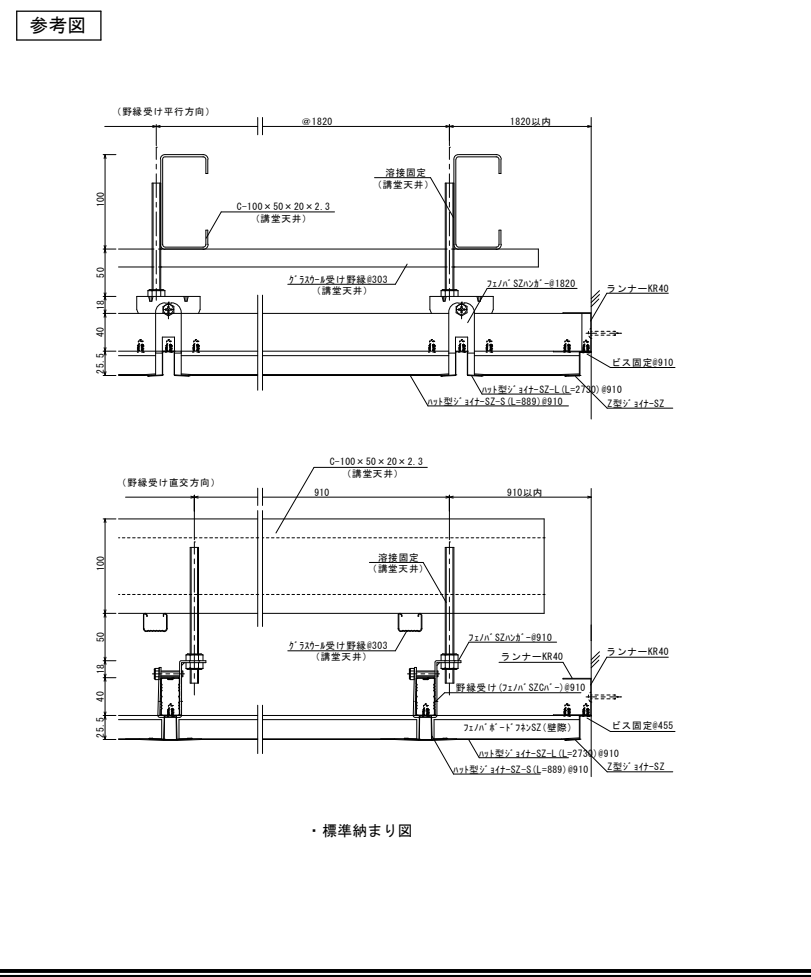
- 備考
- 製作数 4列 4輪 万能台車
  - レールの製作及び取付工事はこの設備に含まれます
  - 飾り板の製作及び取付調整はこの設備に含まれます
  - レール下地 (モルタル) はこの設備より除料とします
  - 椅子収納脚数 48脚/列 (4列分=192脚)

参考図

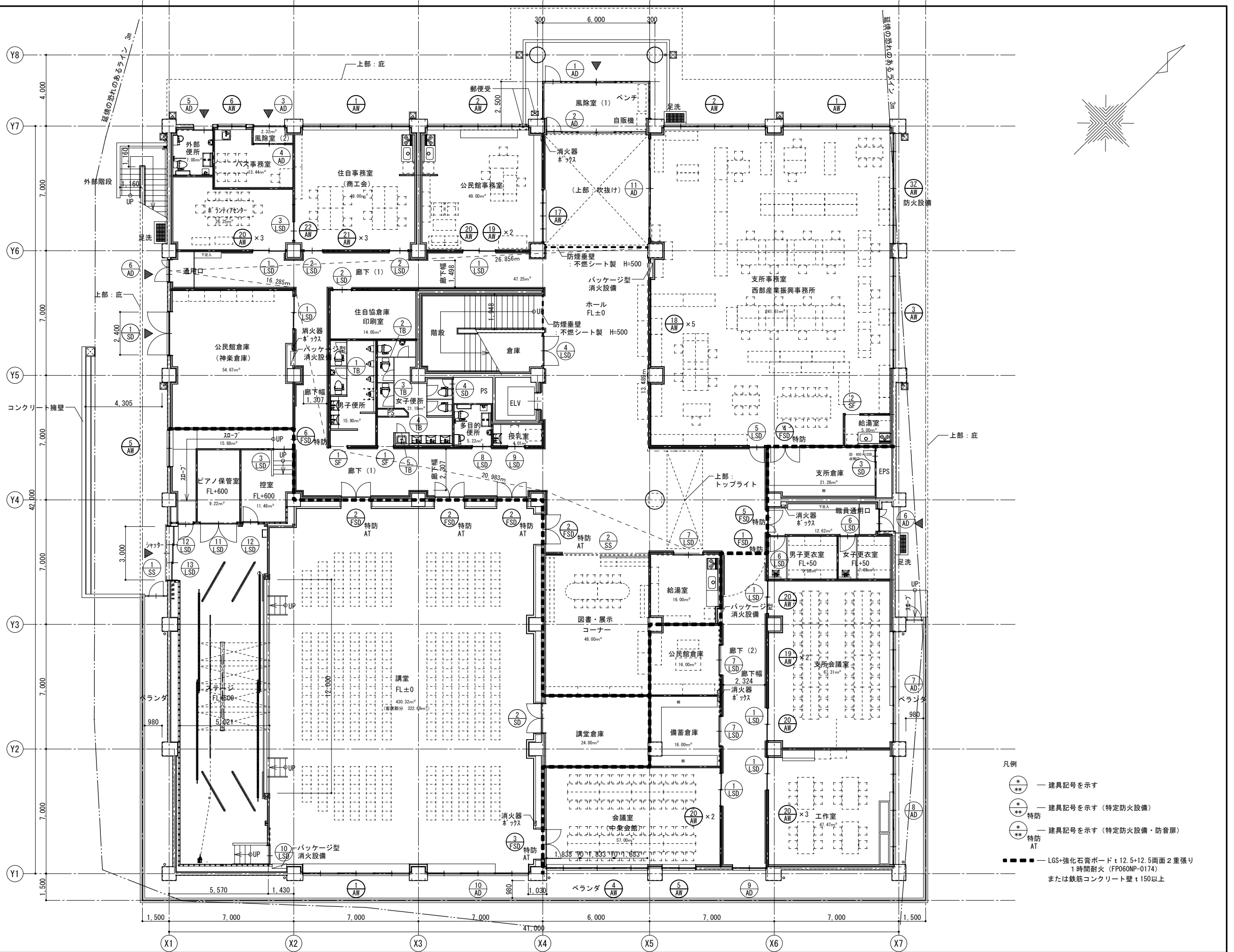




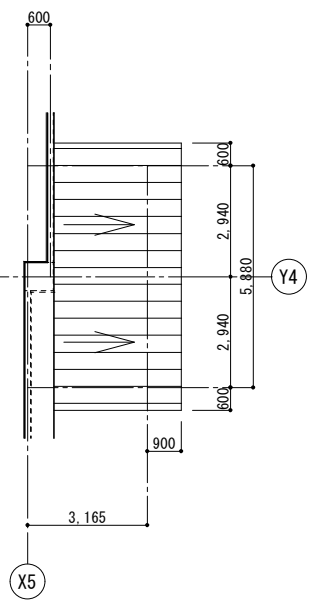
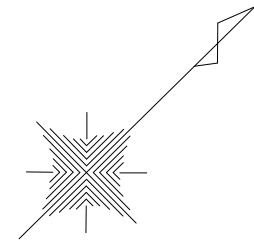
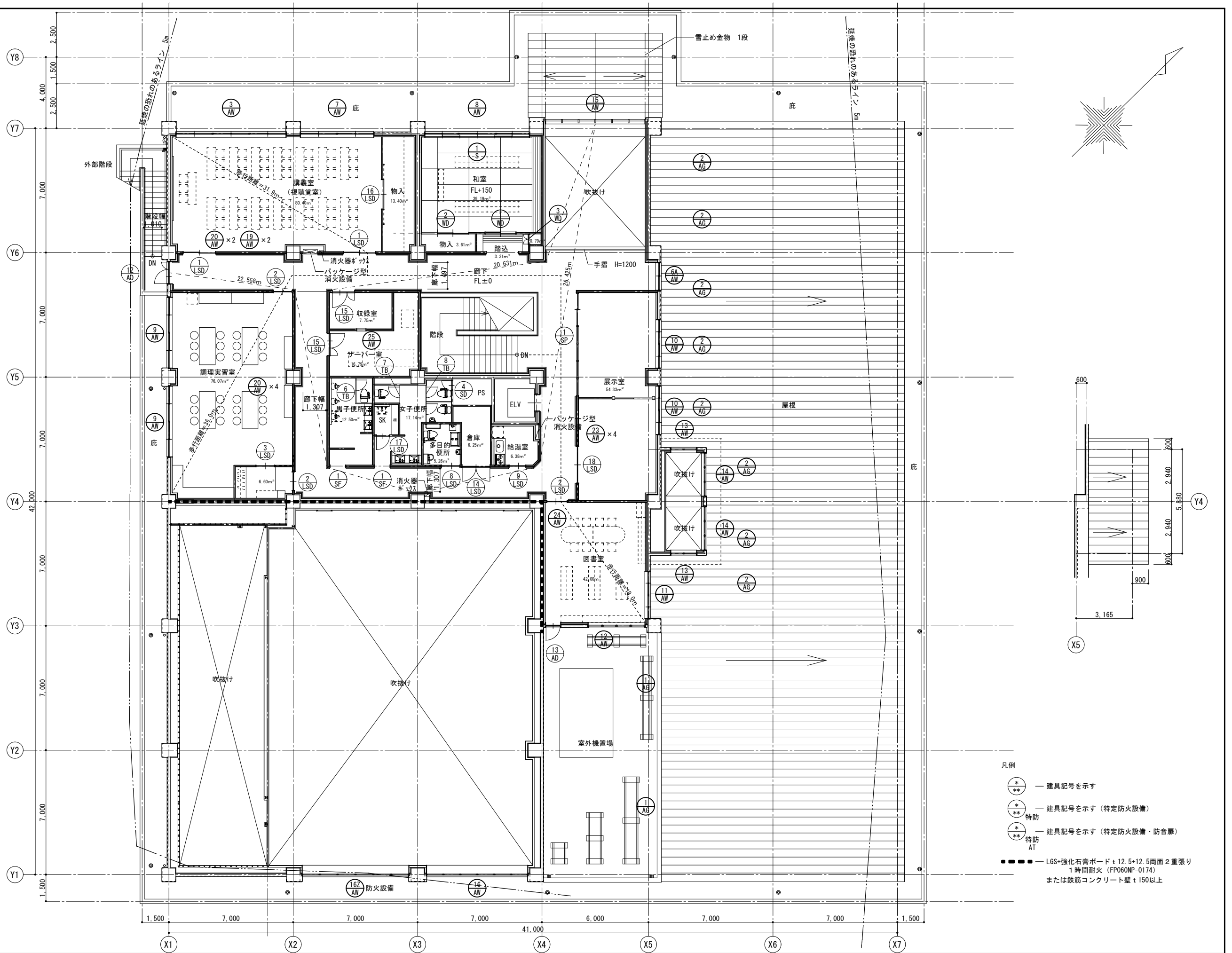
【軽量天井】ガラスウールボード40k t25 詳細図 (参考図)



階	室名	令第116条の二 (1/20)				法28条2項 (1/20)				令第126条の二・三 (1/50)				階	室名	令第116条の二 (1/20)				法28条2項 (1/20)				令第126条の二・三 (1/50)				階										
		床面積	必要面積	有効面積	検討	必要面積	有効面積	検討	必要面積	有効面積	検討	必要面積	有効面積			検討	必要面積	有効面積	検討	必要面積	有効面積	検討	必要面積	有効面積	検討													
1階 (支所)	支所事務室	居室	241.61㎡	12.08㎡	AW-1 1.933×1.56×3 AW-2 1.833×1.56×3 AW-3 2.000×1.56×6 計36.34	OK	12.08㎡	AW-1 0.9665×1.56×3 AW-2 0.9165×1.56×3 AW-3 1.0000×1.56×6 計18.17	OK	4.83㎡	AW-1 0.9665×0.76×3 AW-2 0.9165×0.76×3 AW-3 1.0000×0.76×6 計8.85	OK	2階 (支所)	展示室	居室	54.33㎡	2.72㎡	AW-10 (1.30×1.05×2) ×2 計5.46	OK	2.72㎡	AW-10 (0.65×1.05×2) ×2 計2.73	OK	1.09㎡	AW-10 (0.65×0.76×2) ×2 計1.98	OK													
	給湯室	非居室	5.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.10㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	2階 (支所)	収録室	居室	7.75㎡	0.39㎡	非常用照明設置	OK	0.39㎡	機械換気による	OK	0.16㎡	建設省告示第1436号 四-二-4	OK													
	支所倉庫	非居室	21.26㎡	—	—	—	—	—	—	0.43㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	2階 (支所)	サーバールーム	非居室	16.79㎡	—	—	—	—	—	—	—	0.27㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK												
	支所会議室	居室	67.31㎡	3.37㎡	AD-7 2.0×1.56×2 2.0×0.56×2.0×2.0 計11.36	OK	3.37㎡	AD-7 1.0×1.56×2 1.0×0.56×1.0×2.0 計5.68	OK	1.35㎡	AD-7 1.0×0.76×2 1.0×0.10 計1.62	OK	2階 (支所)	講義室	居室	80.40㎡	4.02㎡	AW-3 2.00×1.56×3 AW-7 2.00×1.56×2 計15.60	OK	4.02㎡	AW-3 1.00×1.56×3 AW-7 1.00×1.56×2 計7.80	OK	1.61㎡	AW-3 1.00×0.76×3 AW-7 1.00×0.76×2 計3.80	OK													
	備蓄倉庫	非居室	16.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.32㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	2階 (支所)	物入 (講義室)	非居室	13.40㎡	—	—	—	—	—	—	—	0.27㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK												
	会議室 (中条会館)	居室	57.00㎡	2.85㎡	AW-4 1.833×1.56×2 AW-5 1.833×1.56 計8.58	OK	2.85㎡	AW-4 0.9165×1.56×2 AW-5 0.9165×1.56 計4.29	OK	1.14㎡	AW-4 0.9165×0.76×2 AW-5 0.9165×0.76 計2.09	OK	2階 (支所)	和室	居室	39.19㎡	1.96㎡	AW-8 1.90×1.56×3 計8.89	OK	1.96㎡	AW-8 0.95×1.56×3 計4.45	OK	0.78㎡	AW-8 0.95×0.76×3 計2.17	OK													
	住自事務室	居室	49.00㎡	2.45㎡	AW-1 1.933×1.56×3 計9.05	OK	2.45㎡	AW-1 0.9665×1.56×3 計4.52	OK	0.98㎡	AW-1 0.9665×0.76×3 計2.20	OK	2階 (支所)	物入 (和室)	非居室	3.61㎡	—	—	—	—	—	—	—	0.07㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK												
	住自協働庫・印刷室	非居室	14.05㎡	—	—	—	—	—	—	0.28㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	2階 (支所)	物入 (2) (和室)	非居室	0.79㎡	—	—	—	—	—	—	—	0.02㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK												
	ボランティアセンター	居室	26.25㎡	1.31㎡	非常用照明設置	OK	1.31㎡	機械換気による	OK	0.53㎡	建設省告示第1436号 四-二-4	OK	2階 (支所)	調理実習室	居室	76.07㎡	3.80㎡	AW-9 1.94×1.56×2×2 計12.11	OK	3.80㎡	AW-9 0.97×1.56×2×2 計6.05	OK	1.52㎡	AW-9 0.97×0.76×2×2 計2.95	OK													
	風除室 (2)	非居室	2.32㎡	—	—	—	—	—	—	0.05㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	2階 (支所)	前室 (調理実習室)	非居室	6.60㎡	—	—	—	—	—	—	—	0.13㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK												
バス事務室	居室	13.44㎡	0.67㎡	AW-6 1.50×1.56 計2.34	OK	0.67㎡	AW-6 0.75×1.56 計1.17	OK	0.27㎡	AW-6 0.75×0.76 計0.57	OK	2階 (支所)	図書室	居室	42.00㎡	2.10㎡	AW-11 1.265×1.05×2 AW-12 0.735×0.50×4 計4.13	OK	2.10㎡	AW-11 0.633×1.05×2 AW-12 0.735×0.50×4 計2.80	OK	0.84㎡	AW-12 0.735×0.50×4 計1.47	OK														
1階 (公民館)	公民館事務室	居室	49.00㎡	2.45㎡	AW-2 1.833×1.56×3 計8.57	OK	2.45㎡	AW-2 0.9165×1.56×3 計4.28	OK	0.98㎡	AW-2 0.9165×0.76×3 計2.08	OK	2階 (共用)	給湯室	非居室	6.38㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	0.13㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK											
	公民館倉庫 (神楽倉庫)	非居室	54.67㎡	—	—	—	—	—	—	1.10㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK		男子便所	非居室	12.50㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	0.25㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK											
	公民館倉庫	非居室	16.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.32㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK		女子便所	非居室	18.18㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	0.34㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK											
	工作室	居室	47.47㎡	2.37㎡	AD-8 1.967×1.56×2 1.966×2.0 1.966×0.56 計11.00	OK	2.37㎡	AD-8 0.9835×1.56×2 0.983×2.0 0.983×0.56 計5.56	OK	0.95㎡	AD-8 0.9835×0.76×2 0.983×0.1 計1.59	OK		多目的便所	非居室	5.26㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.11㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK										
	控室	居室	11.48㎡	0.57㎡	非常用照明設置	OK	0.57㎡	機械換気による	OK	0.23㎡	建設省告示第1436号 四-二-4	OK		廊下・吹抜け階段	非居室	207.41㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.15㎡	AD-12 1.20×0.56×1 AW-14 0.87×0.53×12 計6.21	OK										
	講堂・ステージ	居室	430.32㎡	21.52㎡	非常用照明設置	OK	21.52㎡	機械換気による	OK	8.61㎡	AW-16 0.883×0.80×6 AW-16Z 0.933×0.80×6 計8.72	OK		ピアノ倉庫	非居室	9.22㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	ピアノ倉庫	非居室	9.22㎡	—	—	—	—	—	—	0.18㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK		講堂倉庫	非居室	24.00㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	講堂倉庫	非居室	24.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.48㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK		スロープ	非居室	15.88㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	スロープ	非居室	15.88㎡	—	—	—	—	—	—	0.32㎡	AW-5 0.9×0.76 計0.68	OK		風除室 (1)	非居室	16.80㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	風除室 (1)	非居室	16.80㎡	—	—	—	—	—	—	0.34㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK		ホール・廊下 (1) 図書・展示コーナー	居室	298.55㎡	—	非常用照明設置	OK	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
ホール・廊下 (1) 図書・展示コーナー	居室	298.55㎡	—	非常用照明設置	OK	—	機械換気による	OK	5.97㎡	AD-6 1.20×0.56 AW-13 (0.665×0.70×2) ×2 AW-14 (0.749×0.90×3) ×2 計6.58	OK	廊下 (2)	非居室	46.29㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—											
廊下 (2)	非居室	46.29㎡	—	—	—	—	—	—	0.93㎡	AD-9 0.881×0.56×2 計0.99	OK	職員通用口	非居室	16.62㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
職員通用口	非居室	16.62㎡	—	—	—	—	—	—	0.33㎡	AD-6 1.20×0.56 計0.67	OK	男子更衣室	非居室	9.86㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
男子更衣室	非居室	9.86㎡	—	—	—	—	—	—	0.20㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	女子更衣室	非居室	7.86㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
女子更衣室	非居室	7.86㎡	—	—	—	—	—	—	0.16㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	給湯室	非居室	16.00㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
給湯室	非居室	16.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.32㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	男子便所	非居室	15.90㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
男子便所	非居室	15.90㎡	—	—	—	—	—	—	0.32㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	女子便所	非居室	21.92㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
女子便所	非居室	21.92㎡	—	—	—	—	—	—	0.42㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	多目的便所	非居室	5.23㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
多目的便所	非居室	5.23㎡	—	—	—	—	—	—	0.10㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	授乳室	居室	4.01㎡	0.20㎡	非常用照明設置	OK	0.20㎡	機械換気による	OK	0.08㎡	建設省告示第1436号 四-二-4	OK	外部便所	非居室	7.00㎡	—	—	—	—	—	—	—	—				
授乳室	居室	4.01㎡	0.20㎡	非常用照明設置	OK	0.20㎡	機械換気による	OK	0.08㎡	建設省告示第1436号 四-二-4	OK	外部便所	非居室	7.00㎡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
外部便所	非居室	7.00㎡	—	—	—	—	—	—	0.14㎡	建設省告示第1436号 四-二-2	OK	<p>消防法 無窓階の検討</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>階</th> <th>床面積</th> <th>必要面積 (1/30)</th> <th>有効面積</th> <th>検討</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1階</td> <td>1716.39㎡</td> <td>57.21㎡</td> <td>AD-1 (0.925×2.20) ×1 =2.04 (0.95×2.20) ×4 =8.36 AD-3 1.73×2.00 =3.46 AD-6 1.20×2.00 =2.40 AW-1 (1.933×1.56×3) ×3 =27.13932 AW-2 (1.833×1.56×3) ×2 =17.15688 AW-5 1.80×1.56 =3.36 AW-6 1.50×1.56 =2.34 計 66.26㎡</td> <td>OK</td> </tr> <tr> <td>2階</td> <td>569.10㎡</td> <td>18.97㎡</td> <td>AW-3 2.00×1.56×3 =9.36 AW-7 2.00×1.56×2 =6.24 AW-8 1.90×1.56×3 =8.892 計 24.49㎡</td> <td>OK</td> </tr> </tbody> </table> <p>1階廊下 壁面積=511.41㎡ 1階廊下 掲示壁面積=41.16㎡ &lt; 511.41/10=51.14㎡ ∴ 1階廊下掲示壁面積は1階廊下壁面積の1/10以下</p>												階	床面積	必要面積 (1/30)	有効面積	検討	1階	1716.39㎡	57.21㎡	AD-1 (0.925×2.20) ×1 =2.04 (0.95×2.20) ×4 =8.36 AD-3 1.73×2.00 =3.46 AD-6 1.20×2.00 =2.40 AW-1 (1.933×1.56×3) ×3 =27.13932 AW-2 (1.833×1.56×3) ×2 =17.15688 AW-5 1.80×1.56 =3.36 AW-6 1.50×1.56 =2.34 計 66.26㎡	OK	2階	569.10㎡	18.97㎡	AW-3 2.00×1.56×3 =9.36 AW-7 2.00×1.56×2 =6.24 AW-8 1.90×1.56×3 =8.892 計 24.49㎡	OK
階	床面積	必要面積 (1/30)	有効面積	検討																																		
1階	1716.39㎡	57.21㎡	AD-1 (0.925×2.20) ×1 =2.04 (0.95×2.20) ×4 =8.36 AD-3 1.73×2.00 =3.46 AD-6 1.20×2.00 =2.40 AW-1 (1.933×1.56×3) ×3 =27.13932 AW-2 (1.833×1.56×3) ×2 =17.15688 AW-5 1.80×1.56 =3.36 AW-6 1.50×1.56 =2.34 計 66.26㎡	OK																																		
2階	569.10㎡	18.97㎡	AW-3 2.00×1.56×3 =9.36 AW-7 2.00×1.56×2 =6.24 AW-8 1.90×1.56×3 =8.892 計 24.49㎡	OK																																		



- 凡例
- (\*\*) 建具記号を示す
  - (\*\*) 建具記号を示す (特定防火設備)
  - (特防) 特防
  - (\*\*) 建具記号を示す (特定防火設備・防音厚)
  - (特防 AT) 特防 AT
  - LGS+強化石膏ボード t12.5+12.5両面2重張り  
1時間耐火 (FP060NP-0174)  
または鉄筋コンクリート壁 t150以上



- 凡例
- (\*) 建具記号を示す
  - (\*) 建具記号を示す (特定防火設備)
  - (\*) 特防
  - (\*) 建具記号を示す (特定防火設備・防音扉)
  - (\*) 特防
  - (\*) AT
  - LGS+強化石膏ボード t12.5+12.5両面2重張り  
1時間耐火 (FP060NP-0174)  
または鉄筋コンクリート壁 t150以上

記号・数量	① AD 1階：風除室 (1) 1箇所	② AD 1階：風除室 (1) 1箇所	③ AD 1階：風除室 (2) 1箇所	④ AD 1階：風除室 (2) 1箇所	⑤ AD 1階：外部便所 1箇所	⑥ AD 1階：通用口 職員通用口 2箇所
形状						
建具種類	引き分け自動ドア + F I X窓 連窓	引き分け自動ドア + F I X窓 連窓	引き違い掃出し窓、ランマ：引き違い窓	引き違い掃出し窓、ランマ：引き違い窓	片引きハンガーフラッシュ戸	親子開き戸、ランマ：はめ殺し窓
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込100	アルミ (ステンカラー) 見込100	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70
金物	自動ドア付属金物一式 (起動スイッチ、安全センサー、外：シリカゲル、内：サムターン)・衝突防止シール・レバーハンドル・シリンドラ錠	自動ドア付属金物一式 (起動スイッチ、安全センサー、シリカゲル、サムターン) 衝突防止シール・レバーハンドル	引き違いシリンドラ錠、SUS水切 付属金物一式	クレセント、付属金物一式	引棒 (L=450)・ハンガー・自動閉鎖装置付 表示錠 (非常時解錠装置)・ハンドル・付属金物一式	引棒・サムターン・DC・フラスコ SUS蓄積・ハンドル・付属金物一式
硝子・塗装	複層ガラス (L (3+3)+A6+T5) ラマ：(L (3+3)+A6+T4) 自動ドア降子強化ガラス (L (3+3)+A6+T6) フロアーヒンジ強化ガラスドア (L (3+3)+A6+T6)	強化ガラスT5 ラマ：強化ガラスT4 自動ドア降子強化ガラス (T6) 2D7-ヒンジ強化ガラスドア (T6)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T5) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	FT4 (100×100)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)
備考		SYSTEMA31eルクセラ扉仕様同等品				キーレックス1100同等品
記号・数量	⑦ AD 1階：支所会議室 1箇所	⑧ AD 1階：工作室 1箇所	⑨ AD 1階：廊下 (2) 1箇所	⑩ AD 1階：講堂 1箇所	⑪ AD 1階：支所事務室 1箇所	
形状						
建具種類	引き違い掃出し窓引き違い窓、ランマ：引き違い窓	引き違い掃出し窓引き違い窓、ランマ：引き違い窓	引き違い掃出し窓、ランマ：引き違い窓	引き違い掃出し窓引き違い窓、ランマ：引き違い窓	引き分け自動ドア、ランマ：はめ殺し窓	
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込100	
金物	クレセント、SUS水切、付属金物一式、網戸	クレセント、SUS水切、付属金物一式、網戸	クレセント、SUS水切、付属金物一式、網戸	クレセント、SUS水切、付属金物一式、網戸	自動ドア付属金物一式 (起動スイッチ、安全センサー、外：シリカゲル、内：サムターン)・衝突防止シール	
硝子・塗装	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) 掃出し部分：(L (3+3)+A6+T5) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) 掃出し部分：(L (3+3)+A6+T5) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) 掃出し部分：(L (3+3)+A6+T5) ラマ：(L (3+3)+A6+T4)	強化ガラス (T5) ラマ：強化ガラス (T4) 自動ドア降子強化ガラス (T6)	
備考					SYSTEMA31eルクセラ扉仕様同等品	
記号・数量	⑫ AD 2階：廊下 1箇所	⑬ AD 2階：図書室 1箇所	① AG 1階小売裏 2箇所	② AG 2階小売裏 8箇所		
形状						
建具種類	親子開き戸、ランマ：はめ殺し窓	片開き戸	換気ガラリ	換気ガラリ		
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70		
金物	引棒・サムターン・シリカゲル・DC・フラスコ SUS蓄積・ハンドル・付属金物一式	引棒・サムターン・シリカゲル・DC・フラスコ SUS蓄積・付属金物一式	水切、防鳥網、付属金物一式	水切、防鳥網、付属金物一式		
硝子・塗装	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)				
備考						
記号・数量	① AW 1階：支所事務室、住自事務室、講堂 3箇所	② AW 1階：支所事務室、公民館事務室 2箇所	③ AW ③Z AW 1階：支所事務室 (内1箇所防火設備) 2箇所 2階：講義室 1箇所	④ AW 1階：会議室 (中条会館) 1箇所		
形状						
建具種類	3連引き違い窓	3連引き違い窓	3連引き違い窓	3連引き違い窓		
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70		
金物	クレセント、水切、アングル、結露受け、付属金物一式、網戸	クレセント、水切、アングル、結露受け、付属金物一式、網戸	クレセント、水切、アングル、結露受け、付属金物一式、網戸	クレセント、水切、アングル、結露受け、付属金物一式、網戸		
硝子・塗装	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4) 防火設備 (PW6.8+A6+Low-E6)	複層ガラス (L (3+3)+A6+T4)		
備考			防火設備 YKKAP BGE31 個別防火認定 認定番号 EB2371 同等品			

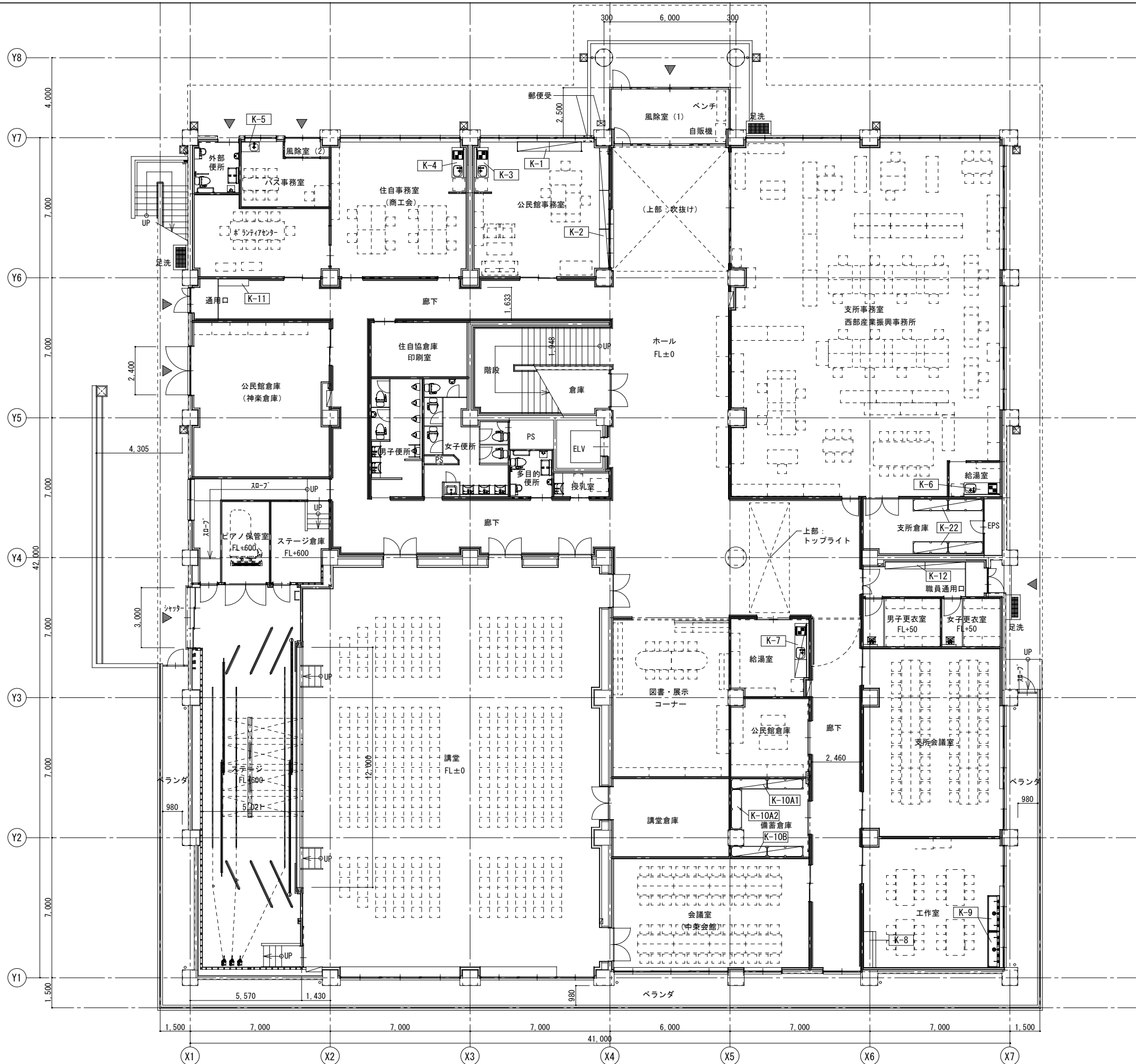
【ガラス凡例】  
FL フロートガラス  
F 型ガラス  
T 透明強化ガラス  
FT 型強化ガラス  
L 合わせガラス  
PW 網入りガラス  
※合わせガラスは、FL3+ポリビニルブチラール (PVB) 30mil+FL3とする。  
※特定防火設備の鉄板厚さは1.5mm以上とする。  
※アルミ断熱パネル：アルミ樹脂複合パネル t3+発泡樹脂+アルミ樹脂複合パネル t3 熱伝導率1.726W/m・k  
※掃出しサッシの網戸は中入れとする。  
防煙壁——建具上にH=50cmの防煙壁を確保すること

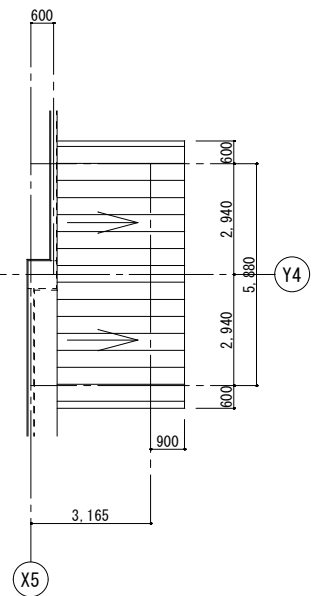
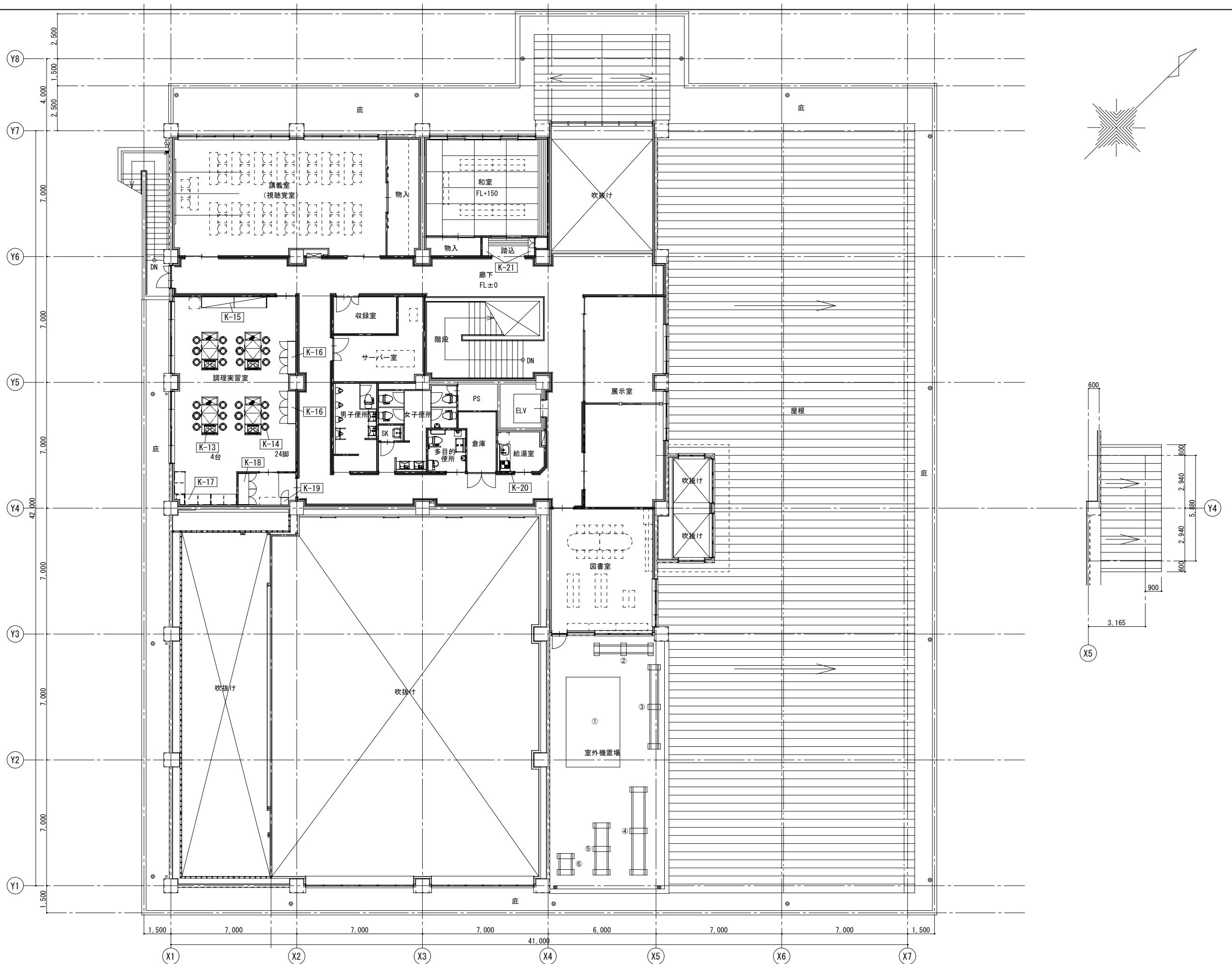


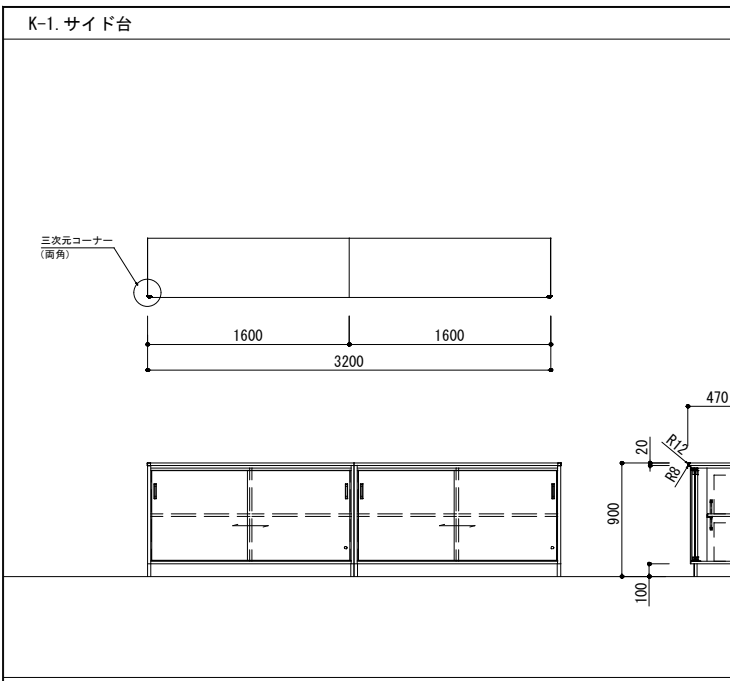
記号・数量	5 AW 1階：会議室、ステージスロープ 2箇所	6 AW 1階：バス事務室 1箇所	6A AW 2階：廊下 1箇所	7 AW 2階：講義室 1箇所	8 AW 2階：和室 1箇所	9 AW 2階：調理実習室 2箇所	
形状							
建具種類	引き違い窓	引き違い窓	引き違い窓	2連引き違い窓	3連引き違い窓	2連引き違い窓	
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	
金物	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	クレセント、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	
硝子・塗装	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	
備考							
記号・数量	10 AW 2階：展示室 2箇所	11 AW 2階：図書室 1箇所	12 AW 2階：図書室 1箇所	13 AW 2階：トップライト 2箇所	14 AW 2階：トップライト 2箇所	15 AW 2階：ホール吹抜 1箇所	
形状							
建具種類	2連引き違い窓	2連引き違い窓	4連外倒し窓	2連外倒し窓	3連外倒し窓		
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70		
金物	ハンド材ベレータ、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	ハンド材ベレータ、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	ハンド材ベレータ、網戸、水切、アングル、結露受け、付属金物一式	ハンド材ベレータ、網戸、水切、アングル、結露受け、付属金物一式	ハンド材ベレータ、網戸、水切、アングル、結露受け、付属金物一式		
硝子・塗装	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)	複層ガラス (L(3+3)+A6+T4)		
備考							
記号・数量	16 AW 1階：講堂 1箇所 16Z AW 1階：講堂 1箇所	17 AW 1階：公民館事務室 1箇所	18 AW 1階：支所事務室 5箇所	1 SS 1階：講堂ステージ 1箇所	2 SS 1階：図書・展示コーナー 1箇所		
形状							
建具種類	6連外倒し窓	引き分け受付窓	はめ殺し窓	軽量アルミシャッター (手動)	フォールディングゲート (A-65図参照)	はめ殺し窓、2段外倒し窓	
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (メーカー標準色)	スチール 塗装品	アルミ (ステンカラー) 見込70	
金物	排煙オペレーター、水切、アングル、結露受け、網戸、付属金物一式	シリンダー錠、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	ガイドレール、座板、シャッター、錠、他付属金物一式	ガイドレール、ブラケット、戸当り、影込引手、錠錠、他付属金物一式	ハンド材ベレータ、網戸、水切、アングル、結露受け、付属金物一式	
硝子・塗装	複層ガラス (L(3+3)+A12+T4) 防火設備 (PW6.8+A6+Low-E6)	T4	T4	巻取部：ラッピングチューブ		複層ガラス (L(3+3)+A12+T4)	
備考	防火設備 YKKAP BGE31 個別防火認定 認定番号 EB-1740-2 同等品			スラット：発砲ウレタン充填			
記号・数量	19 AW 1階：公民館事務室、支所会議室 6箇所 2階：講義室	20 AW 1階：公民館事務室、支所会議室、ボランティアセンター作業室、会議室 (中大会館) 17箇所 2階：講義室、調理実習室	21 AW 1階：住自事務室 3箇所	22 AW 1階：住自事務室 1箇所	23 AW 2階：展示室 4箇所	24 AW 2階：図書室 1箇所	25 AW 2階：収録室 1箇所
形状							
建具種類	はめ殺し窓	はめ殺し窓	はめ殺し窓	はめ殺し窓	はめ殺し窓	はめ殺し窓	はめ殺し窓
材種・見込	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70	アルミ (ステンカラー) 見込70
金物	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式	アルミ額縁、付属金物一式
硝子・塗装	T4	T4	T4	T4	T4	T4	T4
備考							

記号・数量	① FSD 1階：廊下(2) 1箇所	② FSD 1階：講堂 4箇所	③ FSD 1階：講堂 1箇所	④ FSD 1階：支所倉庫 1箇所	⑤ FSD 1階：職員通用口 1箇所	⑥ FSD 1階：控室 1箇所
形状						
建具種類	常時開放式片開き防火戸(くぐり戸付)	常時閉鎖式両開き防火戸	常時閉鎖式両開き防火戸	常時閉鎖式両開き防火戸	常時閉鎖式親子開き防火戸	常時閉鎖式片引きハンガー防火戸
材種・見込	スチール(SOP)	スチール(不燃塩化ビニルシート貼り(内装工事)) 枠:スチール SOP	スチール(不燃塩化ビニルシート貼り(内装工事)) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP
金物	オートヒンジ、ケースハンドル、他金物一式	707ヒンジ、シリンドラ錠(サムターン付)、SUS防音巻掛ハンドル:SUS L600(握り部分木貼付)、DC(ストップ無し)、戸当り順位調整器付	707ヒンジ、シリンドラ錠(サムターン付)、SUS防音巻掛ハンドル:SUS L600(握り部分木貼付)、DC(ストップ無し)、戸当り順位調整器付	丁番、シリンドラ錠(サムターン付)、SUS巻掛、レバーハンドル、DC(ストップ無し)、戸当り、順位調整器付	丁番、空錠、SUS巻掛、レバーハンドル、DC(ストップ無し)、戸当り順位調整器付	引棒(L=450)・ハンガーレール・ガイドレール・付属金物一式 煙感知器連動装置(全開ストップ付)
硝子・塗装						
備考	特定防火設備(煙感連動)	特定防火設備、防音扉(ロックアップ充填) T-2等級	特定防火設備、防音扉(ロックアップ充填) T-2等級	特定防火設備	特定防火設備	特定防火設備
記号・数量	① SD 1階：公民館倉庫 1箇所	② SD 1階：講堂倉庫 1箇所	③ SD 1階：EPS 1箇所	④ SD 1・2階：PS 2箇所		
形状					【ガラス凡例】 FL フロートガラス F 型ガラス T 透明強化ガラス FT 型強化ガラス L 合わせガラス PW 網入りガラス ※合わせガラスは、FL3+ポリビニルブチラール(PVB)30mm+FL3とする。 ※特定防火設備の鉄板厚さは1.5mm以上とする。 ※アルミ断熱パネル:アルミ樹脂複合パネルt3+発泡樹脂+アルミ樹脂複合パネルt3 熱伝導率1.726W/mf・k 防煙壁——建具上にH=50cmの防煙壁を確保すること	
建具種類	鋼製両開きフラッシュ戸	鋼製両開きフラッシュ戸	鋼製両開きフラッシュ戸	鋼製両開きフラッシュ戸		
材種・見込	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(不燃塩化ビニルシート貼り(内装工事)) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP		
金物	丁番、シリンドラ錠(サムターン付)、SUS水切、レバーハンドル、DC、戸当りフタ落とし、順位調整器付	丁番、シリンドラ錠(サムターン付)、SUS巻掛、レバーハンドル、DC、戸当りフタ落とし、順位調整器付	丁番、ケースハンドル、錠	丁番、ケースハンドル、錠		
硝子・塗装						
備考						
記号・数量	① LSD 1階：公民館事務室、ボランティアセンター、支所会議室 7箇所 公民館倉庫(神楽倉庫)、工作室、会議室 2箇所	② LSD 1階：住自事務室、住自協倉庫 3箇所 2階：調理実習室、調理実習室前室、図書室 3箇所	③ LSD 1階：ボランティアセンター、控室 2箇所 2階：調理実習室前室 1箇所	④ LSD 1階：倉庫(階段下) 1箇所	⑤ LSD 1階：支所事務室 1箇所	⑥ LSD 1階：男子・女子更衣室 2箇所
形状						
建具種類	軽量鋼製引き違いフラッシュ戸	軽量鋼製片引きハンガーフラッシュ戸	軽量鋼製片引きハンガーフラッシュ戸	軽量鋼製両開きフラッシュ戸	軽量鋼製片開きフラッシュ戸	軽量鋼製片開きフラッシュ戸
材種・見込	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP
金物	引手、戸車、SUSフタレール、シリンドラ錠(サムターン付)、付属金物一式	引棒(L=450)・ハンガーレール・自動閉鎖装置付・ガイドレール・付属金物一式	引棒(L=450)・ハンガーレール・自動閉鎖装置付・ガイドレール・付属金物一式	丁番、レバーハンドル、シリンドラ錠(サムターン付)、DC、戸当りカウリ(150×1800)、フタ落とし、その他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、シリンドラ錠(サムターン付) DC、戸当り、その他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、シリンドラ錠(サムターン付) DC、戸当り、その他付属金物一式
硝子・塗装	T4 (150×1800) 粉体焼付塗装	T4 (150×1800) 粉体焼付塗装	T4 (150×1800) 粉体焼付塗装	T4 (150×1800) 粉体焼付塗装	T4 (150×1800) 粉体焼付塗装	FT4 (150×750) 粉体焼付塗装
備考						
記号・数量	⑦ LSD 1階：公民館倉庫、備蓄倉庫、給湯室 3箇所	⑧ LSD 1階：多目的便所 1箇所 2階：多目的便所 1箇所	⑨ LSD 1階：授乳室 1箇所 2階：給湯室 1箇所	⑩ LSD 1階：ステージ 1箇所	⑪ LSD 1階：ピアノ保管室 1箇所	⑫ LSD 1階：控室、ステージスロープ 2箇所
形状						
建具種類	軽量鋼製引き分けフラッシュ戸	軽量鋼製片引きハンガーフラッシュ戸	軽量鋼製片引きハンガーフラッシュ戸	軽量鋼製片引きフラッシュ戸	軽量鋼製両開きフラッシュ戸	軽量鋼製片開きフラッシュ戸
材種・見込	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP	スチール(SOP) 枠:スチール SOP
金物	引手、戸車、SUSフタレール、シリンドラ錠	引棒(L=450)・ハンガーレール・自動閉鎖装置付・ガイドレール・付属金物一式	引棒(L=450)・ハンガーレール・自動閉鎖装置付・ガイドレール・付属金物一式	引手、戸車、SUSフタレール	丁番、レバーハンドル、シリンドラ錠(サムターン付) DC、戸当りフタ落とし、その他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、シリンドラ錠(サムターン付) DC、戸当り、その他付属金物一式
硝子・塗装	FT4 (100×100) 粉体焼付塗装	FT4 (150×150) 粉体焼付塗装	FT4 (150×150) 粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	FT4 (800×250) 粉体焼付塗装
備考		非常時間錠装置			扉内ガラスウール充填	

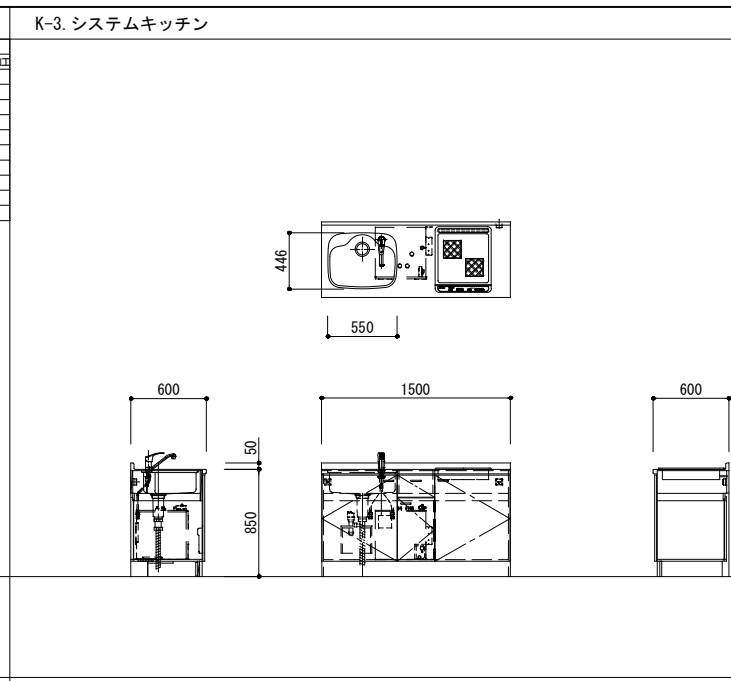
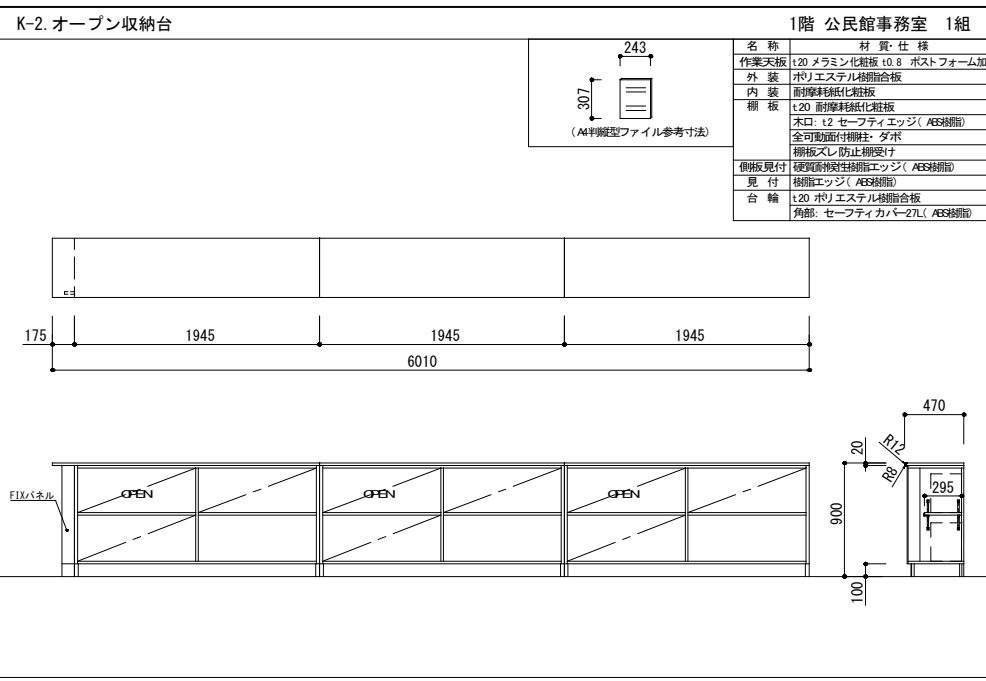
記号・数量	13 LSD 1階:ステージ 1箇所	14 LSD 2階:倉庫 1箇所	15 LSD 2階:収録室、サーバー室 2箇所	16 LSD 2階:物入 1箇所	17 LSD 2階:SK室 1箇所	18 LSD 2階:展示室 1箇所
形状						
建具種類	軽鋼製3枚引きフラッシュ戸	軽鋼製両開きフラッシュ戸	軽鋼製親子開きフラッシュ戸	軽鋼製引き分けフラッシュ戸	軽鋼製片開きフラッシュ戸	軽鋼製引き分けフラッシュ戸
材種・見込	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP	ｽﾌｰﾙ (SOP) 枠:ｽﾌｰﾙ SOP
金物	引手、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ、ｼﾘﾝｸﾞ-錠 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ)	丁番、ﾄﾞｰﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝｸﾞ-錠 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ) DC、戸当りﾌﾞﾗｯｽﾞ落し、その他付属金物一式	丁番、ﾄﾞｰﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝｸﾞ-錠 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ) DC、戸当りﾌﾞﾗｯｽﾞ落し、その他付属金物一式	引手、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ	丁番、ﾄﾞｰﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り、その他付属金物一式	引手、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ、ｼﾘﾝｸﾞ-錠 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ)
硝子・塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装	粉体焼付塗装
備考		ｶﾞﾘ (150×1800)				
記号・数量	1 SP 2階:展示室 1箇所	1 SF 1階:男女便所 2箇所	2 SF 2階:男女便所 2箇所	2 SF 1階:給湯室 (支所事務室) 1箇所	1 TB 1階:男子便所 1箇所	2 TB 1階:女子便所 1箇所
形状						
建具種類	ｽﾃｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼﾞｮﾝ	3方枠	3方枠	3方枠	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ
材種・見込	ｽﾃｰﾙ (SOP) 枠見込80	ｽﾃｰﾙ (SOP)	ｽﾃｰﾙ (SOP)	ｽﾃｰﾙ (SOP)	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40
金物	引棒 (L=450)、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ、ｼﾘﾝｸﾞ-錠 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ)、衝突防止ｼｰﾙ				丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式
硝子・塗装	扉・はめ殺し窓:T5 ランマ:T4					
備考						
記号・数量	3 TB 1階:女子便所 1箇所	4 TB 1階:女子便所 1箇所	5 TB 1階:女子便所 1箇所	6 TB 2階:男子便所 1箇所	7 TB 2階:女子便所 1箇所	8 TB 2階:女子便所 1箇所
形状						
建具種類	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ
材種・見込	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40	ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧合板フラッシュ 見込40
金物	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式	丁番、ﾌﾞﾗﾞﾄﾘｰﾋﾞﾝｸﾞ、表示錠、帽子掛、SUS巾木、付属金物一式
硝子・塗装						
備考						
記号・数量	1 WD 2階:和室 1箇所	2 WD 2階:和室 1箇所	3 WD 2階:和室 1箇所	1 S 2階:和室 1箇所		
形状					【ガラス凡例】 FL フロートガラス F 型ガラス T 透明強化ガラス FT 型強化ガラス L 合わせガラス PW 網入りガラス ※合わせガラスは、FL3+ポリビニルブチラール (PVB) 30mil+FL3とする。 ※特定防火設備の鉄板厚さは1.5mm以上とする。 ※アルミ断熱パネル:アルミ樹脂複合パネル t3+発泡樹脂+アルミ樹脂複合パネル t3 熱伝導率1.726W/m・k 防煙壁 ― 建具上にH=50cmの防煙壁を確保すること	
建具種類	引き違い戸	3枚引戸	両開き戸	6枚引障子		
材種・見込	木製 ｷﾞﾗｽ合板フラッシュ 見込36	木製 ｷﾞﾗｽ合板フラッシュ 見込36	木製 ｷﾞﾗｽ合板フラッシュ 見込36	ｽﾌﾞﾙｰｽ 見込30		
金物	引手、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ	引手、戸車、SUSﾌｯｸｰﾚｰﾙ	丁番、引き手、ｷﾞｯﾁｰﾞ金物	引手		
硝子・塗装				強化障子紙		
備考						



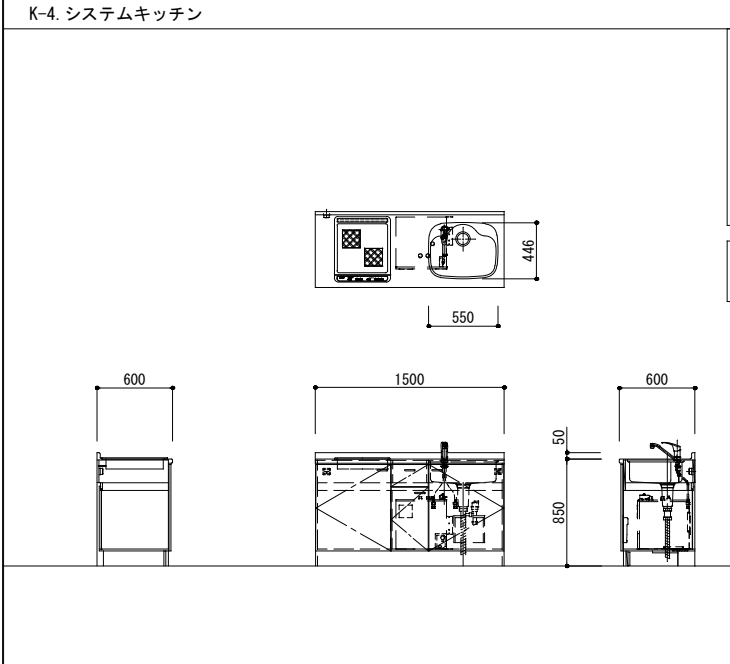




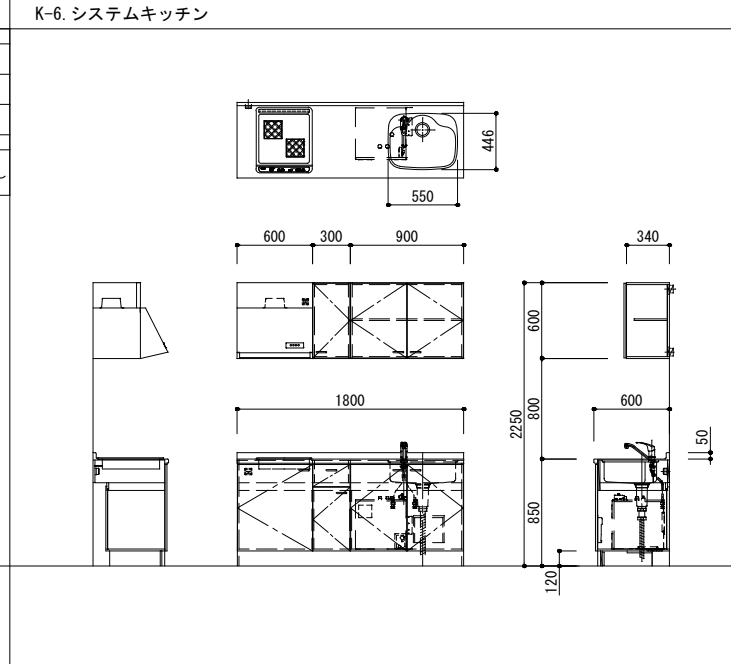
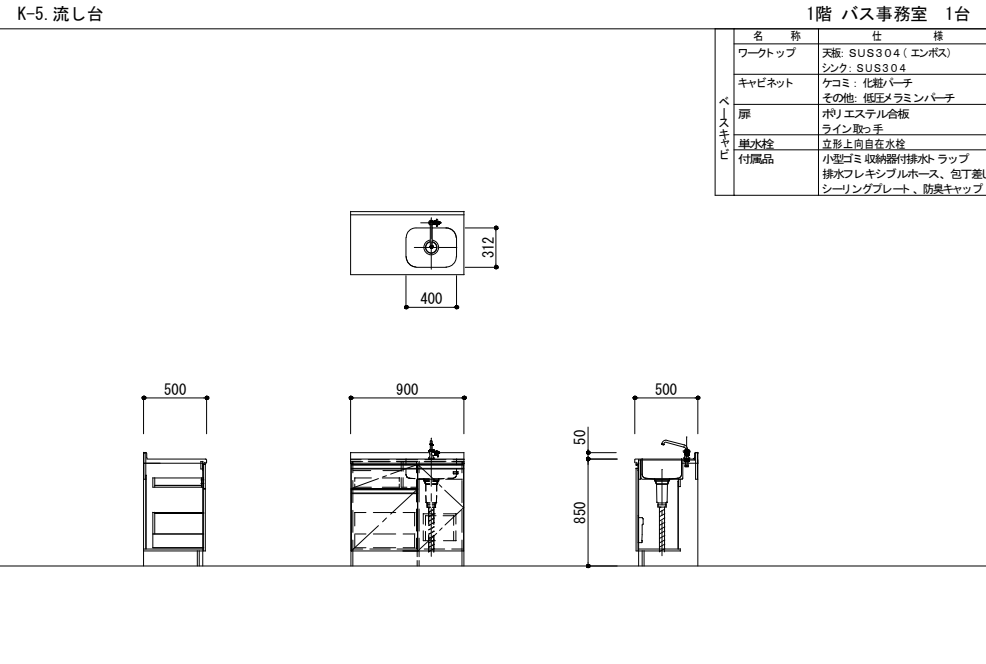
1階 公民館事務室 1組	
名称	材質・仕様
作業天板	t20メラミン化粧板 t0.8 ポストフォーム加工
外装	ポリエステル樹脂合板
内装	耐摩耗化粧板
棚板	t20 耐摩耗化粧板
開口	t2 セーフティエッジ (AES樹脂)
開口	全可動耐付閉付 多ホ
開口	棚板スリ 防止押受け
開口	硬質耐摩耗性樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	t20 ポリエステル樹脂合板
開口	木口: 樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	成形引手 (AES樹脂)
開口	一体成形ガイドレール (FR樹脂)
開口	成形ノブ 縦枠 II 型 (AES樹脂)
開口	一体成形ルーラー (AES樹脂)
開口	t20 ポリエステル樹脂合板
開口	角部: セーフティカバー-27L (AES樹脂)
開口	三次元コーナー
開口	左角部 三次元コーナー拡大図
開口	(A4判縦型ファイル参考寸法)



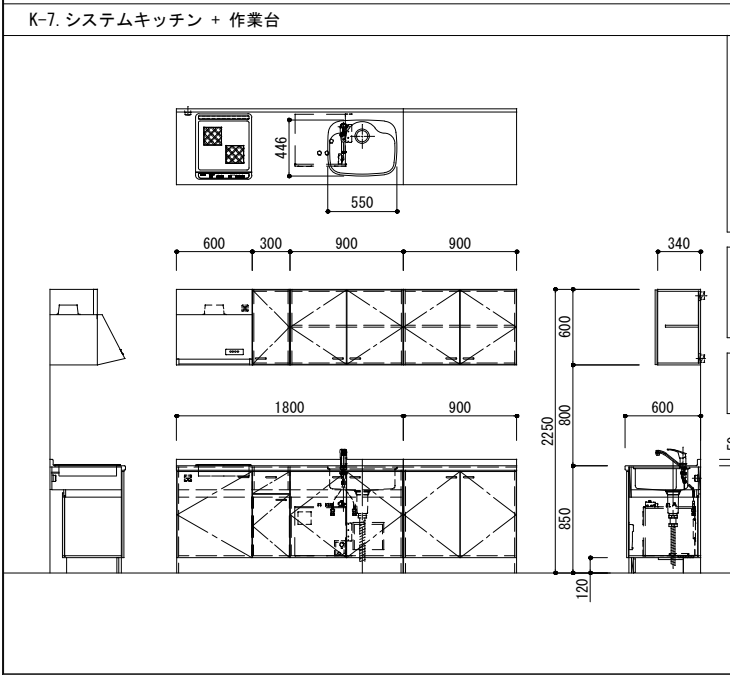
1階 公民館事務室 1台	
名称	仕様
ワークトップ	天板: SUS304 (エポス) シンク: SUS304
キャビネット	ケコミ: 化粧バーチ
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製 HZ-9.6
開口	混合水栓 流し台用シングルレバー式
開口	I Hヒーター 2000W 2口 200V-4000W
開口	付属品 小型ゴミ収納器付排水ラップ 排水フレキシブルホース、包丁差し シーリングプレート、防臭キャップ
開口	コンセント 200V-20A (ヒーター用)
開口	電気温水器 ※設備工事



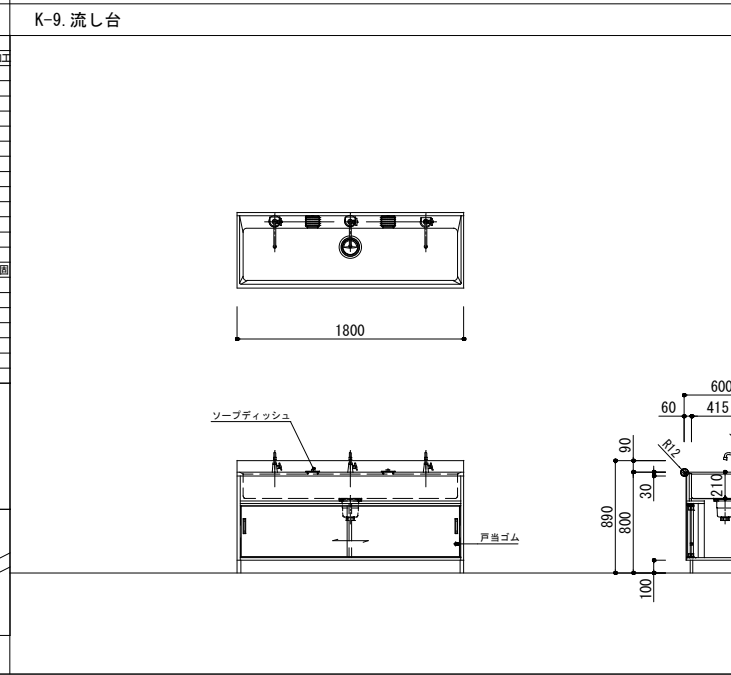
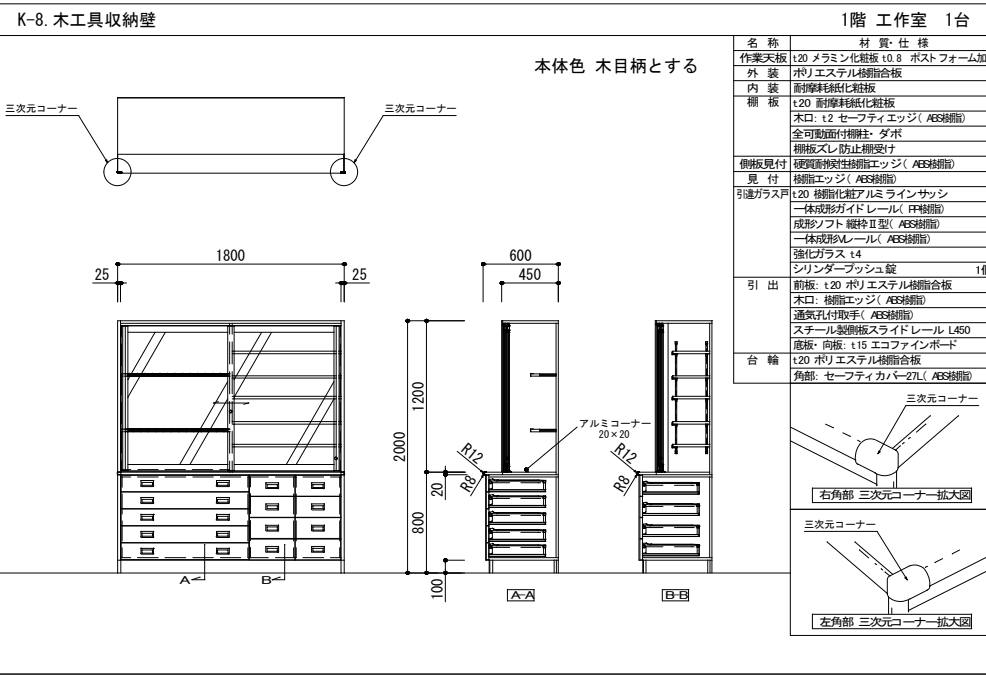
1階 住自事務室 1台	
名称	仕様
ワークトップ	天板: SUS304 (エポス) シンク: SUS304
キャビネット	ケコミ: 化粧バーチ
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製 HZ-9.6
開口	混合水栓 流し台用シングルレバー式
開口	I Hヒーター 2000W 2口 200V-4000W
開口	付属品 小型ゴミ収納器付排水ラップ 排水フレキシブルホース、包丁差し シーリングプレート、防臭キャップ
開口	コンセント 200V-20A (ヒーター用)
開口	電気温水器 ※設備工事



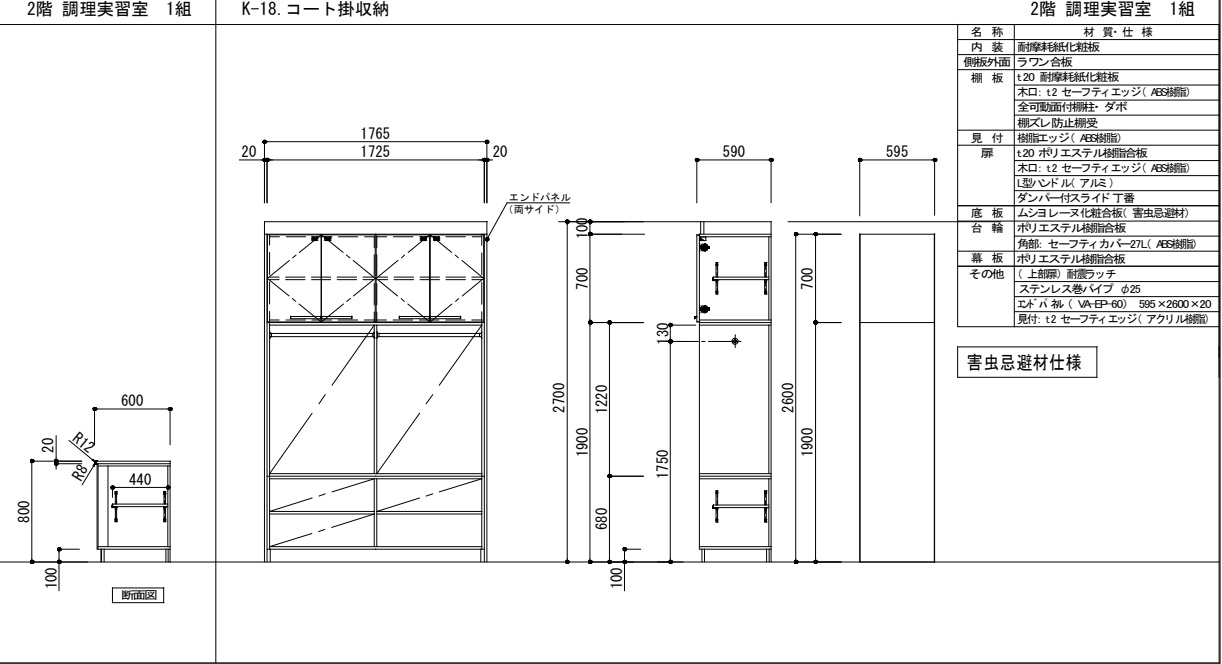
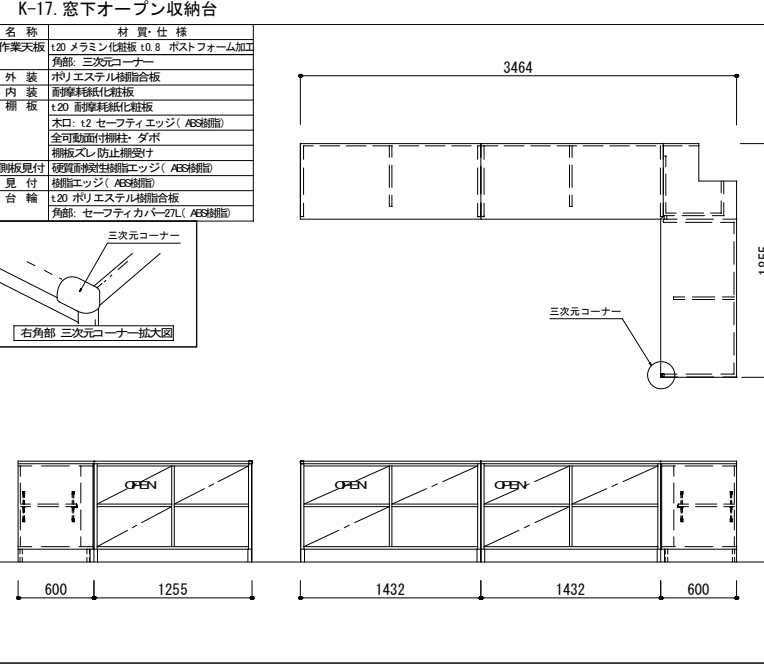
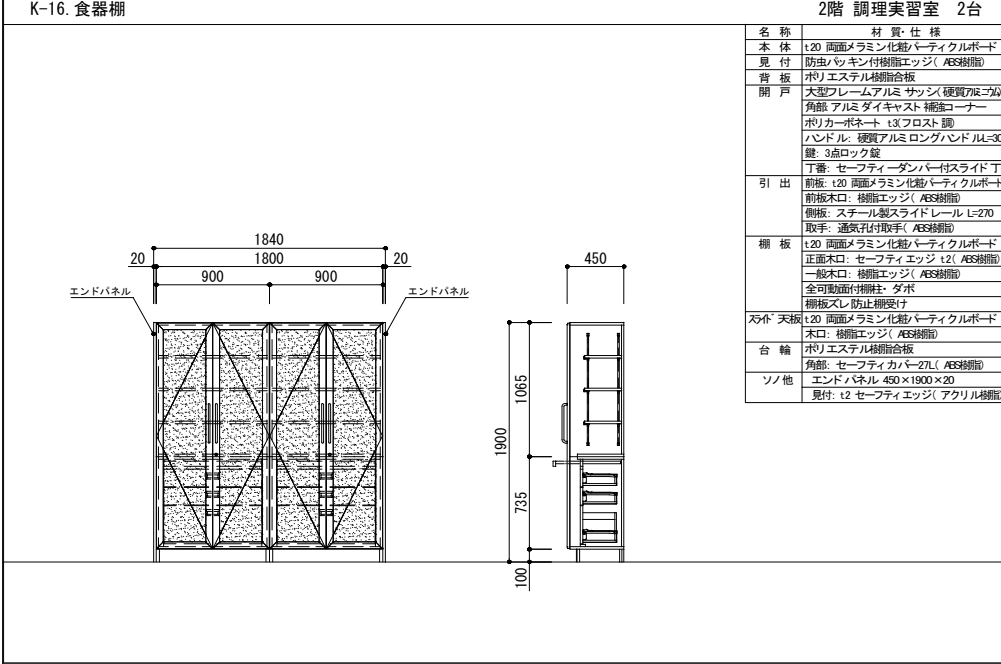
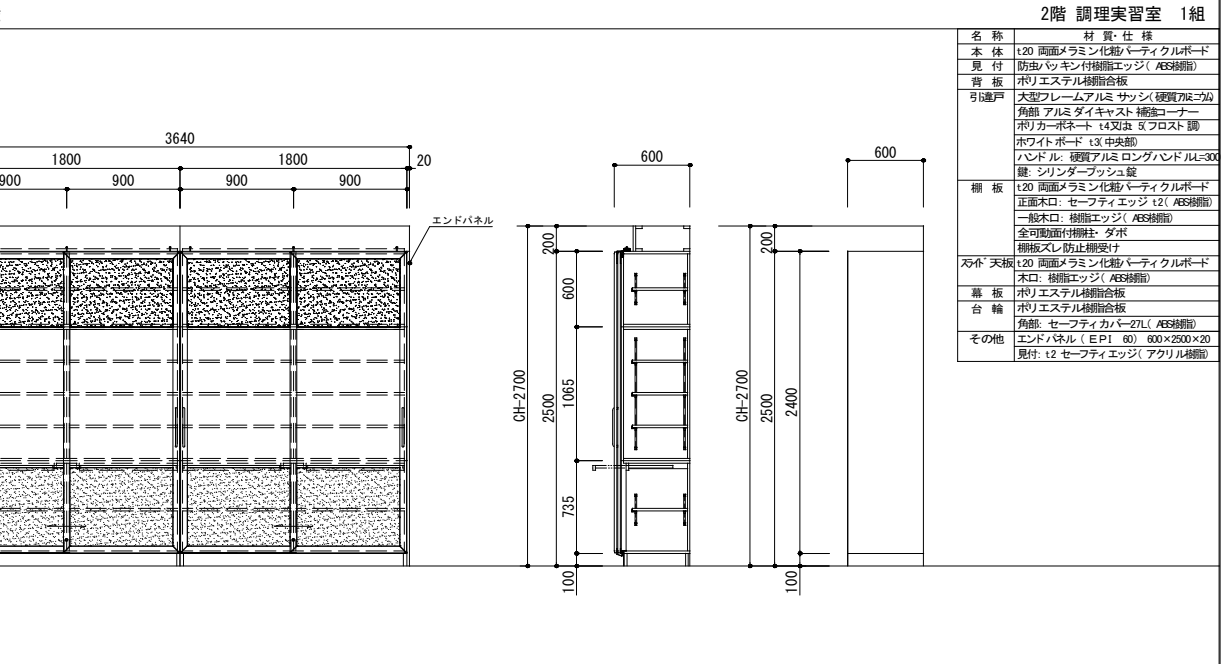
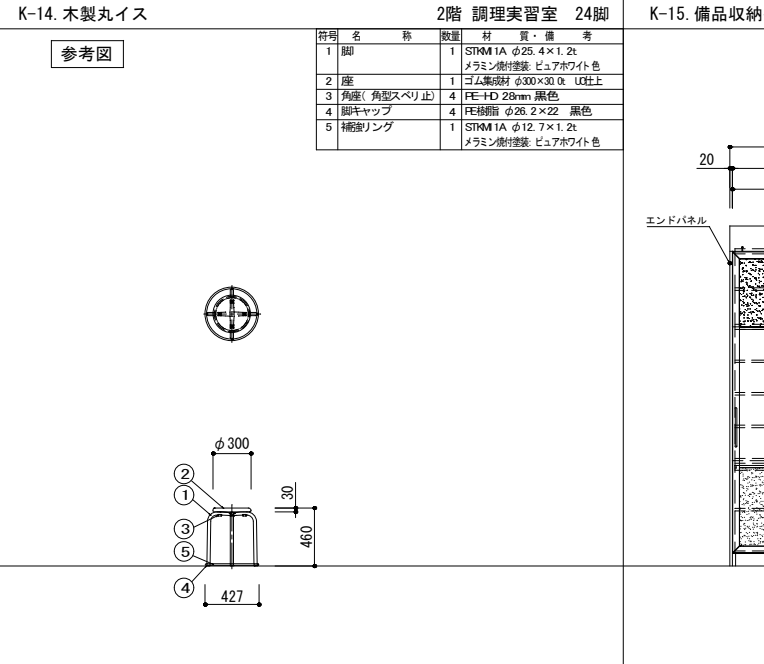
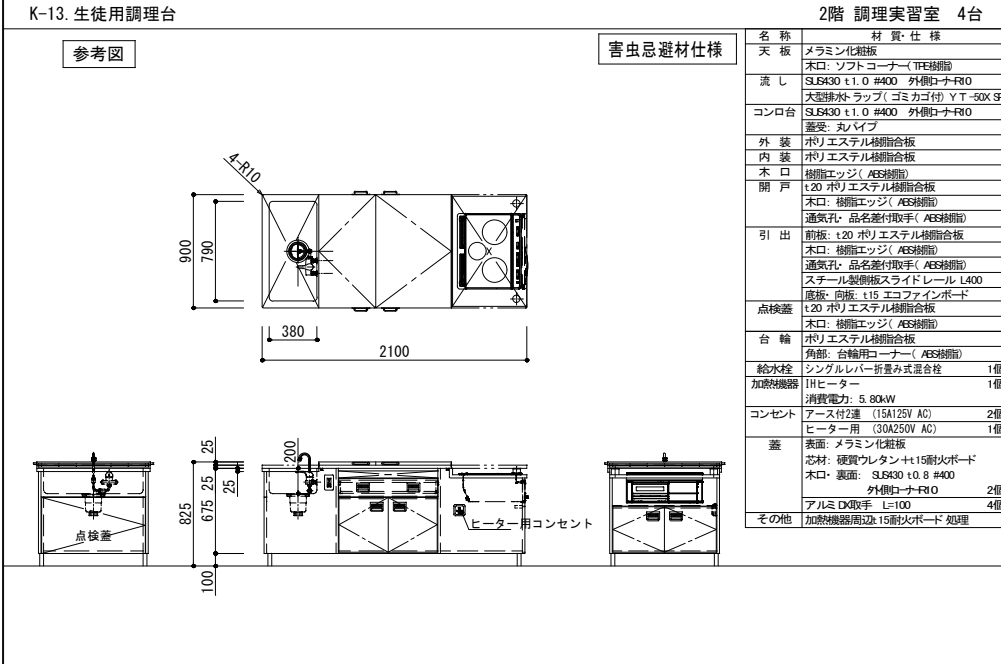
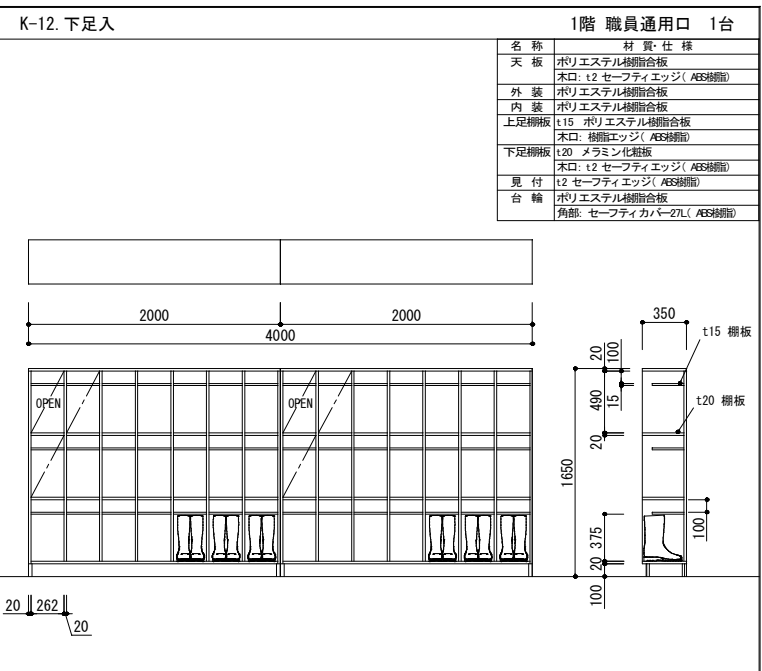
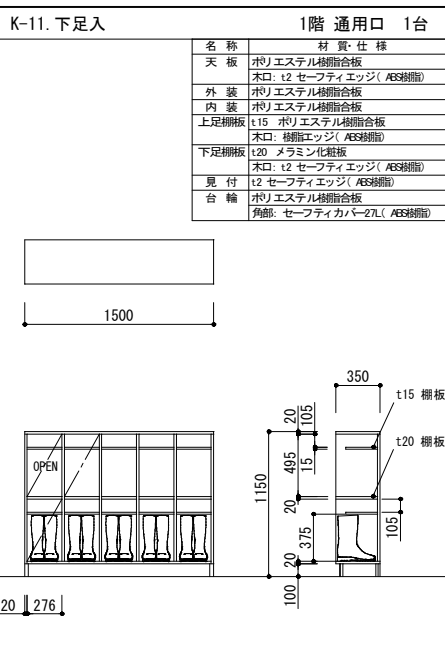
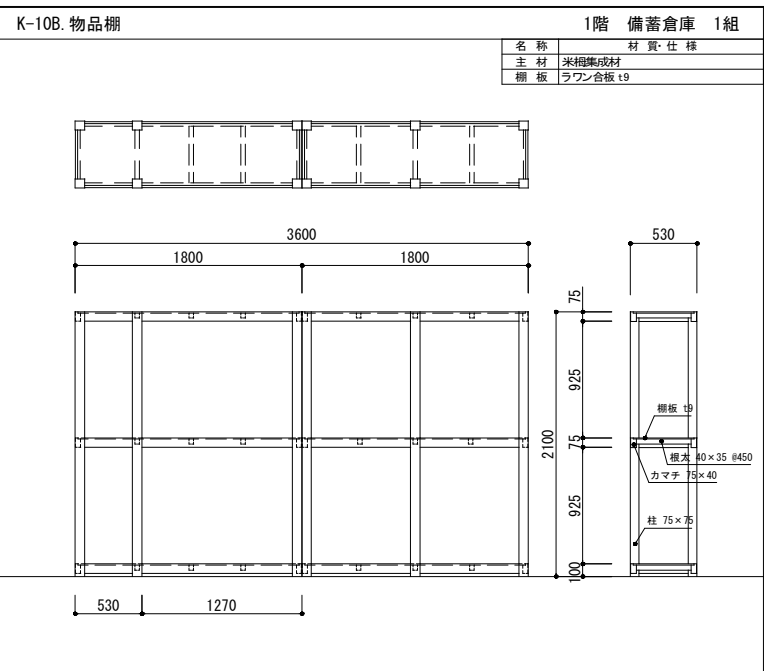
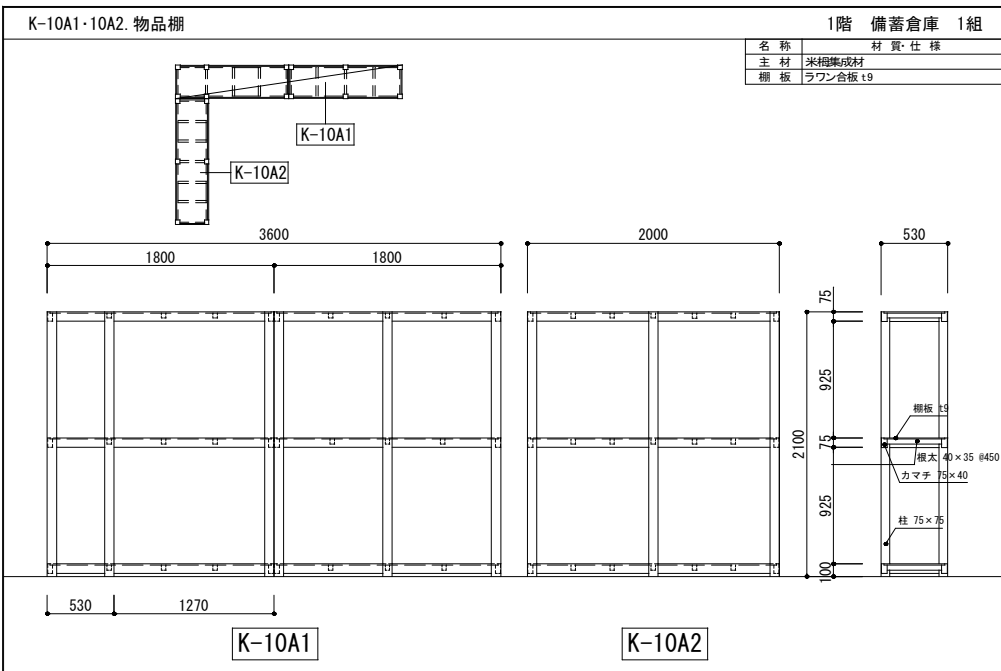
1階 給湯室 1台	
名称	仕様
ワークトップ	天板: SUS304 (エポス) シンク: SUS304
キャビネット	ケコミ: 化粧バーチ
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製 HZ-9.6
開口	混合水栓 流し台用シングルレバー式
開口	I Hヒーター 2000W 2口 200V-4000W
開口	付属品 小型ゴミ収納器付排水ラップ 排水フレキシブルホース、包丁差し シーリングプレート、防臭キャップ
開口	キャビネット フード 樹脂製 化粧不燃板
開口	フード 樹脂製 化粧不燃板
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製
開口	深煎りレンジフード
開口	コンセント 200V-20A (ヒーター用)
開口	電気温水器 ※設備工事



1階 給湯室 1台	
名称	仕様
ワークトップ	天板: SUS304 (エポス) シンク: SUS304
キャビネット	ケコミ: 化粧バーチ
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製
開口	混合水栓 流し台用シングルレバー式
開口	I Hヒーター 2000W 2口 200V-4000W
開口	付属品 小型ゴミ収納器付排水ラップ 排水フレキシブルホース、包丁差し シーリングプレート、防臭キャップ
開口	キャビネット フード 樹脂製 化粧不燃板
開口	フード 樹脂製 化粧不燃板
開口	その他: 低圧メラミンバーチ
開口	ポリエステル合板
開口	取っ手 樹脂製
開口	深煎りレンジフード
開口	コンセント 200V-20A (ヒーター用)
開口	電気温水器 ※設備工事



1階 工作室 2台	
名称	仕様
流し	SUS304 t1.0 (正源造工: 全周スロープ加工)
開口	大型排水ラップ (ゴミカゴ付) YF-50XSF
開口	外装 ポリエステル樹脂合板
開口	内装 耐摩耗化粧板
開口	開口 硬質耐摩耗性樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	開口 樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	開口 t20 ポリエステル樹脂合板
開口	開口 木口: 樹脂エッジ (AES樹脂)
開口	開口 成形引手 (AES樹脂)
開口	開口 一体成形ガイドレール (FR樹脂)
開口	開口 成形ノブ 縦枠 II 型 (AES樹脂)
開口	開口 一体成形ルーラー (AES樹脂)
開口	開口 t20 ポリエステル樹脂合板
開口	開口 角部: セーフティカバー-27L (AES樹脂)
開口	開口 給水栓 立形止水自立水栓 Y-1363S 3P
開口	開口 その他 ソープディッシュ (SUS304) 2個
開口	開口 本体色 木目柄とする。



**K-19. 清掃用具入れ**

名称	材質・仕様
内装	耐摩耗性化粧板
側板(外面)	ポリエステル樹脂合板
固定棚板	t20 耐摩耗性化粧板
木口	樹脂エッジ(AES樹脂)
見付	樹脂エッジ(AES樹脂)
扉	t20 ポリエステル樹脂合板
木口	t2 セーフティエッジ(AES樹脂)
(取っ手)	アルミ
ダンパー付スライド丁番	
反り矯正金具 L1650	1本
ムシヨレ耐性化粧板(害虫忌避材)	
台輪	t20 ポリエステル樹脂合板
角部	セーフティカバー-27L(AES樹脂)
その他	ステンレス丸パイプ φ25(幼生層付) 1本
	フック 2個
	ステンレス棒付掛 L=300 4本
	ステンレスツユ受皿 338×338×23 1個

害虫忌避材仕様

**K-20. コンパクトキッチン**

**2階 給湯室 1台**

名称	仕様
ワークトップ	天板: SUS304(エンボス) シンク: SUS304
キャビネット	ケコミ: 化粧メラミンパーティ
その他	化粧メラミンパーティ
扉	ポリエステル合板
取っ手	樹脂製 HZ-96
混合水栓	渡し台用シングルレバー式
IHヒーター	2000W 2口
	200V 4000W
付属品	小型ゴミ収納器付排水ラップ
	排水口レキプルホース、包丁差し
	シーリングプレート、防臭キャップ

キャビネット

名称	仕様
フード(側面)	化粧不燃板
フード(側面外面)	化粧不燃板
その他	化粧メラミンパーティ
扉	ポリエステル合板
取っ手	樹脂製
レンジフード	WRS-60A

コンセント 200V 20A(ヒーター用)

電気温水器 ※設備工事

**K-21. 靴入れ**

**2階 和室(踏込) 2台**

名称	材質・仕様
天板	t20メラミン化粧板 t0.8 ポストフォーム加工
外装	ポリエステル樹脂合板
内装	ポリエステル樹脂合板
棚板	t20 メラミン化粧板
見付	t2 セーフティエッジ(AES樹脂)
台輪	ポリエステル樹脂合板
角部	セーフティカバー-27L(AES樹脂)

**K-22. 物品棚**

**1階 支所倉庫 2組**

名称	材質・仕様
主材	米相模材
棚板	ラワン合板 t9

側板見付

本体見付

棚板

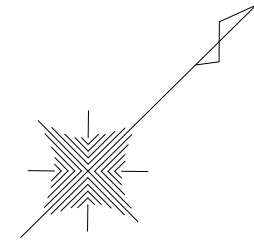
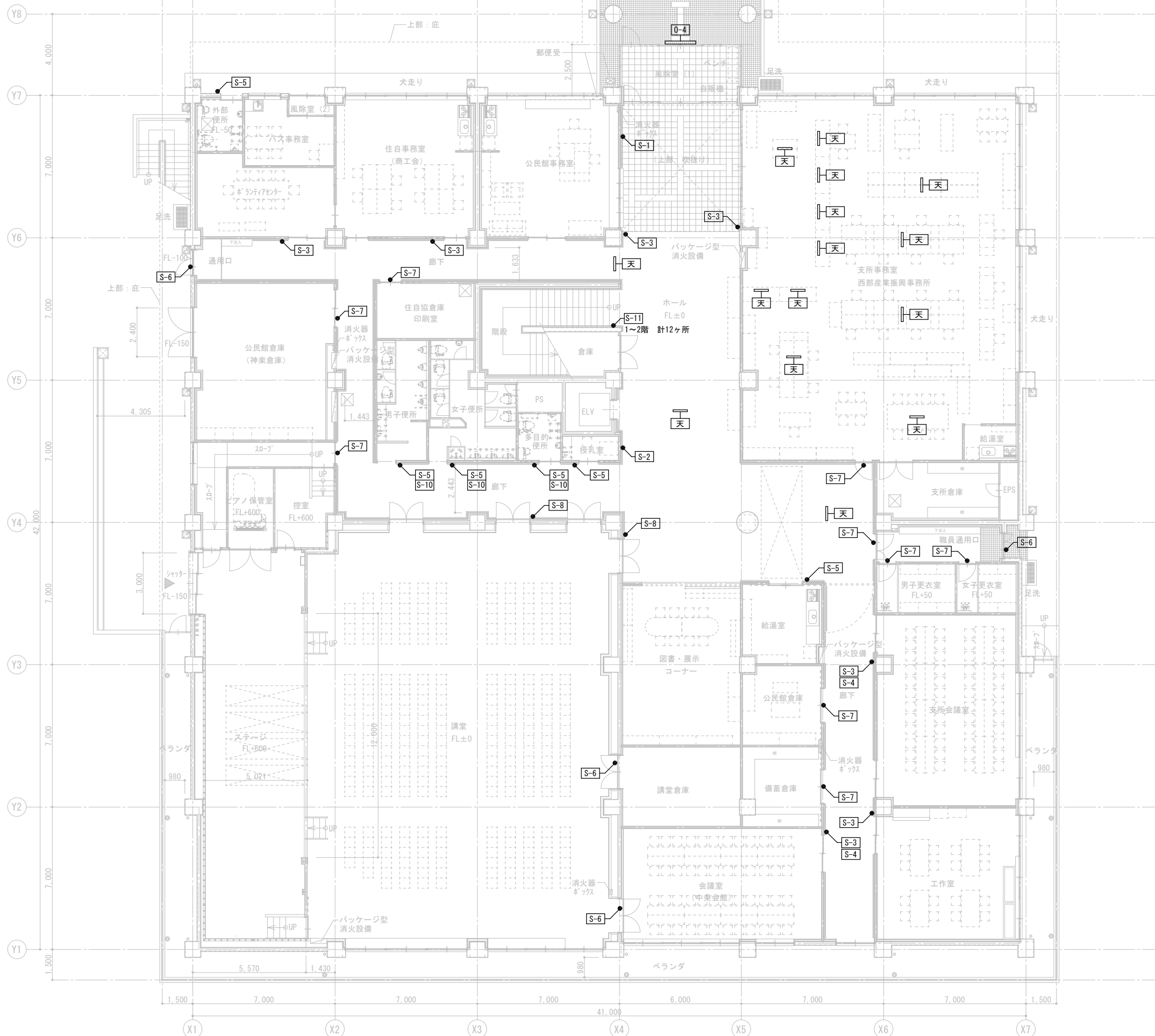
作業天板

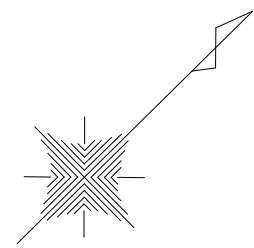
台輪角部

台輪コーナー

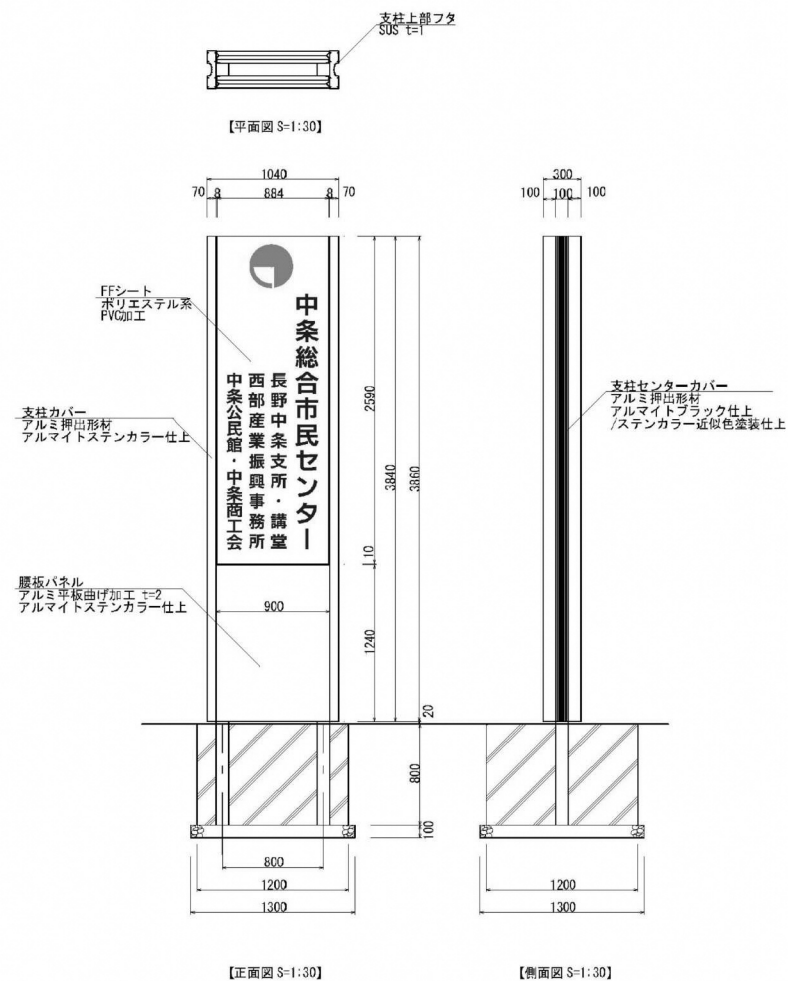
引違戸用引手  
成型引手  
(ABS樹脂製)  
(抗腐)



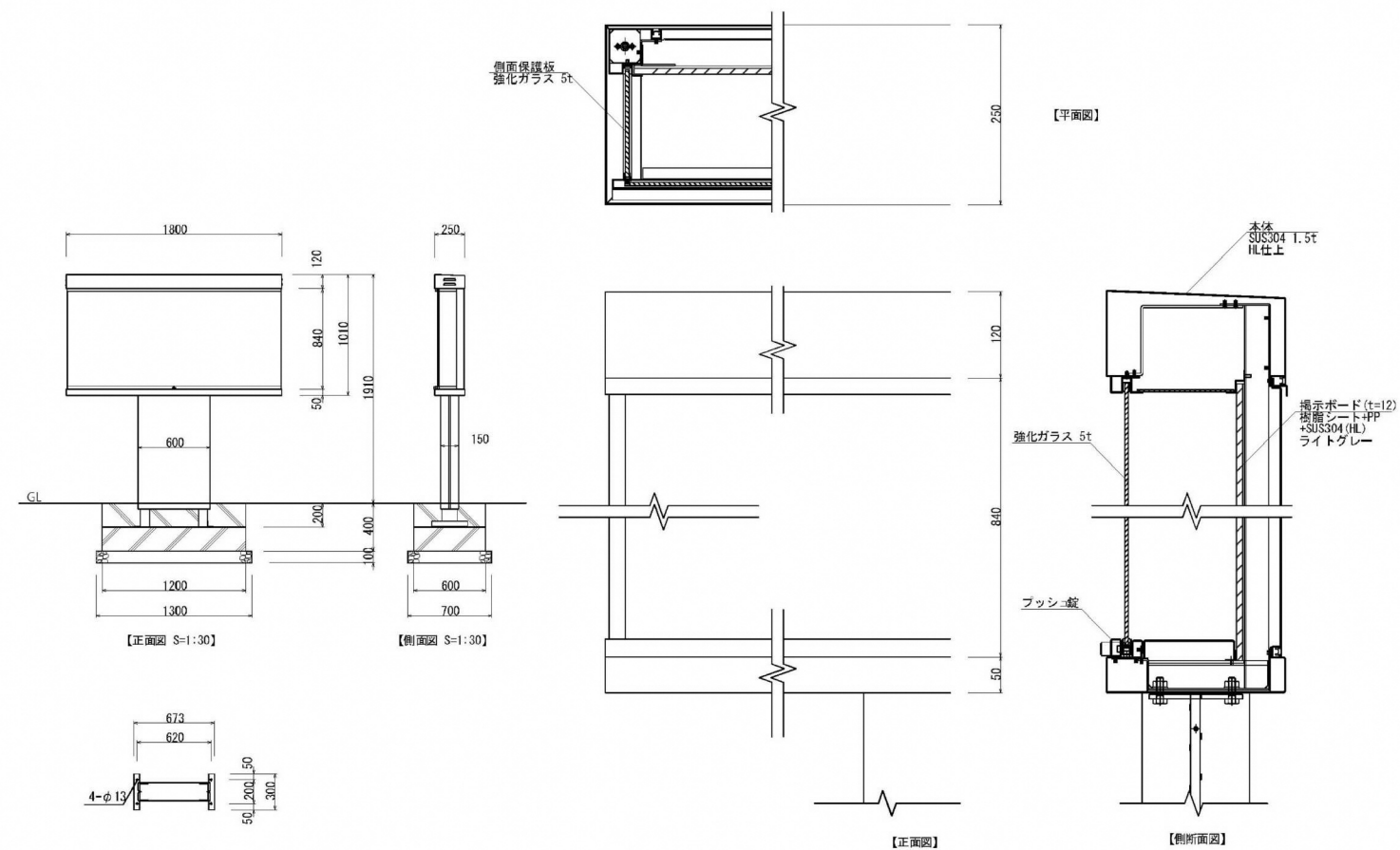




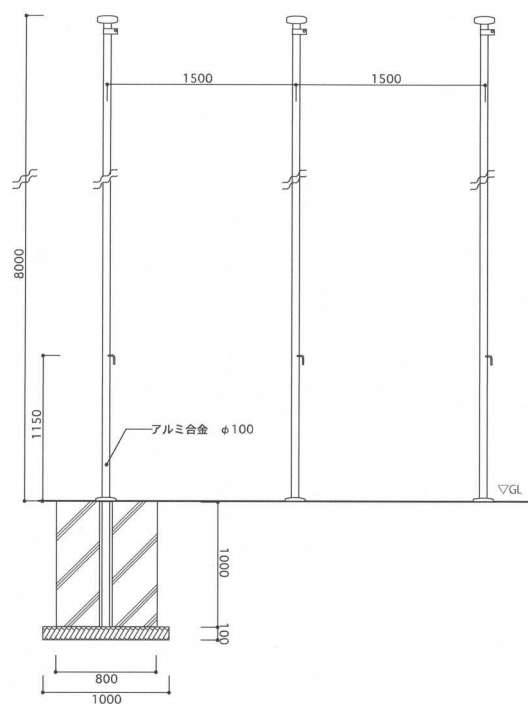
0-1 外部独立サイン



0-3 掲示板サイン



0-2 旗ポール

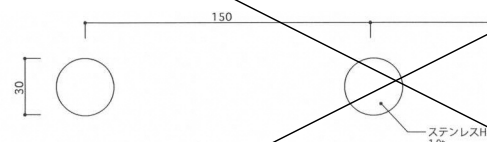


0-4 館名文字 (施設名称) サイン

中条総合市民センター

ステンレス箱文字  
HL仕上げ D=20mm

0-5 衝突防止サイン



S-6 切り文字サイン (大)

職員玄関

塩ビシート貼 (白)

S-7 切り文字サイン (小)

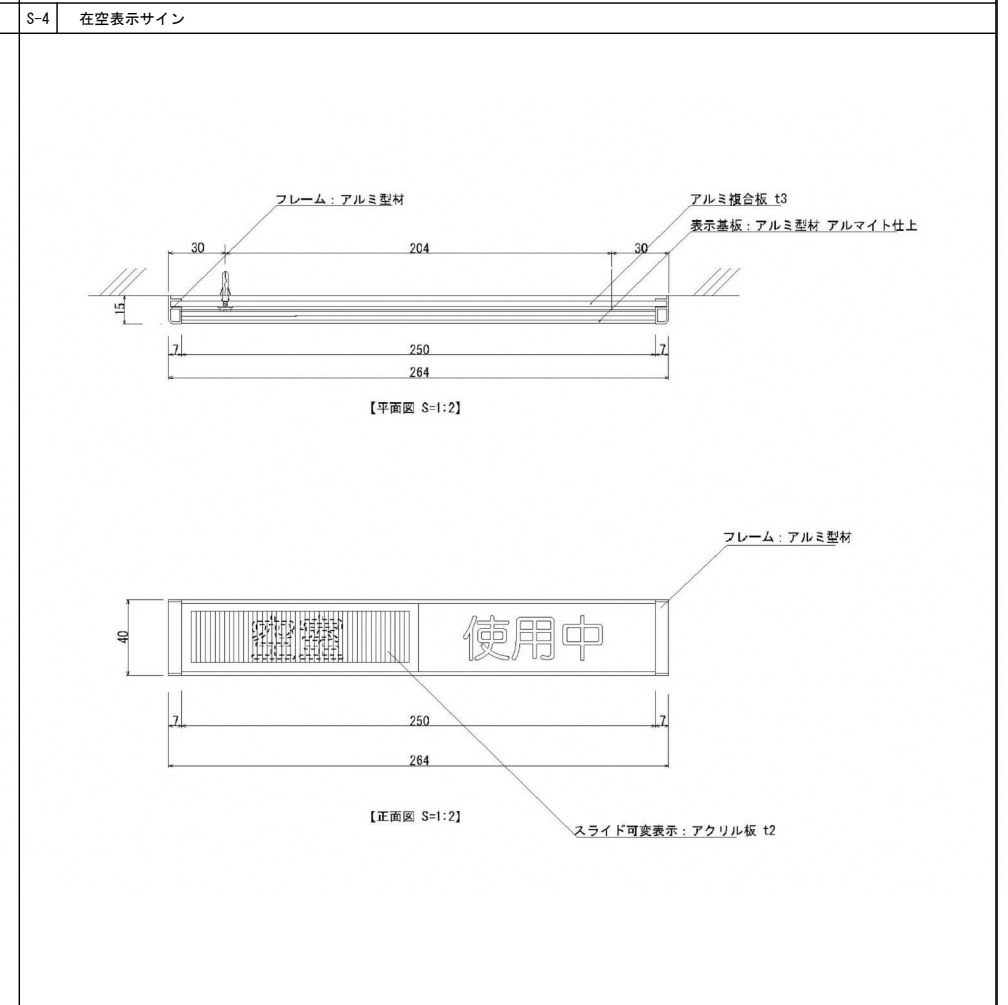
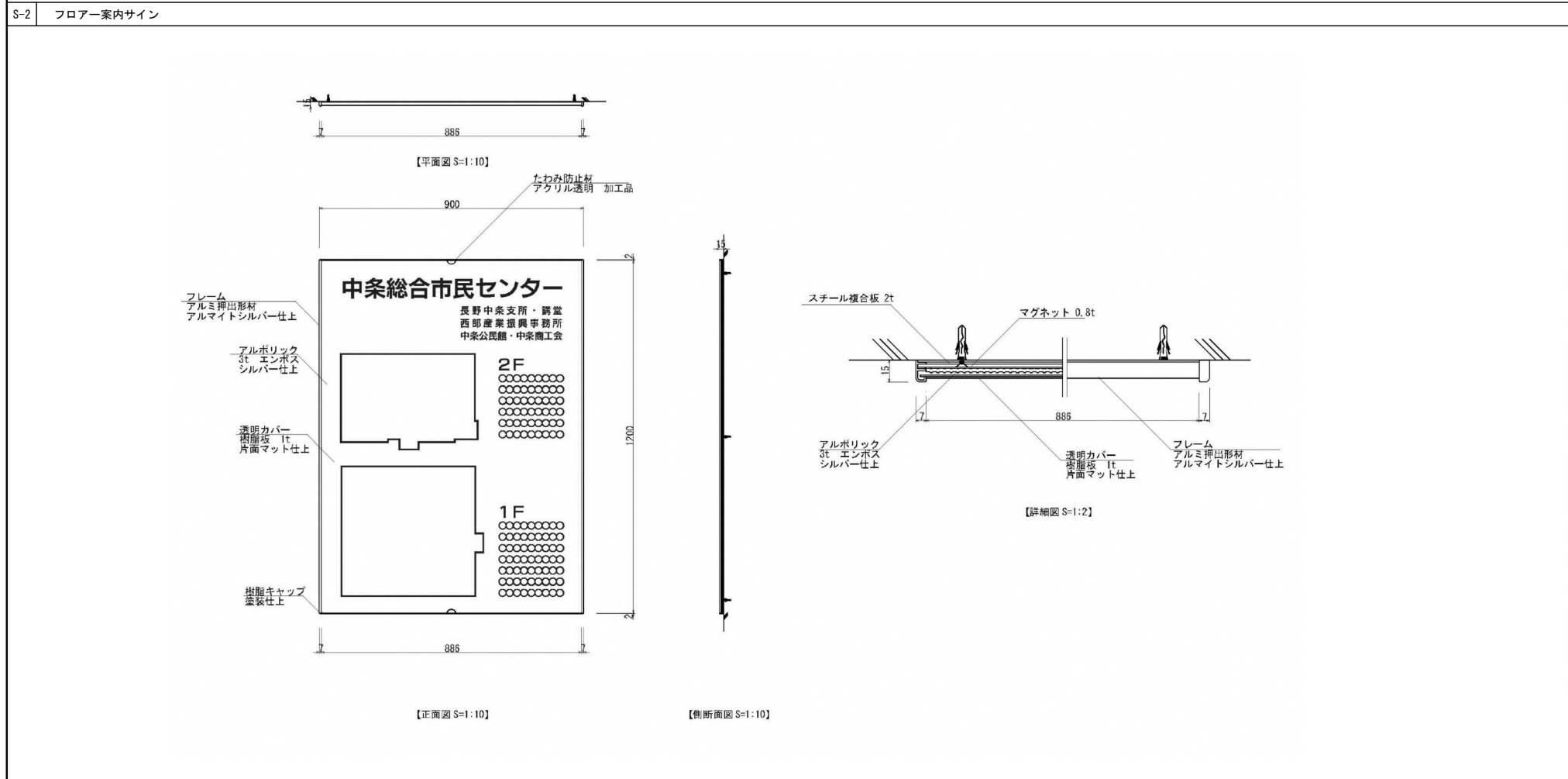
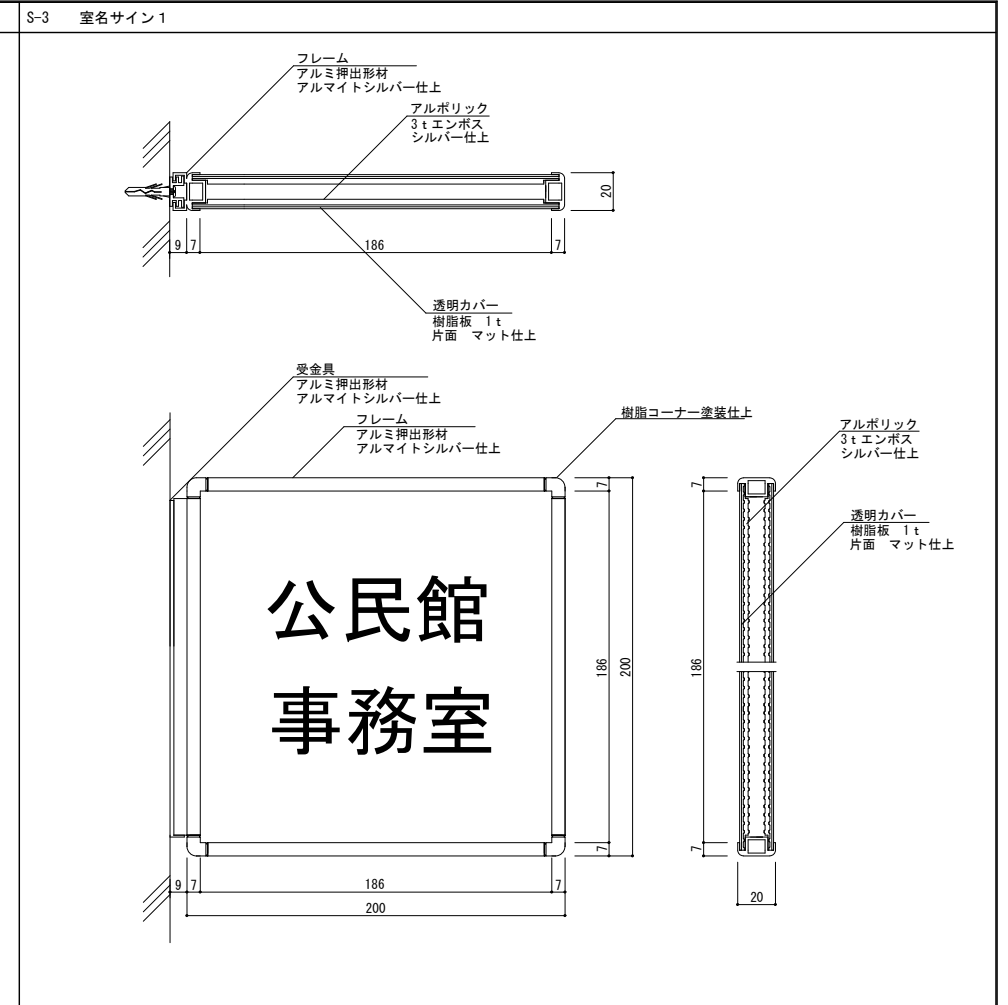
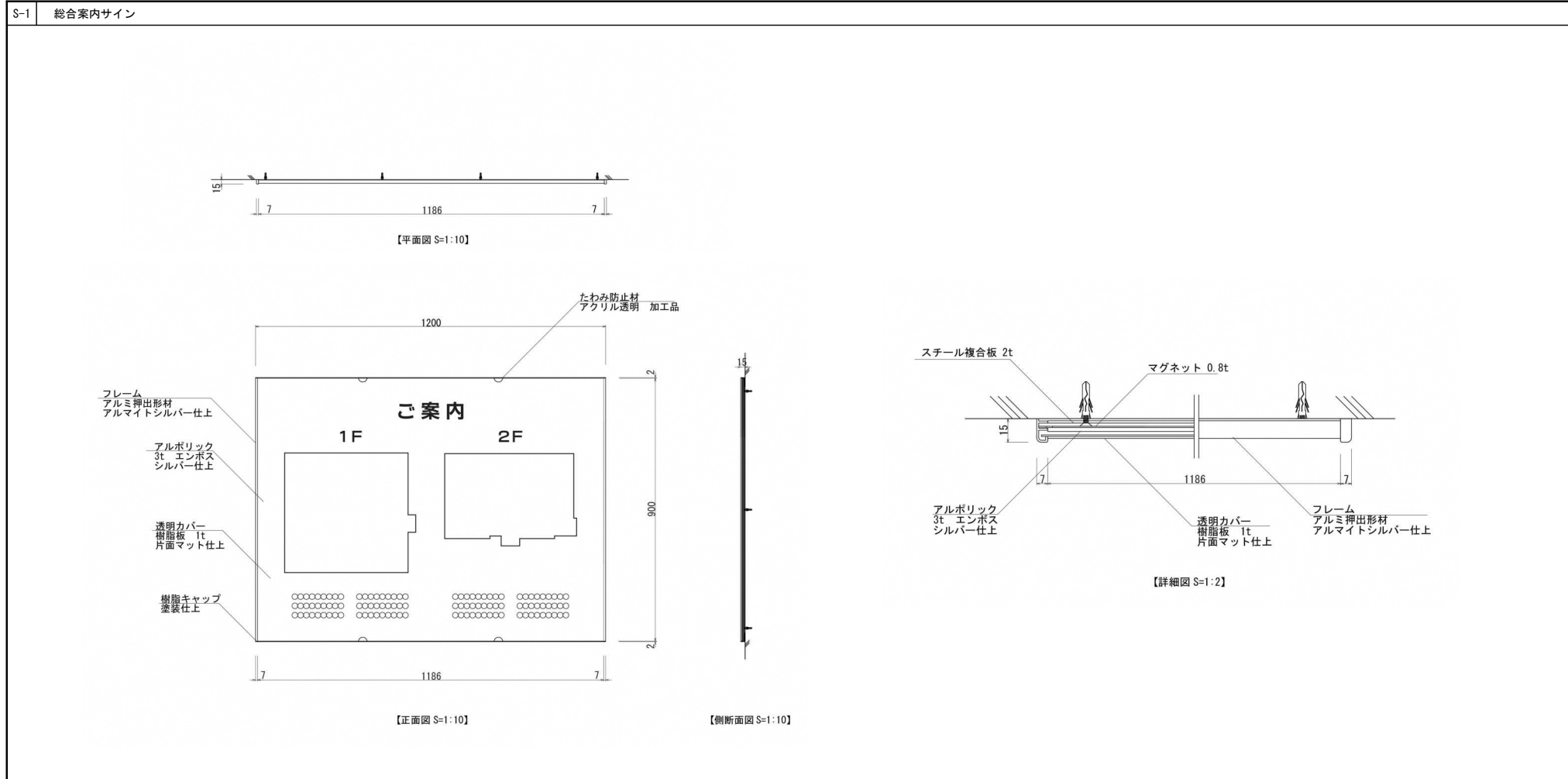
Private

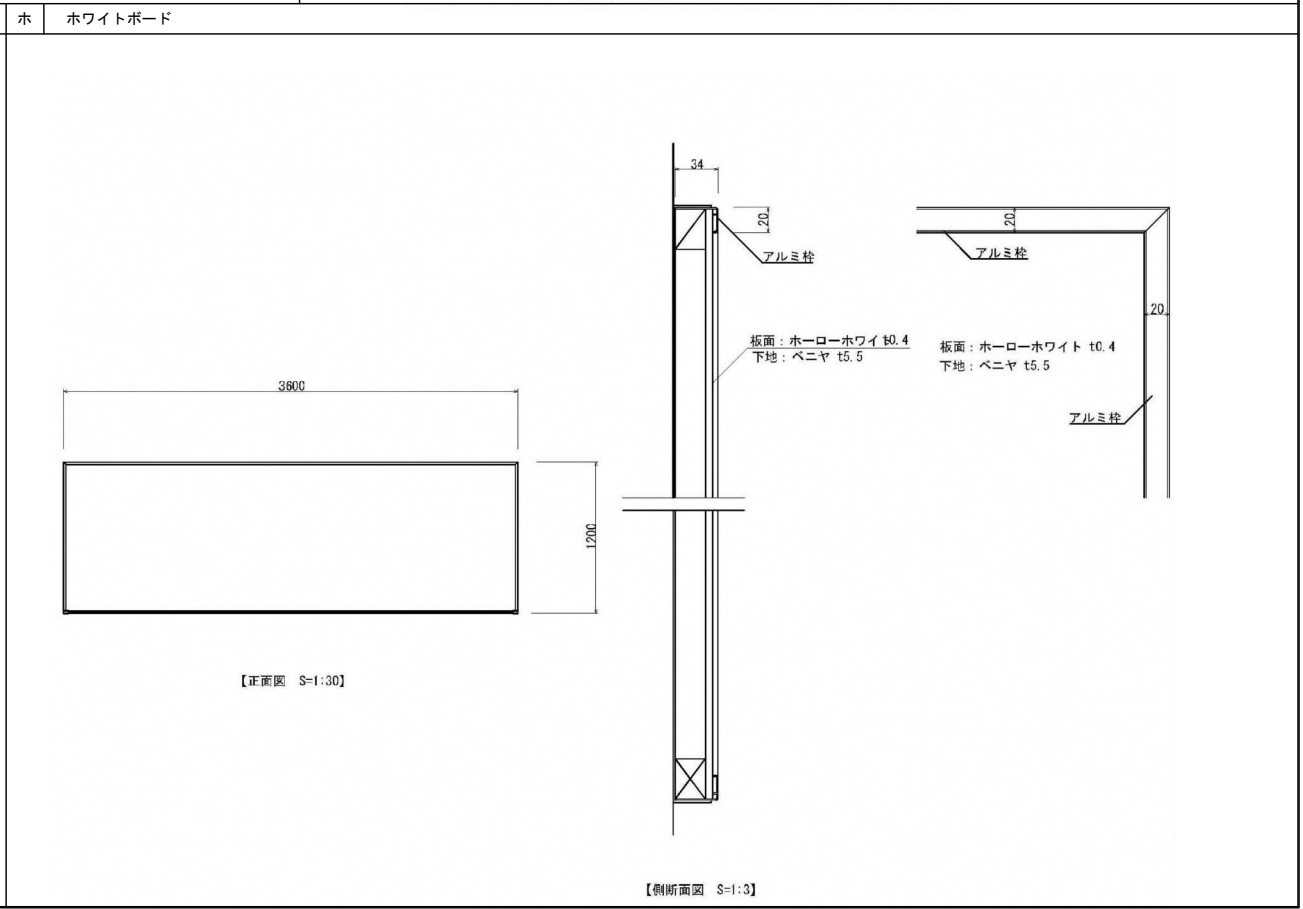
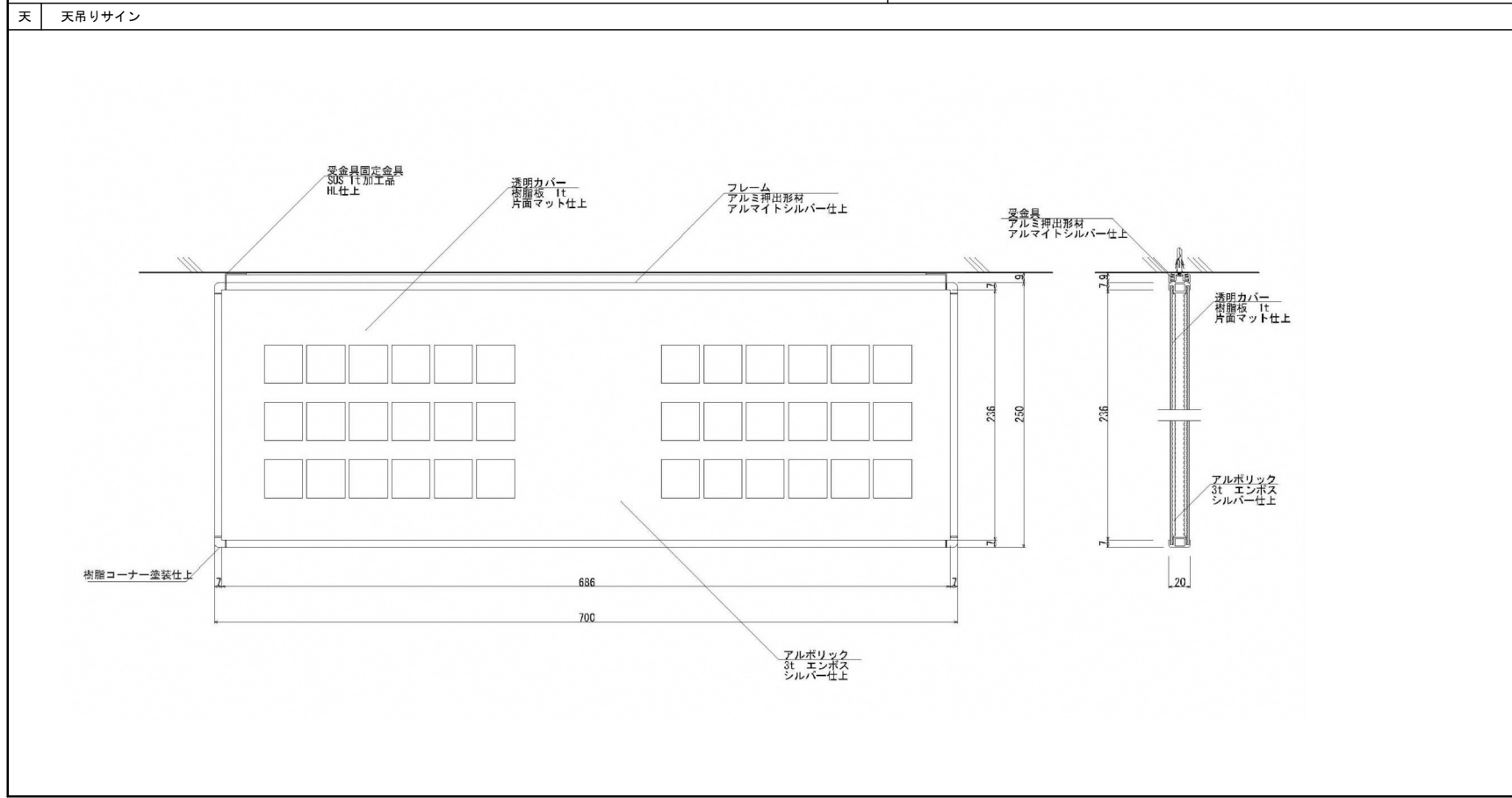
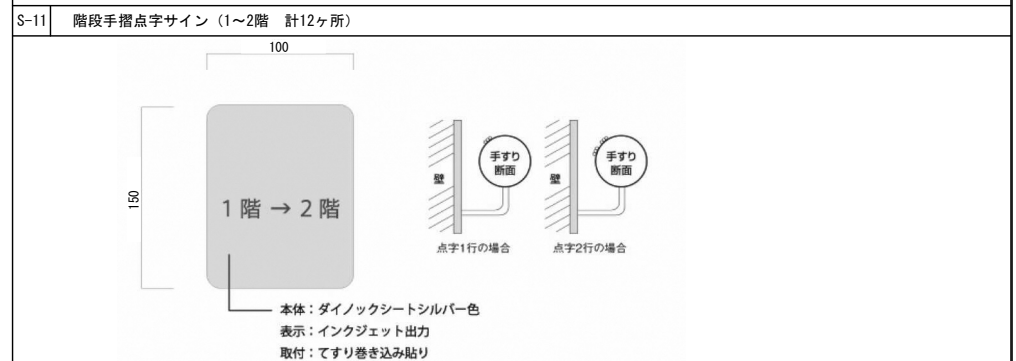
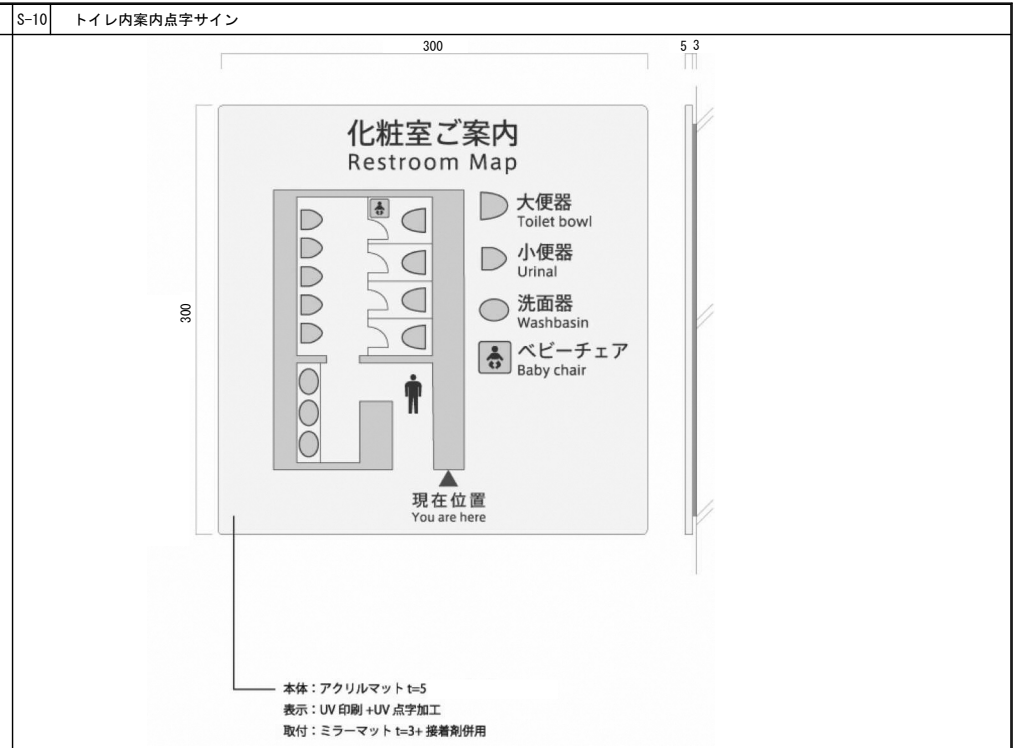
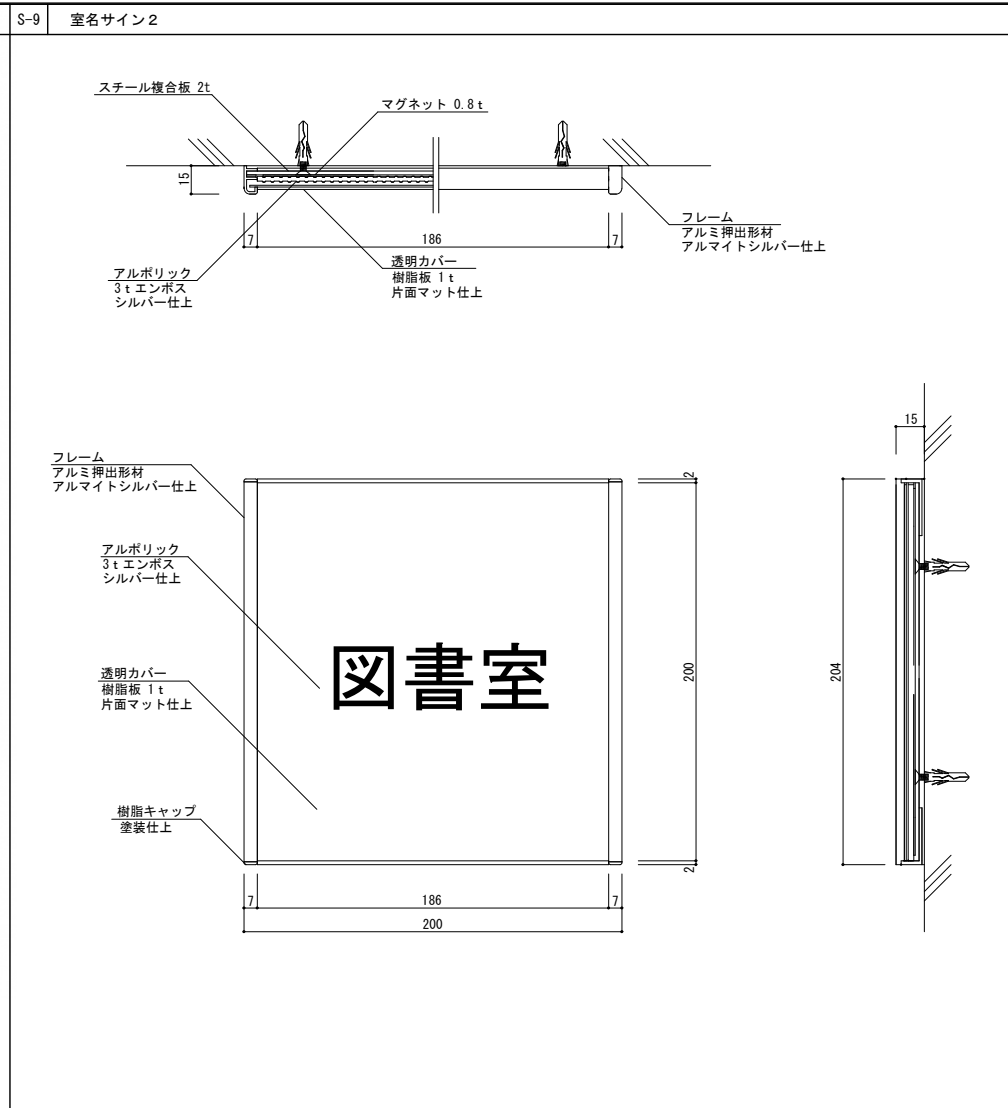
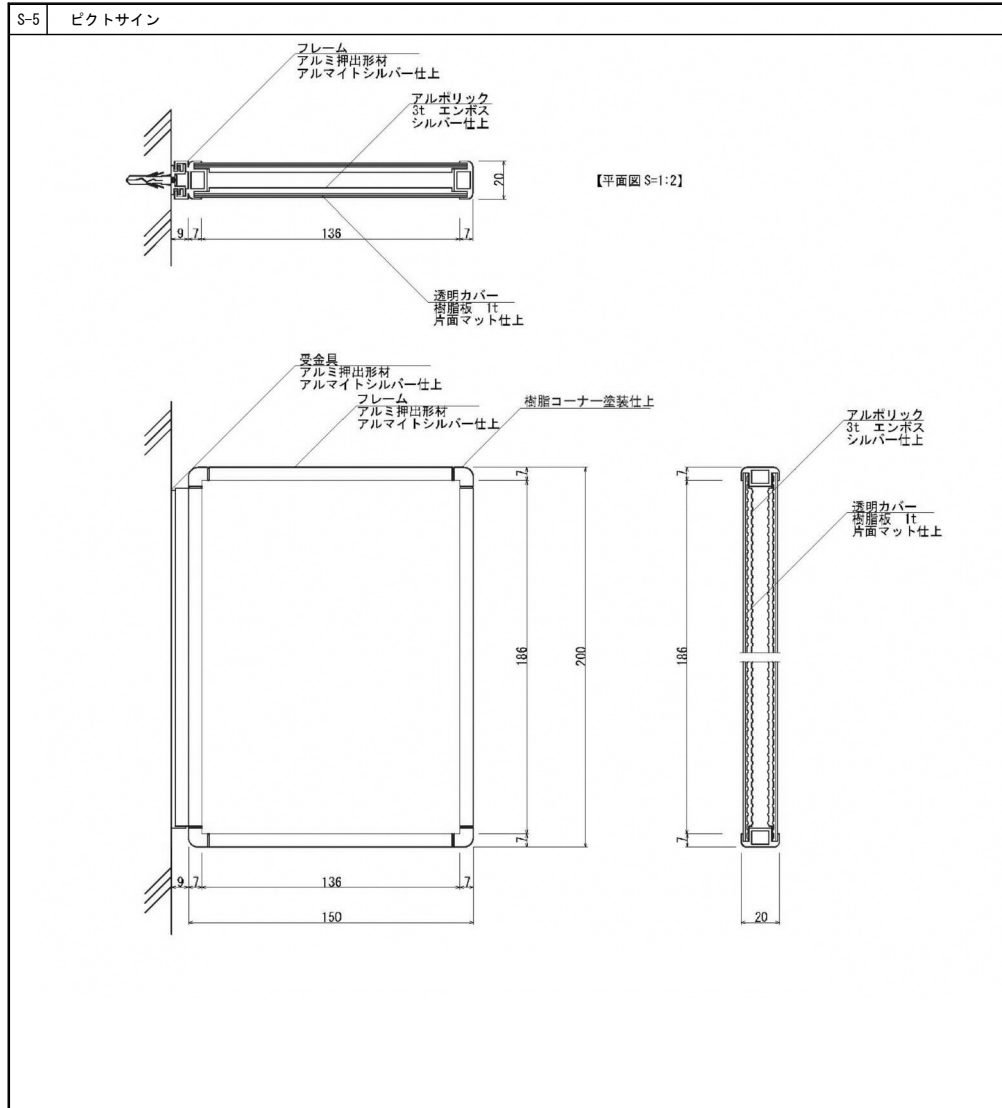
塩ビシート貼 (色は打ち合わせの上決定とする)

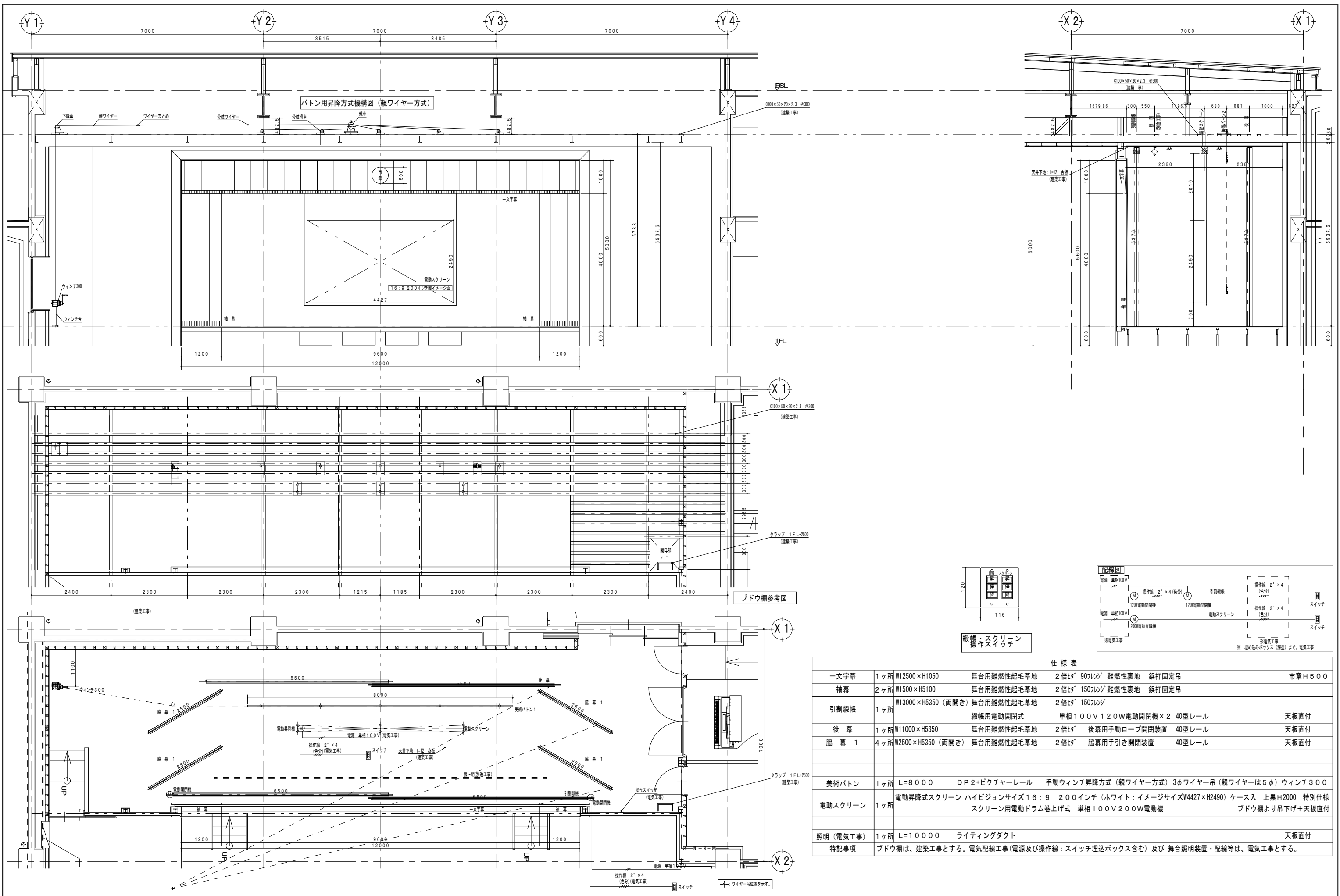
S-8 ステンレス切り文字サイン

講堂  
Auditorium

ステンレス切り文字  
HL仕上げ 5t

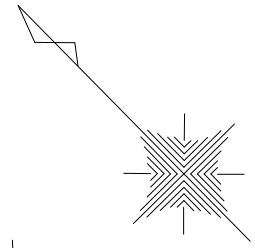






		仕様表				
一文字幕	1ヶ所	W12500×H1050	舞台用難燃性起毛幕	2倍巾' 907レンジ' 難燃性裏地	鉄打固定吊	市章H500
袖幕	2ヶ所	W1500×H5100	舞台用難燃性起毛幕	2倍巾' 1507レンジ' 難燃性裏地	鉄打固定吊	
引割縦帳	1ヶ所	W13000×H5350 (両開き)	舞台用難燃性起毛幕	2倍巾' 1507レンジ'		
後幕	1ヶ所	W11000×H5350	舞台用難燃性起毛幕	2倍巾' 後幕用自動ロープ開閉装置	40型レール	天板直付
脇幕	4ヶ所	W2500×H5350 (両開き)	舞台用難燃性起毛幕	2倍巾' 脇幕用手引き開閉装置	40型レール	天板直付
美術パトン	1ヶ所	L=8000	DP2+ピクチャーレール	手動ウィンチ昇降方式 (親ワイヤー方式)	3φワイヤー吊 (親ワイヤーは5φ)	ウィンチ300
電動スクリーン	1ヶ所		電動昇降式スクリーン	ハイビジョンサイズ16:9 200インチ (ホワイト:イメージサイズW4427×H2490)	ケース上 上黒H2000 特別仕様	スクリーン用電動ドラム巻上げ式 単相100V200W電動機
照明 (電気工事)	1ヶ所	L=10000	ライティングダクト			天板直付
特記事項	布ドウ棚は、建築工事とする。電気配線工事 (電源及び操作線:スイッチ埋込ボックス含む) 及び 舞台照明装置・配線等は、電気工事とする。					





解体建物リスト

番号	構造	面積
解体建物①	C B造 地上1階建て	7.28 m <sup>2</sup>
移設建物①	プレハブ造 地上1階建て (場内仮置場へ仮置き)	3.64 m <sup>2</sup>
移設建物②	プレハブ造 地上1階建て (場内仮置場へ仮置き)	4.18 m <sup>2</sup>
移設建物③	プレハブ造 地上1階建て (場内仮置場から決定位置へ移設)	6.25 m <sup>2</sup>

撤去電柱リスト

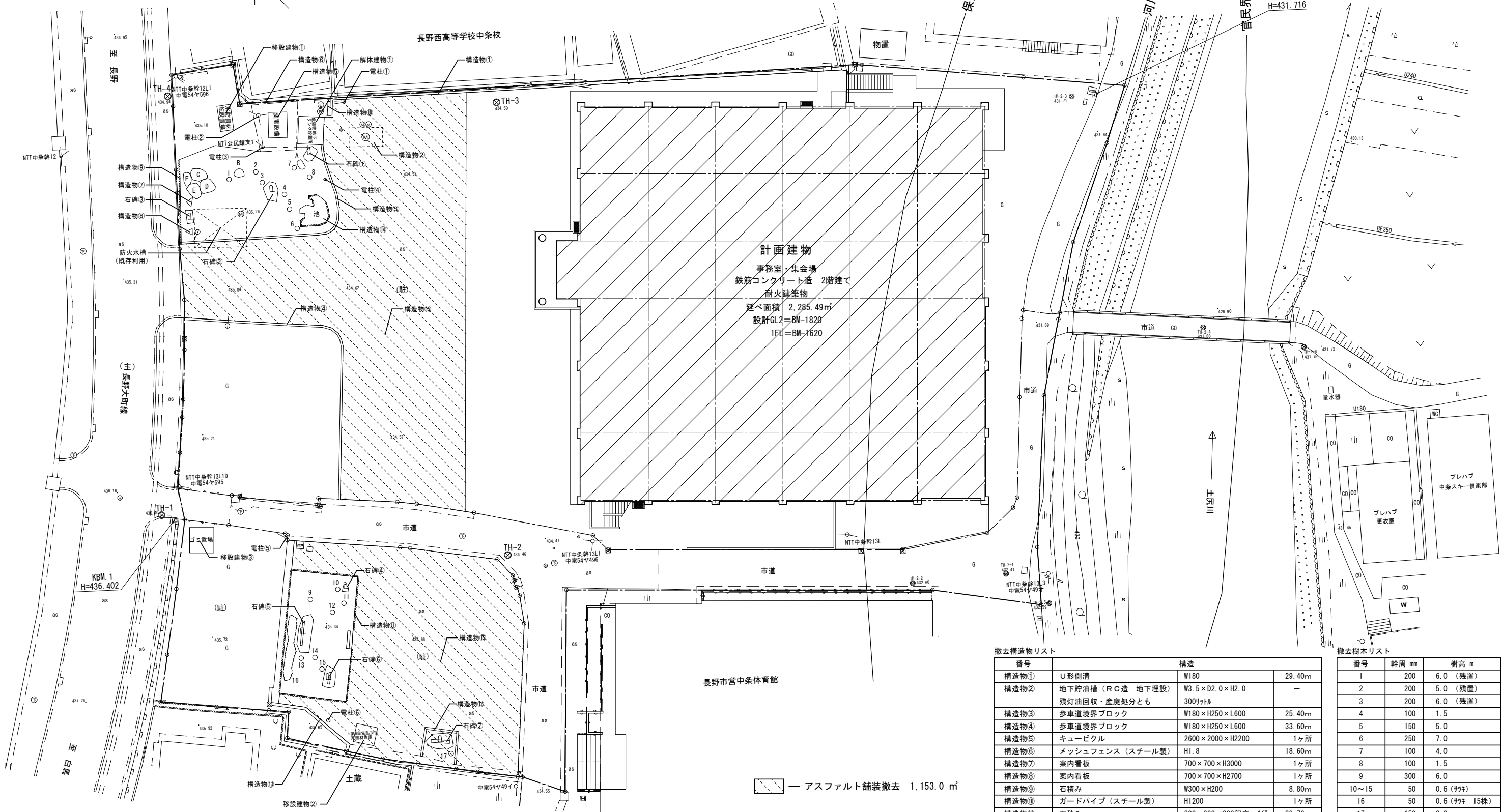
番号	サイズ
電柱①	コンクリート製 7.0m
電柱②	コンクリート製 12.0m
電柱③	鋼管製 7.0m
電柱④	鋼管製 5.0m
電柱⑤	木製 5.0m
電柱⑥	コンクリート製 15.0m

撤去石リスト

番号	サイズ
A	1.0×0.6×H1.0
B	1.0×1.0×H1.2 (残置)
C	1.6×1.6×H2.4 (残置)
D	1.1×1.3×H0.4 (残置)
E	1.5×1.2×H0.8 (残置)
F	1.2×0.7×H0.5 (残置)

移設石碑リスト

番号	サイズ	番号	サイズ
石碑①	碑 1.0×0.6×H0.9	石碑⑤	碑 2.5×0.2×H1.3
	台 1.4×1.0×H0.4		台 4.1×1.5×H1.0
石碑②	碑 1.1×0.2×H2.4	石碑⑥	碑 1.2×0.2×H1.7
	台 2.1×1.5×H0.7		台 2.0×1.0×H0.5
石碑③	碑 1.5×0.4×H0.9	石碑⑦	碑 1.9×0.3×H1.4
	台 1.2×0.8×H0.4		台 2.9×2.0×H1.0
石碑④	碑 0.25×0.15×H1.8		
	台 0.7×0.5×H0.3		



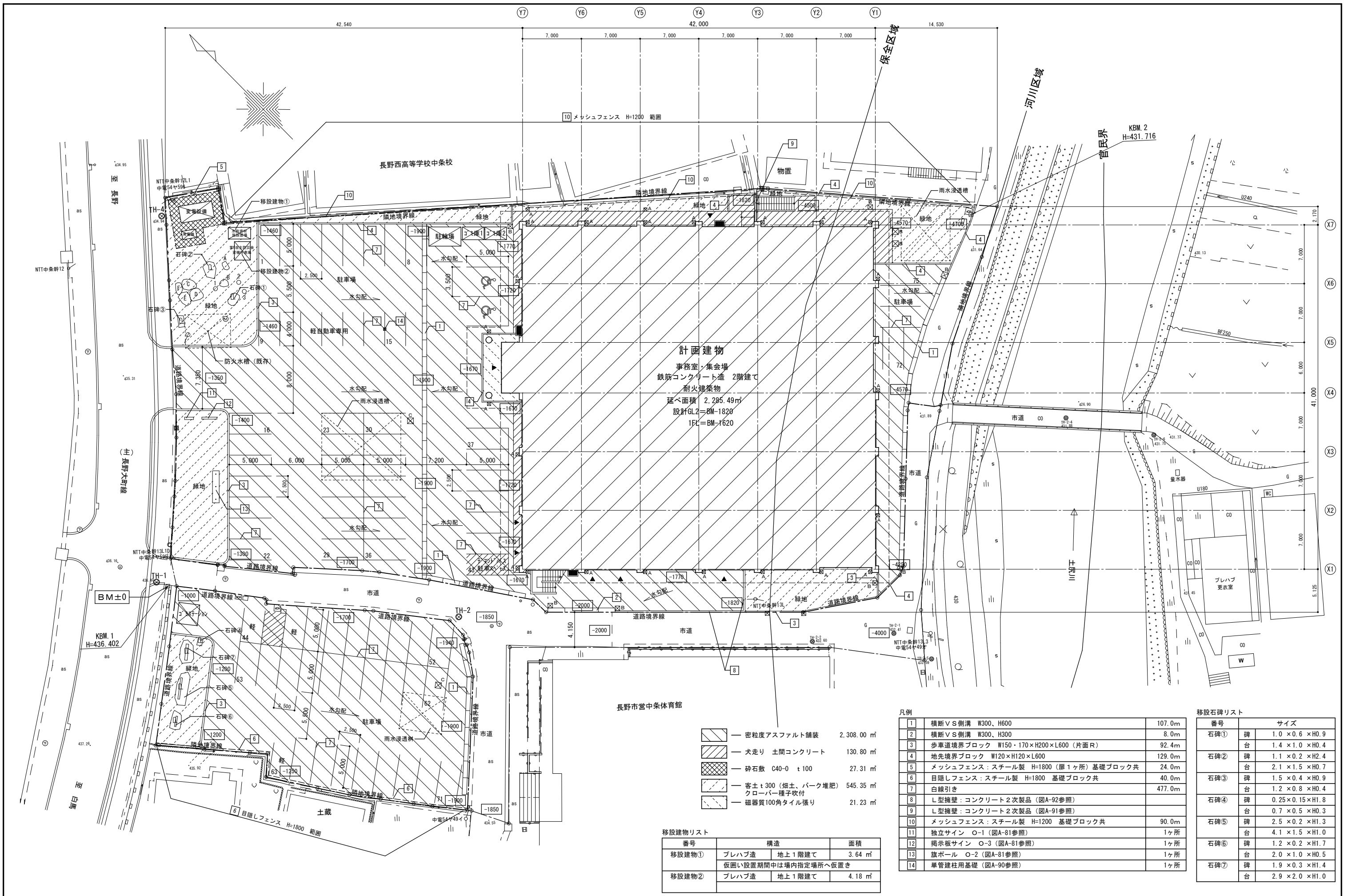
— アスファルト舗装撤去 1,153.0 m<sup>2</sup>

撤去構造物リスト

番号	構造	面積
構造物①	U形側溝	W180 29.40m
構造物②	地下貯油槽 (RC造 地下埋設) 残灯油回収・産廃処分とも	W3.5×D2.0×H2.0 300リットル
構造物③	歩車道境界ブロック	W180×H250×L600 25.40m
構造物④	歩車道境界ブロック	W180×H250×L600 33.60m
構造物⑤	キュービクル	2600×2000×H2200 1ヶ所
構造物⑥	メッシュフェンス (スチール製)	H1.8 18.60m
構造物⑦	案内看板	700×700×H3000 1ヶ所
構造物⑧	案内看板	700×700×H2700 1ヶ所
構造物⑨	石積み	W300×H200 8.80m
構造物⑩	ガードパイプ (スチール製)	H1200 1ヶ所
構造物⑪	石積み	300×300×200程度 1段 39.70m
構造物⑫	歩車道境界ブロック	W180×H200×L600 3.40m
構造物⑬	コンクリート擁壁	W300×D500 11.80m
構造物⑭	池	8.0m <sup>2</sup>
構造物⑮	アスファルト舗装 (表層)	1,153.0m <sup>2</sup>

撤去樹木リスト

番号	幹周 mm	樹高 m
1	200	6.0 (残置)
2	200	5.0 (残置)
3	200	6.0 (残置)
4	100	1.5
5	150	5.0
6	250	7.0
7	100	4.0
8	100	1.5
9	300	6.0
10~15	50	0.6 (ヤナ)
16	50	0.6 (ヤナ 15株)
17	150	3.0



計画建物  
 事務室・集会場  
 鉄筋コンクリート造 2階建て  
 耐火建築物  
 延べ面積 2,285.49㎡  
 設計GL2=BM-1820  
 1FL=BM-1620

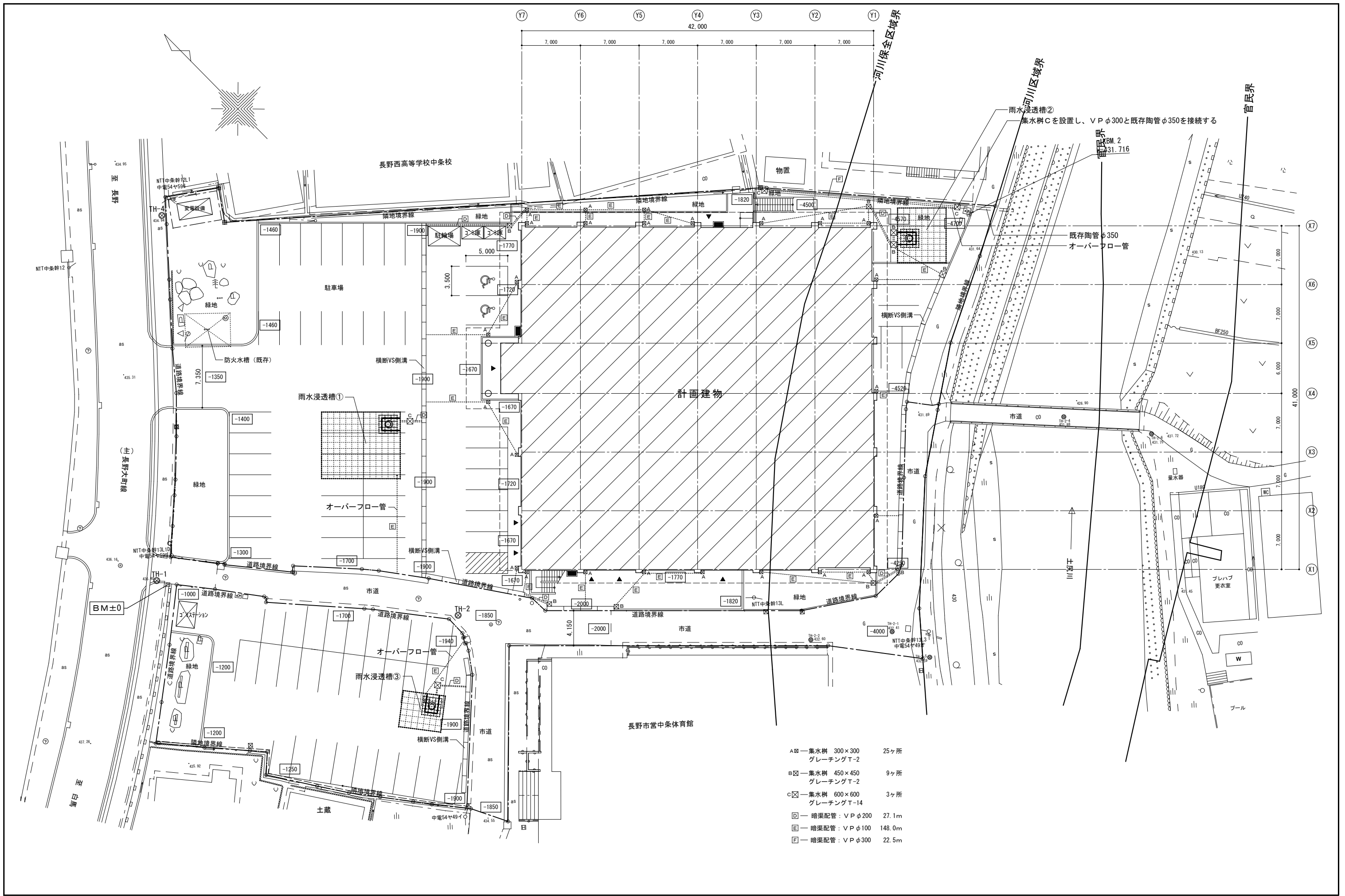
	密粒度アスファルト舗装	2,308.00㎡
	犬走り 土間コンクリート	130.80㎡
	砕石敷 C40-0 t100	27.31㎡
	客土 t300 (畑土、パーク堆肥)	545.35㎡
	磁器質100角タイル張り	21.23㎡

番号	構造	面積
移設建物①	プレハブ造 地上1階建て	3.64㎡
	仮囲い設置期間中は場内指定場所へ仮置き	
移設建物②	プレハブ造 地上1階建て	4.18㎡

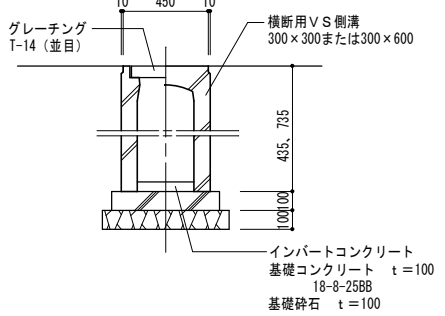
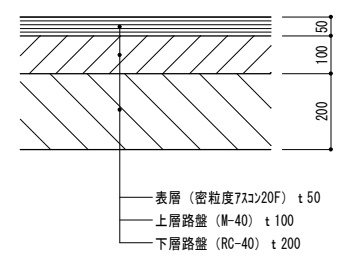
凡例	説明	面積
1	横断V S側溝 W300、H600	107.0m
2	横断V S側溝 W300、H300	8.0m
3	歩車道境界ブロック W150・170×H200×L600 (片面R)	92.4m
4	地先境界ブロック W120×H120×L600	129.0m
5	メッシュフェンス: スチール製 H=1800 (扉1ヶ所) 基礎ブロック共	24.0m
6	目隠しフェンス: スチール製 H=1800 基礎ブロック共	40.0m
7	白線引き	477.0m
8	L型擁壁: コンクリート2次製品 (図A-92参照)	
9	L型擁壁: コンクリート2次製品 (図A-91参照)	
10	メッシュフェンス: スチール製 H=1200 基礎ブロック共	90.0m
11	独立サイン O-1 (図A-81参照)	1ヶ所
12	掲示板サイン O-3 (図A-81参照)	1ヶ所
13	旗ポール O-2 (図A-81参照)	1ヶ所
14	単管建柱用基礎 (図A-90参照)	1ヶ所

番号	説明	サイズ
石碑①	碑	1.0 × 0.6 × H0.9
	台	1.4 × 1.0 × H0.4
石碑②	碑	1.1 × 0.2 × H2.4
	台	2.1 × 1.5 × H0.7
石碑③	碑	1.5 × 0.4 × H0.9
	台	1.2 × 0.8 × H0.4
石碑④	碑	0.25 × 0.15 × H1.8
	台	0.7 × 0.5 × H0.3
石碑⑤	碑	2.5 × 0.2 × H1.3
	台	4.1 × 1.5 × H1.0
石碑⑥	碑	1.2 × 0.2 × H1.7
	台	2.0 × 1.0 × H0.5
石碑⑦	碑	1.9 × 0.3 × H1.4
	台	2.9 × 2.0 × H1.0

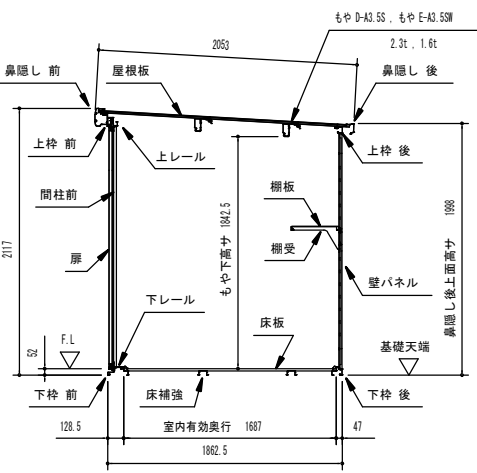
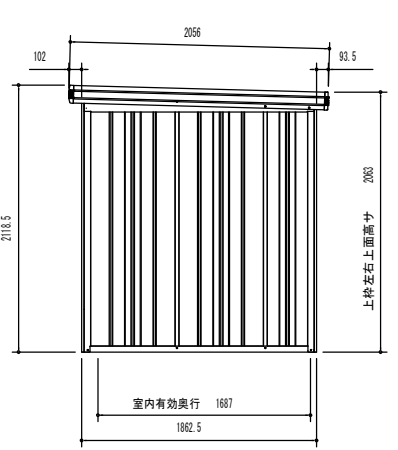
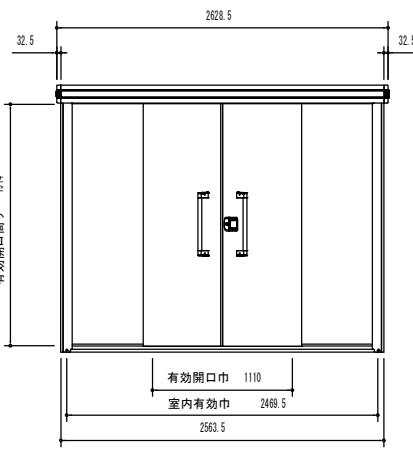




- A ☐ 集水樹 300×300 グレーティングT-2 25ヶ所
- B ☐ 集水樹 450×450 グレーティングT-2 9ヶ所
- C ☐ 集水樹 600×600 グレーティングT-14 3ヶ所
- D □ 暗渠配管：VP φ200 27.1m
- E □ 暗渠配管：VP φ100 148.0m
- F □ 暗渠配管：VP φ300 22.5m

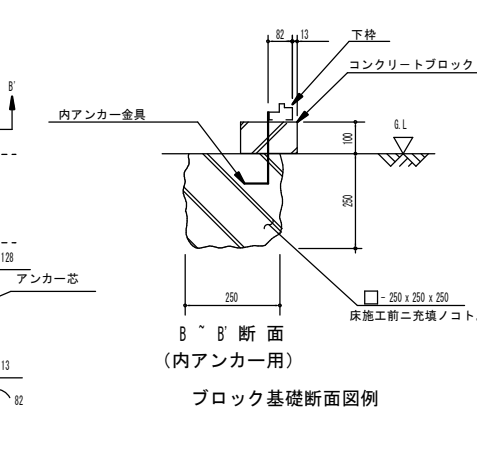
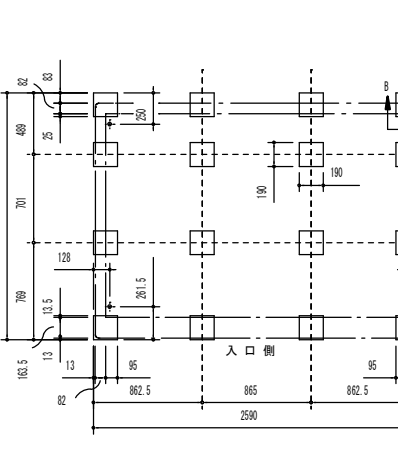
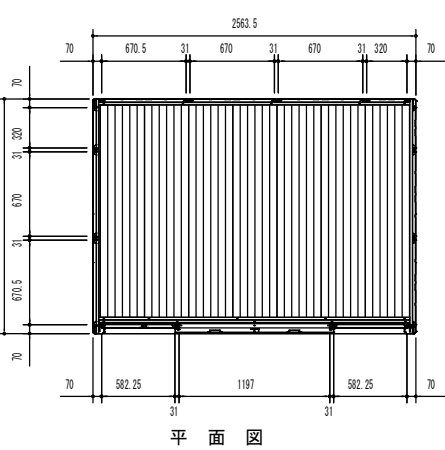
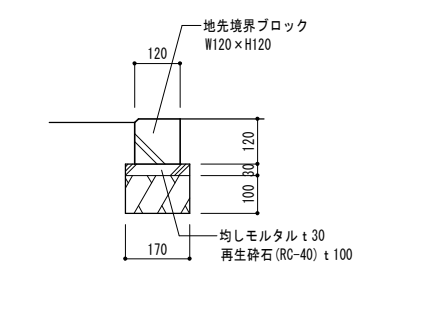
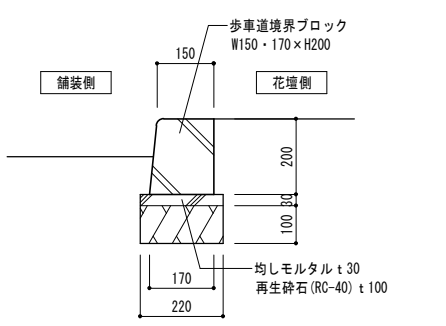


参考図

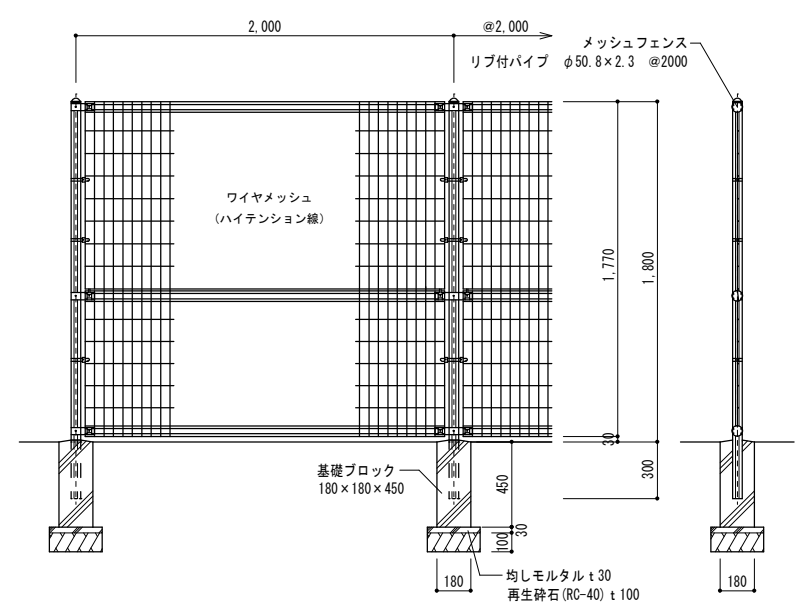


※積雪型 (積雪荷重 1500N/m以上)

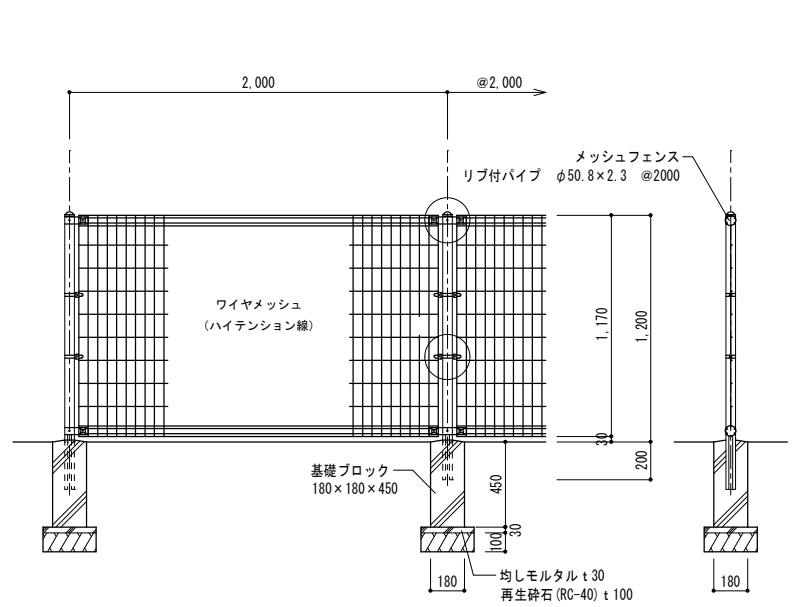
部 材 名	厚 さ (mm)	材 質
屋根板	0.4	JIS G3022 建築用鋼板S15Mn-16系熱延鋼板 Q235C
床補強	1.2	JIS G3021 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板 Q235C
<一般型> もや D-A3.55	1.6	JIS G3012 建築用鋼板めっき鋼板 Q235C
<積雪型> もや D-A3.55	2.3	建築用鋼板めっき鋼板
<積雪型> もや E-A3.55H	1.6	JIS G3012 建築用鋼板めっき鋼板 Q235C
下枠前 (側・後)	1.2 (1.0)	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
上枠前 (側・後)	1.0 (0.8)	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
上枠左右	0.8	建築用鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 (ワットカラー)
上枠補強 (積雪型のみ)	1.6	JIS G3012 建築用鋼板めっき鋼板 Q235C
上レール	1.2	アルミニウム合金押出型材
下レール	0.8	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
鼻隠し前	0.5	建築用鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 (ワットカラー)
鼻隠し後	0.5	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
柱	0.8	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
扉	0.6	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
壁パネル	0.5	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
袖壁	0.5	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
間柱	1.0	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
床板	0.6	JIS G3022 鋼板S15Mn-16系熱延鋼板めっき鋼板 Q235C
アンカープレート (L)	2.3	建築用鋼板めっき鋼板 (後遺残仕上げ)



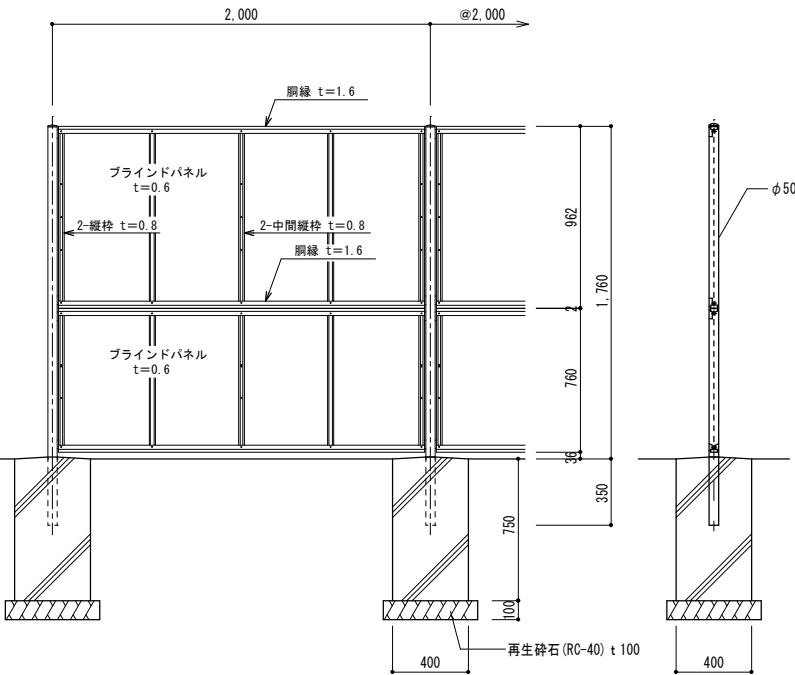
参考図



参考図



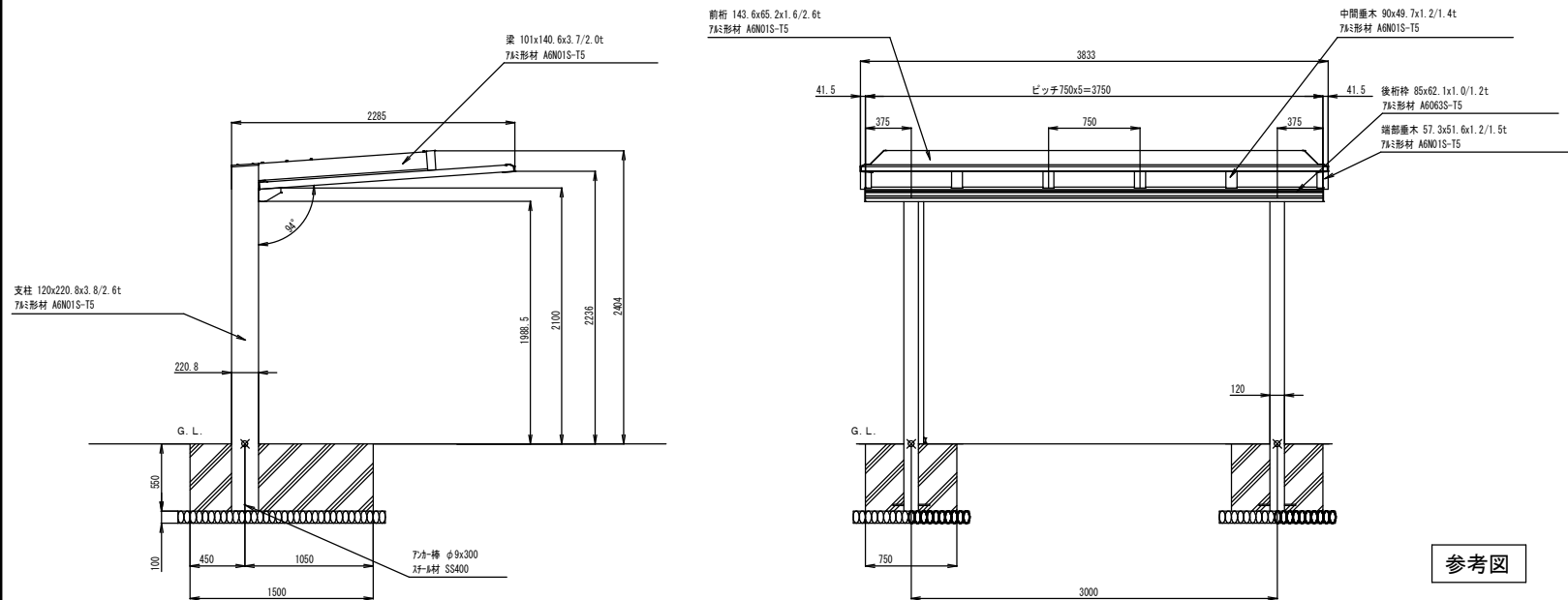
参考図



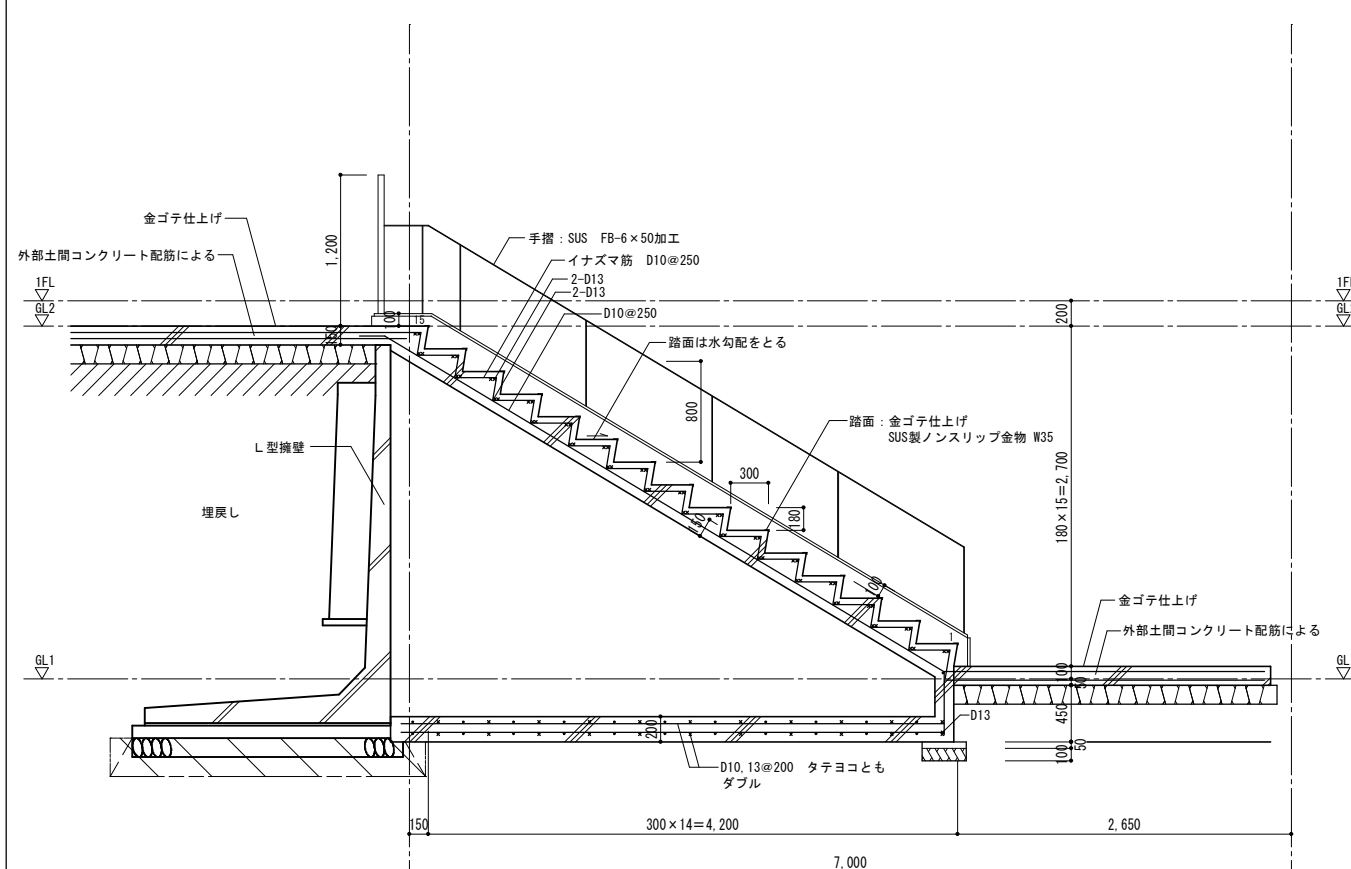
※積雪荷重 1500N/m<sup>2</sup> タイプ

部材名	外径・厚さ	材質	表面処理
支柱	120x220 8x3 8/2 6t	JIS H4100 A6015-T5	JIS H8602
梁	101x140 6x3 7/2 0t		
前桁	143 6x65 2x1 6/2 0t		
後桁	117 7x99 2x2 0/2 1t		
中間垂木	90x49 7x1 2/1 4t		
端部垂木	57 3x51 6x1 2/1 5t		
前枠	53 8x57 3x1 2/1 2t	JIS H4100 A6035-T5	
後枠	85x62 1x1 0/1 2t		
屋根材	3.0t	8'9"-6'3"	
	2.0t	熱線吸収型 9'6"-6'3"	
	3.0t	7x3樹脂複合板 (2.0t or 3.0t)	7ヶ黒塗装

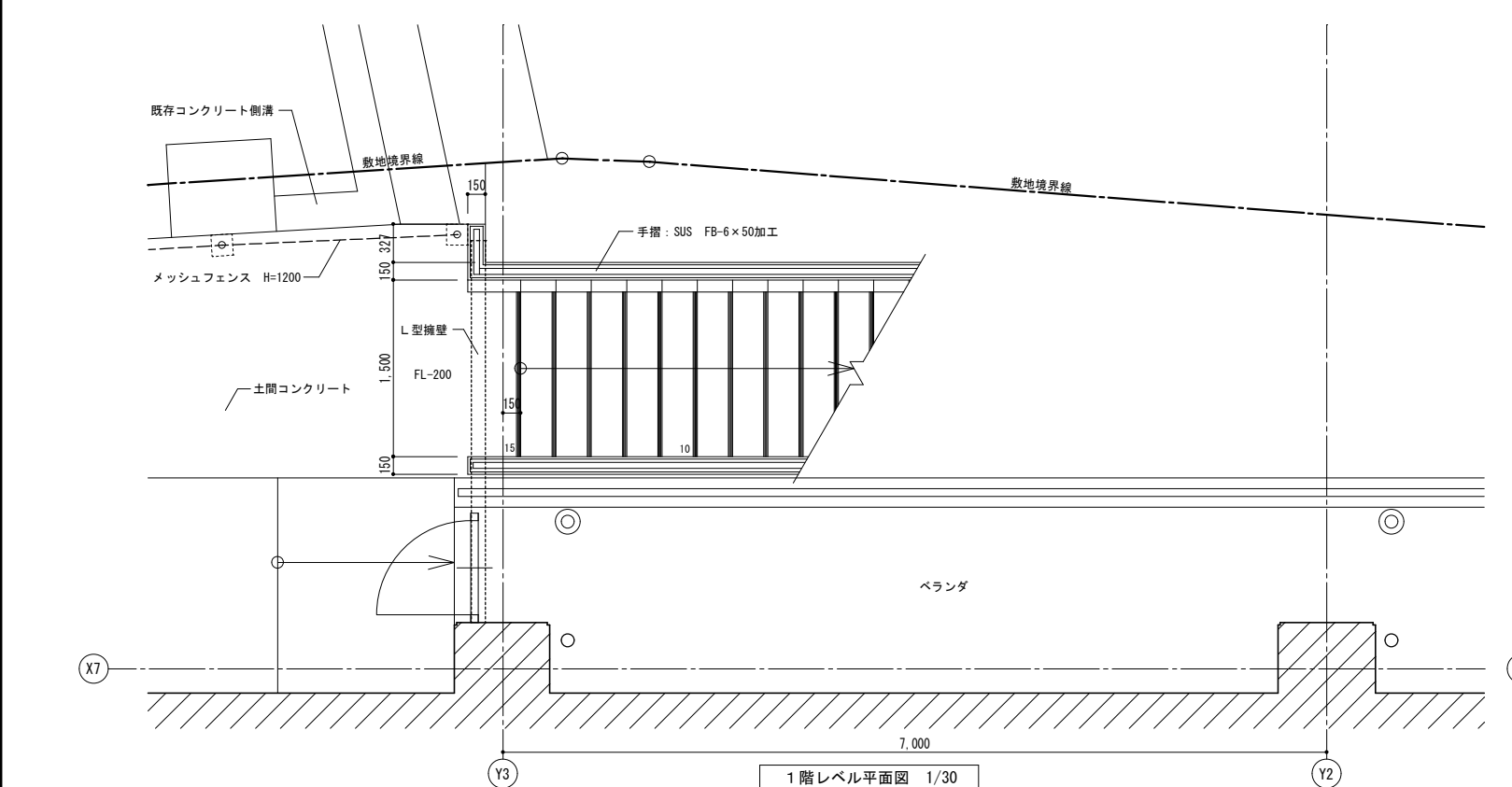
(寸法単位:mm)



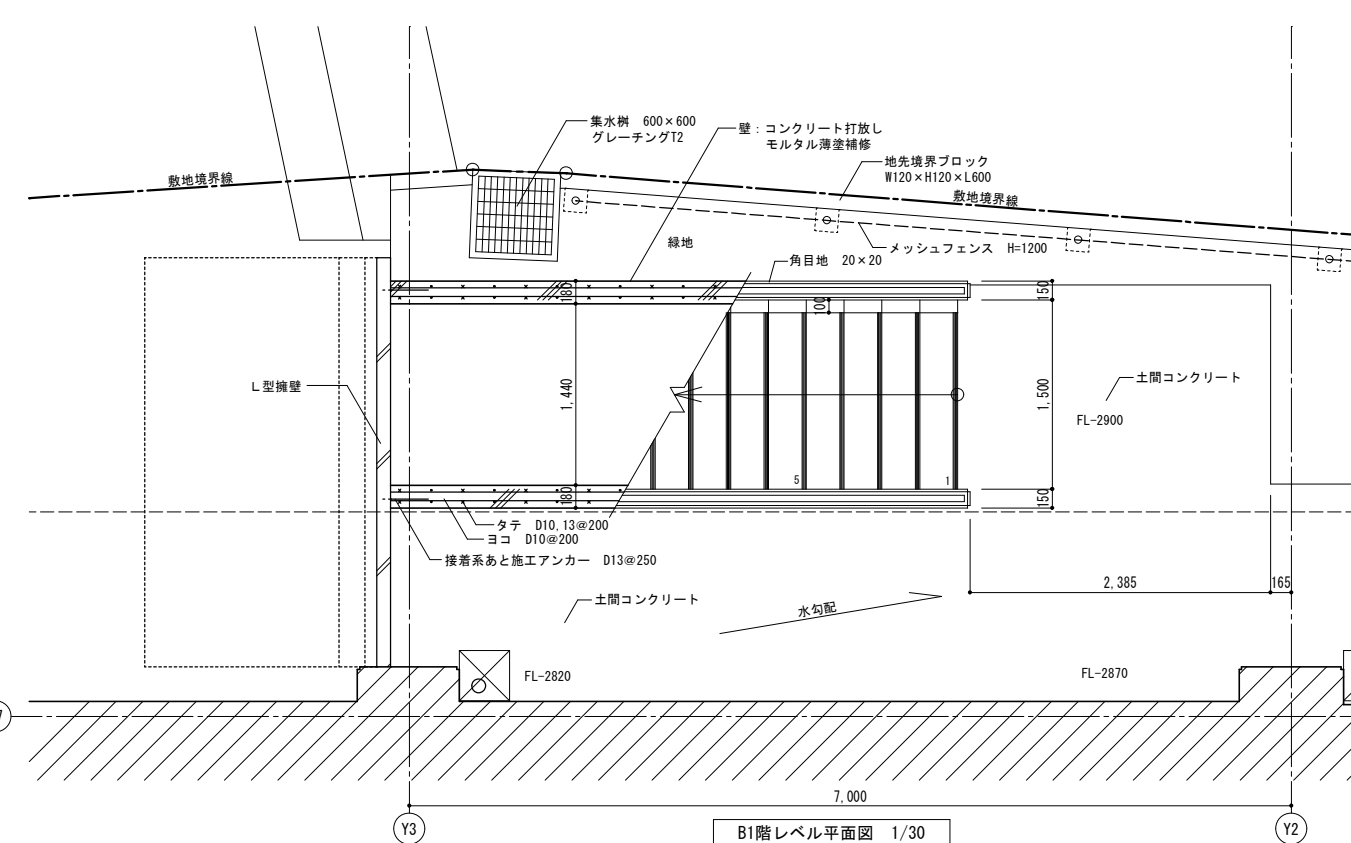
参考図



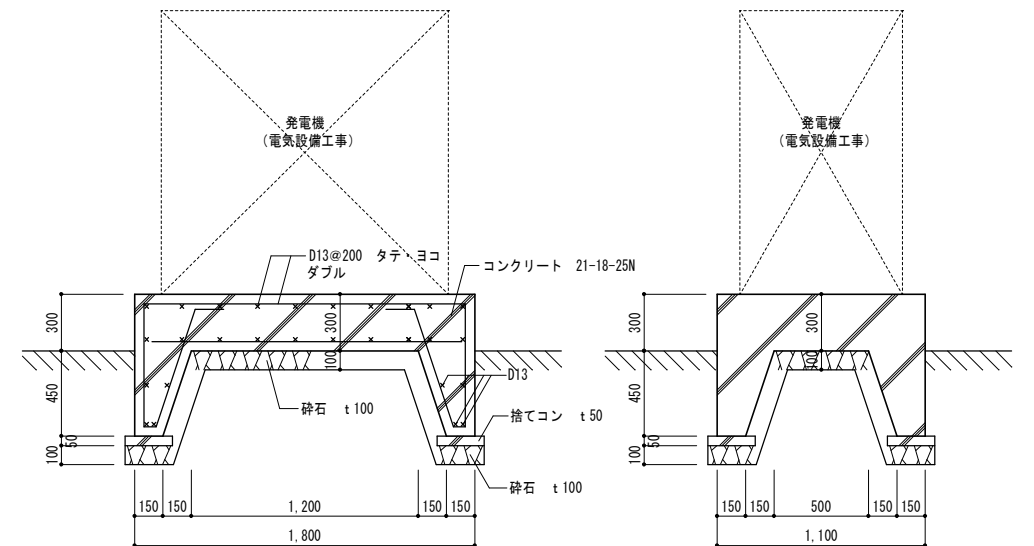
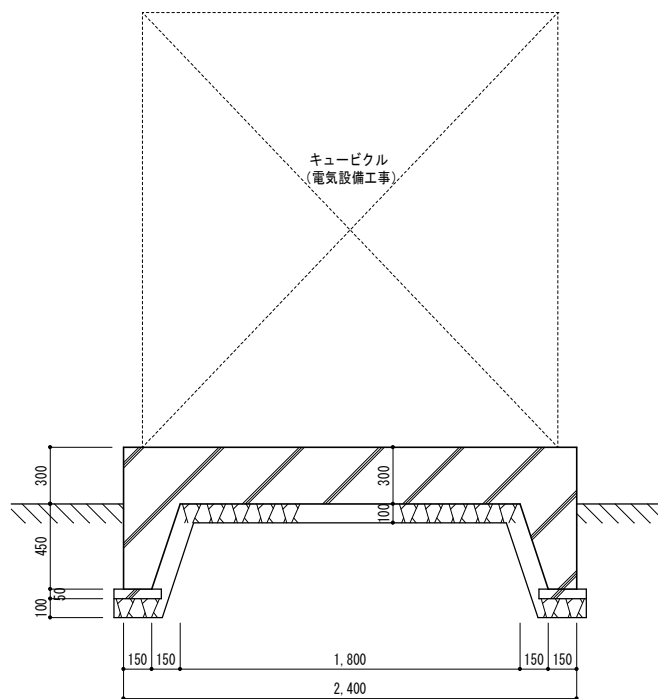
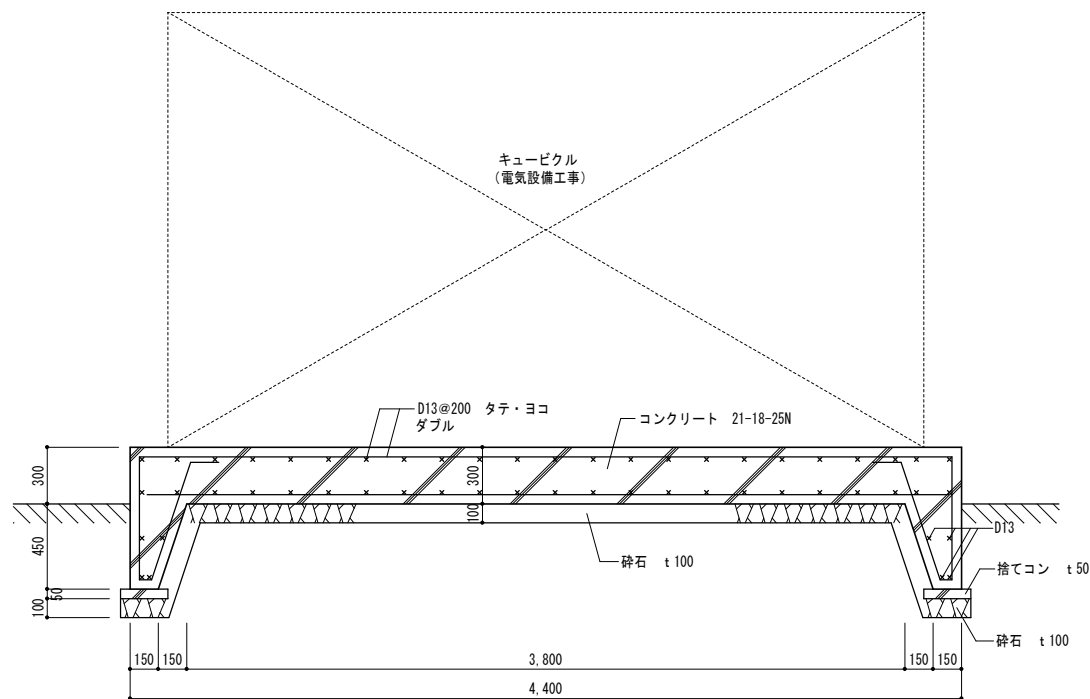
断面図 1/30



1階レベル平面図 1/30



B1階レベル平面図 1/30



A 集水枡 300×300

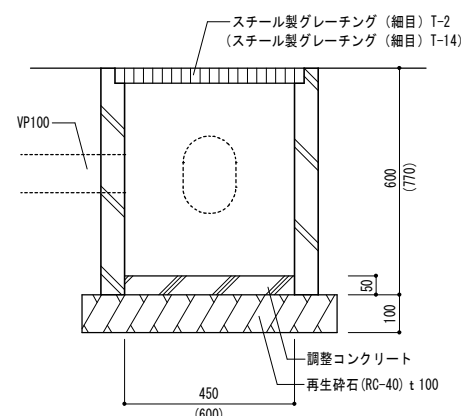
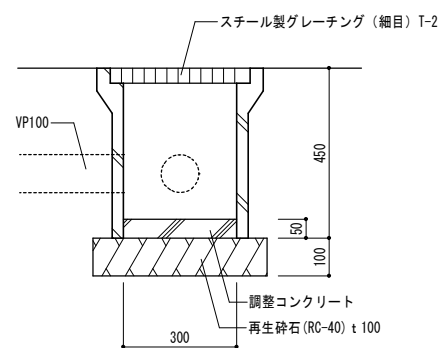
S=1:10

B C 集水枡 450×450、600×600

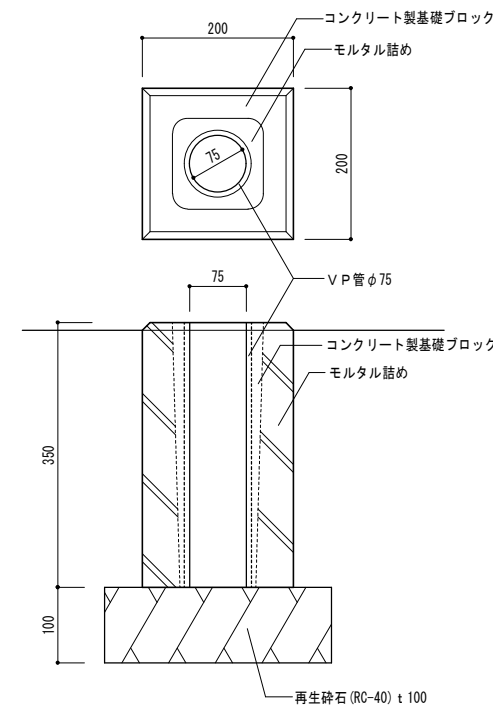
S=1:10

14 単管建柱用基礎

S=1:5

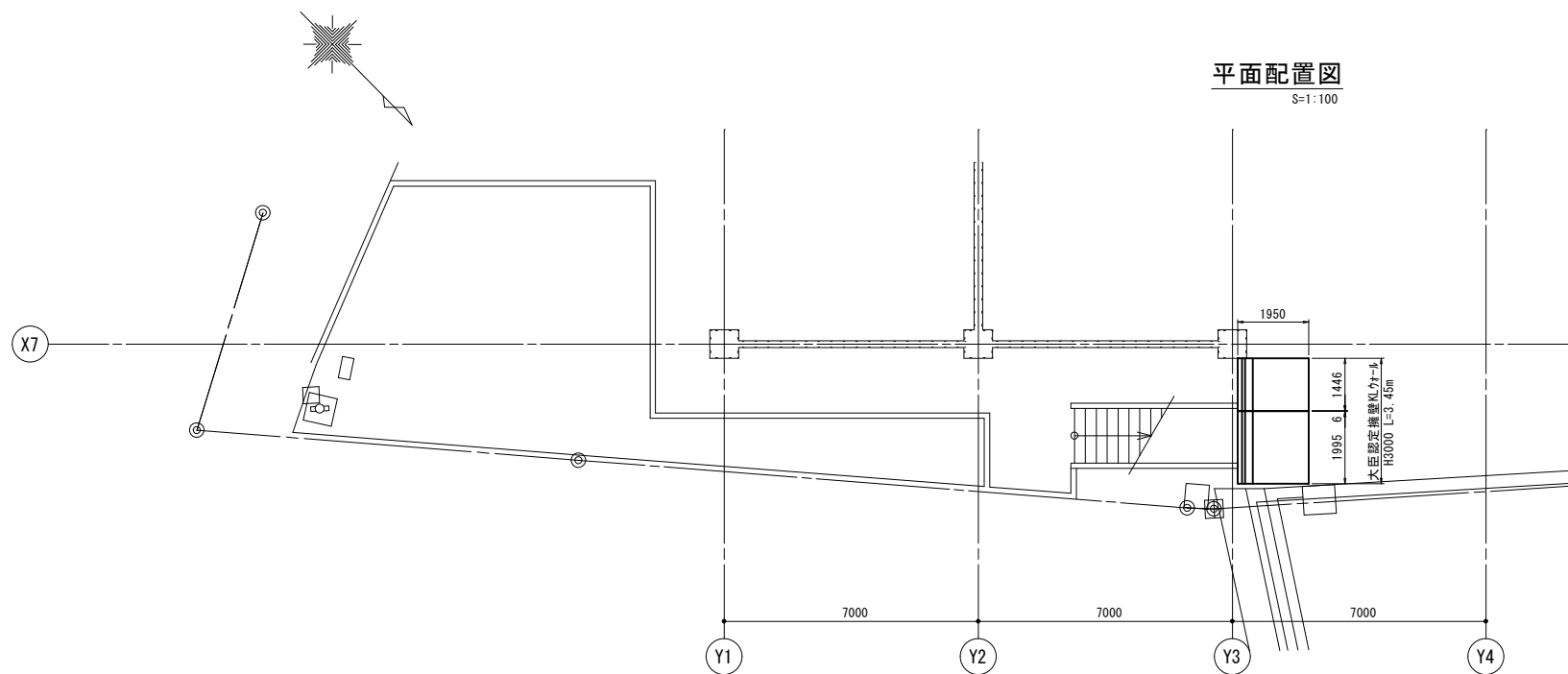


( ) 内は C を示す

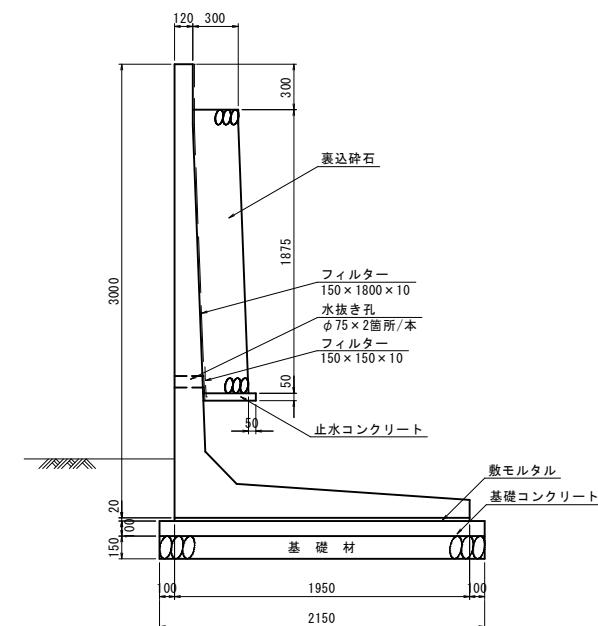


# L型擁壁構造図(1) (参考図)

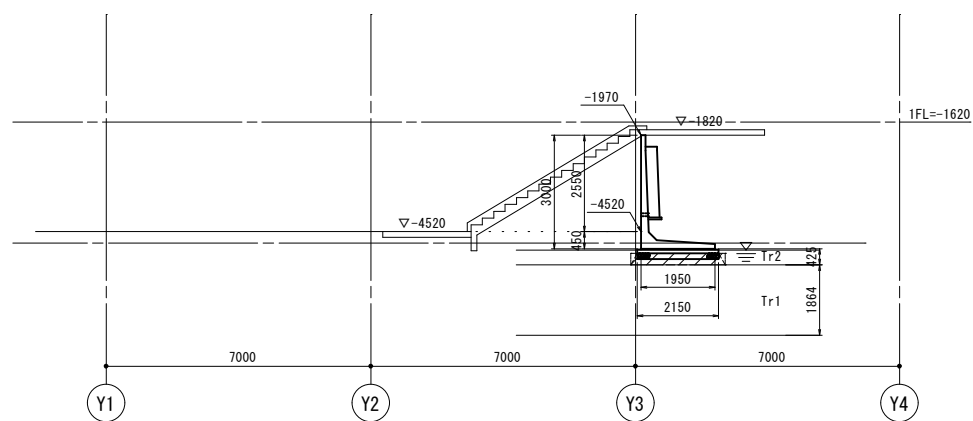
平面配置図  
S=1:100



標準施工断面図  
S=1:25



横断面図  
S=1:100



下層の砂礫層 (Tr1層) までを、砕石にて置き換えるものとする。  
 推定置き換え範囲

## 設計条件

項目	単位	長期	短期
擁壁高	m	3.00	-
盛土勾配	-	-	-
裏込め土の内部摩擦角	-	$\phi=30^\circ$	-
設計水平震度 k h	-	0.20	-
土圧算定方法	-	クーロン公式	-
載荷重	kN/m <sup>2</sup>	10	-
フェンス荷重	作用荷重 Pf	kN/m	1.0
	作用高さ Hf	m	1.10
単位体積重量	土 砂	kN/m <sup>3</sup>	18
	鉄筋コンクリート	kN/m <sup>3</sup>	24
コンクリート設計基準強度	N/mm <sup>2</sup>	30	-
滑動摩擦係数 $\mu$	-	0.577	-

※ 根入深さは地上高の15%かつ350mm以上とする。

基礎地盤に必要な長期許容応力度

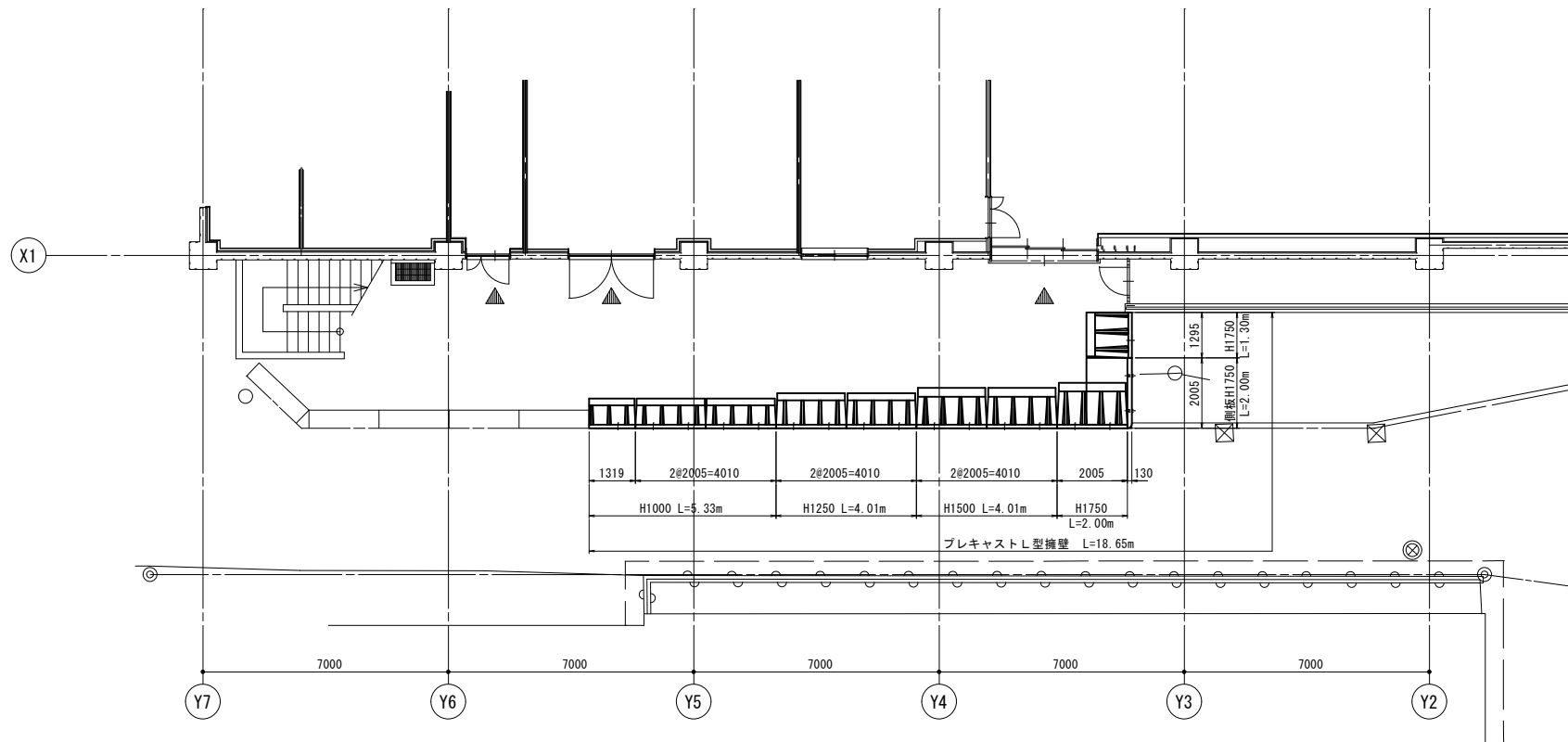
KLウォール (せん断抵抗角30°)

呼び名	直線部 kN/m <sup>2</sup>
H3000	150

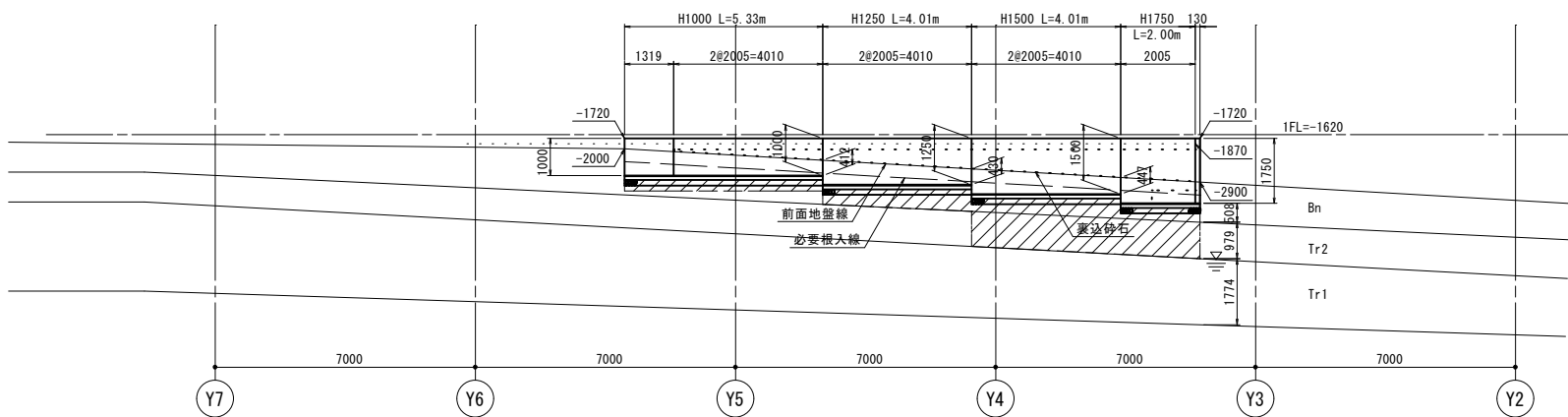
※ 1.条件:  $\phi=30^\circ, \gamma=18kN/m^3$

# L型擁壁構造図(2) (参考図)

平面配置図  
S=1:100



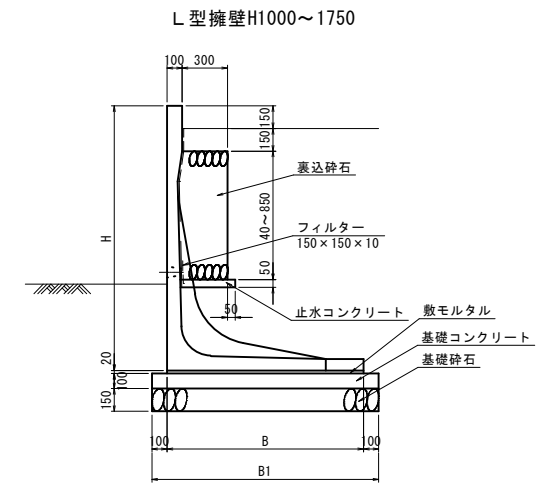
正面図  
S=1:100



H1000の擁壁は置換厚30cmにて、H1250は砂質シルト層(Tr2層)まで、H1500以上については砂礫層(Tr1層)までを、それぞれ砕石にて置き換えるものとする。

推定置き換え範囲

標準施工断面図  
S=1:25

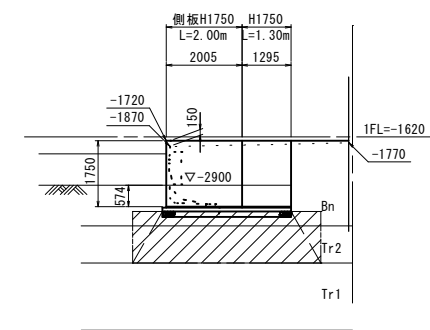


寸法及び基礎地盤に必要な許容応力度

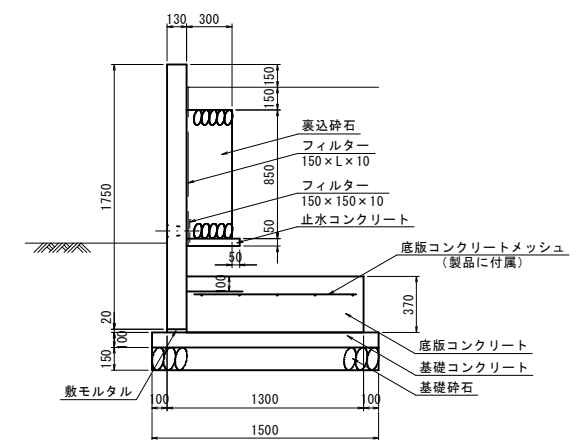
呼び名	寸法 (mm)		必要地耐力
H	B	B1	kN/m <sup>2</sup>
1000	850	1050	40
1250	1000	1200	50
1500	1150	1350	60
1750	1300	1500	70

※ 1.条件:  $\phi=5.0kN/m^2$ ,  $\phi=30^\circ$ ,  $\gamma=19kN/m^3$

側面図  
S=1:100



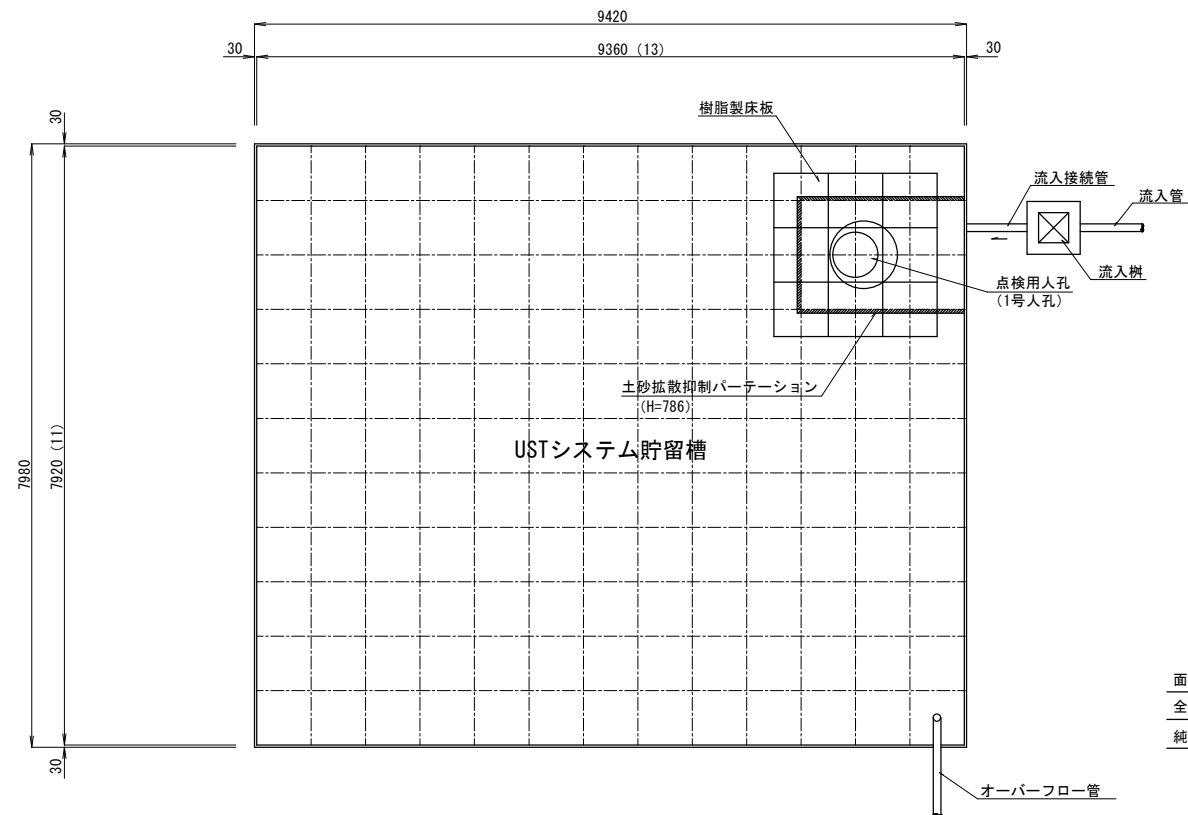
コーナー側板H1750



① 槽

浸透槽

浸透槽・平面割り付け図 (3段積み)  
S=1/50

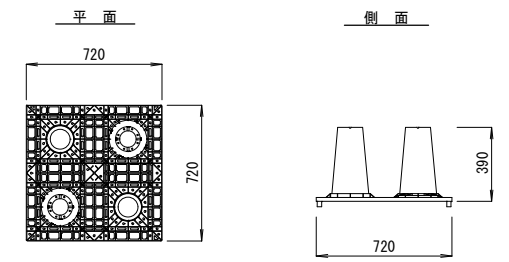


面積	7.92 × 9.36	74.13 m <sup>2</sup>
全容量	74.13 × 1.209	89.62 m <sup>3</sup>
純貯水量	74.13 × 1.209 × 0.95	85.14 m <sup>3</sup>

( ) はブロック数を示す。

※ 流入接続管、オーバーフロー管、点検用人孔の位置は参考となります。

樹脂製貯留ブロック製品図 S=1/20  
USTシステム (ハイドロ型) ブロック



- ※ 空隙率：95%
- ※ 公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術評価認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 建設技術審査証明 (下水道技術) 認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 新技術研究成果対象製品

浸透槽 透水シート仕様

【特記事項】 下記の要求性能をすべて満たすこと。

- ※ 貯留槽構造体の強度を確保するため、鉛直許容応力が115kN/m<sup>2</sup>以上の貯留ブロックを使用することとする。
- ※ せん断特性による高い耐震性を確保するため、当貯留槽の組立方式は、千鳥配置嵌合構造 (継手なし) とし、下部ユニットに応力分散できる構造とする。

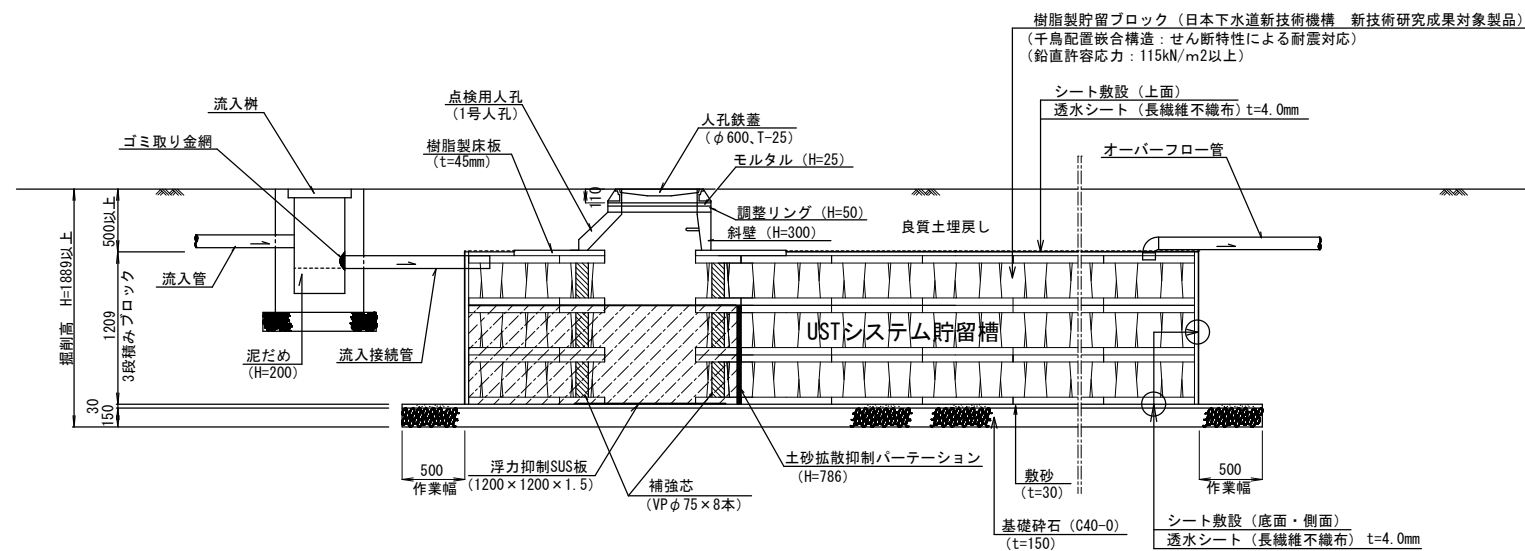
(貯留槽高計算根拠)

※H=0.393m (水槽高) × n層 + 0.03m (天板厚)

※1段の高さH=0.393m (組入高さ含む)

浸透槽・断面詳細図  
S=1/30

3段積み H=1.209m



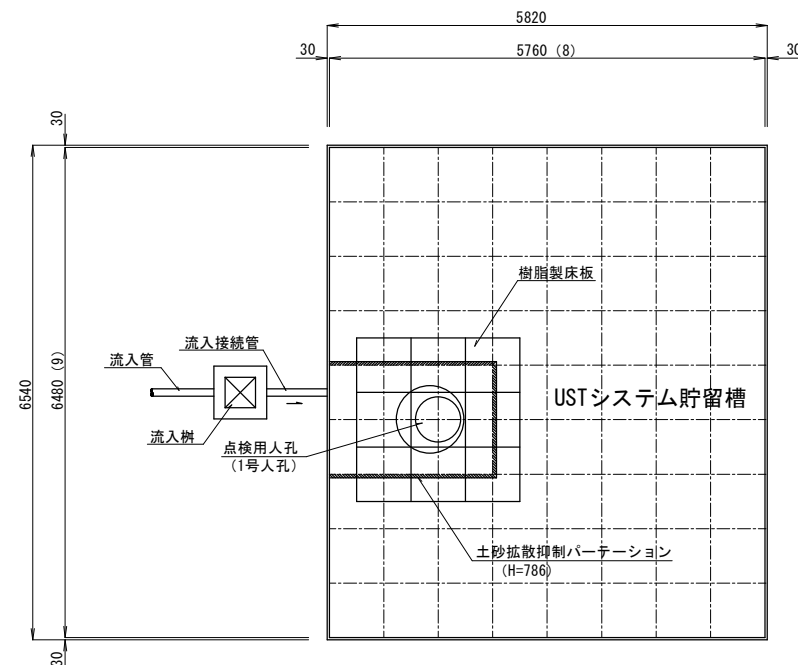
※ 土被り0.5m~2.0mのとき、T-25荷重対応

参考図

② 槽

浸透槽

浸透槽・平面割り付け図 (3段積み)  
S=1/50

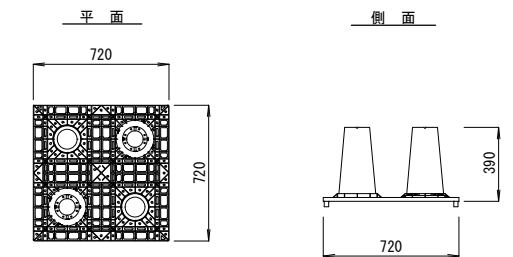


( ) はブロック数を示す。

※ 流入接続管、オーバーフロー管、点検用人孔の位置は参考となります。

面積	5.76 × 6.48	37.32 m <sup>2</sup>
全容量	37.32 × 1.209	45.11 m <sup>3</sup>
純貯水量	37.32 × 1.209 × 0.95	42.86 m <sup>3</sup>

樹脂製貯留ブロック製品図 S=1/20  
USTシステム (ハイドロ型) ブロック



- ※ 空隙率：95%
- ※ 公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術評価認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 建設技術審査証明 (下水道技術) 認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 新技術研究成果対象製品

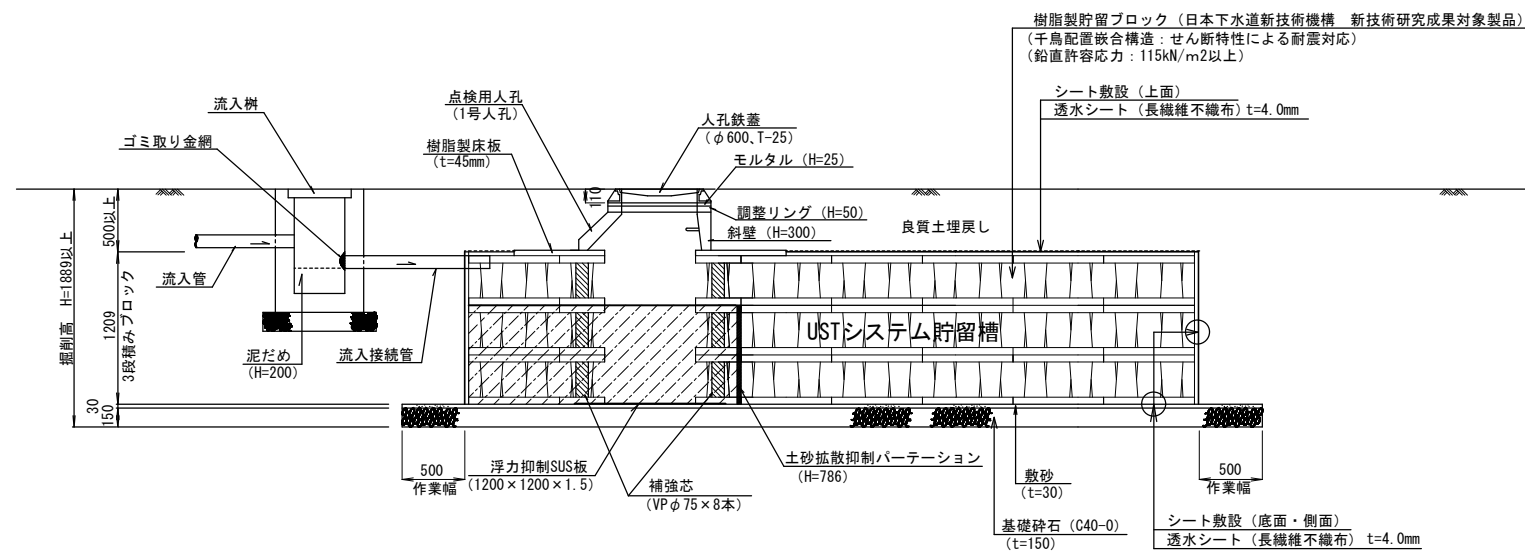
浸透槽 透水シート仕様

【特記事項】 下記の要求性能をすべて満たすこと。

- ※ 貯留槽構造体の強度を確保するため、鉛直許容応力が115kN/m<sup>2</sup>以上の貯留ブロックを使用することとする。
- ※ せん断特性による高い耐震性を確保するため、当貯留槽の組立方式は、千鳥配置嵌合構造 (継手なし) とし、下部ユニットに応力分散できる構造とする。

浸透槽・断面詳細図  
S=1/30

3段積み H=1.209m



※ 土被り0.5m~2.0mのとき、T-25荷重対応

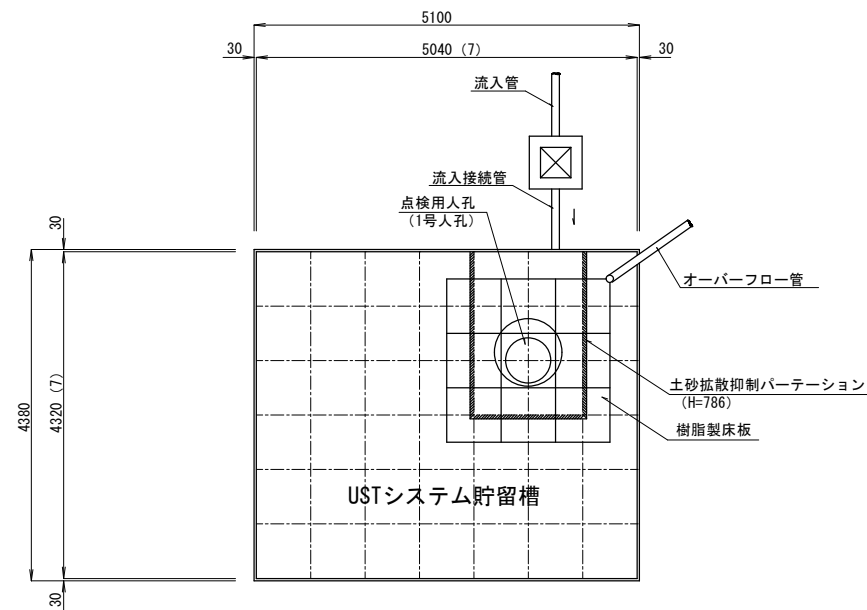
参考図



③ 槽

浸透槽

浸透槽・平面割り付け図 (3段積み)  
S=1/50

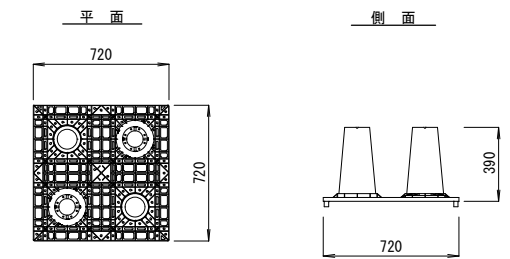


面積	4.32 × 5.04	21.77 m <sup>2</sup>
全容量	21.77 × 1.209	26.31 m <sup>3</sup>
純貯水量	21.77 × 1.209 × 0.95	25.00 m <sup>3</sup>

( ) はブロック数を示す。

※ 流入接続管、オーバーフロー管、点検用人孔の位置は参考となります。

樹脂製貯留ブロック製品図 S=1/20  
USTシステム (ハイドロ型) ブロック



- ※ 空隙率：95%
- ※ 公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会 技術評価認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 建設技術審査証明 (下水道技術) 認定品
- ※ 公益財団法人 日本下水道新技術機構 新技術研究成果対象製品

浸透槽 透水シート仕様

【特記事項】 下記の要求性能をすべて満たすこと。

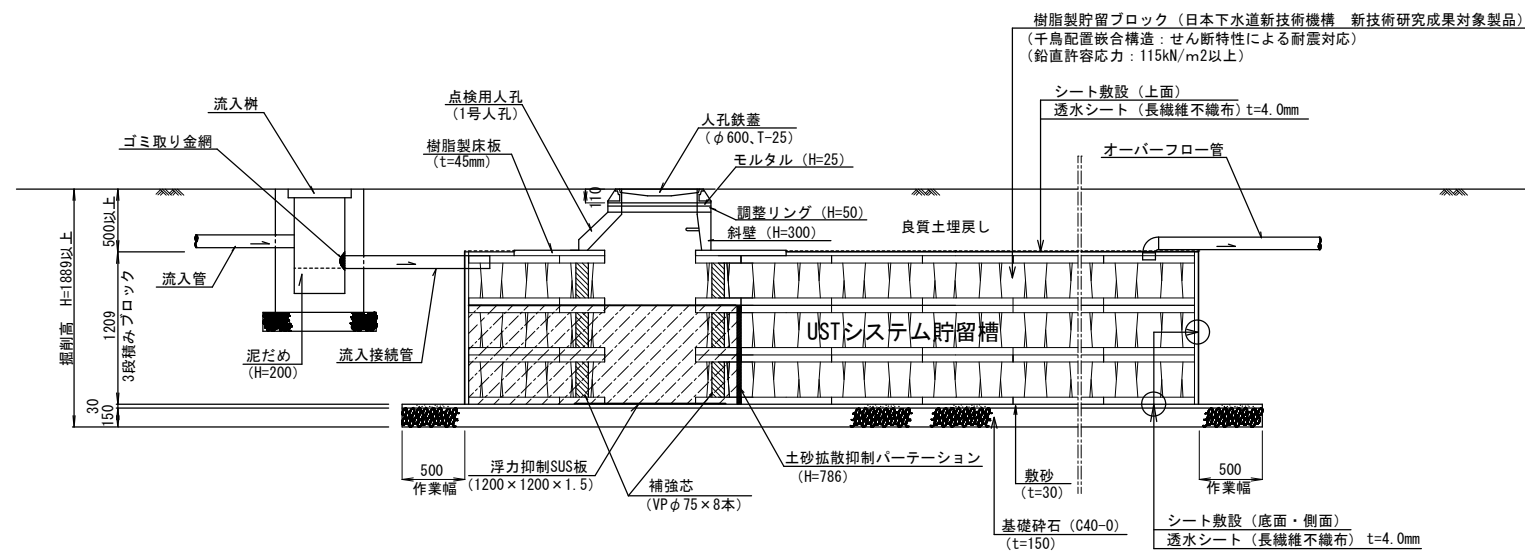
- ※ 貯留槽構造体の強度を確保するため、鉛直許容応力が115kN/m<sup>2</sup>以上の貯留ブロックを使用することとする。
- ※ せん断特性による高い耐震性を確保するため、当貯留槽の組立方式は、千鳥配置嵌合構造 (継手なし) とし、下部ユニットに応力分散できる構造とする。

(貯留槽高計算根拠)

- ※ H=0.393m (水槽高) × n層 + 0.03m (天板厚)
- ※ 1段の高さ H=0.393m (組入高さ含む)

浸透槽・断面詳細図  
S=1/30

3段積み H=1.209m



※ 土被り0.5m~2.0mのとき、T-25荷重対応

参考図

解体建物①



移設建物①



移設建物②



構造物⑤

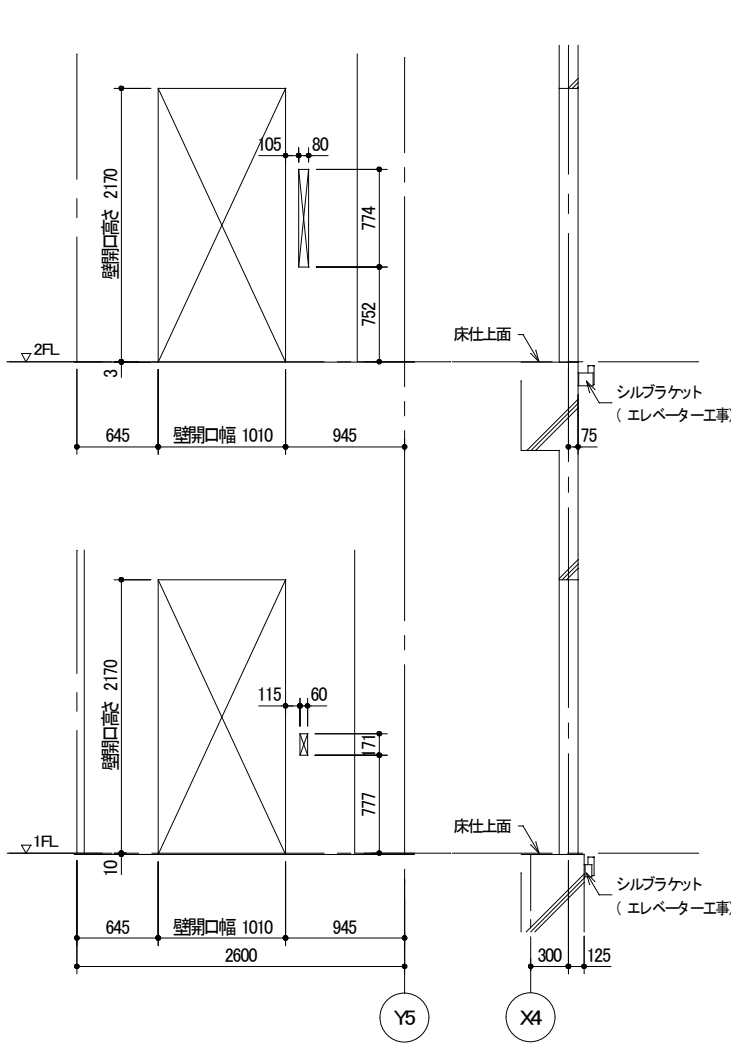


構造物⑦



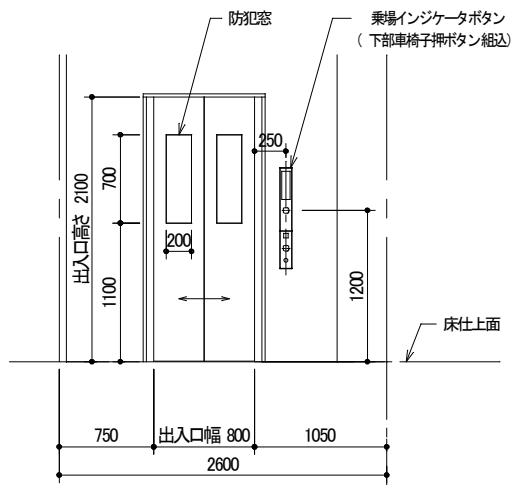
構造物⑧





出入口壁六明図  
1:30 (建築工事)

断面図  
1:30



出入口正面図  
1:30

※右記枠内工事は建築工事とする

No. 1		
遮煙のりばドア (Smokeproof)		
適用階床	1,2FL	認定番号 CAS-0571

(1台1回線)

電源設備 (低圧)	
号機名	No. 1
電源設備容量	動力 200V 4kVA
	照明 100V 1.5kVA
最大電流	21A
動力線サイズ (mm <sup>2</sup> )	5.5 8 14
最大引き込み距離 (m)	77 119 208
建屋側MCCB	30A
接地線最小サイズ	2 mm <sup>2</sup>
インターホン用配線	φ0.9 x 10本
電話用配管・配線	φ19 配管・電話線1P
ビットコンセント容量	1kVA/台
火災管制用配管・配線	HP1.2x1P
非常放送用配管・配線	HP1.2x3C

エレベーター除外工事

- [1] 建築関係
- 各階乗場出入口廻り (押ボタン用穴を含む) の穴開工事
  - 乗場関係機器取付後の出入口廻りの壁及び床仕上工事
  - ビット内防水工事、及びビットが深い場合の埋戻し工事
  - 昇降路天井フック又はローリーーム設置工事 (安全率5を確保する)
  - 各階乗場出入口枠周辺のモルタル又はロックウール詰め工事
  - 昇降路内機器取付用ファスナー、ビーム、柱等の設置工事
  - 乗場関係機器取付用脚材の設置工事
  - 昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする

- [2] 電気関係
- 昇降路扉壁までの動力電源・照明電源・接地線の引込工事
  - インターホン用及び監視用配管・配線工事 (昇降路扉壁から外部取付位置まで)
  - ビットの点検用コンセント設置工事
  - 遮煙監視保守システム用配管、電話線工事
  - 昇降路内頂部の煙感知器設置工事 (昇降路外部から保守点検できる構造)
  - エレベーターと防しゃッター等の連動を要する場合は、接点信号の配管・配線の引込工事

- 遮煙のりばドア設置上の注意事項
- 遮煙のりばドアの設置条件として建物の火災信号が必要で、自動火災報知機の火災代表信号をエレベーター制御盤に供給して下さい (無電圧接続 回路電圧 DC24V 接点容量 DC30V 0.3A)
  - 自動火災報知機のない建物では、自動火災報知機に代わるものから火災信号を供給して下さい
  - 例) 煙感知器+防火扉連動制御盤の火災信号など
  - 遮煙のりばドアを設置する階の火災信号をエレベーター制御盤に供給して下さい ※接点仕様は自動火災報知機に準じます

- [3] 確認事項
- 昇降路壁・床等は、機器取付けや反力等に十分な強度を有する構造で施工下さい (コンクリート強度は21N/mm<sup>2</sup>以上とする)
  - 昇降路内法の鉛直施工誤差は、30mm以内にて施工下さい
  - 昇降路壁には、設備配管等を埋込まないで下さい
  - 昇降路内法の内部に建築金物等が突出しないよう施工下さい (突出する場合は、エレベーター機器と干渉する恐れがあるためエレベーター側と協議して下さい)
  - 受電電圧の変動は、受電端において動力用は±10%以内、照明用は±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率は5%以内として下さい
  - 電源引き込み計画時は、エレベーター側と協議して下さい
  - 外部からの影響により、昇降路内の温度が40℃を超える場合は換気設備を設けて下さい
  - 台車などで搬入可能な荷重は250kg以下(台車含む)となります

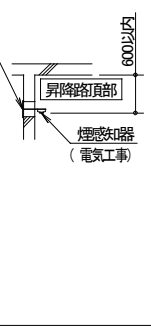
エレベーター仕様			
号機名(台数)	No.1 (1台)		
用途(形式)	乗用 (SP11-CO45) 車いす仕様		
積載量(定員)	750kg (11人)		
速度	45m/min		
制御方式	交流インバータ制御方式(回生無)		
操作方式	乗合全自動方式		
停止ヶ所・出入口方向	(1,2FL) 2ヶ所 1方向		
かご内法(Wx D x H)	1400mm X 1350mm X 2300mm		
出入口寸法(Wx H)	800mm X 2100mm		
ドア方式	2枚戸中央開閉(電動式)		
電動機出力	AC-3.5kW (ギヤレス)		
電源	動力	三相3線 200V 60Hz	
	照明	単相 100V 60Hz	
	地震	有(P波+S波感知器(3段検知)リスタート機能付)	
	火災	有	
管制運転	自家発	無	
	ビット浸水	有	
停電時自動着床装置	有		
耐震クラス	A14		
かご内連絡装置	24V同時通話インターホン		
基本仕様及び標準装備仕様	ローラーガイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動休止機能 長寿命LED照明 2D多光束(マルチビーム)ドアセフティ 反転抑制(一括キャンセル機能) 戸開放時間自動設定 先行階消灯機能 気配りアナウンス機能 戸開放行保装置 しまい閉すきまレス 広角ミラー付操作盤		
三方枠	全階	大枠・全傾斜 ステンレス製ヘアライン仕上	
	ドア	全階	鋼板製単色塗装仕上
		防犯窓	全階 網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス (t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの【ドア面と面】
	遮煙	全階	有
敷居	全階	硬質アルミ製	
乗場	ボタン	全階 抗塵凸矢印ボタン(SI AA認証)	
インジケータ	インジケータ	全階 デジタル階床表示式	
ボタン	フェースプレート	全階 樹脂成型品	
天井照明	[STD-1L] アルミフレーム導光板LED照明		
	換気装置	ファン	
	リターンパネル	ステンレス製ヘアライン仕上	
	出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上	
ドア	防犯窓	化粒鋼板	
	網入ガラス	網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス (t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの【ドア面と面】	
	幕板	化粒鋼板	
	側板	化粒鋼板	
幅木	化粒鋼板		
床	ビニタイル(t2)		
敷居	硬質アルミ製		
操作盤	ボタン	抗塵凸文字ボタン(SI AA認証)	
	インジケータ	ドットデジタル	
	フェースプレート	標準(広角ミラー付) 抗塵樹脂成型品(SI AA認証・一部鋼板製)	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンダード照明 STD-1L)</li> <li>非常放送スピーカー</li> <li>荷重(ステンレス製・H300)</li> <li>磁石式保護マット(分割形 3面 H=1800)</li> <li>床マット</li> <li>車椅子仕様</li> <li>専用乗場ボタン、専用かご操作盤 かご内鏡 かご内手摺 多光束LED(2D)、戸開放時間(10秒)</li> <li>視覚障害者対策</li> <li>音声案内装置(方向 階床 到着 戸開 戸閉 管制運転案内) 点字盤板(乗場ボタン・かご操作盤に貼付け)</li> <li>警報回路</li> <li>インターホン呼びボタン、プザー(DC24V)、かご上 回送と警報器リセットボタン、タイマー付</li> <li>トーガード延長</li> <li>ラジオノイズフィルター+絶縁ランス+ACL(インピーダンス3%)</li> </ul>		
0127527 V.15.4 (FB)			

煙感知器詳細

施設設置点検扉

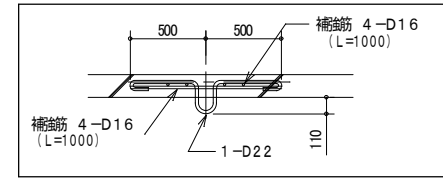
1.5mm以上の銅板製(電気工事)  
リミットスイッチ付(エレベーター工事)

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は  
外部に引き出した状態で点検可能な構造  
とする。  
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

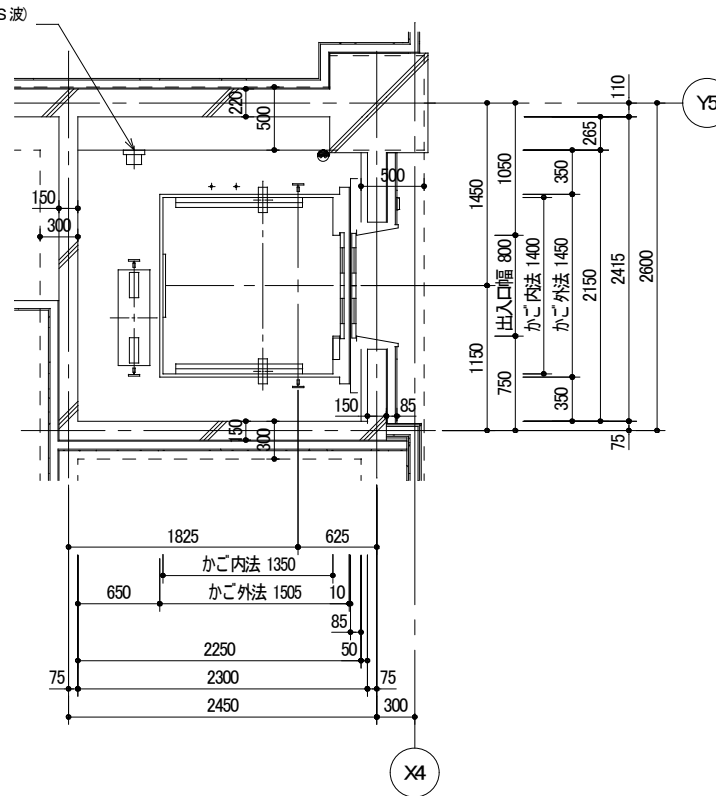


天井フック配筋要領参考図(建築工事)

(天井フック材料エレベーター支給)



地震感知器(P波+S波)  
ビット部取付



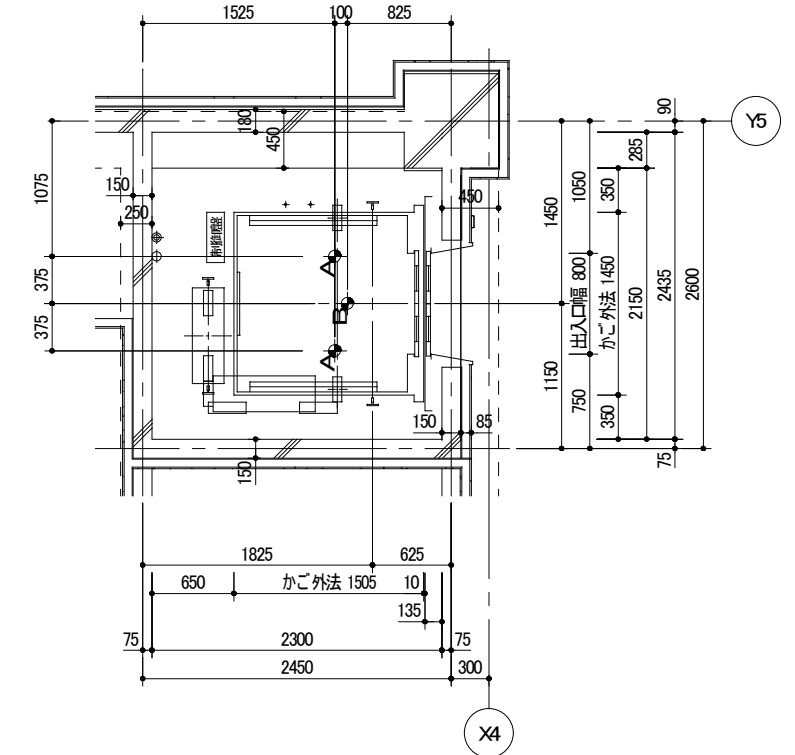
昇降路平面図(1F)

1:30

● ビット点検用コンセント (電気工事)

レール反カリスト(地震時作用荷重)		No. 1
かご側	Px	4.00 kN
	Py	2.00 kN
最上階	Px	5.20 kN
	Py	3.80 kN
おもり側	Px	6.30 kN
	Py	3.20 kN
最上階	Px	10.20 kN
	Py	7.10 kN

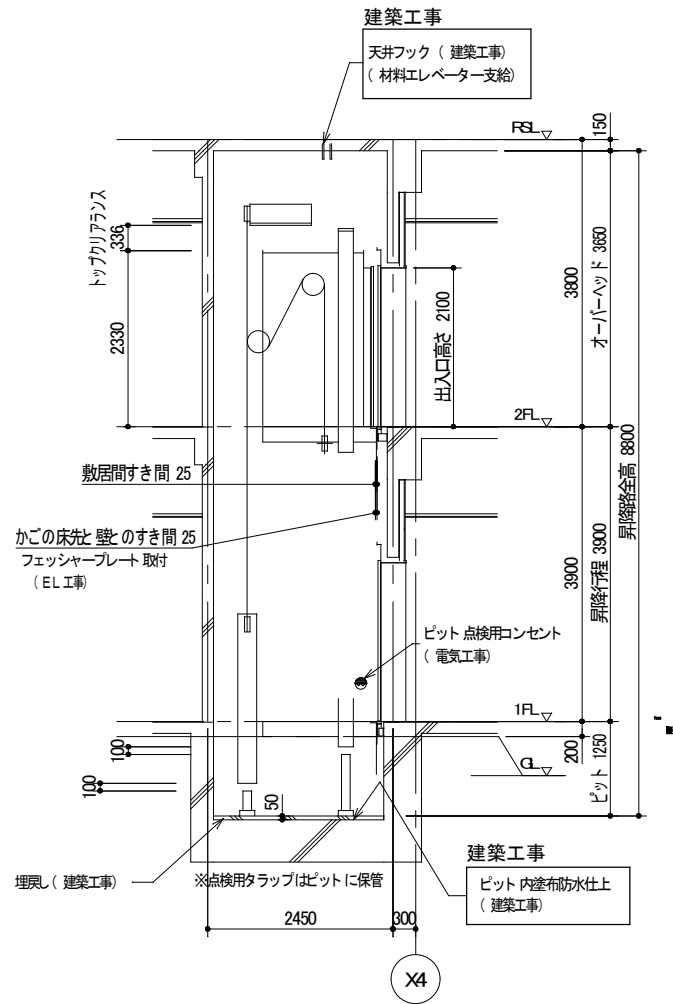
上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。



昇降路平面図(2F)

1:30

◆ 天井フック(材料エレベーター支給) ・荷重:(A部) 9.8 kN (B部) 19.6 kN	(建築工事)
◆ 電源引き込み(受電盤への接続) ・動力・照明・接地線 最上階L-1350mm 引出長さ 3m	(電気工事)
◆ 配線引き込み ・インターホン配線・電話線 最上階L-650mm 引出長さ 3m	(電気工事)



昇降路縦断面図

1:50

No. 1		
ビット反力	73.20 kN	
ビット衝撃荷重	かご側	60.40 kN
	C/W側	47.40 kN





① コンクリート工事	① コンクリートの使用骨材による種類及び強度	※ 普通コンクリート (6.2.1, 6.2.4) 設計基準強度 $F_c$ (N/cm <sup>2</sup> ) スラブ (cm) 適用箇所	12 軽量コンクリート (6.10.1, 6.10.1)	種類 所要気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> ) 適用箇所 常時土又は水に直接接する部分	① ターンバックル (7.2.6)	種類 建築用ターンバックル鋼 ・割枠式 ・建築用ターンバックルボルト ・羽子板ボルト ・ねじの呼び ・構造図( )による	19 溶融亜鉛めっき (7.12.3(準)4.2.3)	種別等 亜鉛めっきの種類 材料 適用箇所
	② コンクリートの類別	類別 ※ I 類 ・ II 類 (6.2.1)(6.2.1)	⑬ 寒中コンクリートの適用期間 (6.11.1) ⑭ 暑中コンクリートの適用期間 (6.12.1) ⑮ マスコンクリート (6.12.2) ⑯ 無筋コンクリート (6.14.1)	※ 打込み日を含む日の日平均気温が 4℃以下の期間 (前年の気象庁データ、現場での実測データにより判断する) 日平均気温の年平均値が25℃を超える期間 ※ 7月26日から8月20日 (気象庁 長野地区 1981~2010年の累計平均値より) 構造体強度修正値 (S) ○6N/cm <sup>2</sup> ・ 3N/cm <sup>2</sup> セメント種別 混和材 スラブ 適用箇所	12 デッキプレート (7.2.7) 13 スタッドボルト (7.2.9)	工法の種別 ・合成スラブ ・床型枠用 材質、形状及び寸法 ・構造図( S-11 )による 鉄骨部材への溶接方法 ・構造図( S-11 )による 耐火認定 ・あり ・なし	20 梁貫通孔の補強 (7.12.4)	種別等 高力ボルト接合部摩擦面の処理 ・プラスト処理 ・特別な処理 ( ) 処理方法 ( )、すべり耐力の確認方法 ( ) 補強方法 ・補強プレート法 ・補強トラス法 ・適用箇所 ※構造図( )による
	③ セメントの種類	セメントの種類 適用箇所 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種 ・高炉セメント B 種 (G) ・フライアッシュセメント B 種 (G) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 水和熱 7日 35J/以下 28日 40J/以下	⑰ 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ⑱ 施工管理技術者 (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2) ⑲ 製作精度 (7.3.3) ⑳ 建方精度 (7.10.2) ㉑ 鋼材 (7.2.0)(7.2.1) ㉒ 高力ボルト (7.2.2)(7.1.2) ㉓ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.4) ㉔ アンカーボルト (7.2.4) ㉕ 柱底均しモルタル (7.1.9) ㉖ 耐火被覆 (7.1.7)	コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 $F_c$ (N/cm <sup>2</sup> ) スラブ セメントの種類 適用箇所 ※18 ※15 ※普通ポルトランドセメント 又は混合セメントの A 種 ・高炉セメント B 種 ・フライアッシュセメント B 種 製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈱日本鉄骨評価センター及び㈱全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する ・適用しない ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。 ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。 鋼材の材質 種類の記号 適用箇所 規格等 ○S S 400 小梁・間柱 ※ JIS規格による ○S N 400 B 大梁・SRC柱 ※ JIS規格による ・S N 401 C ○S N 401 C ダイアフラム ※ JIS規格による ・B C R 235 ・S T K R 400 B O X 柱 ※ JIS規格による ○S S C 400 モヤ ※ JIS規格による 区分 ○トリアシ高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ・構造図による すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による セツトの種類 ○種 (F8T相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 ※プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・構造図による 材質 ○構造用 (柱・リソト) ・SBR ○SBR ○SBR ・建方用 ・S400 アンカーボルト及びびねットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上り ・構造用 ※ JSS II 13-2004 「(社) 日本鋼構造協会規格/建築構造用ねじ」 ・建方用 ※ 普通ボルトによる 保持及び打込み工法 ○構造用 ・構造図による ・建方用 ・種別 表 7.10.1 (・A 種 ・B 種 ・C 種) による モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査 材料、調査等 ○種別 7.2.9 による 品質及び試験方法 ○種別 表 7.2.6 による 工法の種別 ○種別 表 7.10.2 ○A 種 [フレーム柱] ○B 種 [間柱]	① 入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) ② 溶接接合 (7.6.7) ③ 溶接部の試験 (7.6.10) ④ 錆止め塗装 (7.1.7) ⑤ 耐火被覆 (7.1.7)	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図( )による ○構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5 (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による 適用箇所 ・構造図( )による ○柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 スカラップの形状 ○改良型 ・エンドタブの切除 ○行う 適用箇所 ○全て ・構造図( )による ・行わない 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・工場溶接の場合 AOL (%) ※ 4.0 ・ 2.5 節 ・全て 検査水準 ○第 6 水準 ・工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AOL (・4.0% ・ 2.5%) 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 鉄鋼面 種別 適用箇所 ○種別 表 18.3.1 A 種 ○屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・種別 表 18.3.1 B 種 ・屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・ 亜鉛めっき面 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.2 A 種 ・屋外、屋内 ・ 鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.1 B 種 ・ 種別等 (7.9.1~7) 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ○半乾式吹付けロックウール ・講堂・ステージ屋根の鉄骨 (ただし、小屋組とブドウ棚は不要) ・湿式ロックウール ・ ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・ ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ ・S1種引掛差り 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 性 能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ○1時間耐火 ・講堂屋根の鉄骨 (小屋組とブドウ棚は不要) ・2時間耐火 ・3時間耐火		
	④ 骨材の種類	使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)(6.11.2) ・A ※ B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m <sup>3</sup> 以下)	① 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ⑱ 施工管理技術者 (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2) ⑲ 製作精度 (7.3.3) ⑳ 建方精度 (7.10.2) ㉑ 鋼材 (7.2.0)(7.2.1) ㉒ 高力ボルト (7.2.2)(7.1.2) ㉓ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.4) ㉔ アンカーボルト (7.2.4) ㉕ 柱底均しモルタル (7.1.9) ㉖ 耐火被覆 (7.1.7)	製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈱日本鉄骨評価センター及び㈱全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する ・適用しない ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。 ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。 鋼材の材質 種類の記号 適用箇所 規格等 ○S S 400 小梁・間柱 ※ JIS規格による ○S N 400 B 大梁・SRC柱 ※ JIS規格による ・S N 401 C ○S N 401 C ダイアフラム ※ JIS規格による ・B C R 235 ・S T K R 400 B O X 柱 ※ JIS規格による ○S S C 400 モヤ ※ JIS規格による 区分 ○トリアシ高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ・構造図による すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による セツトの種類 ○種 (F8T相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 ※プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・構造図による 材質 ○構造用 (柱・リソト) ・SBR ○SBR ○SBR ・建方用 ・S400 アンカーボルト及びびねットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上り ・構造用 ※ JSS II 13-2004 「(社) 日本鋼構造協会規格/建築構造用ねじ」 ・建方用 ※ 普通ボルトによる 保持及び打込み工法 ○構造用 ・構造図による ・建方用 ・種別 表 7.10.1 (・A 種 ・B 種 ・C 種) による モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査 材料、調査等 ○種別 7.2.9 による 品質及び試験方法 ○種別 表 7.2.6 による 工法の種別 ○種別 表 7.10.2 ○A 種 [フレーム柱] ○B 種 [間柱]	① 入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) ② 溶接接合 (7.6.7) ③ 溶接部の試験 (7.6.10) ④ 錆止め塗装 (7.1.7) ⑤ 耐火被覆 (7.1.7)	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図( )による ○構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5 (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による 適用箇所 ・構造図( )による ○柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 スカラップの形状 ○改良型 ・エンドタブの切除 ○行う 適用箇所 ○全て ・構造図( )による ・行わない 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・工場溶接の場合 AOL (%) ※ 4.0 ・ 2.5 節 ・全て 検査水準 ○第 6 水準 ・工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AOL (・4.0% ・ 2.5%) 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 鉄鋼面 種別 適用箇所 ○種別 表 18.3.1 A 種 ○屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・種別 表 18.3.1 B 種 ・屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・ 亜鉛めっき面 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.2 A 種 ・屋外、屋内 ・ 鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.1 B 種 ・ 種別等 (7.9.1~7) 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ○半乾式吹付けロックウール ・講堂・ステージ屋根の鉄骨 (ただし、小屋組とブドウ棚は不要) ・湿式ロックウール ・ ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・ ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ ・S1種引掛差り 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 性 能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ○1時間耐火 ・講堂屋根の鉄骨 (小屋組とブドウ棚は不要) ・2時間耐火 ・3時間耐火		
	⑤ コンクリートの強度及び試験方法	※ 種別 5.5, 6.9.2, 6.9.3, 6.9.4 による。 ※ 構造用コンクリートで、10m <sup>3</sup> 未満かつ構造上重要でない部分については、フレッシュコンクリートの試験、コンクリートの強度試験を省略することができる。	⑰ 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ⑱ 施工管理技術者 (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2) ⑲ 製作精度 (7.3.3) ⑳ 建方精度 (7.10.2) ㉑ 鋼材 (7.2.0)(7.2.1) ㉒ 高力ボルト (7.2.2)(7.1.2) ㉓ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.4) ㉔ アンカーボルト (7.2.4) ㉕ 柱底均しモルタル (7.1.9) ㉖ 耐火被覆 (7.1.7)	製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈱日本鉄骨評価センター及び㈱全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する ・適用しない ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。 ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。 鋼材の材質 種類の記号 適用箇所 規格等 ○S S 400 小梁・間柱 ※ JIS規格による ○S N 400 B 大梁・SRC柱 ※ JIS規格による ・S N 401 C ○S N 401 C ダイアフラム ※ JIS規格による ・B C R 235 ・S T K R 400 B O X 柱 ※ JIS規格による ○S S C 400 モヤ ※ JIS規格による 区分 ○トリアシ高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ・構造図による すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による セツトの種類 ○種 (F8T相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 ※プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・構造図による 材質 ○構造用 (柱・リソト) ・SBR ○SBR ○SBR ・建方用 ・S400 アンカーボルト及びびねットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上り ・構造用 ※ JSS II 13-2004 「(社) 日本鋼構造協会規格/建築構造用ねじ」 ・建方用 ※ 普通ボルトによる 保持及び打込み工法 ○構造用 ・構造図による ・建方用 ・種別 表 7.10.1 (・A 種 ・B 種 ・C 種) による モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査 材料、調査等 ○種別 7.2.9 による 品質及び試験方法 ○種別 表 7.2.6 による 工法の種別 ○種別 表 7.10.2 ○A 種 [フレーム柱] ○B 種 [間柱]	① 入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) ② 溶接接合 (7.6.7) ③ 溶接部の試験 (7.6.10) ④ 錆止め塗装 (7.1.7) ⑤ 耐火被覆 (7.1.7)	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図( )による ○構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5 (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による 適用箇所 ・構造図( )による ○柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 スカラップの形状 ○改良型 ・エンドタブの切除 ○行う 適用箇所 ○全て ・構造図( )による ・行わない 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・工場溶接の場合 AOL (%) ※ 4.0 ・ 2.5 節 ・全て 検査水準 ○第 6 水準 ・工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AOL (・4.0% ・ 2.5%) 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 鉄鋼面 種別 適用箇所 ○種別 表 18.3.1 A 種 ○屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・種別 表 18.3.1 B 種 ・屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・ 亜鉛めっき面 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.2 A 種 ・屋外、屋内 ・ 鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.1 B 種 ・ 種別等 (7.9.1~7) 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ○半乾式吹付けロックウール ・講堂・ステージ屋根の鉄骨 (ただし、小屋組とブドウ棚は不要) ・湿式ロックウール ・ ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・ ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ ・S1種引掛差り 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 性 能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ○1時間耐火 ・講堂屋根の鉄骨 (小屋組とブドウ棚は不要) ・2時間耐火 ・3時間耐火		
	⑥ コンクリートの単位水量測定	○ 行わない ・ 行う 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m <sup>3</sup> に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.2.4(1) による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値 ±15 を超え ±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値 ±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値 ±20kg/m <sup>3</sup> を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、設計値 ±20kg/m <sup>3</sup> 以内であることを確認する。更に、設計値 ±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。 (4) 上記の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (5) 単位水量管理についての記録を計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。 (6) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。	⑰ 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ⑱ 施工管理技術者 (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2) ⑲ 製作精度 (7.3.3) ⑳ 建方精度 (7.10.2) ㉑ 鋼材 (7.2.0)(7.2.1) ㉒ 高力ボルト (7.2.2)(7.1.2) ㉓ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.4) ㉔ アンカーボルト (7.2.4) ㉕ 柱底均しモルタル (7.1.9) ㉖ 耐火被覆 (7.1.7)	製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈱日本鉄骨評価センター及び㈱全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する ・適用しない ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。 ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。 鋼材の材質 種類の記号 適用箇所 規格等 ○S S 400 小梁・間柱 ※ JIS規格による ○S N 400 B 大梁・SRC柱 ※ JIS規格による ・S N 401 C ○S N 401 C ダイアフラム ※ JIS規格による ・B C R 235 ・S T K R 400 B O X 柱 ※ JIS規格による ○S S C 400 モヤ ※ JIS規格による 区分 ○トリアシ高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ・構造図による すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による セツトの種類 ○種 (F8T相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 ※プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・構造図による 材質 ○構造用 (柱・リソト) ・SBR ○SBR ○SBR ・建方用 ・S400 アンカーボルト及びびねットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上り ・構造用 ※ JSS II 13-2004 「(社) 日本鋼構造協会規格/建築構造用ねじ」 ・建方用 ※ 普通ボルトによる 保持及び打込み工法 ○構造用 ・構造図による ・建方用 ・種別 表 7.10.1 (・A 種 ・B 種 ・C 種) による モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査 材料、調査等 ○種別 7.2.9 による 品質及び試験方法 ○種別 表 7.2.6 による 工法の種別 ○種別 表 7.10.2 ○A 種 [フレーム柱] ○B 種 [間柱]	① 入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) ② 溶接接合 (7.6.7) ③ 溶接部の試験 (7.6.10) ④ 錆止め塗装 (7.1.7) ⑤ 耐火被覆 (7.1.7)	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図( )による ○構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5 (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による 適用箇所 ・構造図( )による ○柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 スカラップの形状 ○改良型 ・エンドタブの切除 ○行う 適用箇所 ○全て ・構造図( )による ・行わない 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・工場溶接の場合 AOL (%) ※ 4.0 ・ 2.5 節 ・全て 検査水準 ○第 6 水準 ・工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AOL (・4.0% ・ 2.5%) 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 鉄鋼面 種別 適用箇所 ○種別 表 18.3.1 A 種 ○屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・種別 表 18.3.1 B 種 ・屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・ 亜鉛めっき面 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.2 A 種 ・屋外、屋内 ・ 鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.1 B 種 ・ 種別等 (7.9.1~7) 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ○半乾式吹付けロックウール ・講堂・ステージ屋根の鉄骨 (ただし、小屋組とブドウ棚は不要) ・湿式ロックウール ・ ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・ ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ ・S1種引掛差り 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 性 能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ○1時間耐火 ・講堂屋根の鉄骨 (小屋組とブドウ棚は不要) ・2時間耐火 ・3時間耐火		
	⑦ コンクリートの単位水量測定	○ 行わない ・ 行う 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m <sup>3</sup> に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.2.4(1) による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値 ±15 を超え ±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値 ±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値 ±20kg/m <sup>3</sup> を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、設計値 ±20kg/m <sup>3</sup> 以内であることを確認する。更に、設計値 ±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。 (4) 上記の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (5) 単位水量管理についての記録を計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。 (6) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。	⑰ 鉄骨の製作工場 (7.1.3) ⑱ 施工管理技術者 (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2) ⑲ 製作精度 (7.3.3) ⑳ 建方精度 (7.10.2) ㉑ 鋼材 (7.2.0)(7.2.1) ㉒ 高力ボルト (7.2.2)(7.1.2) ㉓ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.4) ㉔ アンカーボルト (7.2.4) ㉕ 柱底均しモルタル (7.1.9) ㉖ 耐火被覆 (7.1.7)	製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた ㈱日本鉄骨評価センター及び㈱全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する ・適用しない ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による。 ※ (社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 5 [工事現場] による。 鋼材の材質 種類の記号 適用箇所 規格等 ○S S 400 小梁・間柱 ※ JIS規格による ○S N 400 B 大梁・SRC柱 ※ JIS規格による ・S N 401 C ○S N 401 C ダイアフラム ※ JIS規格による ・B C R 235 ・S T K R 400 B O X 柱 ※ JIS規格による ○S S C 400 モヤ ※ JIS規格による 区分 ○トリアシ高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ・構造図による すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による セツトの種類 ○種 (F8T相当) (屋外階段部分に採用) 摩擦面の処理 ※プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ・構造図による 材質 ○構造用 (柱・リソト) ・SBR ○SBR ○SBR ・建方用 ・S400 アンカーボルト及びびねットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上り ・構造用 ※ JSS II 13-2004 「(社) 日本鋼構造協会規格/建築構造用ねじ」 ・建方用 ※ 普通ボルトによる 保持及び打込み工法 ○構造用 ・構造図による ・建方用 ・種別 表 7.10.1 (・A 種 ・B 種 ・C 種) による モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調査 材料、調査等 ○種別 7.2.9 による 品質及び試験方法 ○種別 表 7.2.6 による 工法の種別 ○種別 表 7.10.2 ○A 種 [フレーム柱] ○B 種 [間柱]	① 入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) ② 溶接接合 (7.6.7) ③ 溶接部の試験 (7.6.10) ④ 錆止め塗装 (7.1.7) ⑤ 耐火被覆 (7.1.7)	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図( )による ○構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5 (7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による 適用箇所 ・構造図( )による ○柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 スカラップの形状 ○改良型 ・エンドタブの切除 ○行う 適用箇所 ○全て ・構造図( )による ・行わない 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・行わない ※ 行う ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・工場溶接の場合 AOL (%) ※ 4.0 ・ 2.5 節 ・全て 検査水準 ○第 6 水準 ・工事現場溶接の場合 ※ 全数 ・ AOL (・4.0% ・ 2.5%) 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 鉄鋼面 種別 適用箇所 ○種別 表 18.3.1 A 種 ○屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・種別 表 18.3.1 B 種 ・屋内 (種別 7.8.2 の範囲以外) ・ 亜鉛めっき面 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.2 A 種 ・屋外、屋内 ・ 鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種別 適用箇所 ・種別 表 18.3.1 B 種 ・ 種別等 (7.9.1~7) 種別 材料・工法 適用箇所 (部位・部分) ○耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ○半乾式吹付けロックウール ・講堂・ステージ屋根の鉄骨 (ただし、小屋組とブドウ棚は不要) ・湿式ロックウール ・ ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・ ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ ・S1種引掛差り 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 性 能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ○1時間耐火 ・講堂屋根の鉄骨 (小屋組とブドウ棚は不要) ・2時間耐火 ・3時間耐火		



# 構造関係共通事項

- 1 総則
- 1.1 適用範囲等
- (a) 構造関係共通事項は、構造関係の共通事項と、構造関係共通図（配筋標準図）、構造関係共通図（鉄骨標準図）から構成される。
  - (b) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄骨コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
  - (c) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
  - (d) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、設計図及び監督職員の指示による。

- 1.2 優先順位
- (a) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
    - 特記仕様書（構造関係）
    - 図面 2-1 下記 2-2 以外の図面
    - 2-2 構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
    - 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成22年版）」

- 1.3 用語の定義
- (a) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
  - (b) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

- 1.4 記号
- (a) 設計図中で使用する記号は、表1.1、表1.2を標準とする。

表1.1 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		○	×	◇	○	○	○	⊗	⊙

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
○	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	+	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
SO	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁（CB壁）	⊕	ポーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がり範囲	(±)	FLからの上がり下がり
EW	耐力壁の種別		
EK			

表1.3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		○	×	+	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

表1.4 スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

# 構造関係共通図（配筋標準図）

## 1 鉄筋の加工

(a) 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

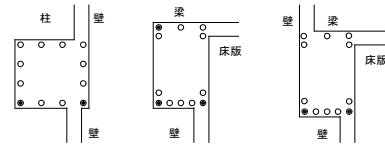
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B, SD345	D16 以下	D19 ~D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90° (幅止め筋)		4d以上	4d以上	4d以上

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。  
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

## 2 異形鉄筋の末端部

(a) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱の四隅にある主筋（図2.1の○）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
- (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2.1の○）にある場合（基礎梁を除く）



- (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (4) 杭基礎のベース筋
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

## 3 鉄筋の継手及び定着

### 3.1 継手及び定着

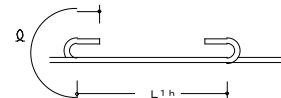
(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表3.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	$L_1$ (フックなし)	$L_{1h}$ (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
SD345	30 33 36	35d	25d
	18	50d	35d
	21	45d	30d
SD390	24 27	40d	30d
	30 33 36	35d	25d
	21	50d	35d
	24 27	45d	35d
	30 33 36	40d	30d

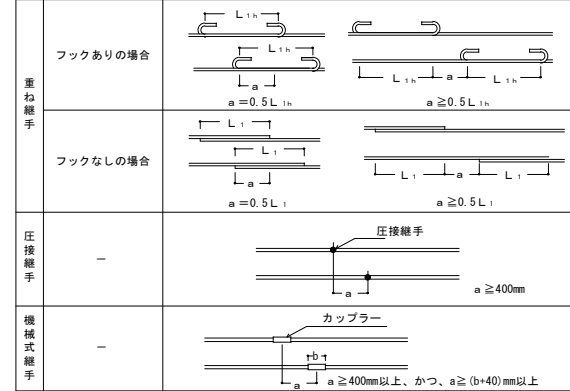
(注) 1.  $L_1$ 、 $L_{1h}$ ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
2. フックありの場合の $L_{1h}$ は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。



3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (3) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。  
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。  
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、構造図による。

表3.2 隣り合う継手の位置



### (b) 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3による。  
柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表3.3の定着長さのうち大きい値とする。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし			フックあり		
		$L_1$	$L_2$	$L_3$	$L_{1h}$	$L_{2h}$	$L_{3h}$
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	35d	30d	25d
	21	40d	35d	30d	30d	25d	20d
	24 27	35d	30d	25d	25d	20d	15d
SD345	30 33 36	35d	30d	25d	25d	20d	15d
	18	50d	40d	30d	35d	30d	25d
	21	45d	35d	25d	30d	25d	20d
SD390	24 27	40d	35d	25d	30d	25d	20d
	30 33 36	35d	30d	25d	35d	30d	25d
	21	50d	40d	35d	30d	25d	20d

- (注) 1.  $L_1$ 、 $L_{1h}$ ：2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ  
2.  $L_2$ 、 $L_{2h}$ ：割製破線のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ  
3.  $L_3$ ：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。  
4.  $L_{3h}$ ：小梁の下端筋のフックあり直線定着長さ  
5. フックあり定着の場合は、図3.2(イ)に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。  
6. 軽量コンクリートを使用する場合は、表3.3の値に5dを加えたものとする。

- (2) 梁主筋の柱内定着の方法は図3.2による。  
なお、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3.3のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表3.3に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表3.4に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せい0.3/4倍以上、小梁の場合は1/2以上）をのみ込ませる。  
(注) 1.  $L_a$ 、 $L_b$ は、表3.4の鉄筋の投影定着長さを示す。

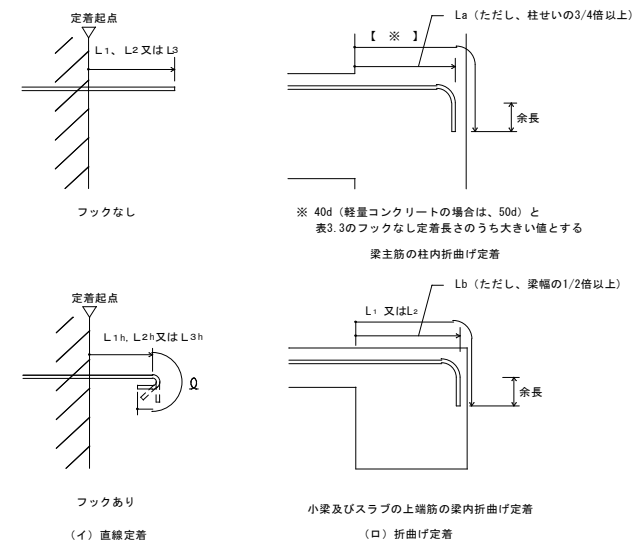


図3.2 定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	$L_a$	$L_b$
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
SD345	30 33 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
SD390	24 27	20d	15d
	30 33 36	15d	15d
	21	20d	20d

(注) 1.  $L_a$ ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）  
2.  $L_b$ ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(c) その他の鉄筋の継手及び定着

- (1) 溶接金網の継手及び定着は、図3.3による。  
なお、 $L_2$ 及び $L_3$ は表3.3の(注)による。

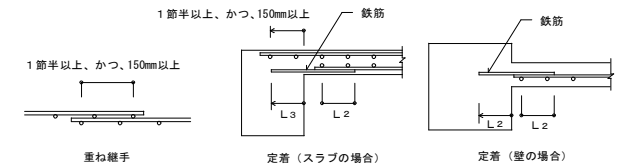


図3.3 溶接金網の継手及び定着

- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.4による

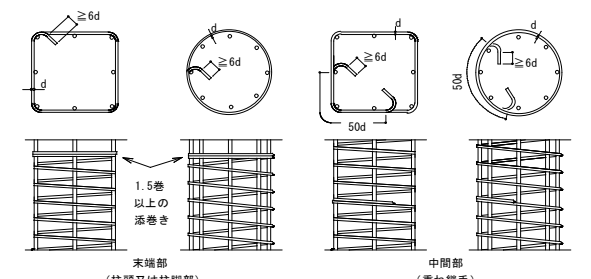


図3.4 スパイラル筋の継手及び定着

## 4 鉄筋のかぶり及び間隔

### 4.1 最小かぶり厚さ

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。  
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別	最小かぶり厚さ			
	仕上げあり	仕上げなし		
土に接しない部分	スラブ	20		
	耐力壁以外の壁	仕上げあり	30	
		屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
柱、梁、耐力壁	仕上げあり	30		
	仕上げなし	40		
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40		
	柱、梁、スラブ、壁	*40 (D29は60)		
衝突等高熱を受ける部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ	*60		
		60		

- (注) 1. \*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。  
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。  
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、推コンクリートの厚さを含まない。  
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。  
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。  
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。  
(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。  
(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。  
ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、構造図による。  
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍  
(2) 25mm  
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

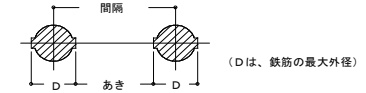


図4.1 鉄筋相互のあき

- (a) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。  
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり、厚さは(c)による。



5 基礎及び基礎梁の配筋

5.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

- (a) 一般事項  
 (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等は折り曲げて定着する。  
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(a)(2)による。

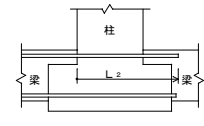
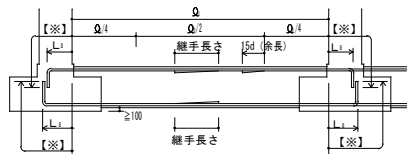


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

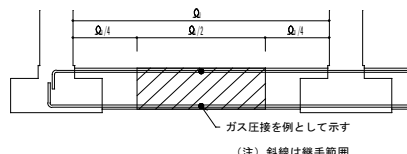
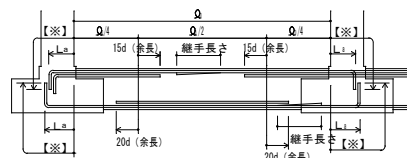


図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長  
 ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

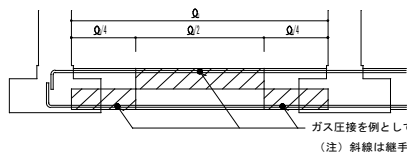
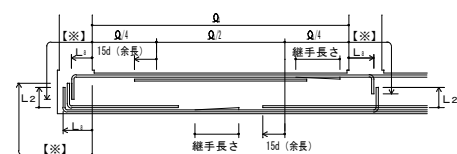


図5.5 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

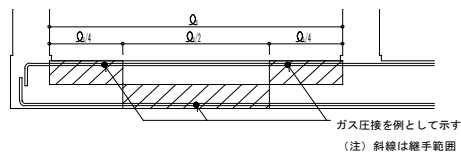


図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

5.2 基礎梁のあばら筋

- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(a)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

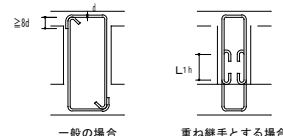
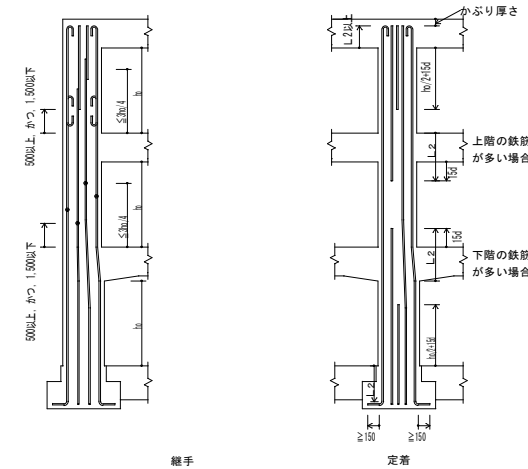


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

6 柱の配筋

6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (a) 柱主筋の継手、定着及び余長の一般事項  
 (1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3h/4 (hは柱の内法高さ) 以下とする。  
 (2) 継手、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱脚定着長さL2を確保できない場合は構造図に示す。

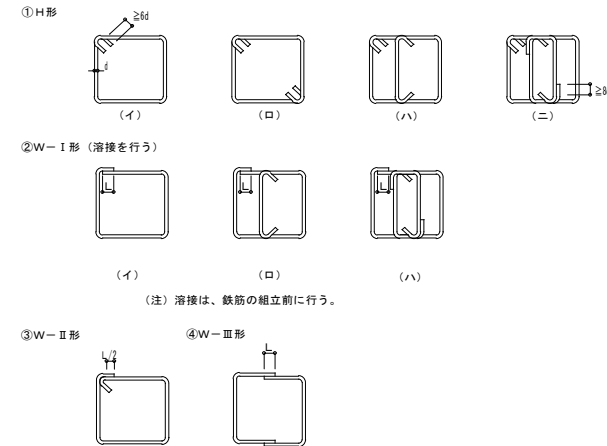


- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。  
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2による。

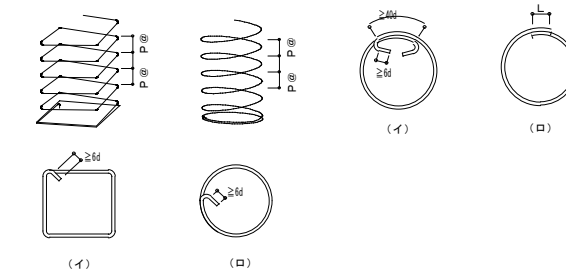
図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

6.2 帯筋組立の形及び割付け

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による

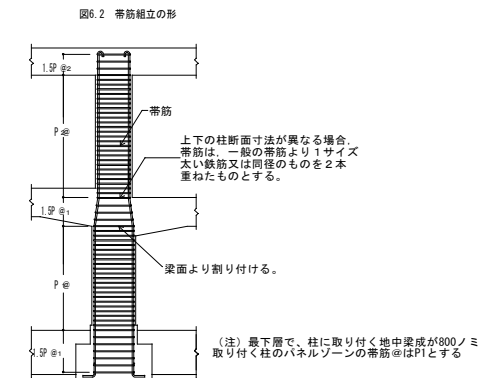


③SP形(スパイラル筋)



- (注) 1. フック及び継手の位置は、交互とする。  
 2. 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。  
 3. SP形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の巻巻きを行う。  
 4. H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。

(b) 帯筋の割付けは、図6.3による。



- (注) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P @または1.5P @とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。  
 なお、P @、P @は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.3 帯筋の割付け

6.3 柱の打増し部

- (a) 土に接する柱周囲の打増しは図6.4による。

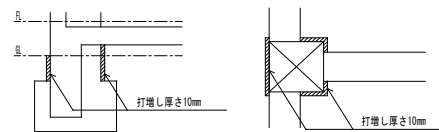
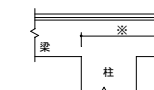


図6.4 柱打増し部

7 梁の配筋

7.1 大梁(5.1基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

- (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項  
 (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等は折り曲げて定着する。



- ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし直線定着長さのうち大きい値とする

図7.1 梁主筋の梁内定着

- (2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。  
 なお、定着の方法は、3.1(b)(2)による。

上端筋：曲げ降ろす。  
 下端筋：原則として曲げ上げる。

- (3) 段違い梁は、図7.2による。

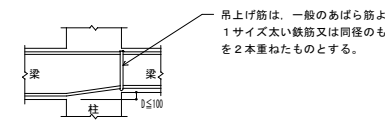
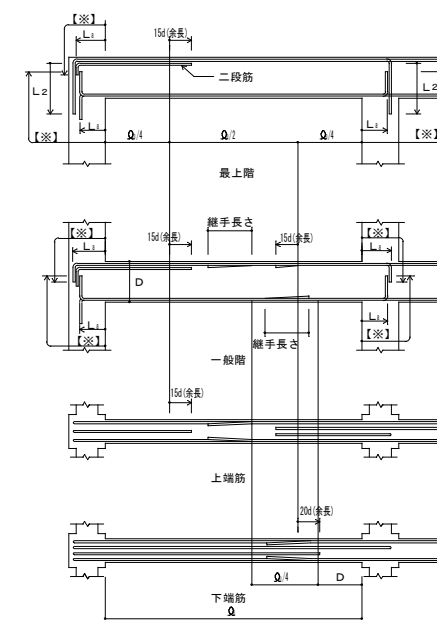


図7.2 段違い梁

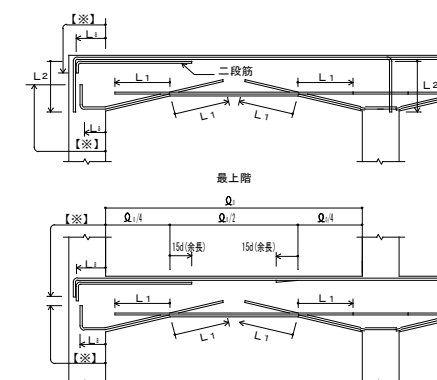
(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 継手中心位置は次による。  
 上端筋：中央 Q/2以内  
 下端筋：柱面より梁せい(D)以上とし、Q/4を加えた範囲以内  
 2. 異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。  
 3. 印は、継手及び余長を示す。  
 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

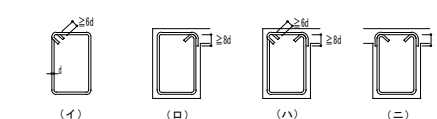


- (注) 1. 異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。  
 2. 印は、継手及び余長を示す。  
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。  
 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
 ※ 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋(5.2基礎梁のあばら筋以外に限る)の組立の形及び割付け等

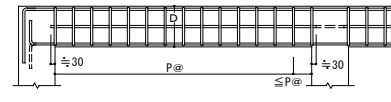
- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置



- (注) 1. (イ)形を標準とする。ただし、L形の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形の場合は、(ロ)~(ニ)とすることができる。  
 2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床板の付く側を90°折り曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

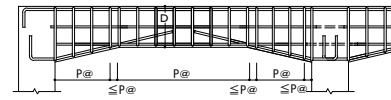
(b) あばら筋の割付け  
(1) 間隔が一律で、ハンチのない場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け(その1)

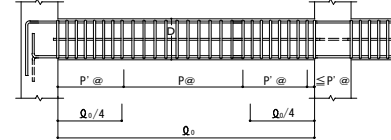
(2) 間隔が一律で、ハンチがある場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。  
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け(その2)

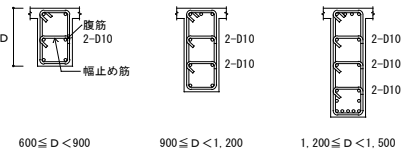
(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。  
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け(その3)

(c) 腹筋及び幅止め筋



(注) 1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、柱等への、のみこみ長さは図7.6による。  
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9 腹筋及び幅止め筋

7.3 小梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 連続小梁の場合

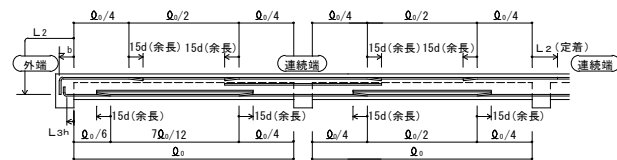
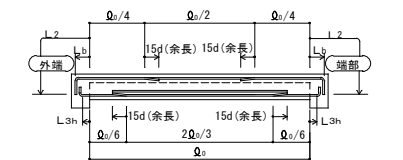


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(b) 単独小梁の場合

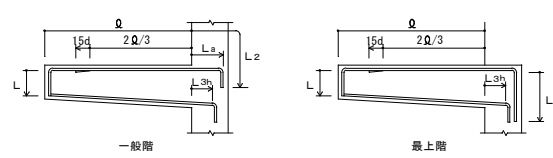


(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく重なり余長がとれない場合、斜めにしてもよい。  
3. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

7.4 片持梁主筋の継手、定着及び余長

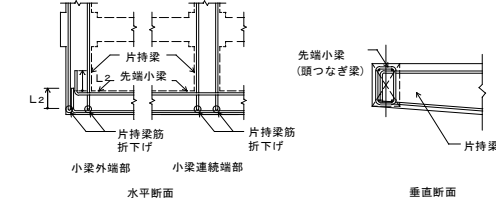
(a) 先端に小梁のない場合



(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。  
3. 図示のない事項は、7.11による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



(注) 1. 図示のない事項は、(a)による。  
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

8 壁及びその他の配筋

8.1 壁の基準配筋

(a) 壁の基準配筋は表8.1により、種類の適用は構造図による。

表8.1 壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(b) 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表8.2により、種類の適用は構造図による。

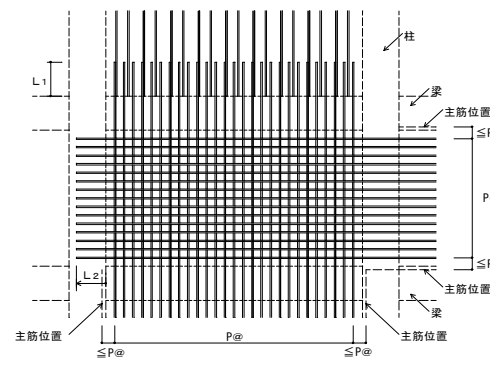
表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋 D10-200@ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋 D10-200@ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

8.2 壁の継手及び定着

(a) 壁の継手及び定着の一般事項



(注) 1. 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。  
2. 壁配筋の重ね継手はL1とする。ただし耐力壁の重ね継手長さは、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と表3.1のフックなし重ね継手長さのうち大きい値とする。  
3. 壁配筋の定着長さはL2とする。  
4. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

図8.1 壁の配筋

8.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋は図8.2による。

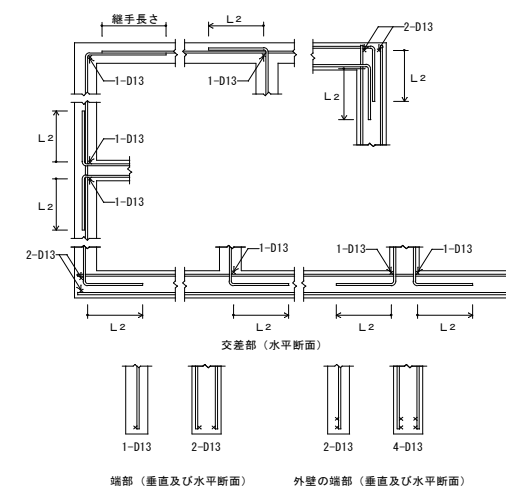


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.4 壁の開閉部補強

(a) 耐力壁を除く壁開閉部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。

表8.3 壁開閉部補強筋(A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開閉部補強筋(B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(b) 壁開閉部補強筋の定着長さは図8.3による。

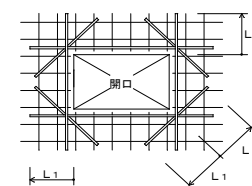


図8.3 壁開閉部補強筋の定着長さ

8.5 パラペット

(a) パラペットの配筋は図8.4による。  
(b) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

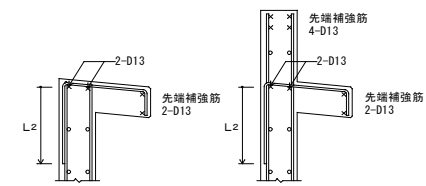


図8.4 パラペットの配筋

9 スラブの配筋

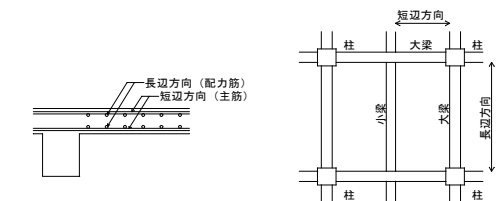
9.1 スラブの基準配筋

(a) スラブの基準配筋は表9.1により、種類の適用及びスラブ厚さは意匠図による。

表9.1 スラブの基準配筋(S形)

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域		長辺方向(配力筋) 全域	
	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150@	S10	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150@	S12	同上
S 6	同上	D10-150@	S13	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



(注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。  
2. 鉄筋の重ね継手長さは40d(軽量コンクリートの場合は50d)と表3.1の重ね継手の長さのうち、大きい値とする。

図9.1 スラブの配筋

9.2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) スラブ筋の定着及び受け筋は図9.2により、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

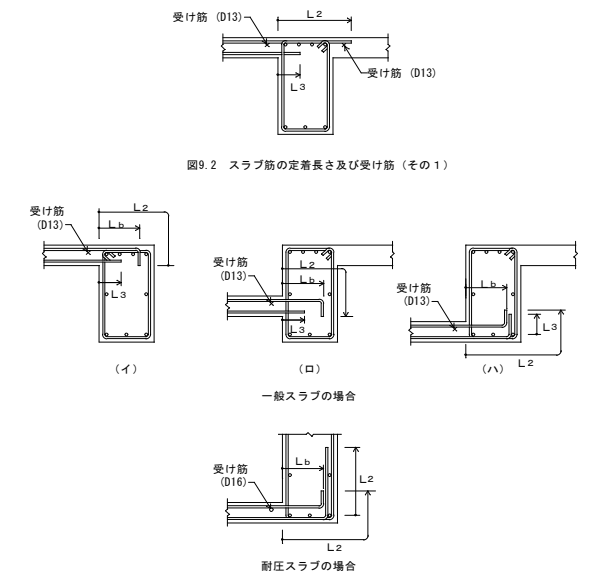


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

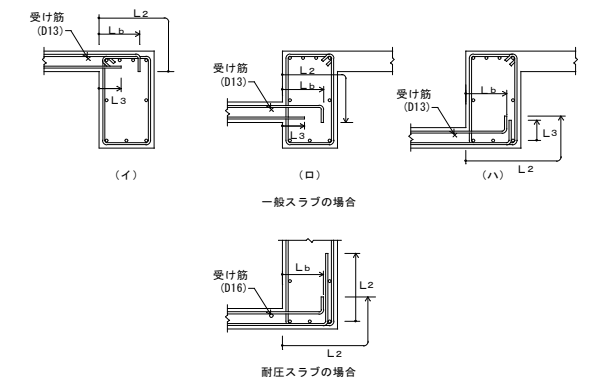


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

9.3 片持スラブの基準配筋

(a)片持スラブの基準配筋は表9.2により、種類の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.2 片持スラブの基準配筋 (CS形)

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100#	CS5	D10-200#
	下 D13-200#		D10-400#
CS2	上 D13-150#	CS6	D10, D13-200#
	下 D13-300#		—
CS3	上 D10, D13-150#	CS7	D10-200#
	下 D10, D13-300#		—
CS4	上 D10, D13-200#	—	—
	下 D10-200#	—	—

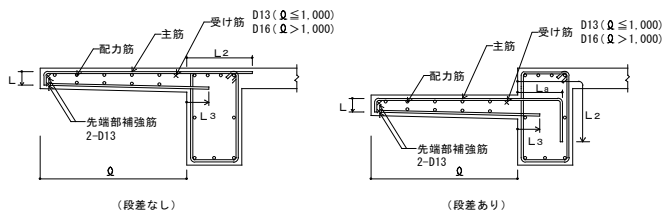


図9.4 片持スラブの配筋 (CS1からCS5)

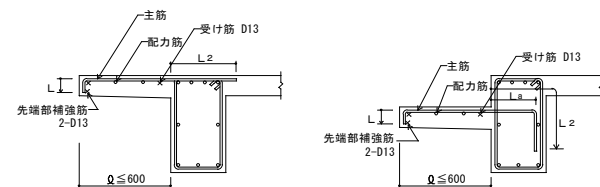


図9.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(注) 先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

9.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

(a)片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

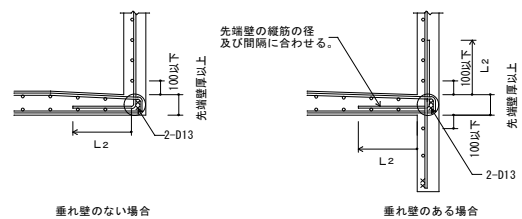
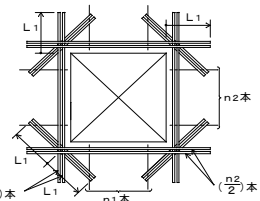


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

9.5 スラブの開口部の補強

(a)スラブ開口部の補強及び定着方法は構造図による。ただし構造図において軽微な開口として特記されたものの開口補強については下記による事ができる。軽微な開口の特記は構造図による。

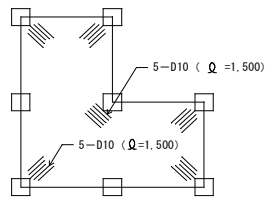


(注) 1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13  $\phi$   $\rightarrow$ 2L シングルを上下筋の内側に配筋する。  
2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図9.7 スラブ開口部の補強配筋

9.6 出隅部及び入隅部の補強

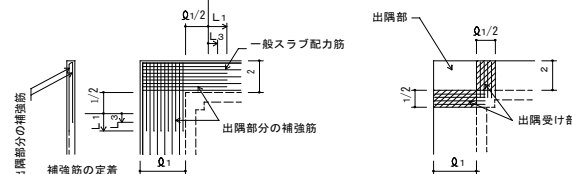
(a) 屋根スラブの出隅及び入隅部



(注) 補強筋を上端筋の下側に配置する。

図9.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持スラブの出隅部



(注)  $q_1 \geq q_2$ とする

(注) 1.  $q_1 \geq q_2$ とする  
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。  
3. 出隅受け部分(斜線部分)の補強筋は構造図による。

図9.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.7 スラブの打継ぎ補強等

(a) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちとしなくて打継ぎを設ける場合の補強) (土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は構造図による。)

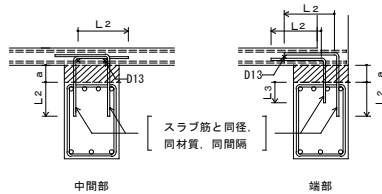


図9.10 打継ぎ補強配筋

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋 (土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。a>300の場合は構造図による。)

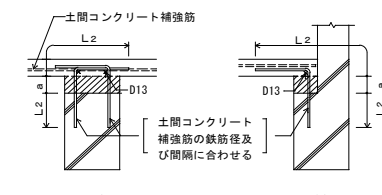


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10 階段の配筋

10.1 片持スラブ階段の基準配筋

(a)片持スラブ階段の基準配筋は表10.1により、種類の適用及びスラブ厚さは構造図による

表10.1 片持スラブ階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2	KA3	KA4
配筋図				
配筋種別	D13, D13, D10-300#	2-D13, D13, D10-300#	D10-300#, D13	D10-300#, D13, 2-D13
配筋図				

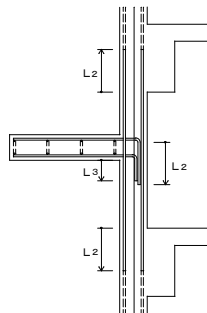


図10.1 片持スラブ階段配筋の定着

(注) 1. 片持スラブ階段を受ける壁配筋は、8.1(b)による。  
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。  
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3のL3とする。

10.2 二辺固定スラブ階段の基準配筋

(a)二辺固定スラブ階段の基準配筋は表10.2並びに図10.2、図10.3により、種類の適用、スラブ厚さは構造図による。

表10.2 二辺固定スラブ階段の基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

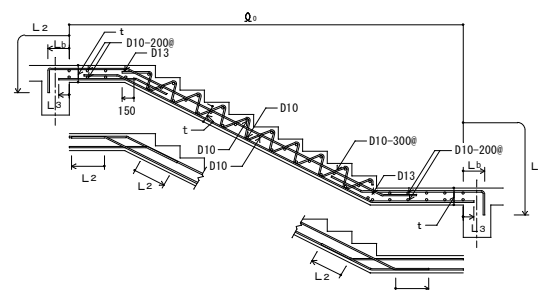
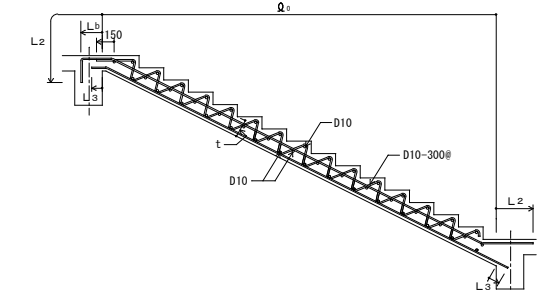


図10.2 二辺固定スラブ階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ階段配筋を準用する。

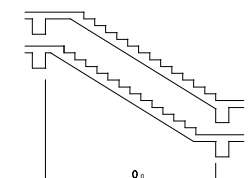


図10.3 二辺固定スラブ階段配筋 (その2)

11 梁貫通孔その他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図11.1による。  
(b) 孔の径は、梁せいりの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外挿円とする。  
(c) 孔の上下方向の位置は梁せいり中心付近とし、梁中央部下縁は梁下縁より1/30の範囲には設けてはならない。  
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せいり) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。  
(e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。  
(f) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。  
(g) 孔の径が梁せいりの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(軽微な開口)で鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。  
(h) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。  
(i) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13のリング筋を取り付ける。  
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。  
(j) 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

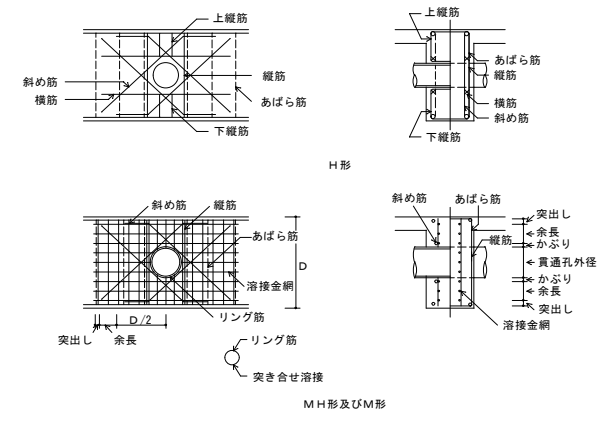


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

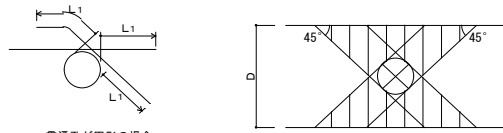


図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 他の開口を設けない範囲

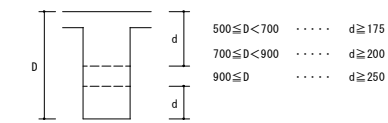


図11.4 孔の上下方向の位置の履度

11.2 梁貫通孔の補強形式

(a) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.3により、種類の適用、箇所数等は構造図による

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	なし	なし	なし	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種類	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	
M4	6-2-D13		

(注) - - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 MH形配筋

配筋種類	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D19			

(注) - - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

1.1.3 コンクリートブロック横壁との取合い

(a) 控壁の配筋は、図11.3とし、控壁の配置は意匠図による。

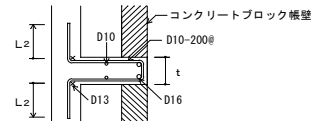


図11.3 控壁の配筋（水平、垂直とも）

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は図11.4により、横壁の配筋の定着長等は意匠図による。

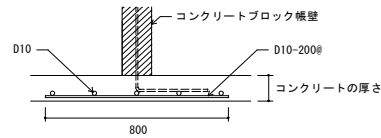
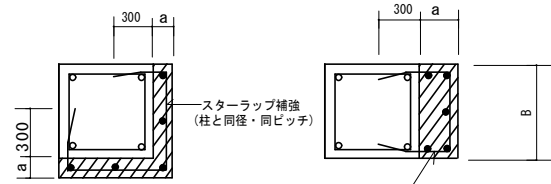


図11.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

1.2 柱、梁増打コンクリート補強

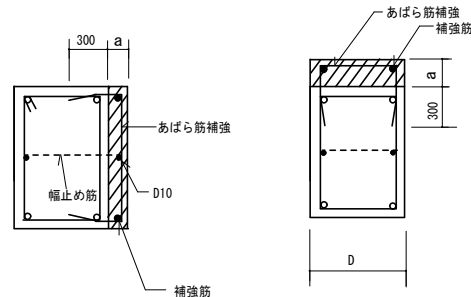
(1) 柱



ハッチ部分は増打コンクリートを示す  
●印は補強縦筋を示す(定着長は柱主筋と同じ)

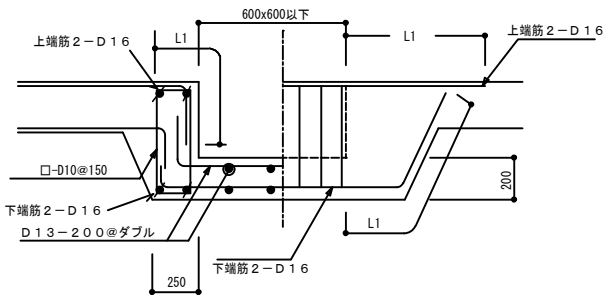
ハッチ部分の面積Acm <sup>2</sup>	500 ≤ A	500 < A < 1000	1000 ≤ A ≤ 1500
補強縦筋の本数	3-D16	4-D16	6-D16

(2) 梁（土間スラブは9.7スラブの打継補強による）



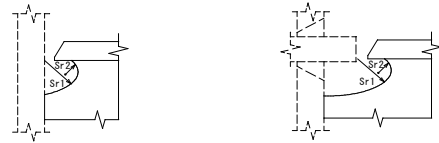
- ・補強筋は、梁主筋の1段階しの径 (D16 以上) とする。
- ・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- ・腹筋D10 ピッチは梁の腹筋と合わせる。
- ・D ≥ 400の場合は補強筋3本とする。
- ・aは100~200程度とする。
- ・梁下増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ・ハッチ部分は増打コンクリートを示す
- ・補強筋定着長は梁主筋と同様とする。

1.3 釜場





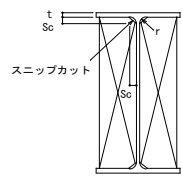
- (3) スカラップ  
改良型スカラップ  
①スカラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。  
②スカラップ内弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



- 従来型スカラップ  
①スカラップ半径Srは35mmとする。



- (4) スニップカット  
①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

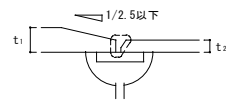


スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

※ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc=r+2$ により求めるものとする。

- (5) 溶接部分の段差  
①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合

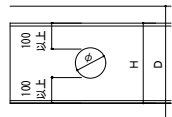


- (7) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
490N級鋼	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3212		
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
520N級鋼	YGA-50W, 50P	30以下	250以下
	JIS Z 3214		
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
400N級STKR、BCR及びBCP	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19		
490N級STKR、及びBCP	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19		

## 6 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。  
(2) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せい/3以下とする。  
(3) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。  
(4) 梁貫通孔位置の限度は以下による。

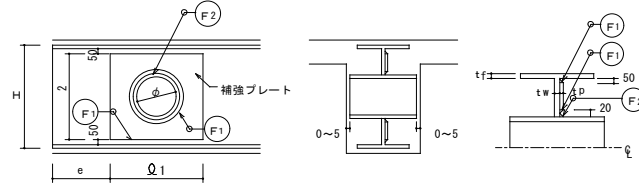


梁貫通孔位置の限度 (単位: mm)

H: 鉄骨せい  
D: はりせい  
φ: 貫通孔内径寸法  
(φ ≤ H/2かつφ ≤ D/3)

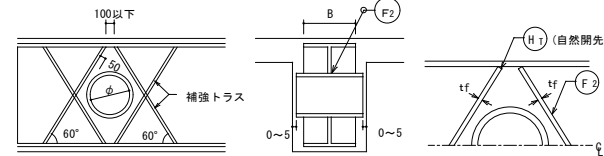
※ 梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端から貫通孔の中心まで1.2D以上離し、梁継手位置等にも留意する。

## 補強プレート法



Q1はφまたはQ2のうち小さい方とする。(e ≧ Hとする)  
e: 材端と補強プレートとの間隔

## 補強トラス法



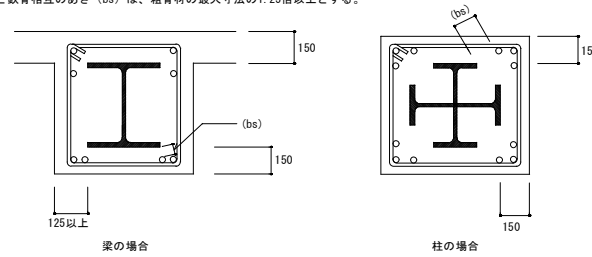
## 7 広幅平鋼の取り扱い

- (1) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。  
(2) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

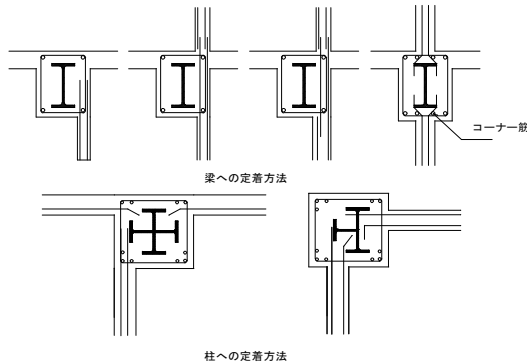
幅	厚さ										
	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 8 鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

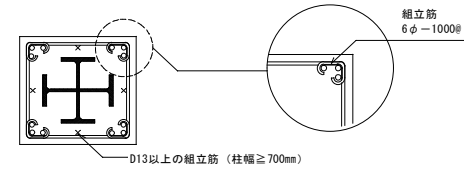
- (1) 鉄骨のかぶり厚さ  
鉄筋と鉄骨相互のあき (bs) は、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。



- (2) 鉄筋の周辺部材への定着  
鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。

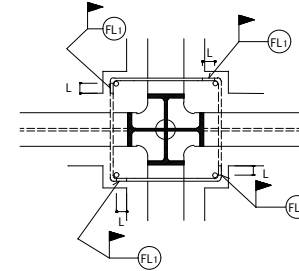


## (3) 柱組立筋



## (4) 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。



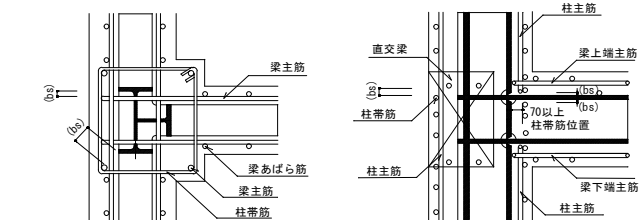
## (5) 鉄筋貫通孔の径及び位置

- 鉄筋貫通孔の径  
①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。  
②鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

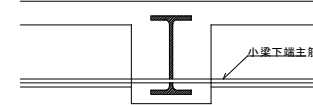
(単位: mm)

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

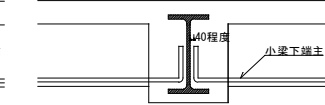
鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



# スラリー系機械攪拌式ブロック状地盤改良工法 特記仕様書

## 1. 工法概要

本工法は、セメント系固化材液を用いて現地土を流動化処理することで、ブロック状の均質な地盤改良体を築造する工法である。

## 2. 一般事項

本工事に使用する工法は「 エルマッドS工法 」同等とする。(建設技術性能証明取得工法)  
本地業は、本特記仕様書によるほか下記を参考とする。

「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」：(財)日本建築センター  
「建築基礎構造設計指針」：日本建築学会

## 3. 特記事項

改良体の形状、寸法、及び配置は、設計図書による。ただし土質や地盤の状況により設計仕様を変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認を受けて変更することができる。

・設計基準強度  $F_c = 870 \text{ kN/m}^2$   
・変動係数  $V_d = 25 \%$

・固化材の種類  特殊土用固化材(六価クロム対応品)  
 高有機質土用固化材  
 高炉セメントB種

・粉碎混合方式 攪拌バケット  
・供試体の採取方法 頭部サンプラーにより採取  
・工事業者 専門業者による責任施工

## 4. 施工計画

工事に先だち下記事項を記載した施工計画書を監督員に提出し承諾を受ける。

- ① 工事目的
- ② 工事概要
- ③ 計画・設計の条件
- ④ 施工計画(施工機械・作業計画・材料計画・工程計画)
- ⑤ 施工管理計画
- ⑥ 品質管理計画
- ⑦ 安全管理計画
- ⑧ 技術資料
- ⑨ その他

## 5. 配合計画

室内試験用土砂採取の上、改良対象土について下記の試験を行い配合を決定する。

- ① 土質分析(単位体積重量・含水費・粒度組成)
- ② 試験練り(JIS 0821-2000に準拠)
- ③ 一軸圧縮試験(材令7日)
- ④ 六価クロム溶出試験
- ⑤ 試験結果を配合報告書にまとめて提出し、監督員の承認を得る。

## 6. 施工要領

基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。

- ① 施工位置の確認
- ② 改良範囲の確認
- ③ 支持地盤までの掘削
- ④ 改良幅・改良深さの計測
- ⑤ 計測初期値セット
- ⑥ 固化材液と土を攪拌混合
- ⑦ 電気比抵抗値の測定(混合土のモニタリング)
- ⑧ 改良天端レベルの調整

## 7. 施工管理項目

- ① 改良面積
- ② 掘削深さ
- ③ 支持層
- ④ 掘削精度
- ⑤ 改良体積
- ⑥ 混合ローターの積算羽根切回数(1000回/m<sup>3</sup>)、攪拌混合度
- ⑦ 固化材液の積算流量
- ⑧ 電気比抵抗値
- ⑨ 施工天端

支持層の確認

所定深度まで掘削時に支持層を確認する。  
掘削時に所定深度でサンプリングを行い、土質柱状図、土質サンプルと照合して確認する。  
支持層：砂礫

電気比抵抗値測定

改良体の攪拌混合度を確認するために実施する。  
バケット先端に取り付けた電気比抵抗センサーにより、改良体中の電気比抵抗値をリアルタイムで測定する。  
測定結果は工事報告書に添付する。

## 8. 品質管理

改良体の強度確認

改良体より採取したモールドコア供試体による一軸圧縮試験を行う。  
採取には頭部サンプラーを使用する。  
モールドコア供試体は50φ×100Hとする。  
採取頻度は検査対象150m<sup>3</sup>当りに1回とする。

検査手法Aによる品質検査とし、材令28日の平均強度が合格判定値を上回ることを確認する。

$$X_n \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a [F_c \cdot V_d / (1 - 1.3V_d)]$$

XL:合格判定値  $F_c$ :設計基準強度  
 $\sigma_d$ :標準偏差  $V_d$ :変動係数(25%)  
ka:合格判定係数  $X_n$ :Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値

抜取箇所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

合格判定値を下回る場合は、その原因を調査して監督員と協議のうえ適切な処置を施す。

## 9. 報告書

工事完了後、以下の項目について報告書を作成し、監督員に提出する。

- ① 施工管理記録
- ② 工事写真
- ③ 品質検査結果
- ④ 材料出荷証明



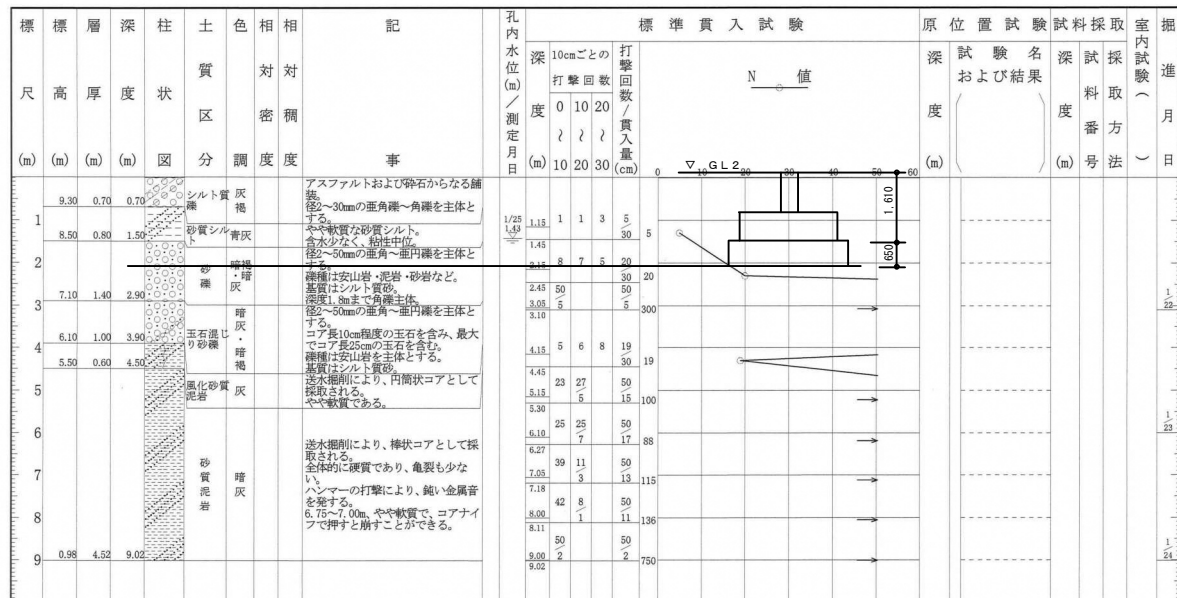
調査名 (仮称)中条総合市民センター建設工事敷地地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Table with project details for No. A, including location (長野市中条), dates (平成30年1月20日～30年1月25日), and personnel (北原健二, 宇野智博, 柴田勇太).



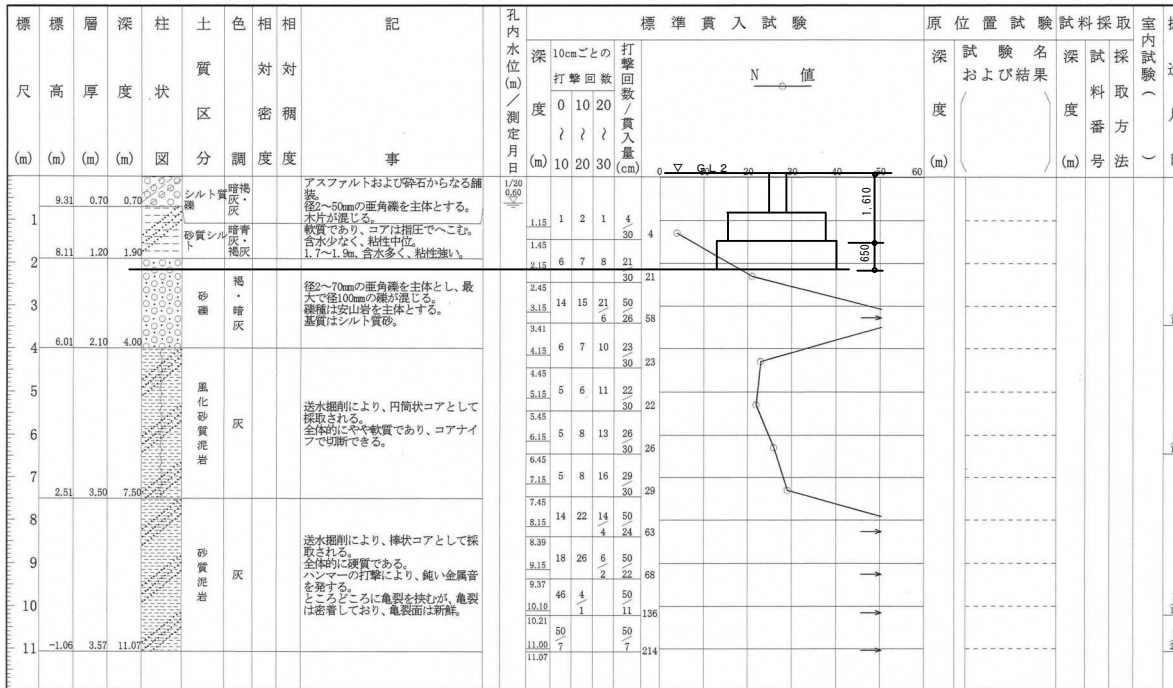
調査名 (仮称)中条総合市民センター建設工事敷地地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Table with project details for No. B, including location (長野市中条), dates (平成30年1月15日～30年1月20日), and personnel (北原健二, 宇野智博, 柴田勇太).



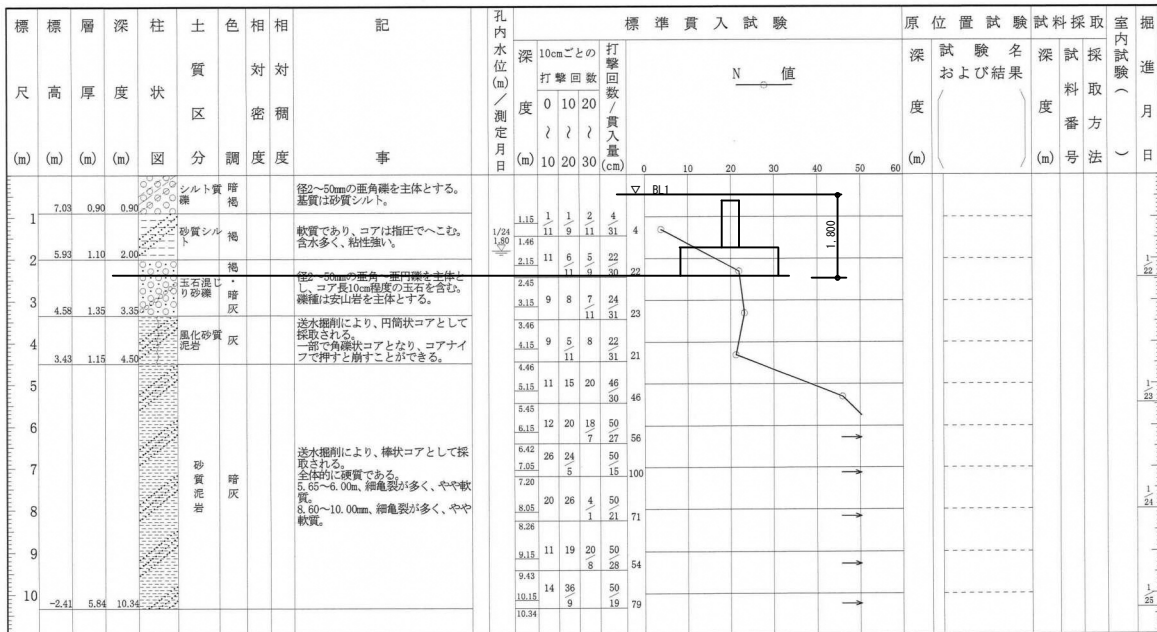
調査名 (仮称)中条総合市民センター建設工事敷地地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

Table with project details for No. C, including location (長野市中条), dates (平成30年1月22日～30年1月26日), and personnel (北原健二, 宇野智博, 羽入田竹重).



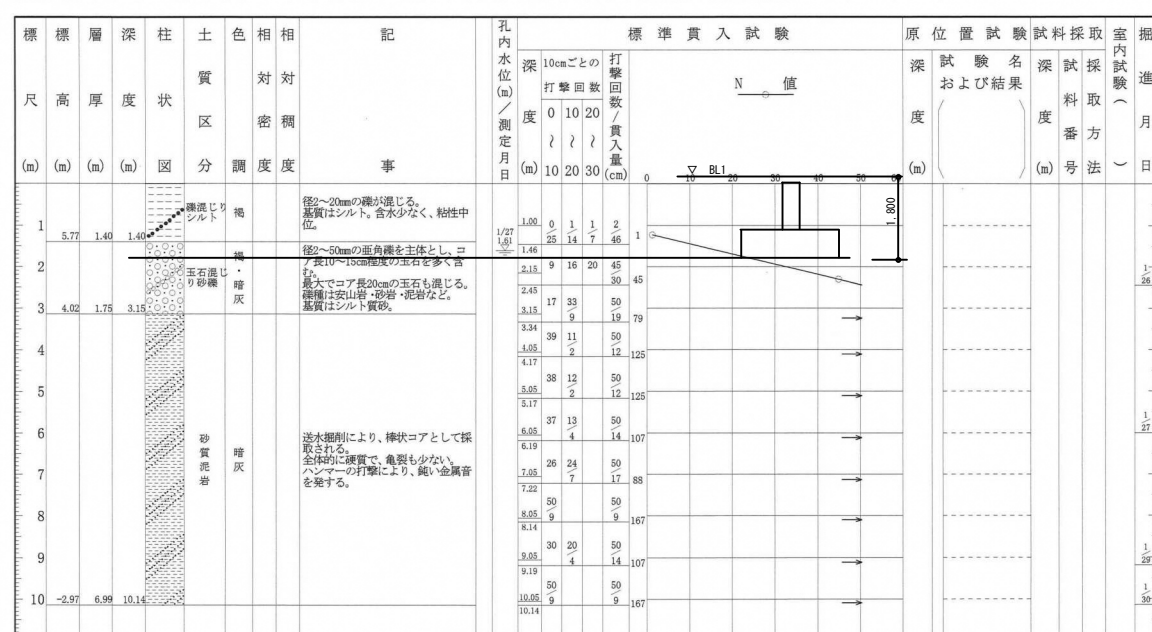
調査名 (仮称)中条総合市民センター建設工事敷地地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

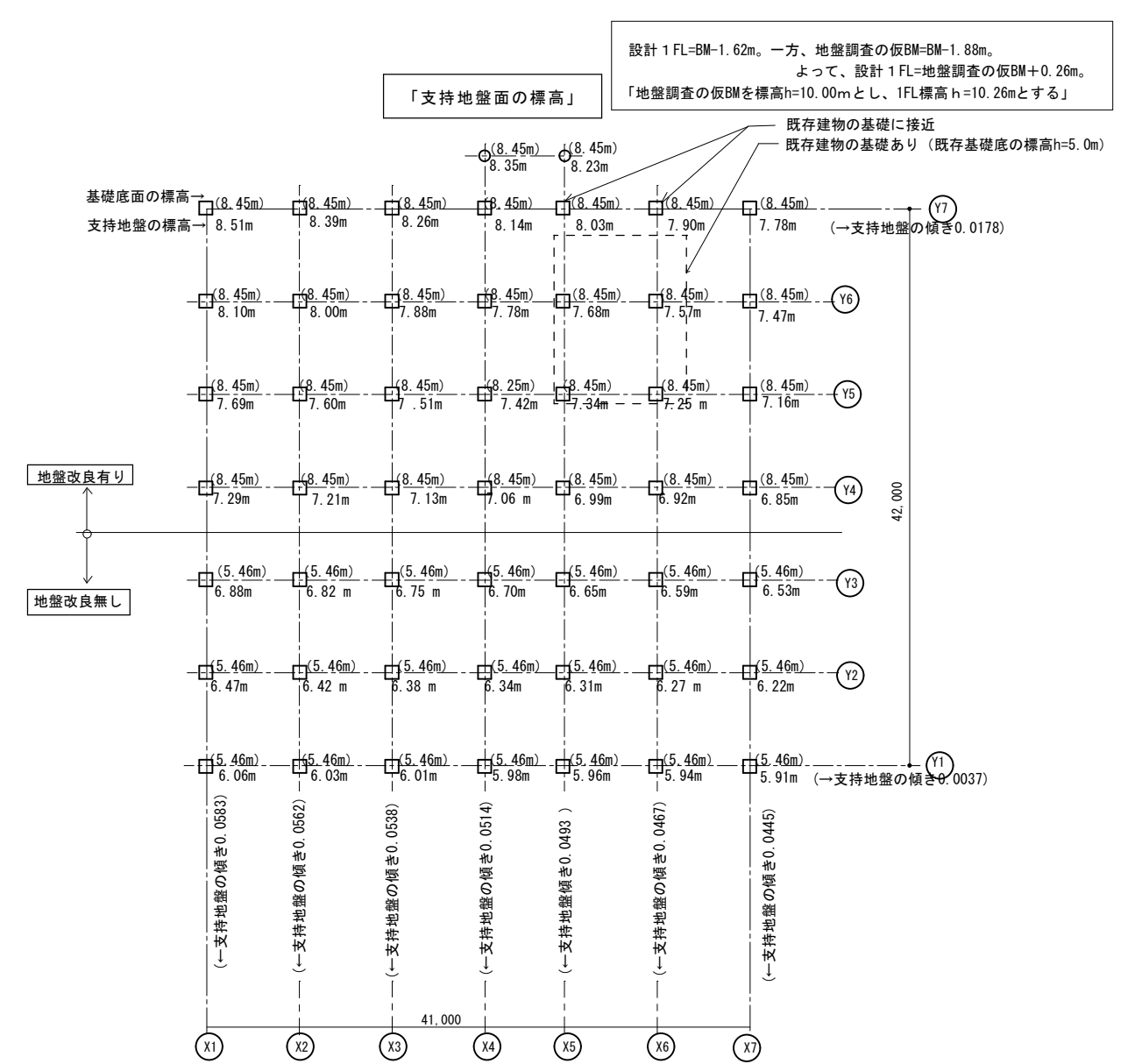
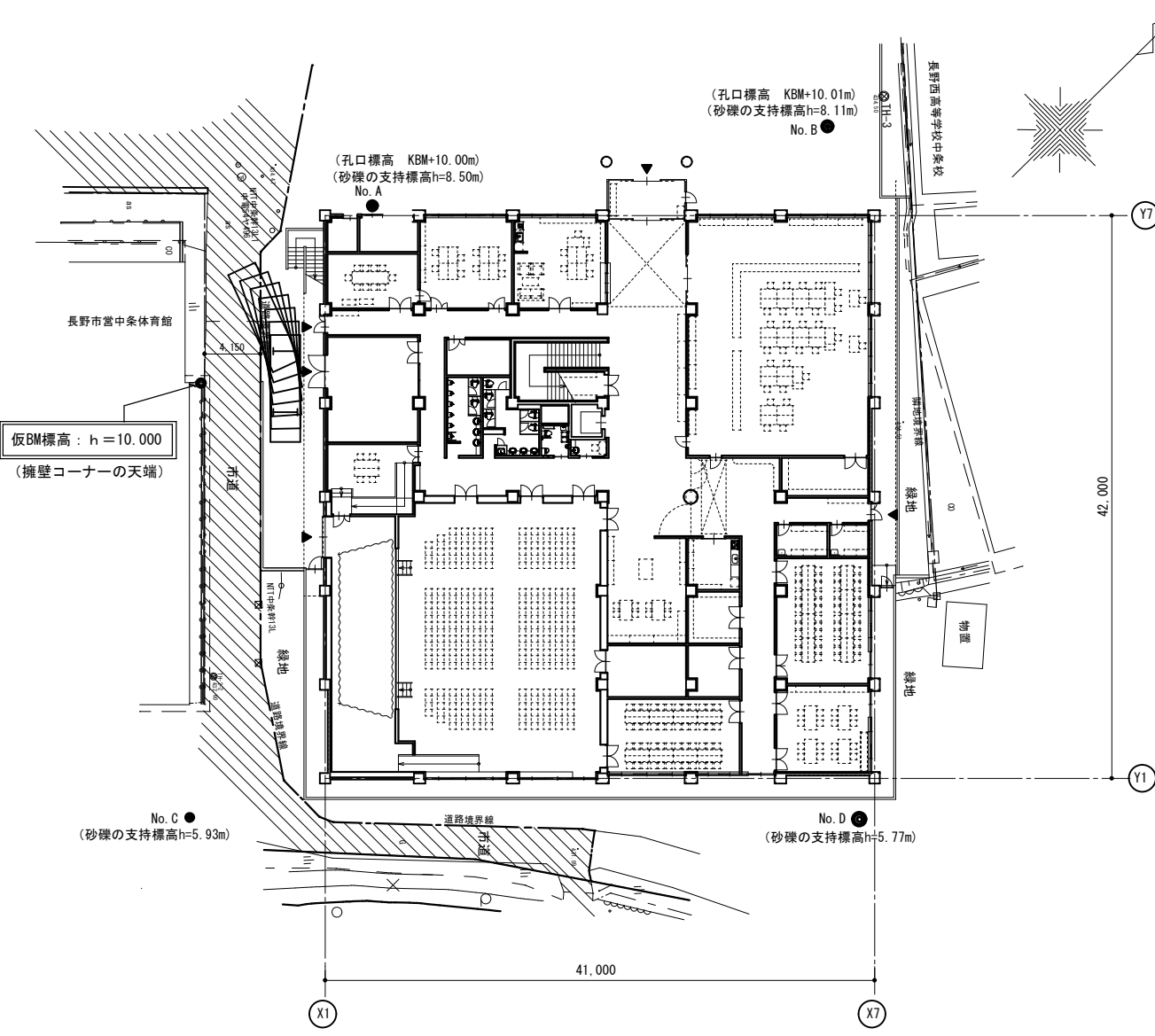
シートNo

Table with project details for No. D, including location (長野市中条), dates (平成30年1月26日～30年1月31日), and personnel (北原健二, 宇野智博, 羽入田竹重).



ボーリング位置図は 図面S-121に有る





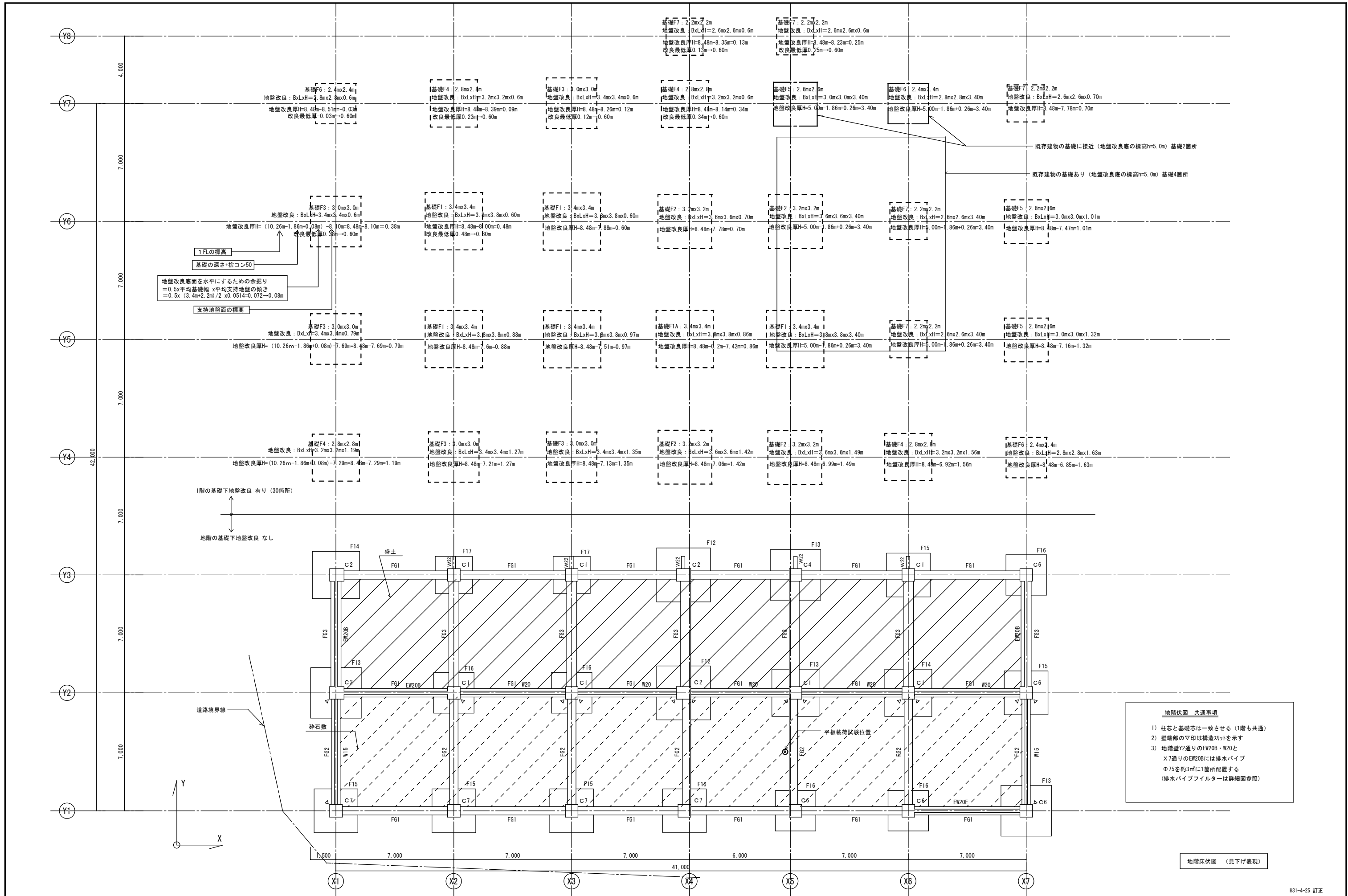
基礎下の支持地盤面の標高の算定方法

- ボーリングA→C の傾き  
距離 L=42+0.6+2.9=45.5m H=8.50-5.97=2.57m  
傾き  $\theta = 2.57m / 45.5m = 0.0565m/m$
- ボーリングB→D の傾き  
距離 L=42+6.5+3.15=51.65m H=8.11-5.77=2.34m  
傾き  $\theta = 2.34m / 51.65m = 0.0453m/m$
- ボーリングA→B の傾き  
距離 L=41-3.55-3.3=34.15m H=8.50-8.11=0.39m  
傾き  $\theta = 0.39m / 34.15m = 0.0114m/m$
- ボーリングC→D の傾き  
距離 L=41+10.0-1.2=49.8m H=5.93-5.77=0.16m  
傾き  $\theta = 0.16m / 49.8m = 0.0032m/m$

- コーナー柱 (X1, Y7) の支持深さの標高  
X方向の離れ考慮の深さ  $h = 8.50m + (\text{傾き} 0.0114 \times 3.55m) = 8.50m + 0.04m = 8.54m$   
Y方向の離れ考慮の深さ  $h = 8.54m - (\text{傾き} 0.0565 \times 0.6m) = 8.54m - 0.03m = 8.51m$
- コーナー柱 (X7, Y7) の支持深さの標高  
X方向の離れ考慮の深さ  $h = 8.11m - (\text{傾き} 0.0114 \times 3.30m) = 8.11m - 0.04m = 8.07m$   
Y方向の離れ考慮の深さ  $h = 8.07m - (\text{傾き} 0.0453 \times 6.50m) = 8.07m - 0.29m = 7.78m$
- コーナー柱 (X1, Y1) の支持深さの標高  
X方向の離れ考慮の深さ  $h = 5.93m - (\text{傾き} 0.0032 \times 10.0m) = 5.93m - 0.03m = 5.90m$   
Y方向の離れ考慮の深さ  $h = 5.90m + (\text{傾き} 0.0565 \times 2.90m) = 5.90m + 0.16m = 6.06m$
- コーナー柱 (X7, Y1) の支持深さの標高  
X方向の離れ考慮の深さ  $h = 5.77m - (\text{傾き} 0.0032 \times 1.20m) = 5.77m - 0.00m = 5.77m$   
Y方向の離れ考慮の深さ  $h = 5.77m + (\text{傾き} 0.0453 \times 3.15m) = 5.77m + 0.14m = 5.91m$

- Y7 軸 の傾き  
傾き  $\theta = (8.51 - 7.78)m / 41m = 0.0178m/m$
- Y1 軸 の傾き  
傾き  $\theta = (6.06 - 5.91)m / 41m = 0.0037m/m$
- X1 軸 の傾き  
傾き  $\theta = (8.51 - 6.06)m / 42m = 0.0583m/m$
- X7 軸 の傾き  
傾き  $\theta = (7.78 - 5.91)m / 42m = 0.0445m/m$

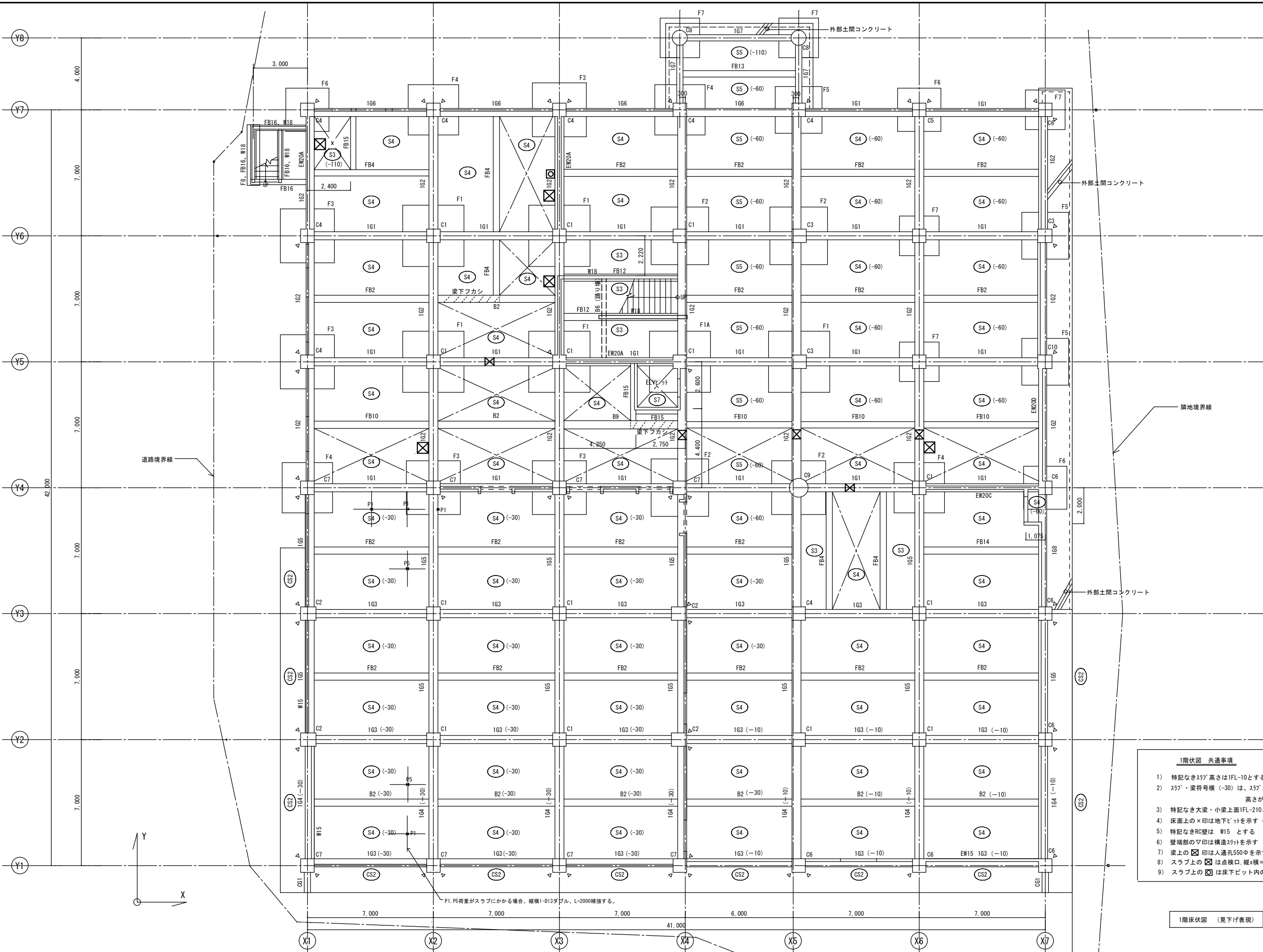
- Y1, Y7, X1, X7 軸基礎の支持地盤面の標高は 左21, 22, 23, 24の傾きを按分して算出する
- 建物内部基礎の支持地盤面の標高は 下記の様にX軸の傾きを按分して算出する
  - X2軸の傾き  $\theta = (8.39m - 6.03m) / 42m = 0.0562m/m$
  - X3軸の傾き  $\theta = (8.26m - 6.01m) / 42m = 0.0538m/m$
  - X4軸の傾き  $\theta = (8.14m - 5.98m) / 42m = 0.0514m/m$
  - X5軸の傾き  $\theta = (8.03m - 5.96m) / 42m = 0.0493m/m$
  - X6軸の傾き  $\theta = (7.90m - 5.94m) / 42m = 0.0467m/m$



- 地階伏図 共通事項**
- 1) 柱芯と基礎芯は一致させる (1階も共通)
  - 2) 壁端部の▽印は構造引付を示す
  - 3) 地階壁Y2通りのEW20B・W20とX7通りのEW20Bには排水パイプφ75を約3mに1箇所配置する (排水パイプフィルターは詳細図参照)

地階床伏図 (見下げ表現)

H31-4-25 訂正



道路境界線

外部土間コンクリート

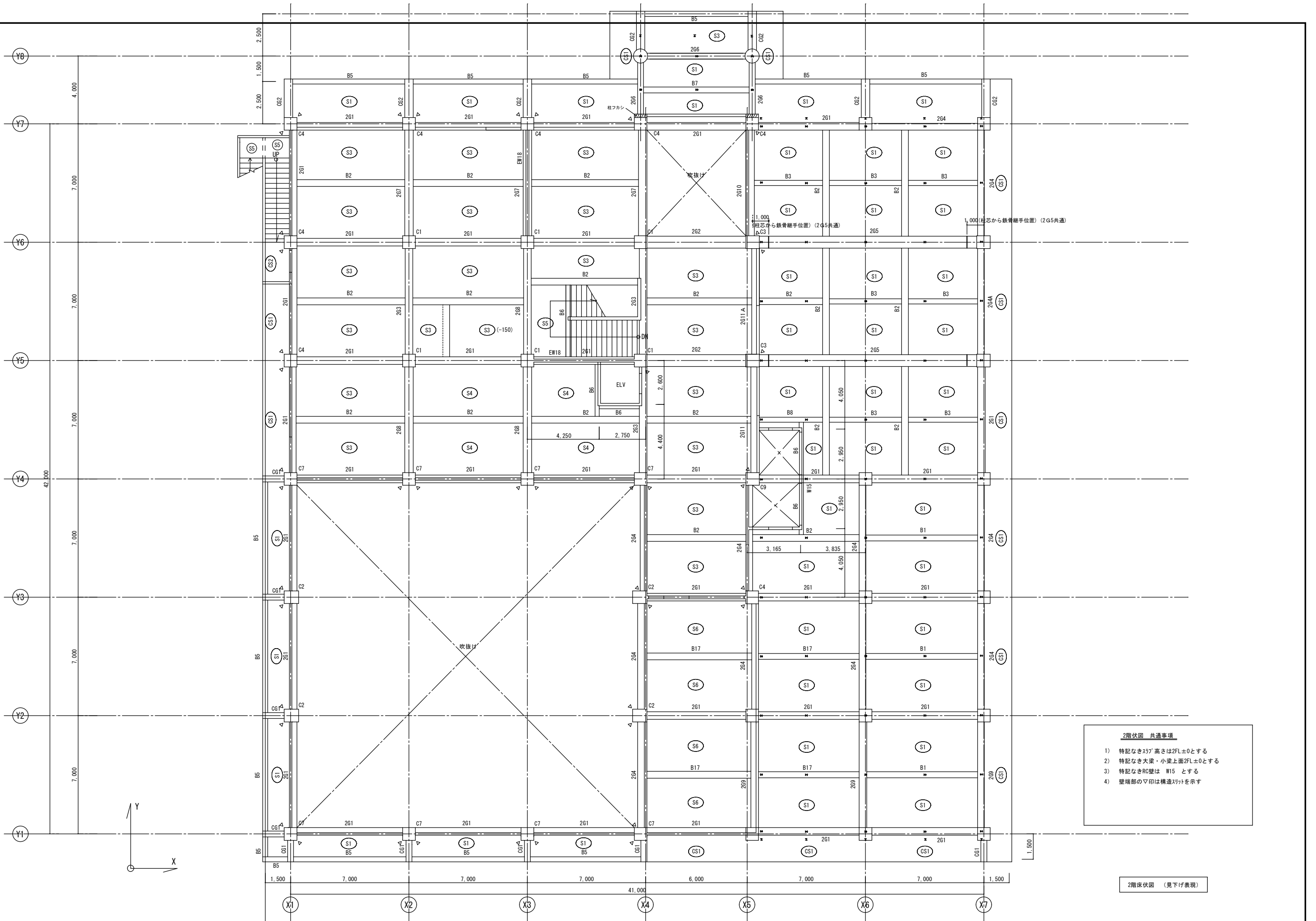
隣地境界線

外部土間コンクリート

- 1階伏図 共通事項**
- 1) 特記なきスラブ高さは1FL-10とする
  - 2) スラブ・梁符号横 (-30) は、スラブ上面・梁上面高さが1FL-30を示す
  - 3) 特記なき大梁・小梁上面1FL-210とする
  - 4) 床面上の×印は地下ピットを示す (ピット床天端 1FL-1,710)
  - 5) 特記なきRC壁は W15 とする
  - 6) 壁端部の▽印は構造スリットを示す
  - 7) 梁上の☒印は人通孔550φを示す
  - 8) スラブ上の☒印は点検口、縦×横=600x600を示す
  - 9) スラブ上の☒印は床下ピット内の塗場、縦×横×深=450x450x300を示す

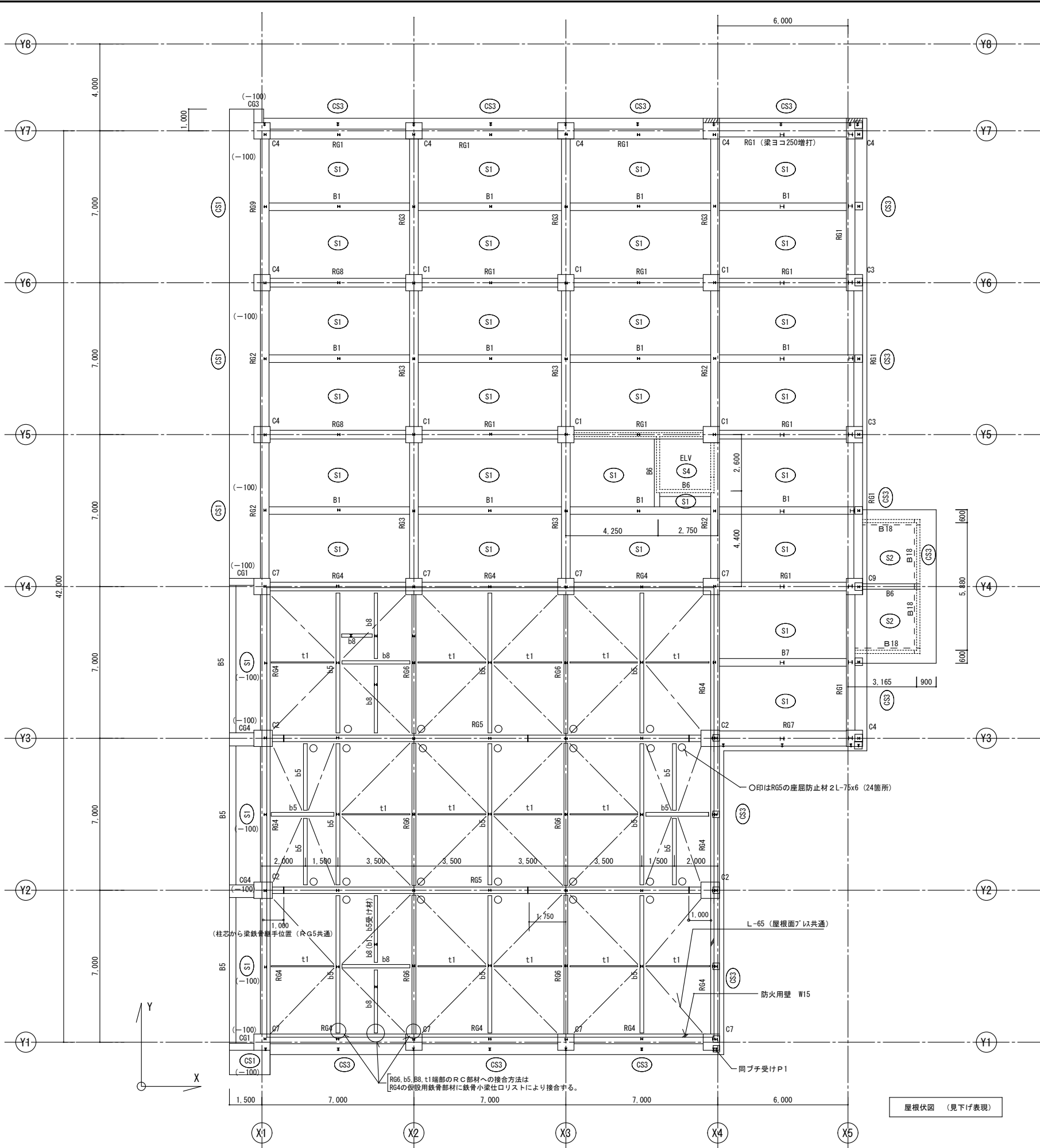
1階床伏図 (見下げ表現)

P1, P5荷重がスラブにかかる場合、縦横1-D13ダブル、L-2000補強する。



- 2階伏図 共通事項**
- 1) 特記なきスラブ高さは2FL±0とする
  - 2) 特記なき大梁・小梁上面2FL±0とする
  - 3) 特記なきRC壁は W15 とする
  - 4) 壁端部の▽印は構造スリットを示す

2階床伏図 (見下げ表現)

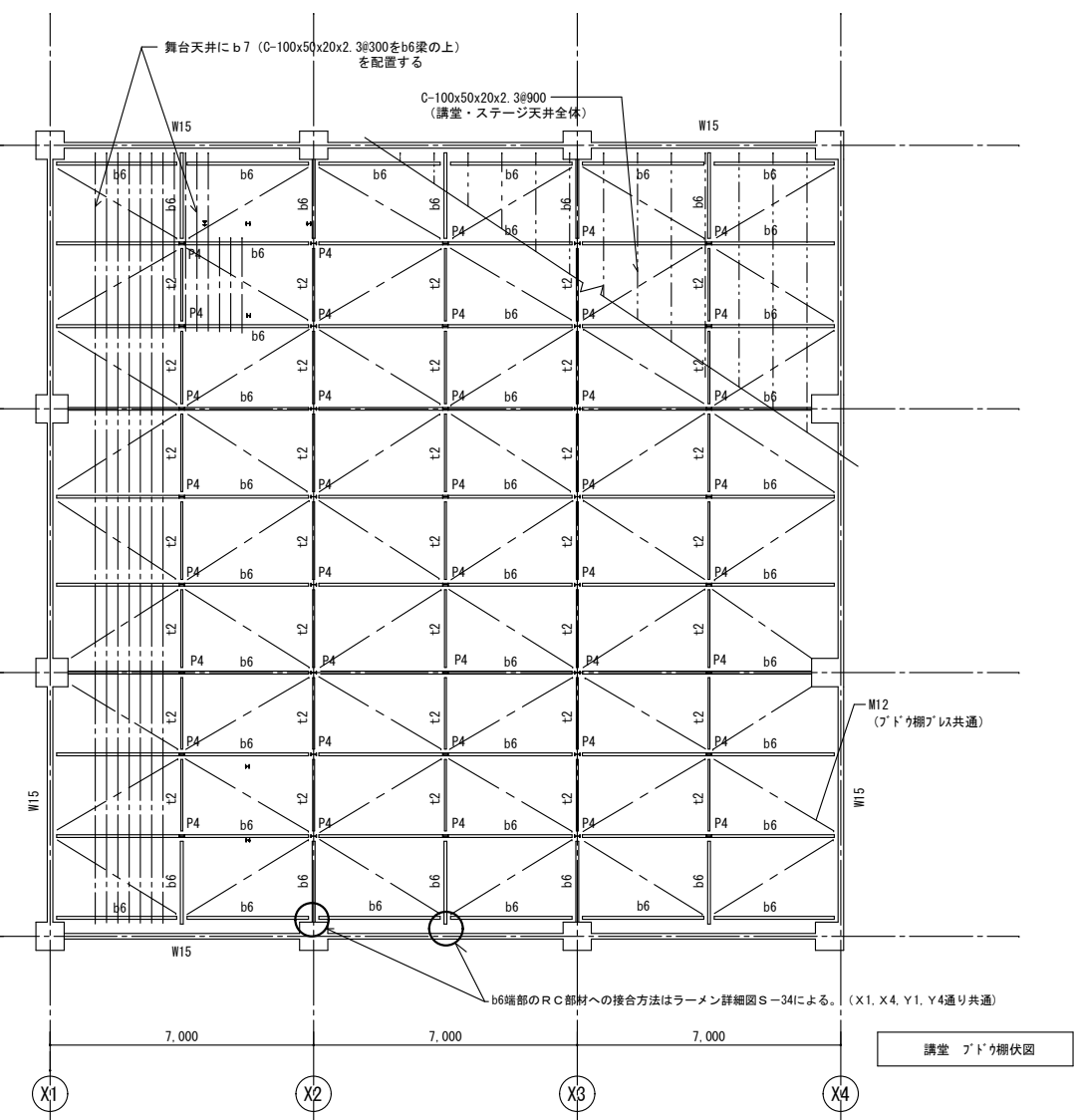


**屋根伏図 共通事項**

- 1) 特記なき屋根面アは L-65 とする
- 2) 小屋組P柱が片持スラブにはみ出す場合は梁をヨコ増打する。4面固定スラブにはみ出す場合は増打不要とする。

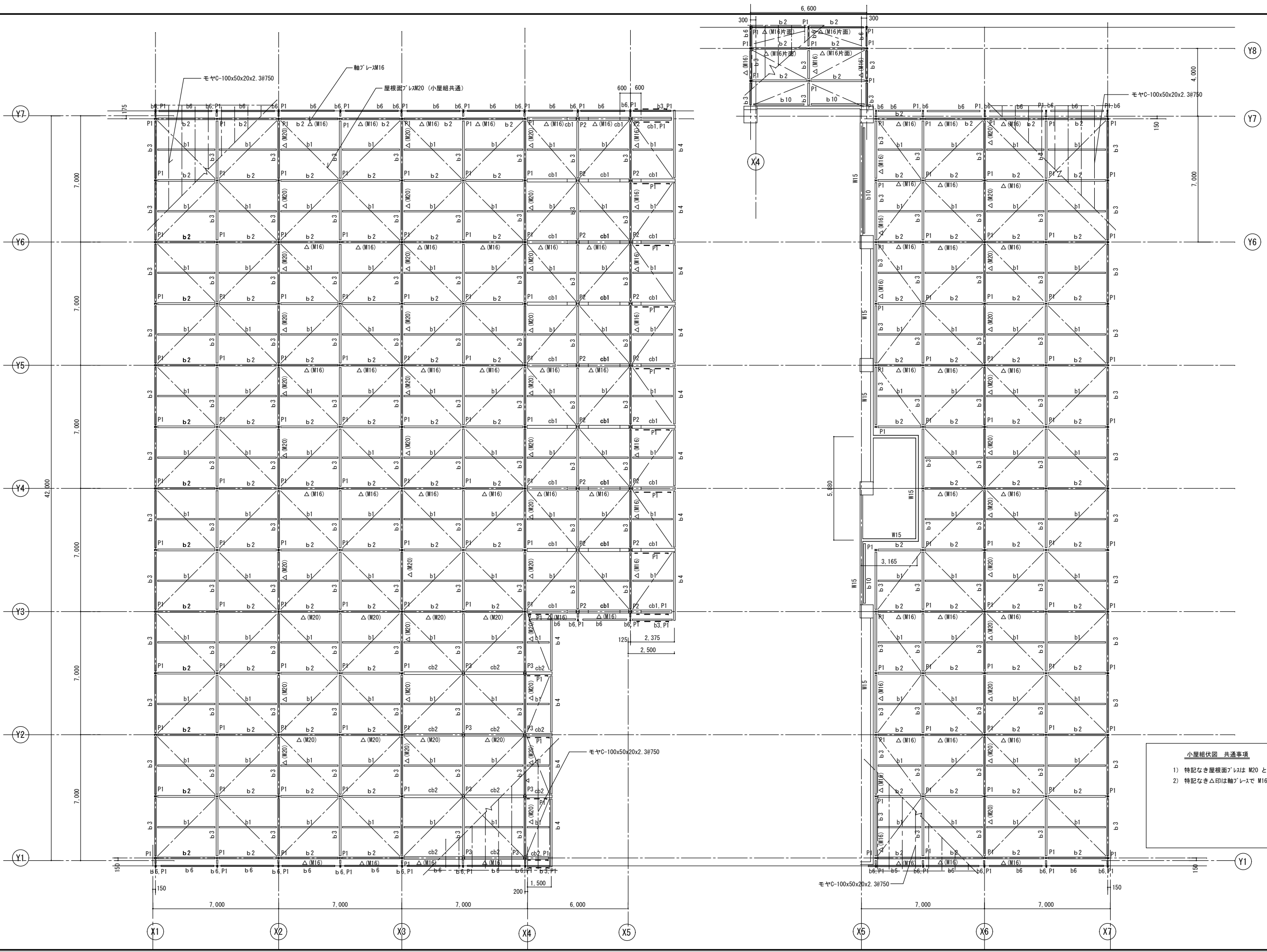
**講堂ブドウ棚伏図 共通事項**

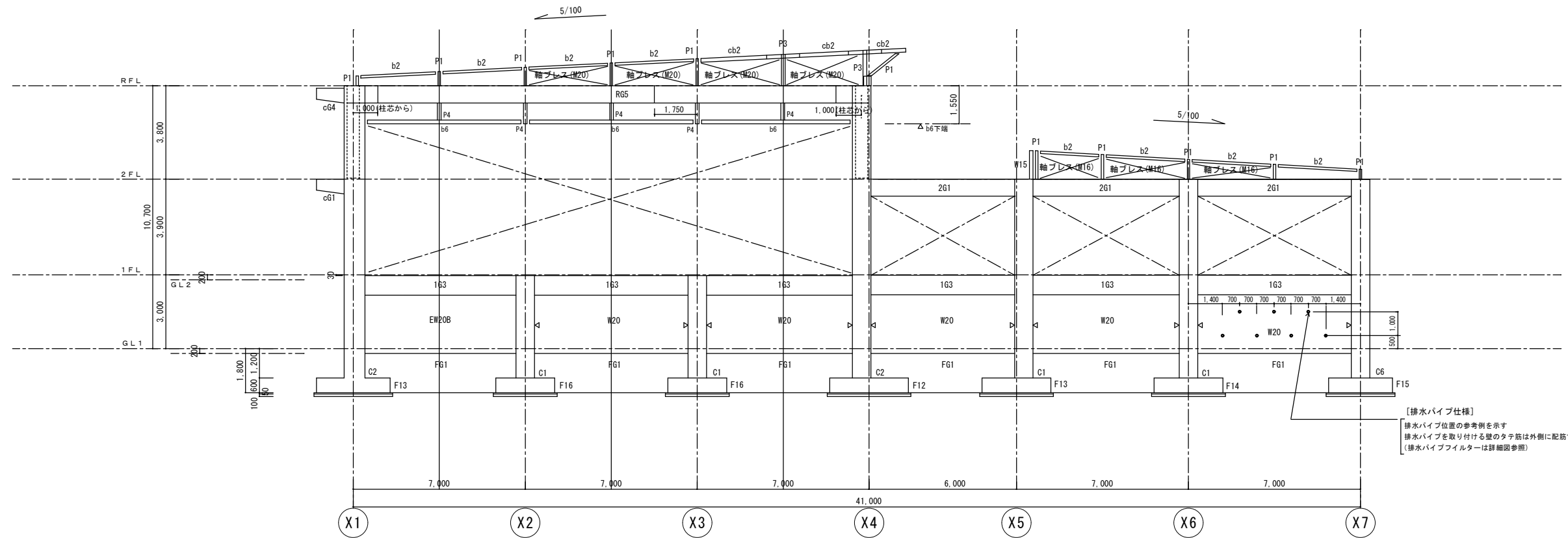
- 1) 特記なき水平面アは M12 とする



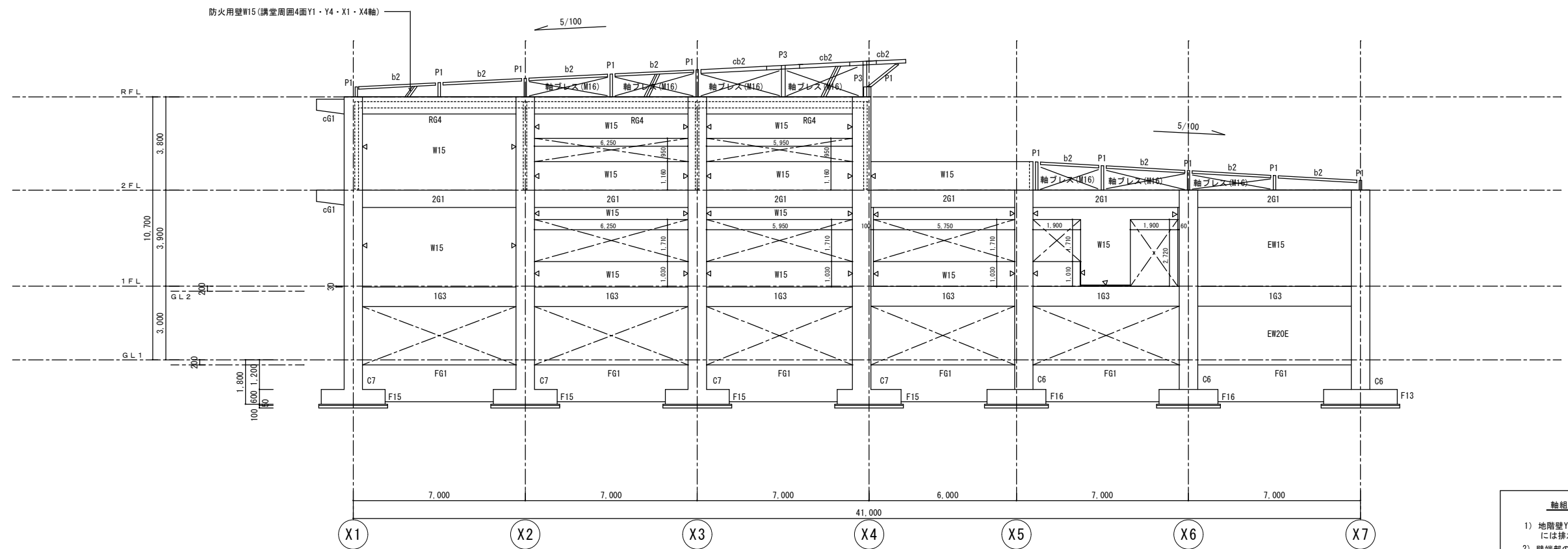
屋根伏図 (見下げ表現)

講堂ブドウ棚伏図

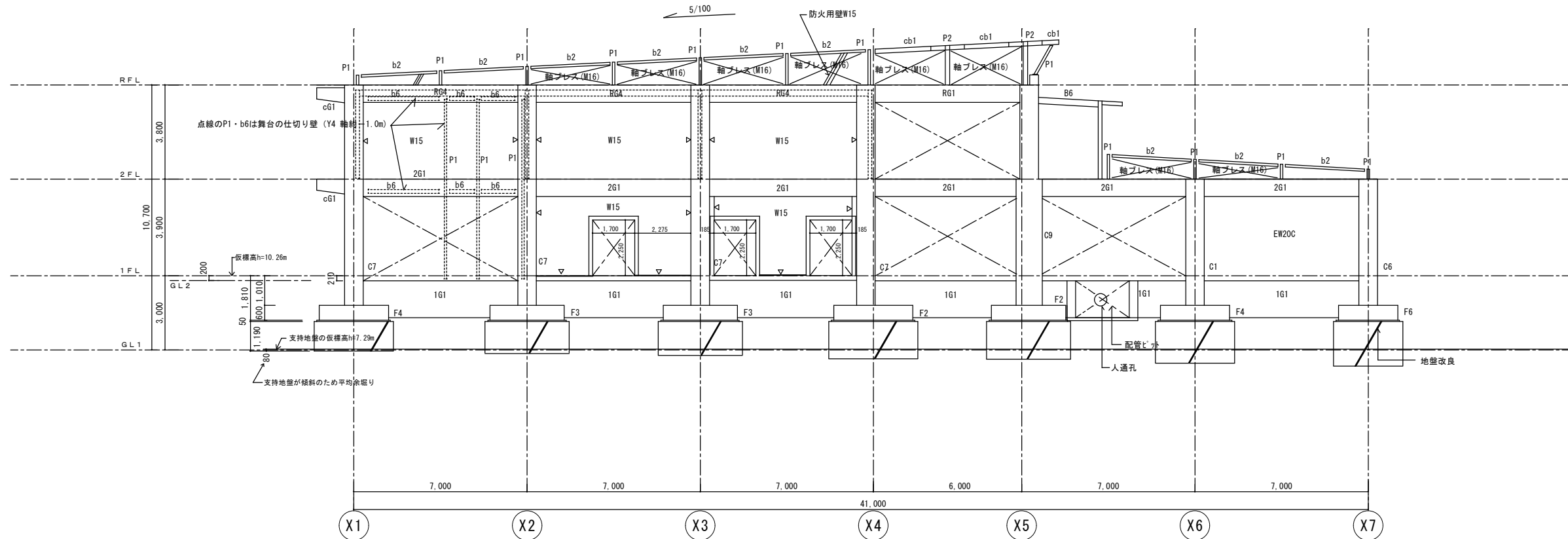




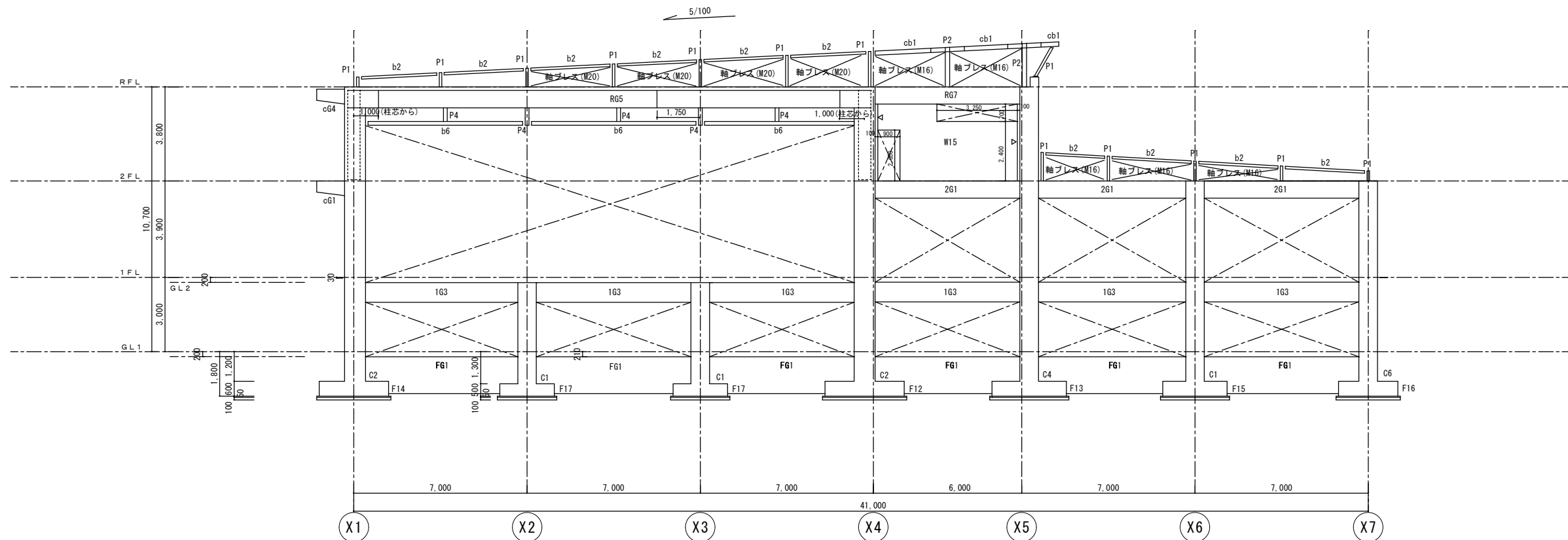
Y2通り 軸組図 1/100



Y1通り 軸組図 1/100

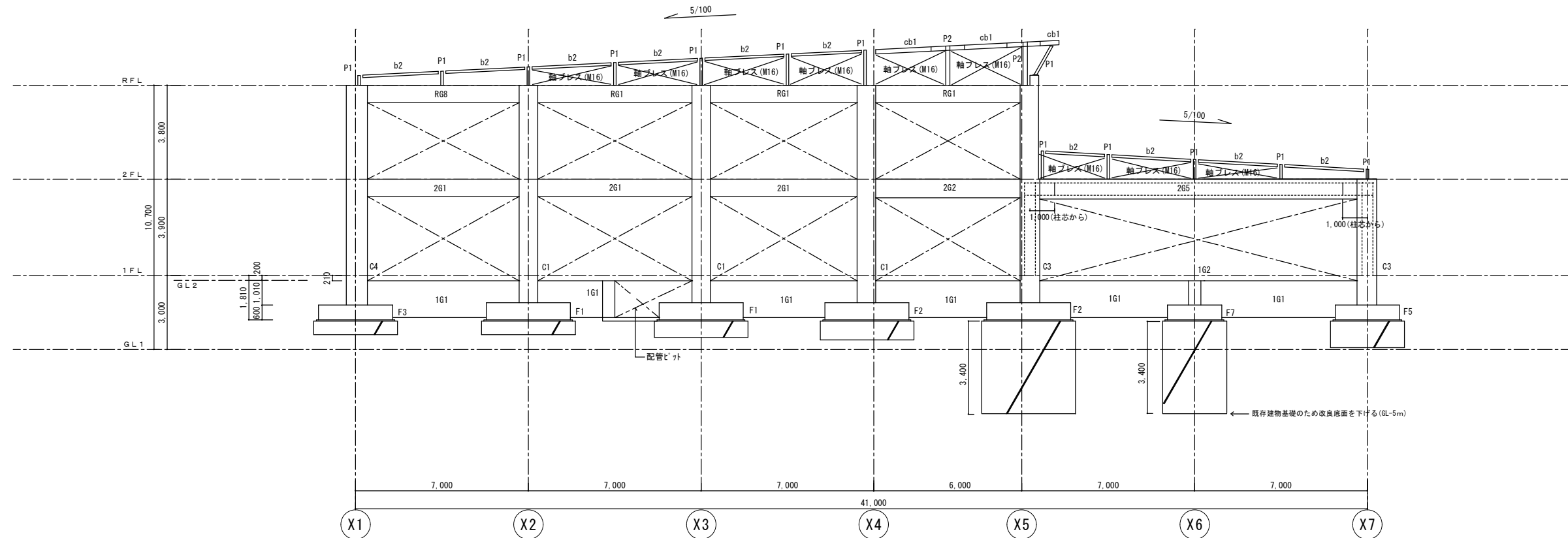


Y4通り 軸組図 1/100

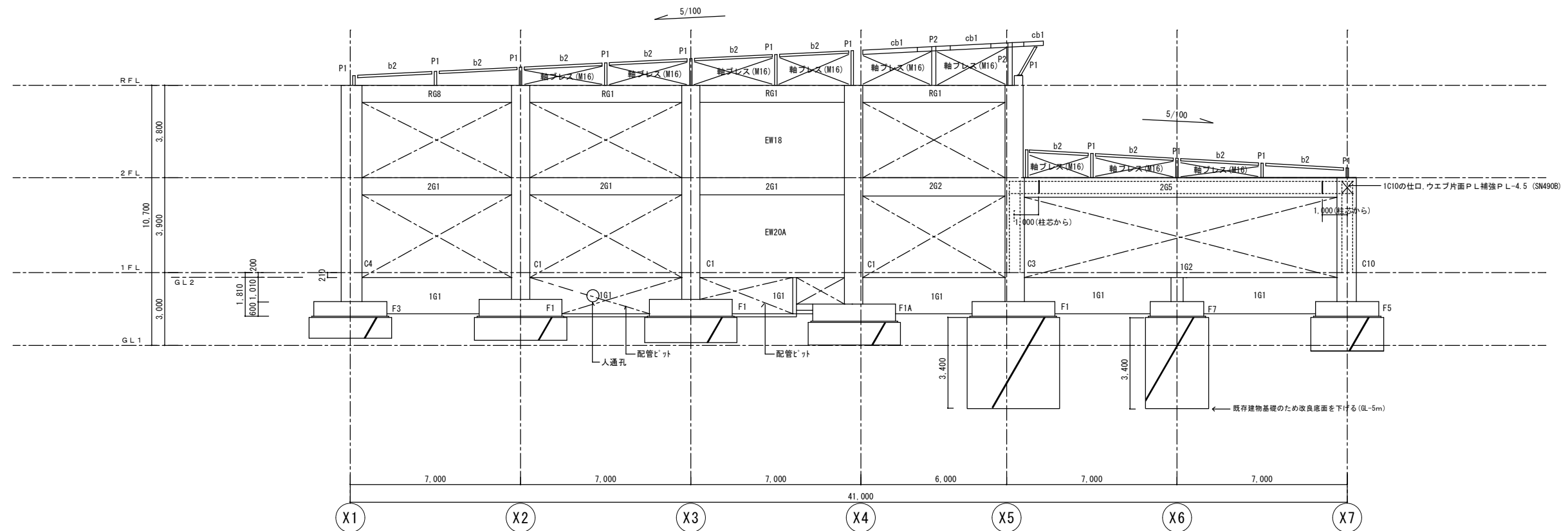


Y3通り 軸組図 1/100

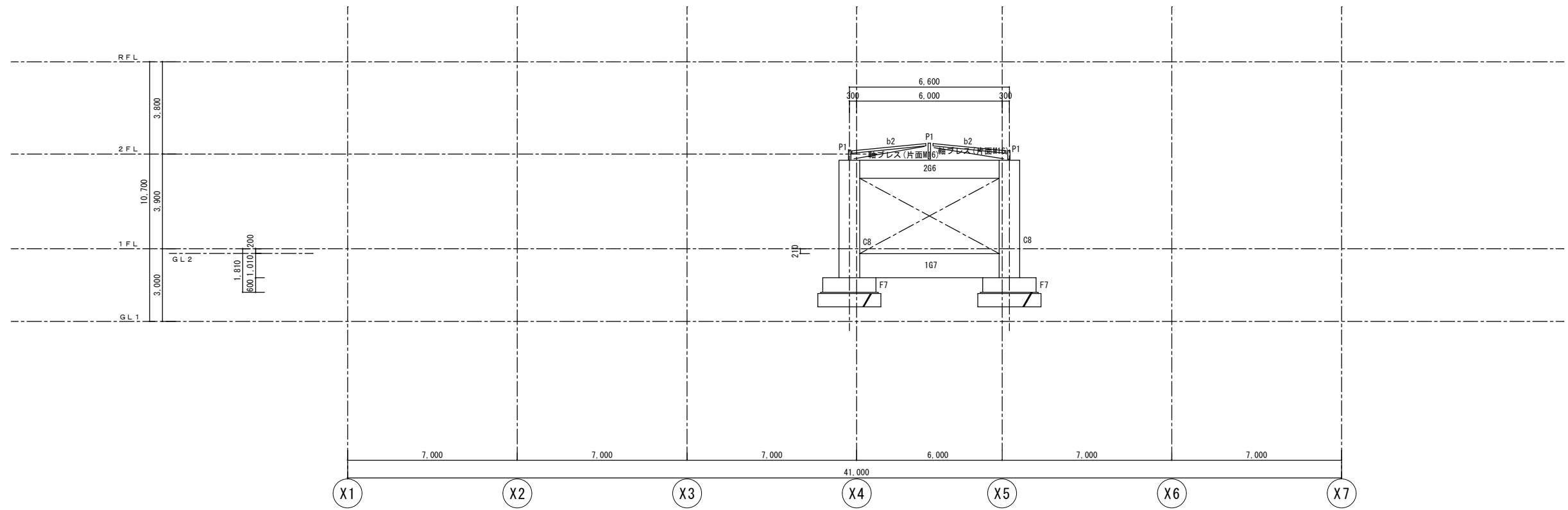




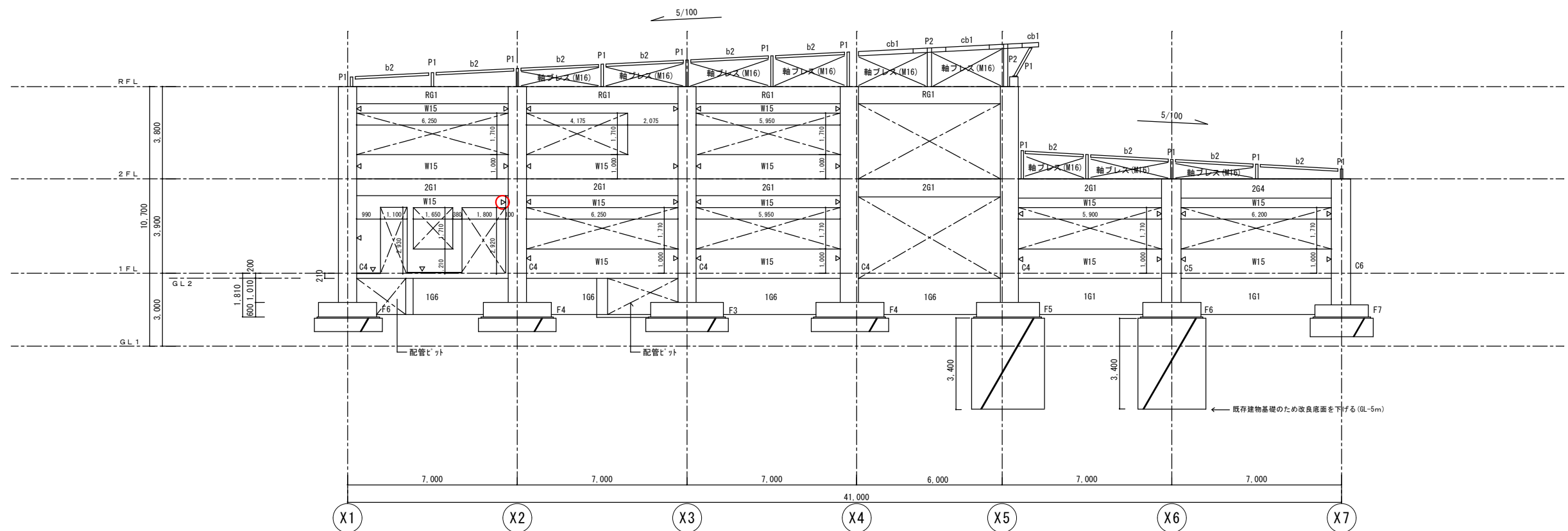
Y6通り 軸組図 1/100



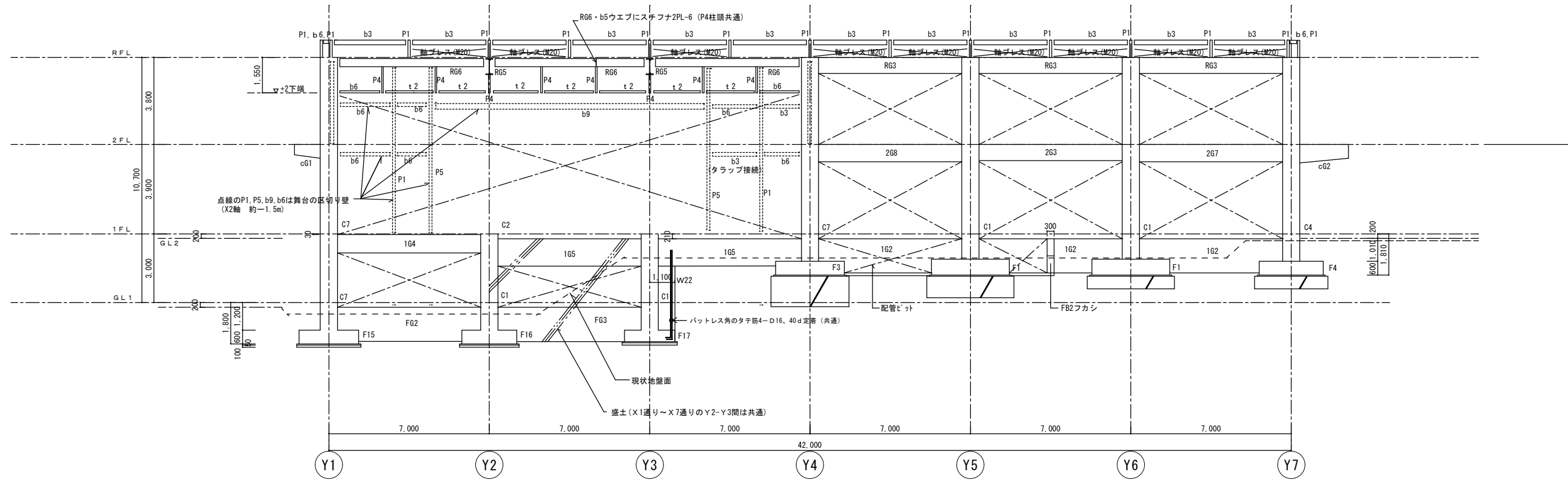
Y5通り 軸組図 1/100



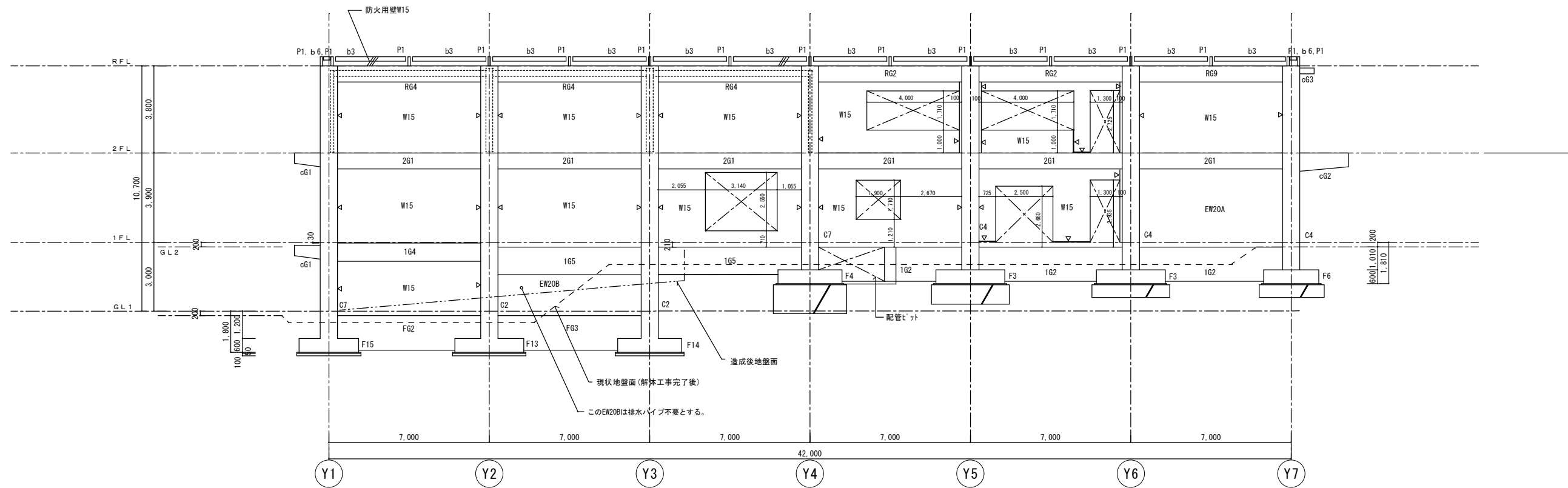
Y8通り 軸組図 1/100



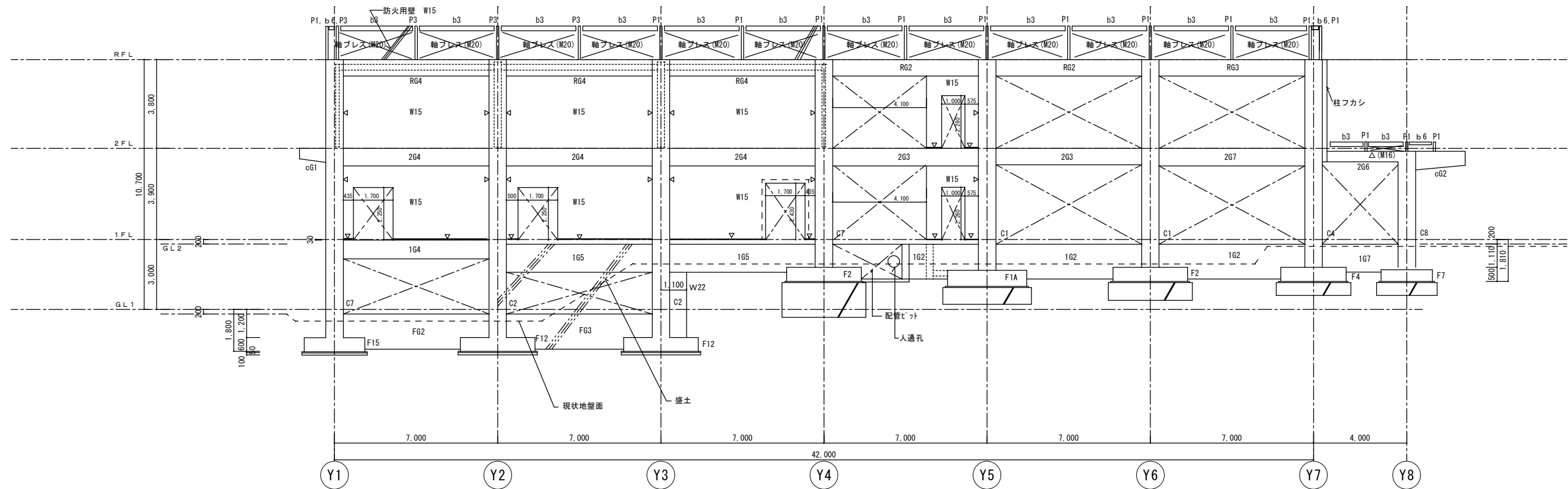
Y7通り 軸組図 1/100



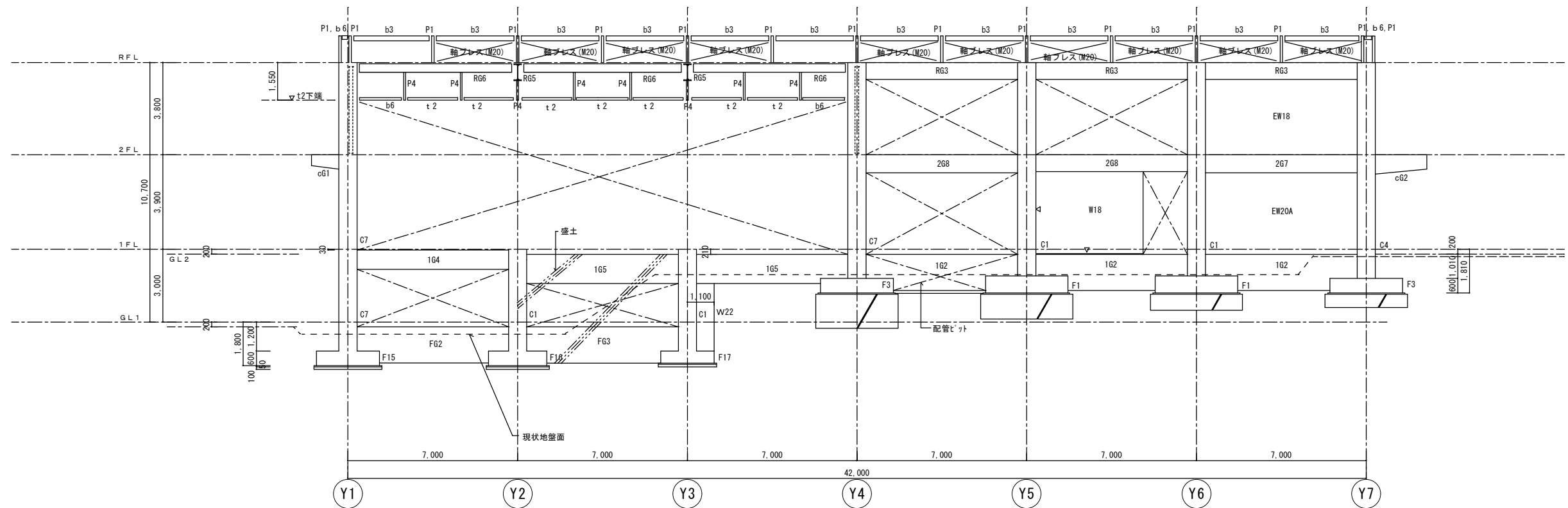
X2通り 軸組図 1/100



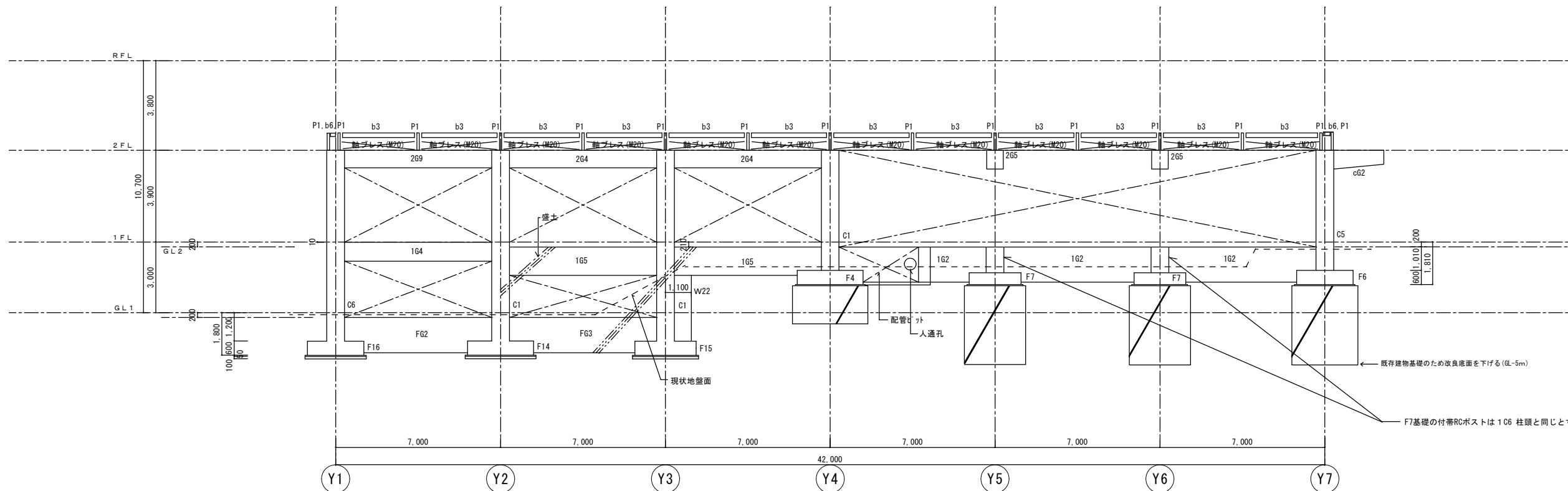
X1通り 軸組図 1/100



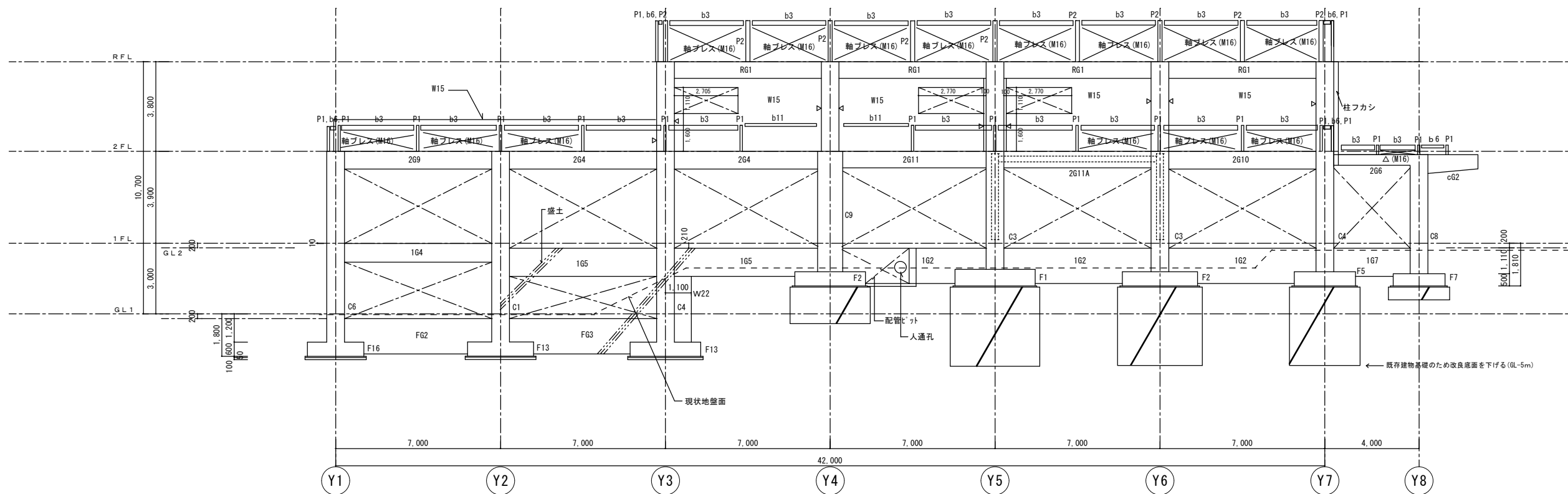
X4通り 軸組図 1/100



X3通り 軸組図 1/100

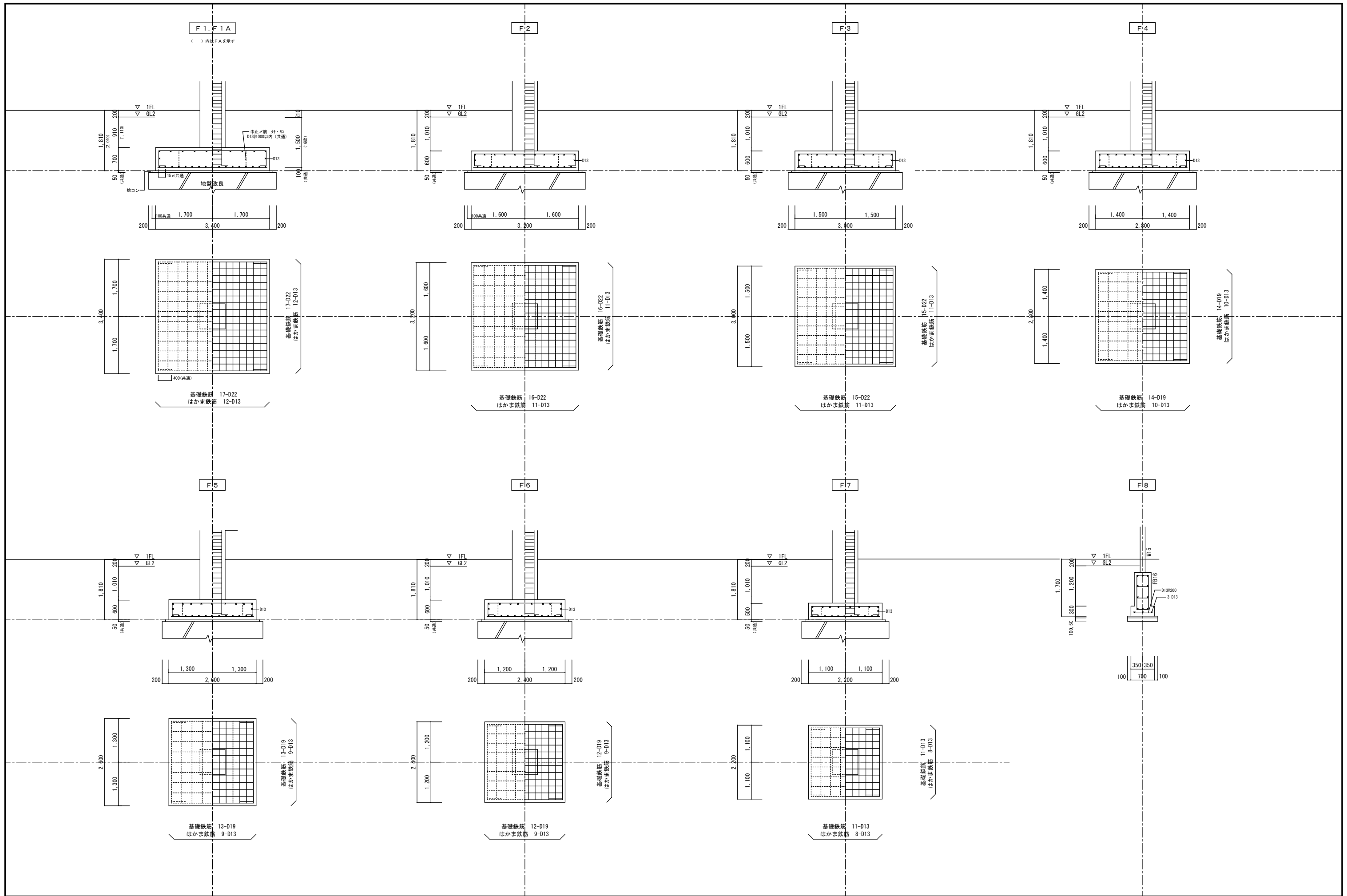


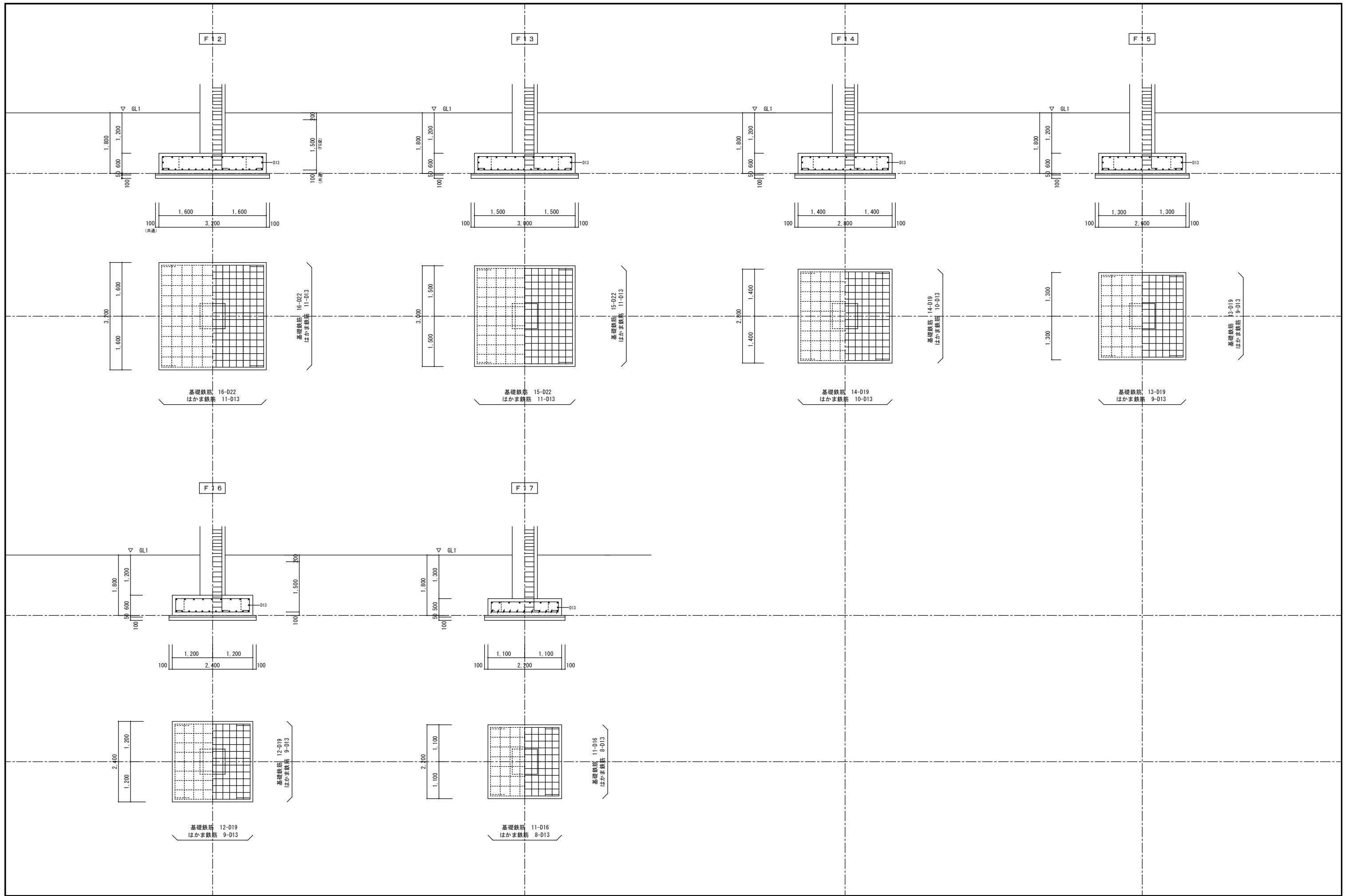
X6通り 軸組図 1/100



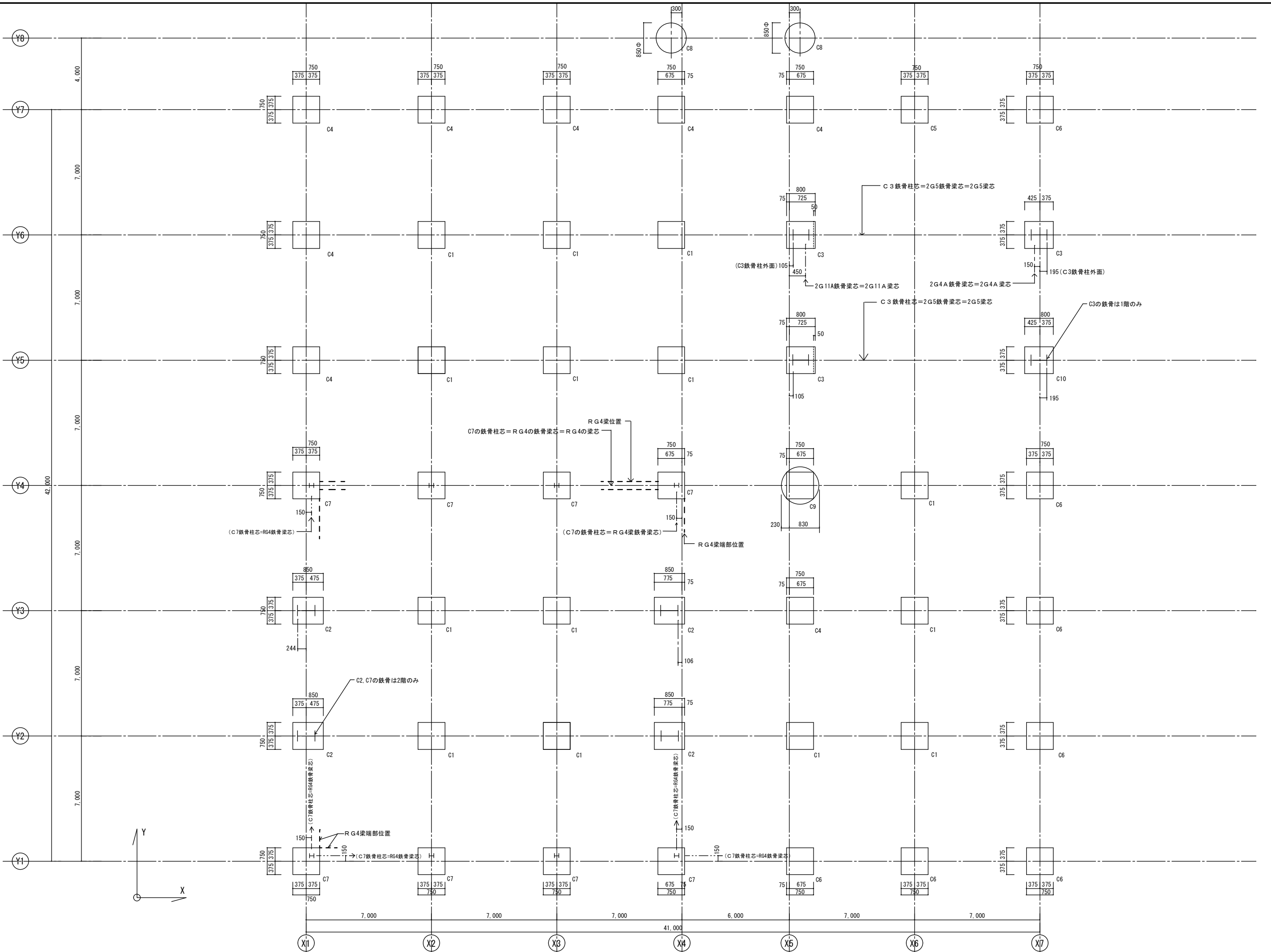
X5通り 軸組図 1/100











柱 リスト (特記なき材質はSS400とする)

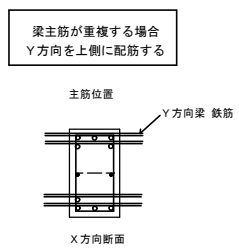
間柱 リスト (特記なき材質はSS400)

階	柱種	符号	全断面										
			C 1	C 2	C 3	C 4	C 5	C 6	C 7	C 8	C 9		
2階	柱頭	位置	全断面										
		断面形状					—	—		—			
		B x D	750x750	850x750	750x750	750x750			750x750		750x750		
		主筋	22-D22	12-D22	14-D22	14-D22			16-D22		16-D22		
2階	柱脚	位置	全断面										
		断面形状					—	—		—			
		B x D	750x750	850x750	750x750	750x750			750x750		750x750		
		主筋	22-D22	20-D22	20-D22	20-D22			22-D22		16-D22		
1階	柱頭	位置	全断面										
		断面形状											
		B x D	750x750	850x750	800x750	750x750	750x750	750x750	750x750	850Φ	1,060Φ	800x750	
		主筋	22-D22	20-D22	12-D22	22-D22	22-D22	22-D22	22-D22	12-D22	12-D22	20-D22	
		フープ	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	
	1階	柱脚	位置	全断面									
			断面形状										
			B x D	750x750	850x750	800x750	750x750	750x750	750x750	750x750	850Φ	1,060Φ	800x750
			主筋	22-D22	20-D22	20-D22	22-D22	22-D22	22-D22	22-D22	12-D22	20-D22	22-D22
			フープ	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
地階	全断面	位置	全断面										
		断面形状			—		—			—	—		
		B x D	750x750	850x750		750x750		750x750	750x750				
		主筋	18-D22	20-D22		20-D22		20-D22	20-D22				

階	間柱種	符号	全断面		
			P 1	P 2	P 3
2階	柱頭	位置	全断面		
		断面形状			
		主材	H-100x100x6x8	H-175x175x7.5x11	H-150x150x7x10
		取合い	GPL-9, 2-M20	GPL-9, 2-M20	GPL-9, 2-M20
2階	柱脚	位置	全断面		
		断面形状			
		主材	H-150x75x5x7	H-125x125x6.5x9	
		取合い	GPL-9, 2-M16	GPL-9, 2-M20	

梁 リスト 特記なき幅止め筋はD10@1000以下とする。

階	符号	RG 1		RG 2		RG 3		RG 4	RG 5	RG 6	RG 7		RG 8		RG 9				
		端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	X4端	中央, X5端	端部	中央	Y6端, 中央	Y7端			
R階	断面形状																		
	B X D	400 x 700		400 x 700		400 x 700		450 x 700	—	—	700 x 800		400 x 700		400 x 700				
	上主筋	4- D22	4- D22	(4+2) - D22	4- D22	(4+2) - D22	(4+1) - D22	4- D22	—	—	(4+4) - D25	(4+4) - D25	4- D22	4- D22	(4+1) - D22	4- D22			
	下主筋	3- D22	3- D22	4- D22	4- D22	4- D22	(4+1) - D22	(2+1) - D22	—	—	(4+2) - D25	(4+2) - D25	3- D22	3- D22	4- D22	3- D22			
	スーラップ	□-D10 #150		□-D10 #150		□-D10 #150		□-D10 #150	—	—	□-D13 #150		□-D10 #150		□-D10 #150				
腹筋	2- D10		2- D10		2- D10		2- D10	—	—	2- D10		2- D10		2- D10					
2階	符号	2 G 1		2 G 2		2 G 3		2 G 4 A	2 G 5		2 G 6		2 G 7		2 G 8		2 G 9		
	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	Y 1端・中央	Y 2端		
	断面形状																		
	B X D	450 x 750		700 x 800		500 x 750		450 x 750	SRC - 700 x 800		450 x 700		500 x 750		500 x 750		450 x 750		
	上主筋	5- D25	5- D25	(4+4) - D25	(4+4) - D25	(5+2) - D25	5- D25	5- D25	5- D25	(4+4) - D25	2- D25	4- D22	4- D22	(5+2) - D25	(5+2) - D25	(5+2) - D25	(5+2) - D25	5- D25	(5+1) - D25
下主筋	4- D25	4- D25	(4+2) - D25	(4+2) - D25	5- D25	5- D25	4- D25	4- D25	2- D25	2- D25	4- D22	4- D22	5- D25	5- D25	5- D25	5- D25	4- D25	4- D25	
スーラップ	□-D13 #200		□-D13 #150		□-D13 #150		□-D13 #175	□-D13 #175	□-D13 #150		□-D13 #150		□-D13 #200		□-D13 #125		□-D13 #200		
腹筋	2- D10		2- D10		2- D10		2- D10	2- D10	2- D10		2- D10		2- D10		2- D10		2- D10		
1階	符号	1 G 1		1 G 2		1 G 3		1 G 4		1 G 5		1 G 6		1 G 7		1 G 8		2 G 10	
	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	
	断面形状																		
	B X D	450 x 1500		500 x 1500		450 x 800		500 x 800		500 x 1200		450 x 1500		350 x 1200		500 x 1200		450 x 800	
	上主筋	4- D25	4- D25	5- D25	5- D25	5- D25	5- D25	(5+2) - D25	5- D25	5- D25	5- D25	4- D25	4- D25	3- D25	3- D25	5- D25	(4+1) - D25	(4+1) - D25	(4+1) - D25
下主筋	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	5- D25	5- D25	4- D25	4- D25	(4+2) - D25	(4+2) - D25	3- D25	3- D25	(5+4) - D25	(3+1) - D25	(3+1) - D25	(3+1) - D25	
スーラップ	□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #150		□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #200		□-D10 #150		□-D13 #200		□-D13 #200		
腹筋	8- D10		8- D10		2- D10		2- D10		6- D10		6- D10		6- D10		6- D10		2- D10		
B階	符号	FG 1		FG 2		FG 3												2 G 11・2 G 11A	
	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央											端部	中央
	断面形状																		
	B X D	500 x 1500		500 x 1500		500 x 1500												450 x 800	
	上主筋	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25											5- D25	5- D25
下主筋	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25	4- D25											3- D25	4- D25	
スーラップ	□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #200												□-D13 #200		
腹筋	8- D10		8- D10		8- D10												2- D10		



小梁 リスト

特記なき補止め筋はD10@1000以下とする。

小梁	符号	B 1		B 2・FB 2		B 3		FB 4		B 5		B 6		B 7		B 8		B 9・FB 9	
	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央
断面形状																			
B X D		350 x 650		400 x 700		300 x 500		350 x 1500		300 x 450		250x500		350x600		300x600		450x800	
上主筋		4- D22	3- D22	5- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	2- D19	2- D19	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	5- D25	5- D25
下主筋		3- D22	3- D22	3- D22	4- D22	3- D22	3- D22	3- D22	(3+1)- D22	3- D22	3- D22	2- D19	2- D19	3- D22	4- D22	3- D22	3- D22	4- D25	4- D25
スタップ		□-D10 #200		□-D10 #150		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D13 #200	
腹筋		2- D10		2- D10		—		8- D10		—		—		—		2- D10		2- D10	
符号		FB 1 0		FB 1 1 (欠番)		FB 1 2		FB 1 3		FB 1 4		FB 1 5		FB 1 6		B 1 7		B 1 8	
位置		端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	内端	中央	外端	全断面
断面形状																			
B X D		350x1500		400x1200		400x1500		350x750		400x750		300x1500		300x1200		400x700		250x400	
上主筋		4- D22	3- D22	4- D25	3- D25	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D19	3- D19	3- D19	3- D19	5- D22	3- D22	4- D22	3- D19
下主筋		3- D22	3- D22	3- D25	3- D25	3- D22	(4+1)- D22	3- D22	4- D22	3- D22	(4+1)- D22	3- D19	3- D19	3- D19	3- D19	4- D22	4- D22	3- D22	3- D19
スタップ		□-D10 #200		□-D10 #150		□-D10 #150		□-D10 #200		□-D10 #150		□-D10 #200		□-D10 #200		□-D10 #150		□-D10 #200	
腹筋		8- D10		6- D16		8- D10		2- D10		2- D10		8- D10		6- D10		2- D10		—	
符号		FB 1 7 (欠番)		c G 1		c G 2		c G 3		c G 4									
位置		元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端								
断面形状																			
B X D		(400x1200)		350x (600~450)		500x (800~600)		450x250		600x (600~450)									
上主筋		4- D25	3- D25	(3+1)- D22	3- D22	5- D25	4- D25	5- D19	5- D19	3- D25	3- D25								
下主筋		3- D25	3- D25	3- D22	3- D22	4- D25	4- D25	4- D19	4- D19	2- D25	2- D25								
スタップ		□-D13 #200		□-D13 #150		□-D13 #150		□-D13 #150		□-D13 #150									
腹筋		—		—		2- D10		—		—									

注) 符号に「F」が付くと地中梁を意味し、「捨コン+砕石」を有する。

鉄骨小梁リスト

注) 特記なき材質はSS400とする

各階共通	符号	b1	b2	b3	b4	b5	b6	b7	b8	b9	b10		
	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
	断面形状	I	I	I	I	I	I	□ (弱軸使い)	I	I	□		
	主材	H-150x75x5x7	H-198x99x4.5x7	H-200x100x5.5x8	H-175x90x5x8	H-346x174x6x9	H-150x75x5x7	C-100x50x20x2.3 @300	H-194x150x6x9	H-248x124x5x8	L-100x100x7		
	仕口	GPL-6、2-M16	GPL-6、2-M16	GPL-9、2-M16	GPL-6、2-M16	GPL-9、3-M20	GPL-6、2-M16	GPL-6、2-M12 (中ボルト)	GPL-9、2-M20	GPL-9、2-M16	アンカーボルト、13Φ@500、L=400、WN		
各階共通	符号	t1	t2	M20	M16	M12	L-65	屋根 モヤ	講堂 ブドウ棚	胴ぶち		cb1	cb2
	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断面形状	I	□	○	○	○	□	□ @2250 ダブル	□	□	□	I	I
	主材	H-150x75x5x7	C-150x50x4.5	M20	M16	M12	L-65 x 65 x 6	C-100x50x20x2.3 @750	C-100x50x20x2.3 @900	C-100x50x20x2.3 @450		H-244x175x7x11	H-194x150x6x9
	仕口	GPL-6、2-M16	GPL-6、2-M16	GPL-9x80、1-M20	GPL-9x70、1-M16	GPL-6x60、1-M12 (HTB)	GPL-9x90、5-M16	GPL-6、2-M12 (中ボルト)	GPL-6、2-M12 (中ボルト)	GPL-6、2-M12 (中ボルト)		剛接合	剛接合

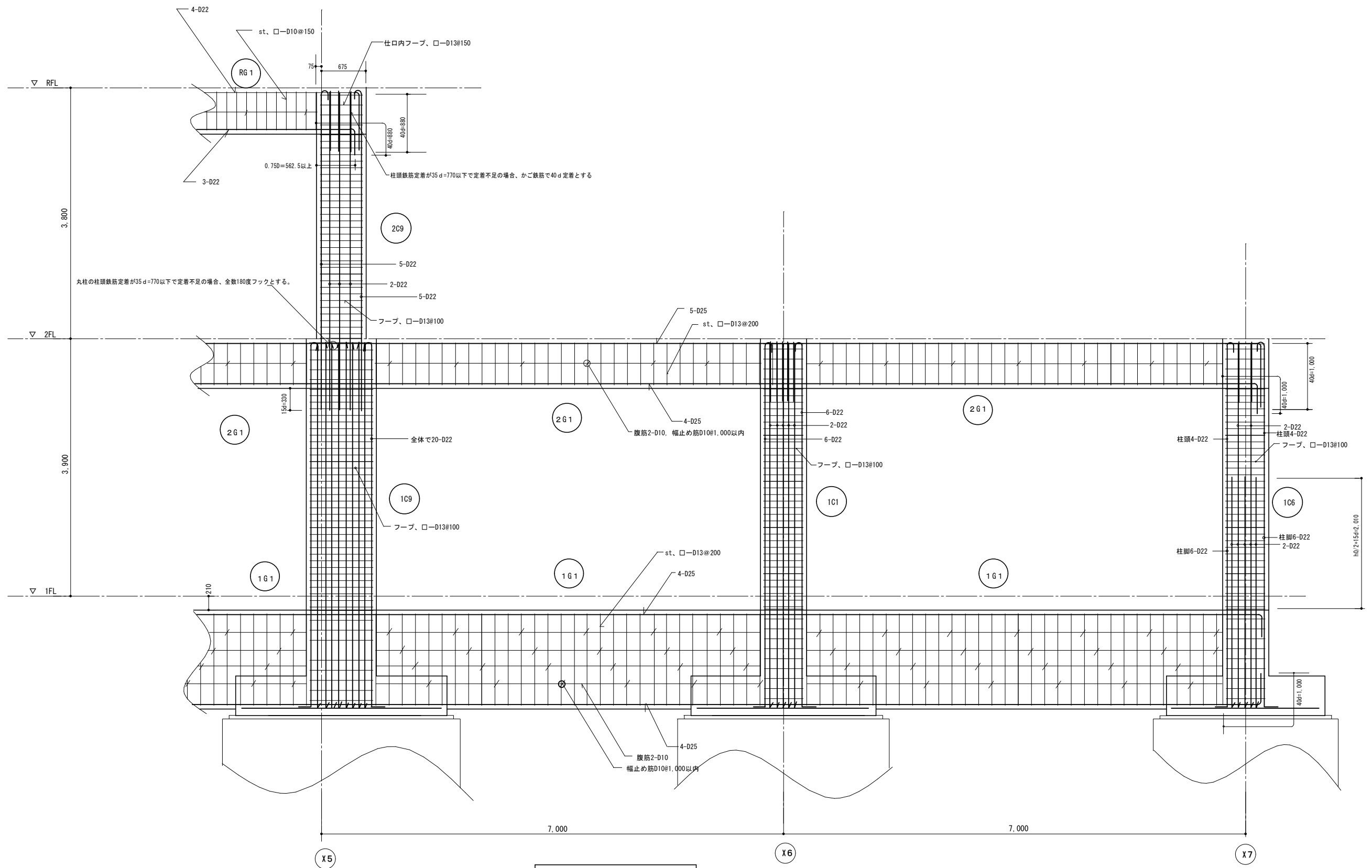
スラブリスト

符号	床厚	場所	短辺方向(主筋方向)		長辺方向(配力筋方向)	
			全断面	全断面	全断面	全断面
S1	130	上端筋	D10・D13(交互) @200		D10・D13(交互) @250	
			下端筋	D10@200		D10@250
S2	150	上端筋		D10・D13(交互) @200		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10@200		D10@250
S3	150	上端筋		D13@200		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10@200		D10@250
S4	150	上端筋		D13@200		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10・D13(交互) @200		D10@250
S5	150	上端筋		D13@200		D10・D13(交互) @200
			下端筋	D10・D13(交互) @200		D10@200
S6	160	上端筋		D13@175		D10・D13(交互) @200
			下端筋	D10・D13(交互) @175		D10@200
S7	250	上端筋		D13@200		D13@200
			下端筋	D10・D13(交互) @200		D10・D13(交互) @200
ビット床	120	シングル		D10@200		D10 @200
			-		-	
建物外部土間コン	150	上端筋	D10・D13(交互) @200		D10・D13(交互) @200	
			下端筋	D10@200		D10@200
cS1	200 ~ 150	上端筋		D13@200		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10@200		D10@250
cS2	220 ~ 150	上端筋		D13@150		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10@150		D10@250
cS3	150	上端筋		D13@200		D10・D13(交互) @250
			下端筋	D10@200		D10@250

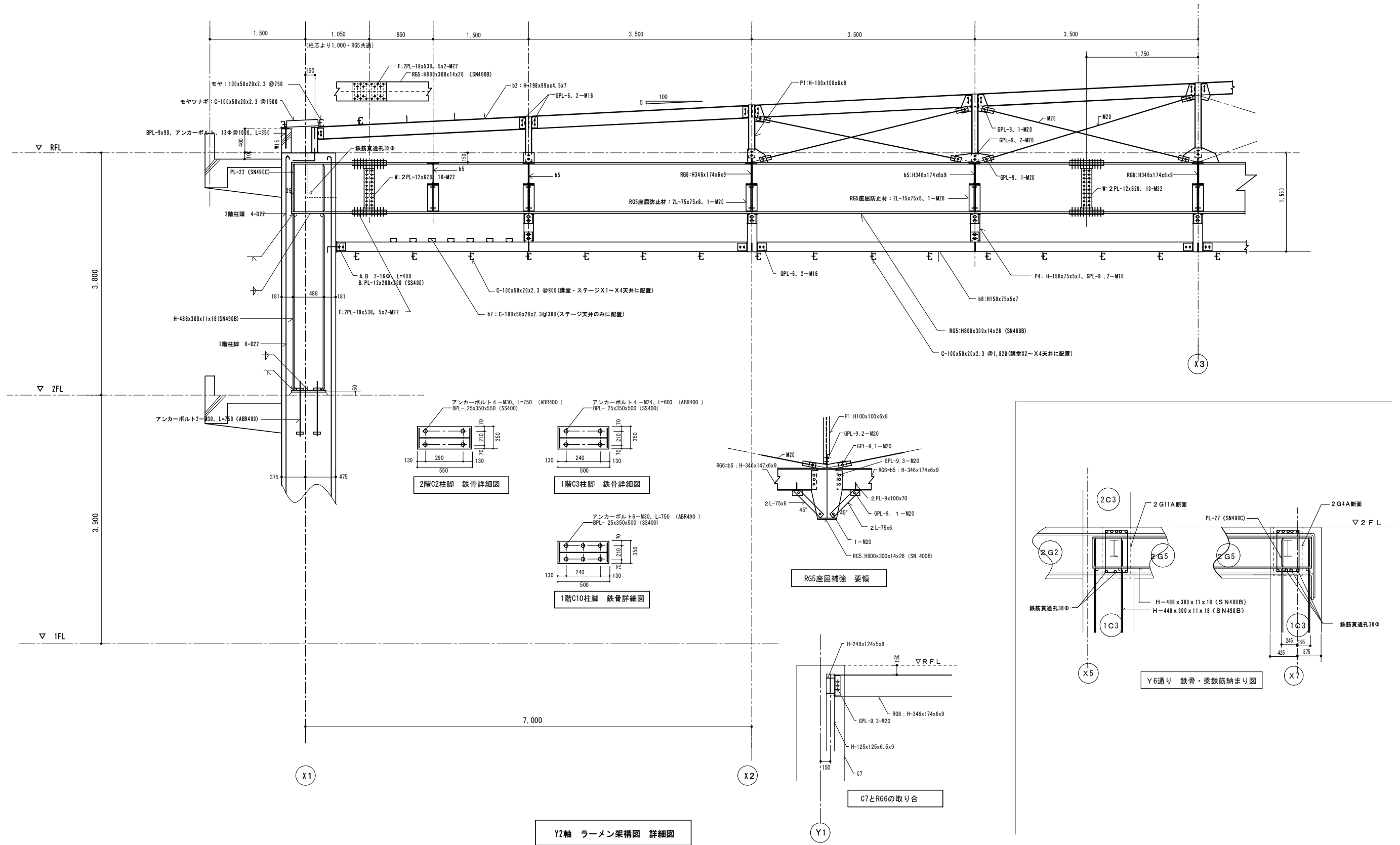
壁リスト

幅止め筋はタテ、ヨコD10 @1000以内とする

符号	W12	W15	W18		EW15	EW18	
断面形状 (立面表現)							
タテ筋	D13@200 シングル	D10@250ダブル千鳥	D10・D13(交互)@200ダブル		D10@250ダブル千鳥	D10@200ダブル	
ヨコ筋	D10@200 シングル	D10@250ダブル千鳥	D10@200 ダブル		D13@150ダブル	D10@150ダブル	
開口補強	タテ	1-D13	2-D13	2-D13			
	ヨコ	1-D13	2-D13	2-D13			
	ナナメ	1-D13	1-D13	1-D13			
符号	EW20A	EW20B・W20	EW20C	EW20D	EW20E	W22	
断面形状 (立面表現)							
タテ筋	D10・D13(交互)@200ダブル	D13@200 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	
ヨコ筋	D10・D13(交互)@200ダブル	D10・D13(交互)@200ダブル	D13@150 ダブル	D16@105 ダブル	D13@150 ダブル	D13@200 ダブル	
開口補強	タテ					W22のバットレス角タテ筋4-D16	
	ヨコ						
	ナナメ						

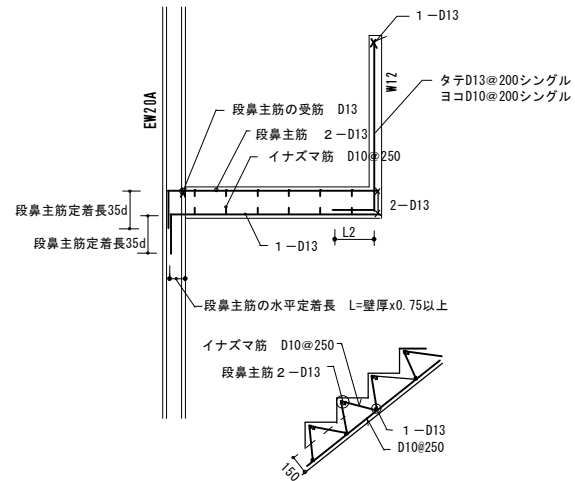


Y4軸 ラーメン架構図 詳細図

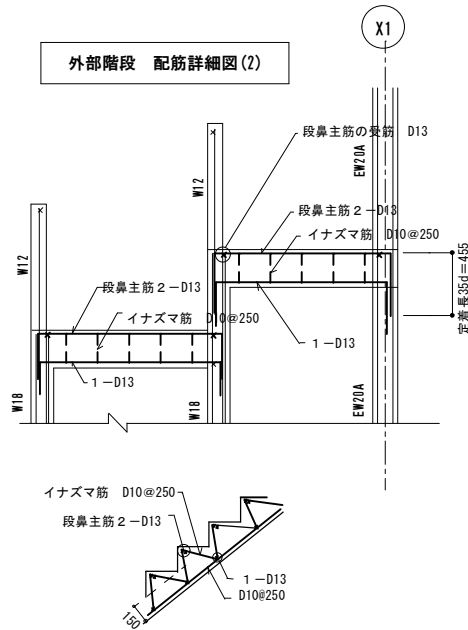


注) 特記なき鉄骨材質はSS400 とする

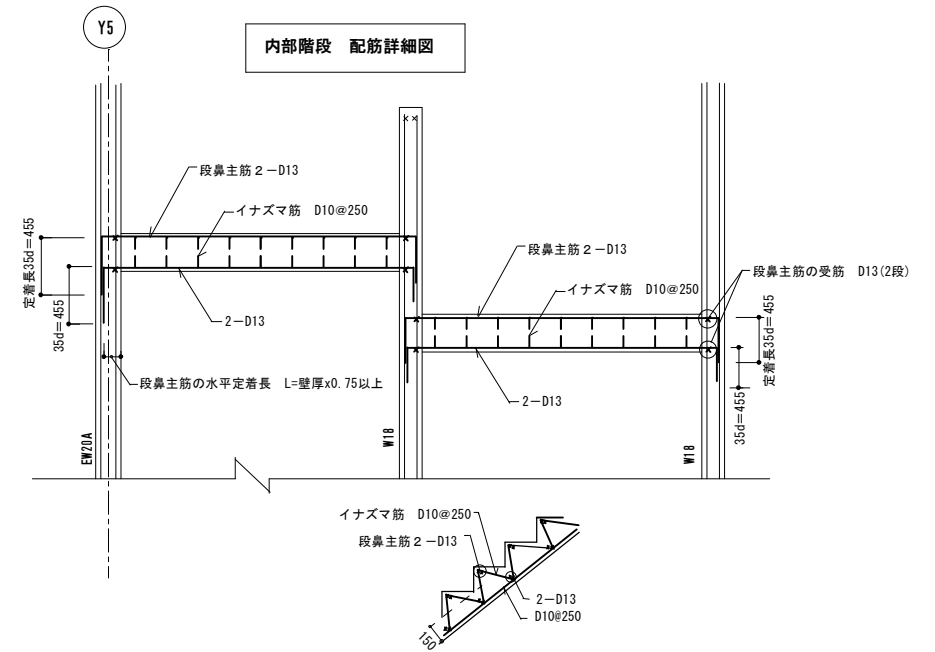
外部階段 配筋詳細図(1)



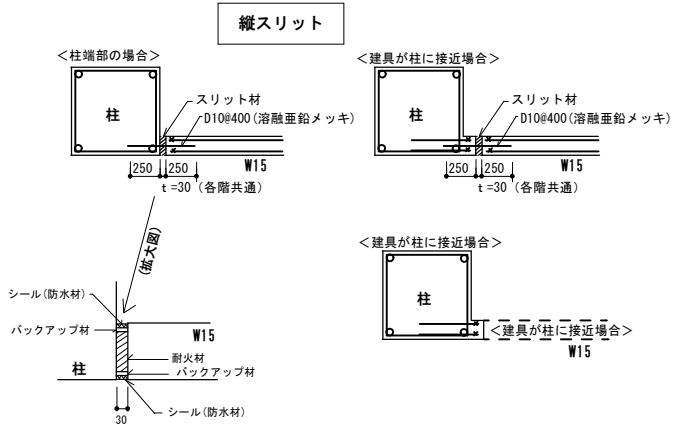
外部階段 配筋詳細図(2)



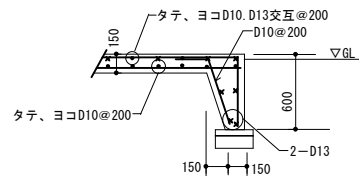
内部階段 配筋詳細図



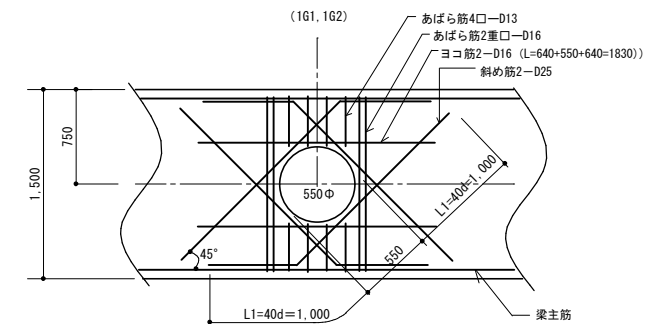
構造スリット詳細図



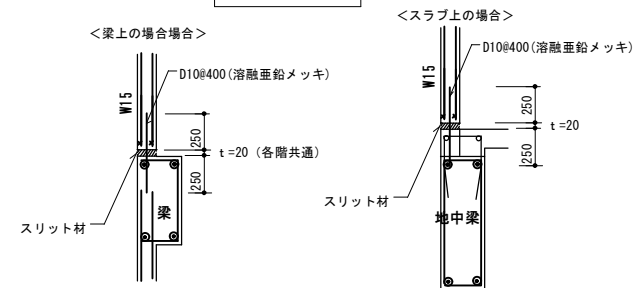
外部土間コンクリート 詳細図



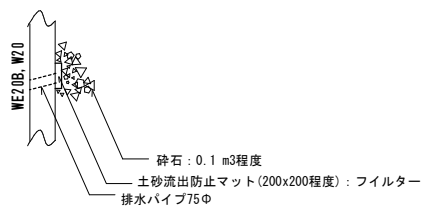
人通孔補強要領



水平スリット



排水パイプ

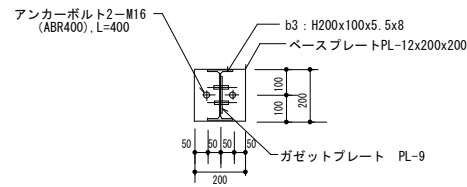




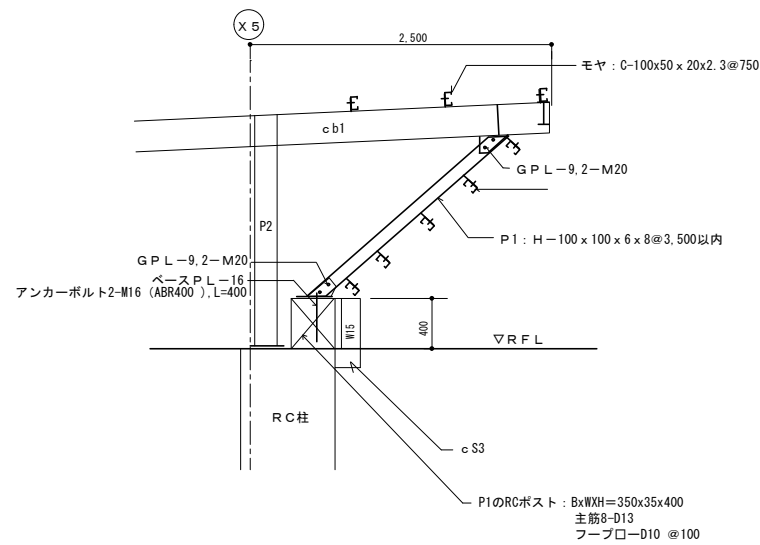
梁 継手リスト

梁符号	断面寸法	フランジ		ウェブ	
		ボルト(片面)	添板	ボルト(片面)	添板
R G 5	H-800x300x14x26(SN400B)	5 x 2-M 2 2	2 P L-1 9 x 5 3 0	1 0-M 2 2	2 P L-1 2 x 6 2 0 x 1 7 0
2 G 5	H-488x300x11x18(SN490B)	6 x 2-M 2 0	2 P L-1 2 x 6 2 0	4 x 2-M 2 0	2 P L-1 2 x 3 5 0 x 2 9 0
c b 1	H-244x175x7x11(SS400)	2 x 2-M 2 0	2 P L-9 x 2 9 0	2-M 2 0	2 P L-9 x 1 4 0 x 1 7 0
c b 2	H-194x150x6x9(SS400)	2 x 2-M 1 6	2 P L-9 x 2 9 0	2-M 1 6	2 P L-6 x 1 4 0 x 1 7 0

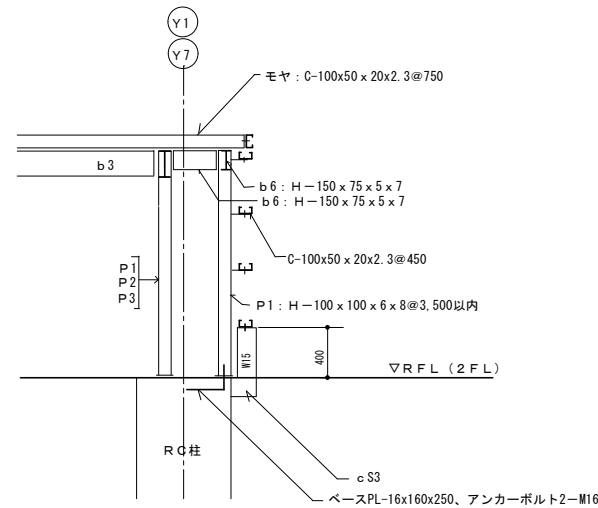
小屋組 玄関屋根 b 3 部材 RC部材との取り合



小屋組 X 5 通り筋ぶち取り合  
(X 4 通りも準用する)



小屋組 Y 1・Y 7 通り筋ぶち取り合

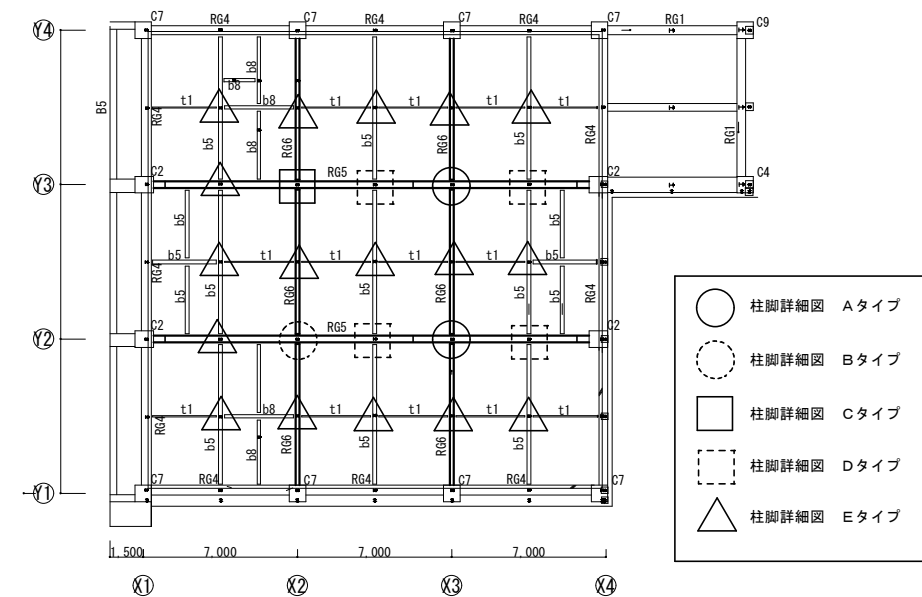


RC部材上の 間柱 柱脚詳細図

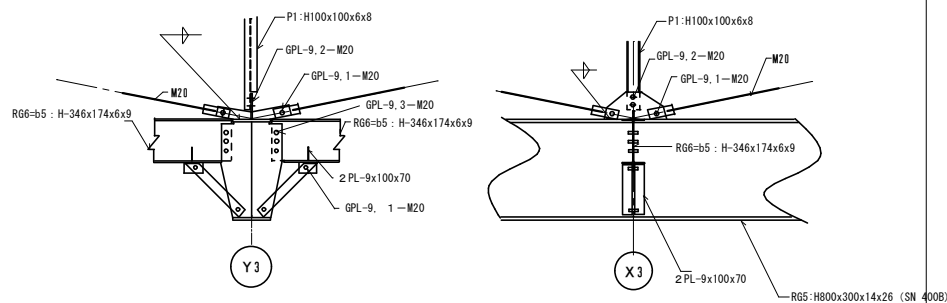
(特記なき間柱の柱脚は下記による)  
 (特記なき材質はSS400とする)  
 (特記なき限り、間柱下に均しモルタル t=30)

	P1 : H-100x100x6x8	P2 : H-175x175x7.5x11	P3 : H-150x150x7x10	P4 : H-150x75x5x7	P5 : H-125x125x6.5x9
柱脚に軸ブレスが付かない場合			—	P4は吊り材のため柱脚無し 取り合い GPL-9, 2-M16	
柱脚に軸ブレスが付く場合				—	—

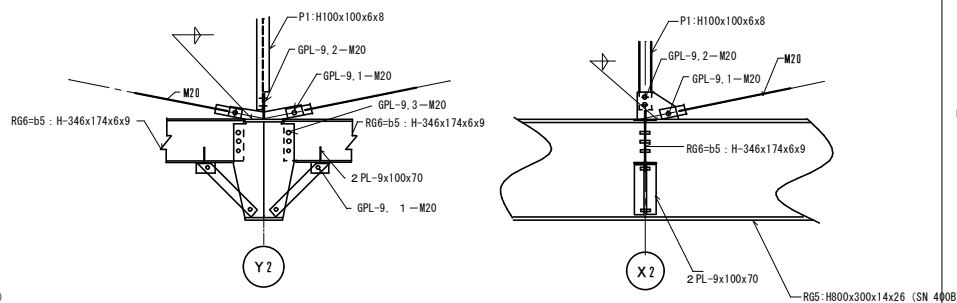
講堂屋根の 小屋組柱脚タイプ 配置



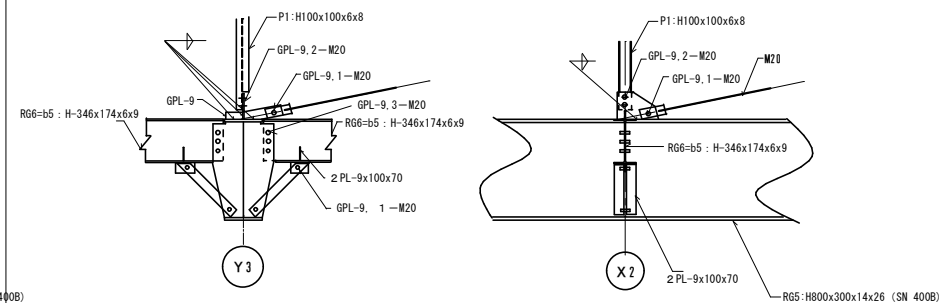
柱脚詳細図 Aタイプ



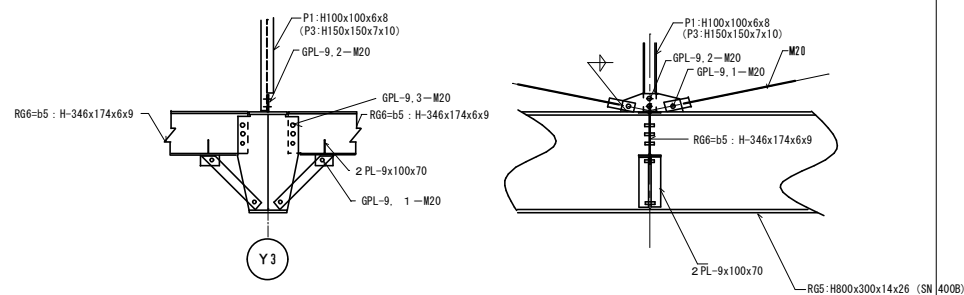
柱脚詳細図 Bタイプ



柱脚詳細図 Cタイプ



柱脚詳細図 Dタイプ



柱脚詳細図 Eタイプ

